

はじめに

昨年より検討していた将来計画を「将来計画 2007」と題してとりまとめ、本年報にも掲載いたしました。この将来計画をとりまとめた目的は、教職員全体が演習林の現状についての認識を共有すること、そして将来の進むべき方向性についてもイメージを共有しつつ議論を始めること、また、社会はもちろん大学や学部をも含めた外部に向けて演習林の姿勢について発信し理解を求めること、この三点です。

中でも現時点で特に重要だと考えたのは、第一の目的に掲げた演習林全体の現状に対する共通認識の形成です。昨年演習林長として運営管理に参加することになって感じたことは、これまで7演習林が独自に管理されており、演習林の全体像が希薄であったのではないかという点です。しかしながら予算や教職員数の側面で大変厳しい状況にある今日では、各演習林が独自に運営管理される余裕はなくなりつつあります。7演習林を一つに束ね効率的な管理と最大限の有効活用を図る必要があります。将来計画の検討を進めるうえでは、まずは演習林の管理や利用の全体像について教職員が共通に認識することが必要だと考えました。そこで、演習林に関わる利用と管理の実態についてデータ収集し、全体像を把握し、各演の位置づけを認識できるよう整理を行いました。これらを概数として把握しておくことは、組織あるいは年度の状況を相対化して認識するうえで重要なことであると考えます。これからも、この年報においては演習林の利用や管理に関わる全体像を把握するデータの掲載を継続していただきたいと考えています。

一方、将来に向けての方針については重点方策として6つの課題をあげています。これらも特に革新的なこと、目新しいことを掲げたわけではなく、大まかには以下の4点です。まずは人員や予算の削減を受けて、現在の運営管理作業を見直し、効率化、軽重を考慮して作業量を軽減すること（課題1）が一点目です。そして同時に、運営管理を演習林内部だけで行うのではなく、担い手の面でも資金の面でも外部と協力して実施する道を探っていくこと（課題5）が二点目です。三点目はデータの系統的かつ「使える」整備（課題2）と演習林ならではの研究を共同して促進すること（課題3）、フィールド教育の実績と経験を独自のノウハウとして蓄積すること（課題4）を通して演習林の教育研究上の価値を高めることです。そして四点目が、こうした努力とともに演習林の存在や価値を学内外の多くの人たちに伝えること（課題6）です。今回は、進むべき上記の方向性を提案し、その解決に向けて検討組織を立ち上げることを行いました。今後、その検討作業を鋭意進めていく必要があります。将来計画のタイトルに「2007」という年度を入れたのは、道半ばであることを示そうとしたからにほかなりません。

ミッションに掲げられているとおり、東京大学演習林は、先人の先見と努力により蓄積されてきた貴重な森林環境、技術、記録データなどの財産を、新たな時代に向けてさらに有効に活用・管理していく使命を帯びています。その達成のためには、現状を冷静に分析し、的確な打開策を見つけていかねばなりません。この年報が、現在の難局を乗り越え、使命を達成するための一助となれば幸いです。

2008年3月

附属演習林長 下村彰男

目次

はじめに

将来計画2007

演習林の概要	1
--------	---

演習林の活動

教育活動

大学院講義等	4
学部講義等	6
他大学の非常勤講師	8
招待講演・講師の派遣等	9
森林生態圏管理学大講座ゼミ	10
演習林研究部ゼミ	12
実習等	13

研究活動

地方演習林研究活動報告	16
演習林技術職員等試験研究・研修会議	30
教職員の論文等	32
学会発表等	41
著書	47
外部資金によって行われた研究	49

社会連携

公開講座・セミナー等	51
講師の派遣等	53
学外各種委員会等委員	54

国際交流

交流事業	56
国際シンポジウム	56
外国人研究者の来訪	57
海外渡航	58

出版広報活動

演習林報告	60
演習林	62
科学の森ニュース	63
演習林出版物	64
新聞・雑誌・放送等	65

利用状況

演習林を利用して行った論文等	69
全利用者	72

研修

技術職員	111
事務職員	111

各種委員会報告	112
---------	-----

安全衛生

安全・防災のための講習会等	119
災害統計	120
山火事予防活動	121

資料

人事異動	124
------	-----

予算配分と収入

予算配分	126
収入	126
演習林林産収入細分表	126

組織図

本部(研究部)	127
千葉演習林	128
北海道演習林	130
秩父演習林	132
愛知演習林	133
富士演習林	134
樹芸研究所	134
田無試験地	134

付録

管理業務実行位置図	136
管理面積集計表	143
林相別蓄積集計表	143
立木伐採量	144
育林実行量	145
植栽樹種	145
素材生産総括表	146
土木実行総括表	146
道路現況	146
東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 同縮尺図	148
各演習林所在地及び連絡先	150
教職員の写真	151

東京大学農学生命科学研究科附属演習林

■将来計画2007■

平成19年6月

目 次

1. 将来計画検討の目的	1
(1) 目的	
(2) 進め方	
2. 演習林のミッション	2
3. 附属演習林の現状と課題	3
3.1 現状	
3.1-1 利用の現状	3
A. 大学教育	3
B. 研究	6
C. 社会連携	9
3.1-2 管理の実態	11
A. 教職員	11
B. 資金的側面	12
3.2 現状のとりまとめ	13
4. 今後の課題と重点方策	14
4.1 今後の課題	14
4.2 重点方策	
(1) 管理・運営の効率化の検討	15
(2) 試験記録データおよび生物情報の整備と公開	16
(3) 研究室、演習林全体での共同研究の促進	17
(4) 野外教育プログラムの開発と働きかけ	18
(5) 外部との連携を考慮した管理・運営制度の検討	19
(6) 広報活動（演習林紹介情報）の整理・充実	21
5. 各演習林の特徴と位置づけ	22

1. 将来計画検討の目的

-1-

(1) 目的

- ・演習林を取り巻く諸環境が大きく変化してきており、演習林も転換期を迎えている。
- ・そこで、演習林の現状を認識するとともに、今後進んでいくべき方向を検討し、その方向を内部で共有したうえで、外部に対して演習林のミッションを公表し、利活用を促進することを目的とする。

(2) 進め方

- ・「将来計画ワーキンググループ」において将来計画案を検討し、演習林会議、運営委員会に諮ったうえで策定する。
- ・検討に際しては、以下に留意して進める。
 - ①内部で共有し、外部にも公表する「ミッション」を明確にする。
 - ②7演習林の実態、置かれている状況を把握し、共有できるようにする。
 - ③重点的に進める実現方策を明確にする。

<将来計画 WG メンバー>

WG 長	下村彰男	(教授・演習林長)
	山本博一	(教授・研究部長)
	石橋整司	(教授・秩父演習林長)
	山田利博	(教授・千葉演習林長)
	鎌田直人	(准教授・研究部)
	安村直樹	(助教・研究部)
	荒木田善隆	(統括技術長)
	佐々木和男	(前統括技術長)
	芝野伸策	(秩父演習林技術主任)
	鶴見康幸	(千葉演習林技術主任)
	犬飼 浩	(北海道演習林技術主任)

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林は、大学における教育・研究の場（フィールド）として、新たな森づくりのための人と技術を育成するとともに、そのあり方を社会に提言していくことを目指している。

こうした認識のもと、附属演習林はこれまで 100 年を超える長きにわたって森林の保全、管理を継続し、その結果、持続的に森林資源を生産するとともに、水源の涵養や国土防災に貢献し、多様な生物相を育み、そして快適な休養・保養環境を提供する豊かな森林環境を創造してきた。そしてその過程で、森林を中心とする自然環境に対し専門的に関わる人材を育成するとともに、森林の整備・管理のための技術の開発・継承、および森林形成の過程に関わるデータの記録という点でもストックを重ね、将来の良好な森林整備のための貴重な知見を蓄積してきている。

これらの貴重な森林環境、技術、記録データなど蓄積してきた財産を、新たな時代に向けてさらに有効に活用していくために、演習林が担うべき大学教育、研究、社会連携に関して以下をミッション（使命）とする。

<ミッション>

大学教育：学部、大学院において、森林に関わる教育を行うとともに、そのための最適なフィールドを提供する

研 究：森林を中心とした自然環境および森林と人との関わりについての専門的な研究を促進するとともに、大学を中心とした研究組織に最適なフィールドおよび森林を中心とした自然環境の動態に関する記録（データ）を提供する。

社会連携：学校教育や生涯教育をはじめとする社会教育をより豊かなものにするための仕組みとフィールドを提供する。

3. 附属演習林の現状と課題

-3-

3.1 現状

3.1-1 利用の現状

ここでは、A：大学教育、B：研究、C：社会との連携について演習林利用の実態を把握する。大学教育、研究、社会それぞれの分野について、(1)全体数と推移、(2)直接実施と間接支援、(3)各演習林の動向、の3つの視点からまとめる。

A. 大学教育

(1)全体数と推移

<実習は50-60回／年、4,000人／年前後>

実習の科目数は年間50回前後で推移してきたが、05年度に60回/年と急増した(図-1)。延べ人数は年によって変動しているものの、ここ4年間は3,400人/年から4,300人/年の間を推移している(図-2)。延べ人数の増減は実習一回あたり延べ人数の変動によるものであるのである。

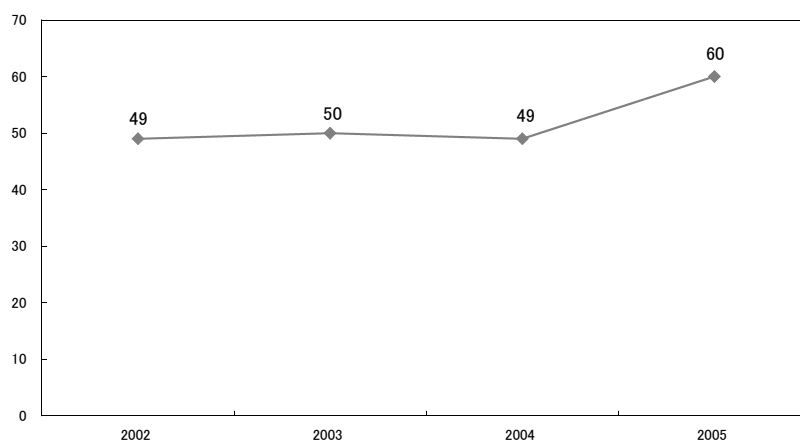


図-1. 利用科目数の変化(実習利用回数／年)

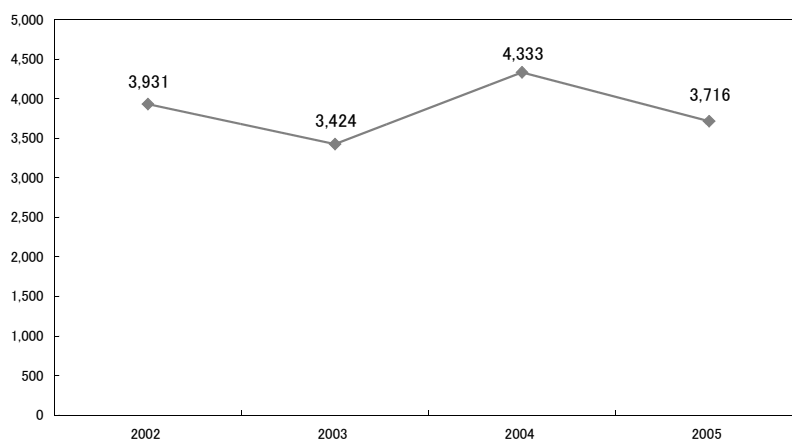


図-2. 延べ人数の変化(実習利用延べ人数／年)

(2) 直接実施と間接支援

<学外利用がおおよそ5割を占め、農学以外の学内利用は2割程度>

演習林が直接実施する実習には、教養学部生を対象とした実習が年に7回前後ある。四大演を中心に行われてきたが、近年では富士や樹研でも実施されるようになっていること、秩父で年に複数回行われていることの2点が特記される。

実習はほとんどすべて間接支援の形で行われている。間接支援の実習について、利用者属性別に見ると学外（茶・緑）による利用が最も多く、かつ増加している（図-3）。比率にすると学外利用はほぼ半数を占めている（図-4）。04年度から05年度にかけての変化に着目すると、すべての属性において少しずつ利用回数が増加しており、そうした微小の変化が積み重なって、05年度の利用回数急増がもたらされた。

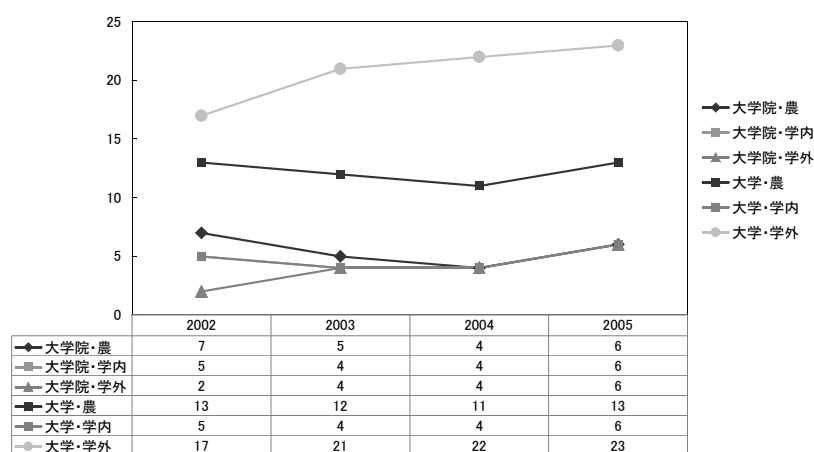


図-3. 利用者属性別科目数の変化(実習科目数/年)

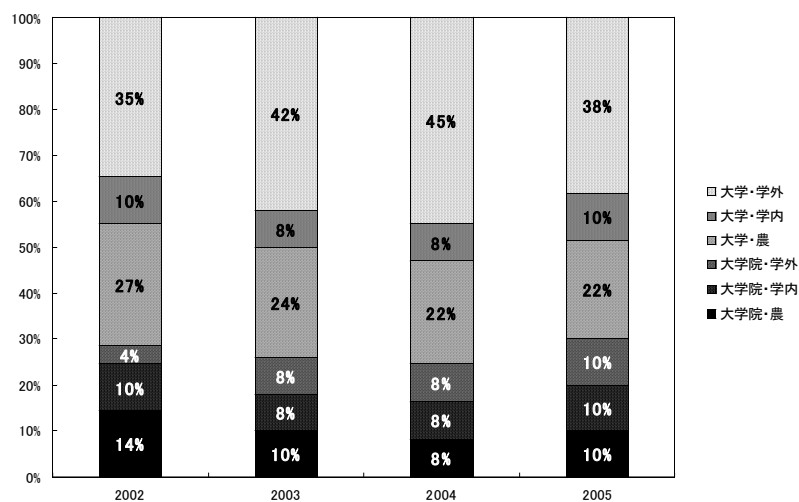


図-4. 利用者属性別科目数比率の変化(実習科目数/年)

(3)各演の動向

-5-

<各演で増減の動向が異なり、4大演の利用は均等化してきた>

05年度において最も実習利用の多かったのは千葉演習林の13回/年である。続いて秩父（12回/年）、愛知（11回/年）、北海道（10回/年）であって、四大演の利用回数比率が均等化してきている。04年度からの変化に着目すると、増加（秩父、愛知）、横ばい（北海道、富士、樹研、田無）、減少（千葉）とさまざまであるが、05年度急増の主因は秩父（8→12回/年）、愛知（6→11回/年）や富士（4→8回/年）の利用増である（図-5）。

利用者属性別には大学利用が多くなっていることから、各演とも大学利用が7～8割を占めている。05年度の愛知、02年度の富士が例外でこれらのみ大学院利用のほうが多い。利用回数が急増した演習林（秩父・愛知）においては学外利用を新規開拓した事によるものである（表-1）。

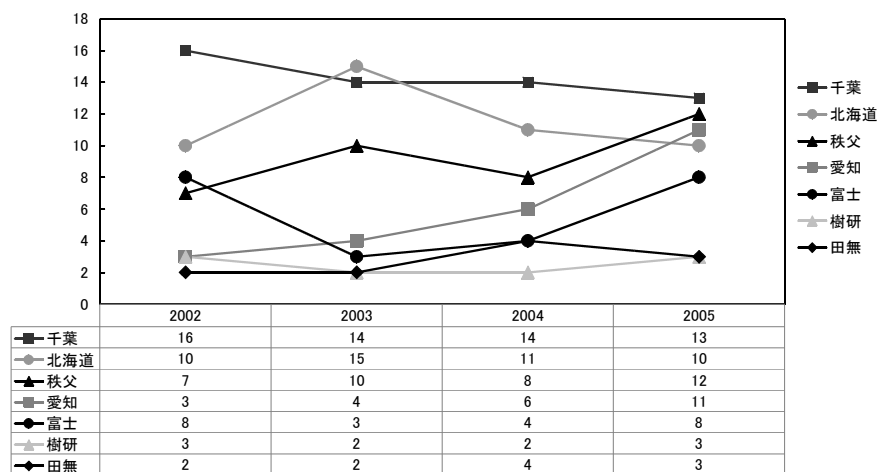


図-5. 各演別科目数の変化(実習科目数/年)

表一1. 各演別利用者属性別利用回数の2時点間比較

05年度(02年度)	千葉	北海道	秩父	愛知	富士	樹研	田無	合計
大学院・農	1(2)	1(0)	1(1)	1(0)	0(2)	1(2)	1(0)	6(7)
大学院・学内	1(1)	0(0)	1(1)	2(0)	2(3)	0(0)	0(0)	6(5)
大学院・学外	0(0)	1(1)	1(1)	4(0)	0(0)	0(0)	0(0)	6(2)
大学・農	4(5)	1(1)	3(2)	1(1)	2(1)	1(1)	1(2)	13(13)
大学・学内	2(2)	1(1)	1(0)	1(1)	0(1)	1(1)	1(1)	7(7)
大学・学外	5(6)	6(7)	5(2)	2(3)	4(1)	1(1)	1(1)	24(19)
合計	13(16)	10(10)	12(7)	11(3)	8(8)	4(5)	4(4)	62(53)

B. 研究

-6-

(1) 全体数と推移

<年に130-140本程度の論文等が発表され、うち2割程度が審査付論文である>

演習林全体で1年に100本を超える論文等が成果として出されている。その中心となっているのは和文のその他報告と口頭発表であり、審査論文と著書は2割前後である。本数は、03年度に若干の落ち込みを見せるが、ほぼ横ばいの推移を示している（図-6）。

演習林を利用した学位請求論文数は05年度で21本であり、学内による利用が圧倒的に多くなっている。論文等の本数と傾向は異なっていて、この4年間だけに着目すると学位請求論文数は縮小傾向にあって、02年度に比較して05年度はほぼ半数である（図-7）。

外部研究費の獲得は、05年度で17件となっている。04年度に増加が見られたが全体的には横ばい傾向にあるといえる（図-8）。グラフには示さないが、外部研究費について内訳をみると、科研費が主な資金源であって代表で獲得することが多かったが、近年は分担の割合が高まっていることが指摘できる。なお、金額に関しては全てが把握できていないため参考程度であるが、一貫して増大傾向にある。

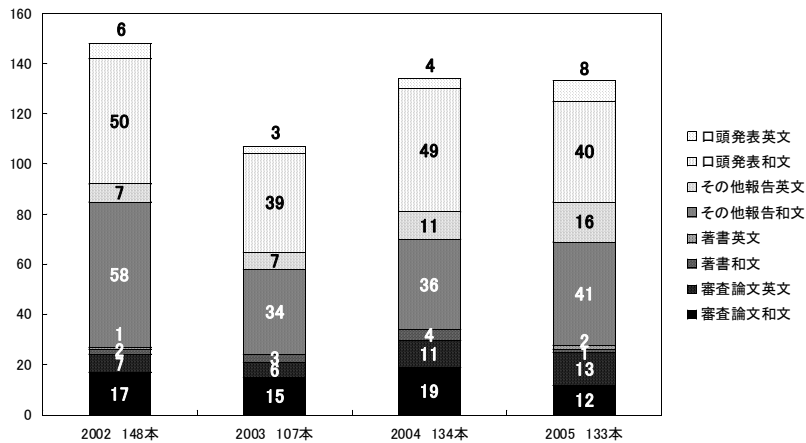


図-6. 論文等の本数 (未記入: 北海道02～)

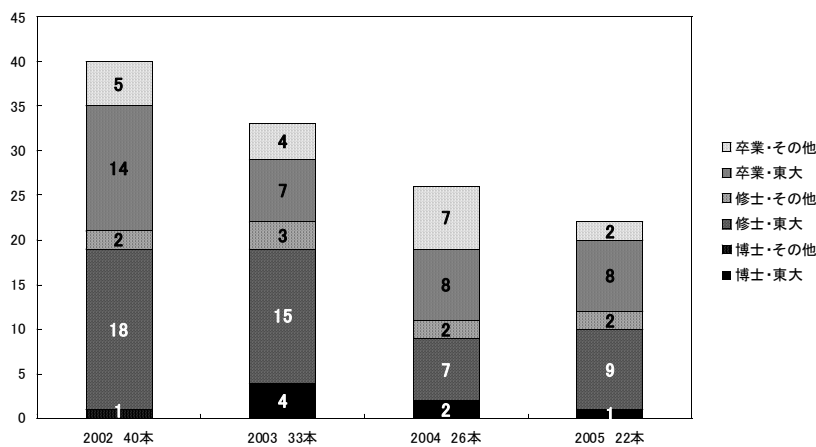


図-7. 学位請求論文数

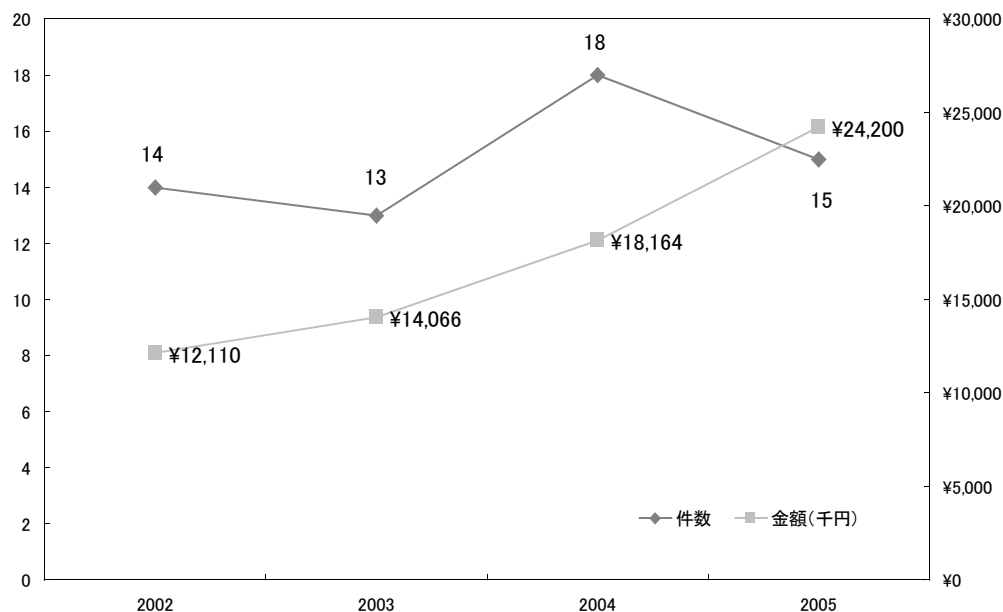


図-8. 外部研究費の獲得動向

(2) 直接実施と間接支援

< 筆頭論文が過半数を占めている (53-58%) >

論文等のうち、一人でも共著者に演習林教職員が含まれているものは直接としてカウントしたところ、直接比率は8割前後となった(図-9)。直接実施の中でも筆頭となっている論文が過半を占める。なお、この分析は年報に掲載されているデータにもとづいて行ったため、前項までの数値(総数)とは若干相違しているが、大きくずれているわけではないので内訳の比率を見ることは可能である。なお、ここでは学位請求論文数についての分析は省略する。

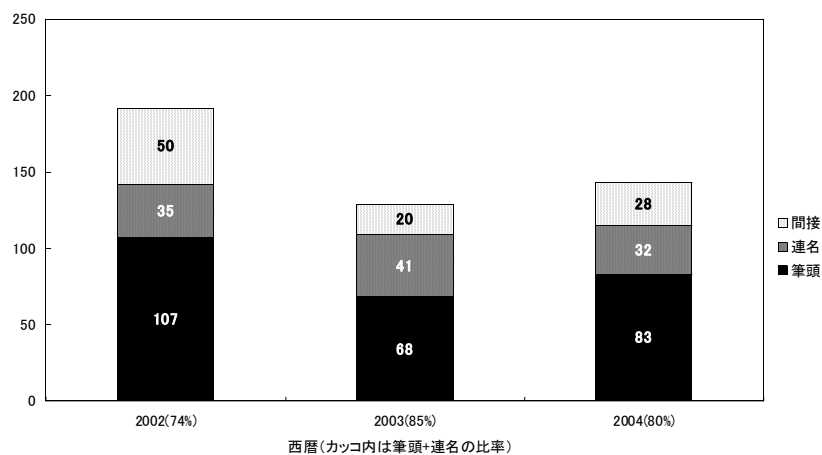


図-9. 直間別に見た論文等の本数

(3) 各演の動向

<間接支援論文の多い演習林は年間論文本数が安定している>

論文等の本数を演習林ごとにみる（図-10）と、安定している演習林（愛知や田無）とそれ以外（増減・増加・減少）に分けられる。グラフには示さないが、本数の安定している二つの演習林は、間接支援による論文数の比率が相対的に高いところでもある。

学位請求論文数（図-11）は全体で減少傾向にあったが、各演別でもほぼすべての演習林でそうした傾向が読み取れる。そうしたなかで千葉は05年度に修士及び卒業論文による利用が急増した。

外部研究費の獲得状況（図-12）についても演習林ごとに図化した。

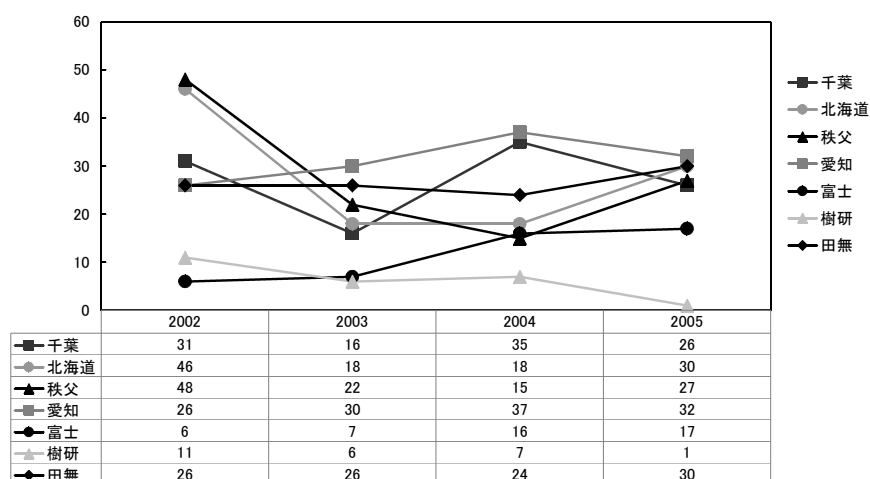


図-10. 各演別論文等の本数

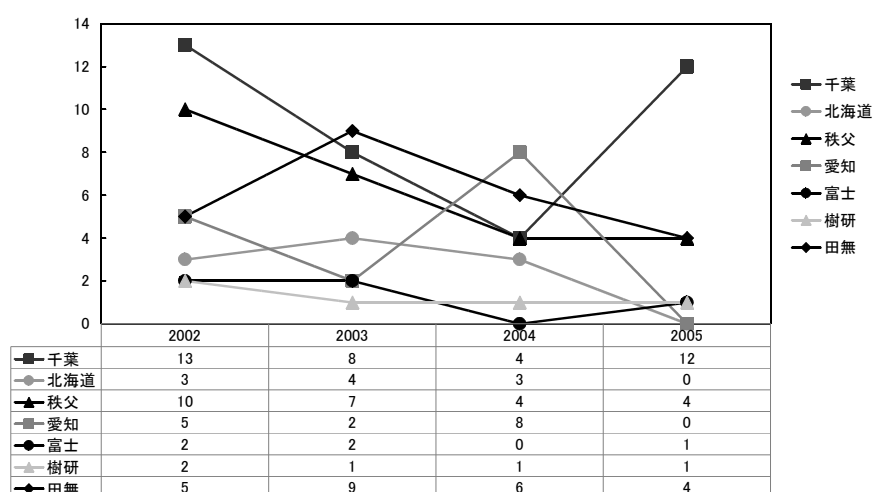


図-11. 各演別の学位請求論文数

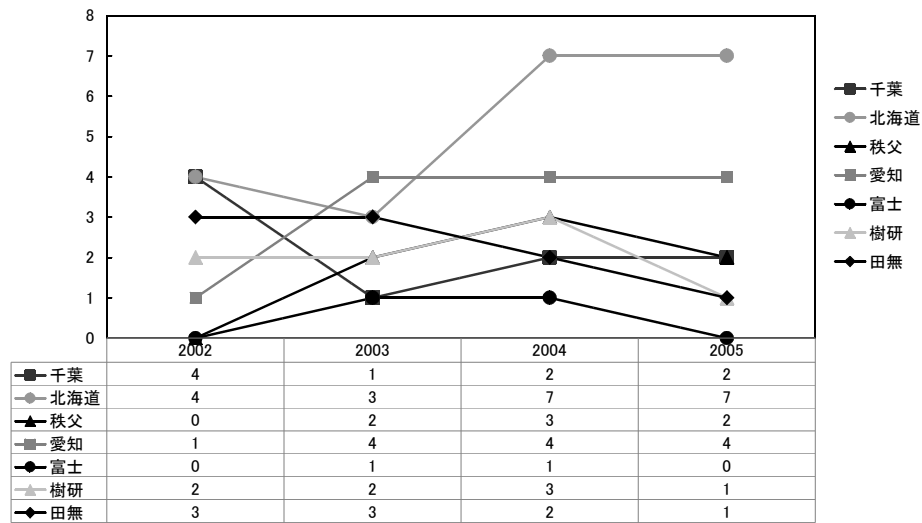


図-12. 各演別の外部研究費獲得件数

C. 社会連携

(1) 全体数と推移

<社会連携利用者数は増加傾向にあり、現在、34,000人／年程度である>

社会連携利用者数は年々増加する傾向にあって、05年度には34千人たらずの利用があった（図-13）。ただし、後に見るように一般公開（千葉）、ラングフラウ（北海道）、ロードレース（富士）の、大人数による集中的な利用は除いた数値としている。

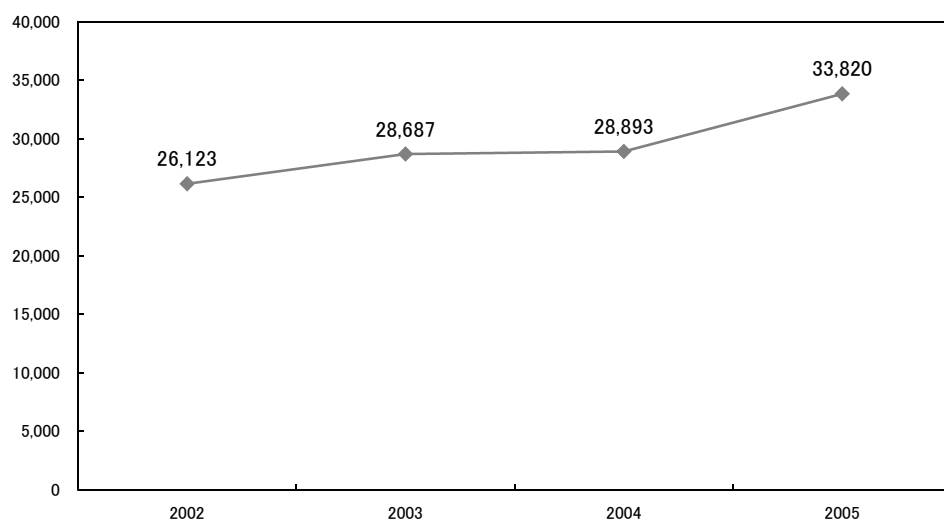


図-13. 社会連携利用者数の変化(人)

(2) 直接実施と間接支援

-10-

<演習林主催行事は極めて少ない>

公開講座などの演習林の主催行事を直接実施とみなして、間接支援との区分けをすると、社会連携利用者数のほとんどが間接支援で占められている（図-14）。

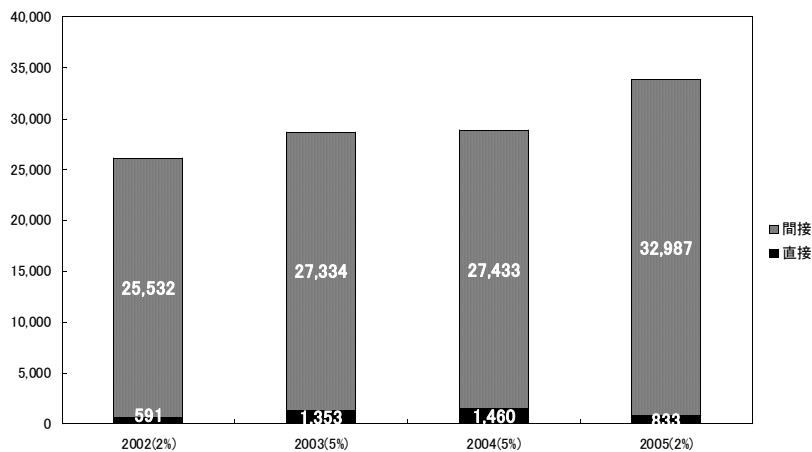


図-14. 直間別に見た社会連携利用者数

(3) 各演の動向

<社会連携利用は富士演と田無演で多い>

富士と田無で全演習林の66%を占めるが、職員の案内を伴わない利用が多い。

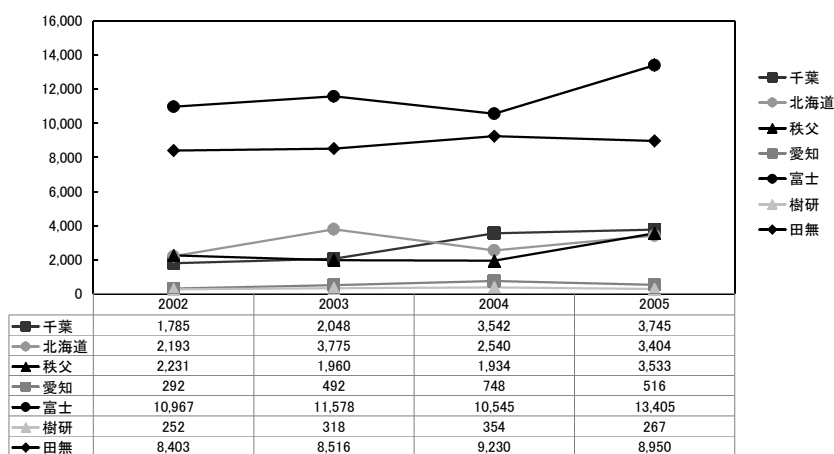


図-15. 各演別社会連携利用者数の変化(人)

A. 教職員

<教職員数は漸減傾向にある>

教職員数は、年々、減少しており 10 年前と比較すると、総数で 7 割以下になってしまっている。平成 16 年度の国立大学法人化後も、毎年、定員の 2 %（職員）の削減が行われており、技術職員に関しては、ほぼ毎年 1 名ずつ減少している。そして、少なくともこの中期期間は、この削減が続くことになっており、演習林管理の人員が減じるという状況の中で、いかに良質な教育・研究フィールドとしての演習林を維持していくかが大きな課題となっている。

また、技術職員の年齢構成に関して、50 代後半の職員が多い一方で 40 代後半の職員数が少なく、この傾向は北海道演習林等で顕著である。技術や情報をいかに継承していくかについても重要な課題であり、この点に関しても、今後の管理のあり方の方向性と考え合わせて、対策を講じていく必要がある。

表-16 演習林教職員数の推移

		19年度 (2007)	18年度 (2006)	17年度 (2005)	16年度 (2004)	15年度 (2003)	14年度 (2002)	8年度 (1996)
教員	教授	4	2	4	3	4	4	4
	准教授(助教授)	2	4	3	3	4	4	3
	講師	5	4	4	4	5	5	3
	助教(助手)	10	12	12	12	12	12	17
事務職員		18	18	19	18	18	21	38
技術職員		69	71	71	73	75	76	86
	小計	108	111	113	113	118	122	151
短時間雇用 (臨職等)		48	47	52	55	49	48	74
計		156	158	165	168	167	170	225

B. 資金的側面

-12-

<年により変動があるものの、長期的には運営費と収入との差が拡大している>

木材価格の下降に伴い、林産物収入が減じている。表-17 によると平成 18 年度の林産物収入は、平成 8 年度と比較してほぼ半額になっており、長期的には大きく減じていることが理解される。

また、当初予算に関しても、今中期計画の期間においては、毎年、前年の 2 % 減が実施されており、徐々に減少傾向にあることが見て取れる（平成 16 年度の増額は、法人化への移行に際しての予算算出法の変化に伴う過渡的なもの）。

表-17 予算、歳入実績の推移

2007.5.30 演習林年報他より（千円）

年度	当初	決算	歳入	実績				歳出(職員給与、校費含む)
				林産物収入	雑収入			
					建物及び物件賃付料	弁償・違約金(立本補償)	その他	
8年度 (1996)	(旅費含)	397,493	299,457	263,769	928	1,186	土地賃付料他	1,590,857
14年度 (2002)	(旅費含) 328,328	(校費) 359,541	195,209	159,851	688	939	土地賃付料他	1,413,744
15年度 (2003)	317,496	(校費) 370,279	153,114	130,743	500	5,944	土地賃付料他	1,445,797
16年度 (2004)	379,170	361,341	138,432	128,905	分類不能	7,444	土地賃付料 奨学寄付金(里親) 食料費他	—
17年度 (2005)	325,971	339,489	133,615	128,269	分類不能	2,942	土地賃付料 奨学寄付金(里親) 食料費他	—
18年度 (2006)	310,838	330,617	150,244	131,289	1,275	11,149	土地賃付料 奨学寄付金(里親) 食料費他	—

3.2 現状のとりまとめ

-13-

(1) 利用に関わる現状認識

①教育利用は全体では横ばいであるが、演習林毎に動向が異なる

- ・大学教育の場としての利用は年次変動があるが、全体では実習回数で 50-60 回／年、利用者数で 4,000 人／年と、ほぼ横ばい状態である。
- ・ただし、演習林毎に動向が異なっており、増加傾向にある演習林もあれば、横ばいしないしは漸減傾向にある演習林もある。増加傾向にある演習林では、学外による利用を開拓しており、まだまだ学外や学内他部局に利用を広げていく可能性のあることが示唆される。

②発表論文は横ばい、学位請求論文は減少傾向にある

- ・発表論文数は 130-140 本／年程度であり、うち審査付論文は 2 割程度にとどまっている。審査付論文数を増やしていく余地と可能性は十分にある。
- ・ここ 4 年間で見る限り、学位請求論文数、特に修士論文が減じている。この点は大きな問題であり、研究フィールドとしての質と利便性を高める必要がある。

③社会貢献、地域対応に対する要請が増加してきた。

- ・2002 年（26,100 人）、2005 年（33,800 人）と社会連携利用は増加傾向にある。
- ・特に、小中高校生の利用、初等教育教員研修利用が増加傾向にある。
- ・社会貢献利用に関する取り組みの姿勢は、演習林によって異なっている。

(2) 管理に関わる現状認識

①職員数、特に技術職員数が減少してきている。

- ・1994 年（92 人）、2002 年（76 人）、2006 年（71 人）と技術職員数が大きく減じてきている。
- ・この中期計画期間には、2 %／年の減少が決められている。
- ・森林環境管理（良好な環境状態の維持）への影響が出てくることが懸念される。

②木材収入への依存により、運営費と収入との差が広がっている。

- ・1994 年（3.2 億）、2002 年（1.6 億）、2006 年（1.3 億）と収入が減じている。
- ・これは国内の材価の下落にともなうものであり、材価収入のみに頼ることは難しくなっている。
- ・現在、収入の大半を北演に依存しており、この点に関しても問題を抱えている。

③施設等の老朽化が進んでいる。

- ・宿舎、事務所等の建物はもとより、林道や防護柵等の施設も老朽化しているものが少なくなく、利用や管理に際しての安全性や効率という点で問題がある。
- ・しかしながら、施設や重機などに関しての改善や更新に関して、予算的に手当されることが難しくなっている。

4. 今後の課題と重点方策

-14-

4.1 今後の課題

以上のような演習林の現状を考えると、今後の課題（進むべき方向性）としては、以下の諸点が考えられる。

①学内外で教育・研究活用を促進していく。

＊教育研究機関としての特徴の明確化と洗練

- ・フィールドを有していることにより、実践的、体験的教育と、長期的、試行的研究が展開できる教育研究機関としての特徴を明確化し洗練させる。

＊知名度の向上（演習林の存在を知ってもらう）

- ・電子媒体、紙媒体を用いた広報の充実
- ・研究はもちろん、著書、シンポジウム等、社会に対する提言の促進

＊魅力的な、教育・研究フィールドの提供

- ・データ（自然条件、管理履歴等）とセットになったフィールド提供の促進
- ・研究教育の利活用に対する支援の仕組みの充実

②運営・管理の効率化を図っていく。

＊本部機能のさらなる強化

- ・情報収集、予算管理、人的流動・交流に関する本部機能を強化していく

＊管理・運営作業の見直し

- ・管理・運営作業を見直し、変化しつつある状況に対応したものにしていく

③外部との連携を積極的に図っていく。

＊管理、運営に関する外部連携の仕組みづくり

- ・地域社会、学生などとの連携による管理・運営の仕組みづくり

＊外部連携を活用した管理・運営費用拡充

- ・演習林の「存在意義」に関する広報活動の実施
- ・寄付金、管理協力金、共同研究費、等々、様々な管理・運営費拡充の仕組みの工夫

4.2 重点方策

上記の課題解決に向けて、下記の点を重点的に検討し、実施していく必要があると考えられる。

課題1. 管理・運営の効率化の検討

課題2. 試験記録データおよび生物情報の整備と公開

課題3. 研究室、演習林全体での共同研究の促進

課題4. 野外教育プログラムの開発と働きかけ

課題5. 外部との連携を考慮した管理・運営制度の検討

課題6. 広報活動（演習林紹介情報）の整理・充実

<方針>

近年では、大学教育においても体験学習の機会が設けられたり、従来にはなかったような分野からの利用など、教育研究利用の多様化が進んでいる。また、小中学校や地域の諸団体など、大学以外の利用要請も多くなり、週末をも含めて社会連携利用として受け入れる機会が増加している。このように従来とは異なる業務が増加しており、従来からの業務に関しては、効率化をはかる必要性が出てきた。

そこで、「管理体制・業務検討WG」を組織し、下記の2点に関して検討を進める。

①管理・運營業務の見直し

- ・現在、実施されている管理や研究、調査に関わる業務を洗い出し、可能な限りの効率化を図り、上記のような新たな業務へ対応できるような体制や仕組みを検討する。
- ・その際、組織の改編やソフトの導入による電子化、あるいは一部業務の外部委託なども、視野に入れて検討する。
- ・各演習林間での役割分担（例えば、苗木生産）についても検討する。

②教育・研究フィールドとしての空間のゾーニングと整備

- ・全てのエリアを均等に管理していくことは難しくなっており、教育・研究フィールドとしての活用度、運営上の重要度、調査の継続性等を勘案しつつ、管理強度に傾斜をつけるためのゾーニングを行う。
- ・また、インフラの整備に関しても、各ゾーンの性格に応じた効率的な整備の在り方を検討する。

<進め方>

教員、技術職員からなる「管理体制・業務検討WG」を組織し、ケーススタディー調査として、業務の見直しの在り方について、今年度中を目標に検討を進める。そして、この検討をもとに次年度以降、各演での業務の見直しを実施する。

①について：

- ・ケーススタディとして千葉演習林を取り上げ、現在の業務に関する洗い出し作業を実施し、効率化の可能性を検討する。
- ・全演の教職員から、業務の効率化案（アイディア）を募集する。
- ・組織体制や、電子化、外部委託などの可能性について検討・整理する。

②について：

- ・ケーススタディとして千葉演習林を取り上げ、場所の地理的・自然的条件、およびこれまでの利用状況データをもとに、ゾーン区分とゾーン毎の性格づけを検討する。
- ・これまでの試行によると、評価は林班単位で行い、性格の類似した複数の林班をまとめてゾーンとするといった空間スケールが適当であると想定される。
- ・各ゾーンの性格に応じて管理の在り方とインフラ整備の在り方について検討する。

＜方針＞

演習林では内部組織として基盤データ整備委員会を設置し生物、気象、水文、成長試験地の4部門についてデータの収集整備を進めてきた。しかし、収集されたデータの利用に向けての整備はまだ十分なされておらず、また作業の進み方について部門間でかなり差があるのが現状である。また、今後基盤データとして重要な位置を占めると考えられる地図情報については、統一したシステム導入が難しいという理由でこれまで整備が見送られてきた。

そこで、これまで基盤データ整備委員会が行ってきた情報収集管理業務を GIS および LTER 対応を強化する形で引き継ぐ組織をつくることを提案する。新組織の目的は演習林でこれまで蓄積してきたさまざまな情報、データを系統的に整備、管理すると同時に新たな情報の収集を支援することとする。扱う情報の範囲は、基盤データ整備委員会が進めてきた内容（水文、気象、生物、成長試験地）、地理情報、各種の試験地情報に加え利用者情報などの非森林情報も含まれる。各演にあるこれらの情報を新組織のもとで一括して管理しメタデータの作成、ユーザへの提供、東大内外で行われる調査への情報提供を行う。

＜進め方＞

◎「科学の森教育研究センター広報情報室」の設置

上記の課題 2 および課題 6 を担当する組織（「広報情報室」）を研究部のもとに平成 19 年度より発足させ、各演習林からの情報収集、その整備およびデータベース化にあたる。

課題 2 に関係する業務としてはたとえば以下のようなものが考えられる。

- | | |
|---------------------|----------------|
| ・基盤データ整備、管理実務 | 【現：基盤データ整備委員会】 |
| ・LTER の管理（JaLTER） | 【現：LTER ワーキング】 |
| ・利用者データの管理 | 【現：各演+研究部】 |
| ・演習林シンボルマーク使用規程作成管理 | 【現：不明】 |
| ・演習林メールアドレス管理 | 【現：秩父・研究部】 |

◎「広報情報室」の構成案

新組織は研究部内に設置し、1名の室長（常勤または併任の教員）のもと「広報担当」と「情報処理担当」の2部門から構成する。情報処理担当はこれまで演習林に蓄積されていたさまざまな森林情報や利用者に関するアクティビティを示すデータなどを集積、管理、利用していくために情報処理に通じている教職員1名と演習林で収集されるデータに詳しい常勤ないし非常勤の職員1名の配置が望ましいと考える。

＜方針＞

演習林における研究活動の活性化をはかり、教育研究機関としての演習林の独自性を明確化、情報発信していくうえで、まずは演習林内での共同研究の促進を図る必要がある。そこで森林生態学、森林生物機能学、森林圏生態社会学、森林流域管理学、これら各研究室における研究を促進するとともに、演習林全体での共同研究をも促進する。そのためには、外部資金等を活用した研究プロジェクトを積極的に導入し、研究室単位および演習林全体での議論の機会を増やしていく必要がある。

また、演習林の技術職員の業務は、教育研究支援としての演習林管理業務が主体であるが、演習林における教育研究活動が多様化、高度化してきており、技術職員もより能動的に研究業務に携わることによって、教育研究面での知識や技術の向上をはかる必要がある。そこで、演習林教員の行う研究、演習林教員以外の研究者が行う研究に共同研究者として参加することや、科研費の奨励研究など外部資金による研究助成の獲得などをも促進し、教育研究面での能力の研鑽と実績を増やすことを考えていく。その際、技術職員が研究を行うことや演習林として組織的に取り組む研究に参加すること、そしてその成果を公表することも業務の一部として位置づけていく。

＜進め方＞

委員長のほか数名の委員からなる研究推進委員会を組織し、共同研究に関わる企画、推進作業を担当する。

その役割は、以下 1－7 の通りである。

1. 研究プロジェクト取得状況の把握（特に科研費などの申請の重複規制の対策のため）
2. 研究プロジェクト公募情報の収集と情報の周知。
3. 演習林内における研究プロジェクトシーズの収集。
4. 横断的研究プロジェクトの企画と運用。
5. 研究プロジェクト申請書作成のコーディネート
6. 各地方演習林設定の公開試験地（仮称）の設定の推進と設定までのコーディネート

各地方演習林主導による試験地を設定し、演習林内部だけではなく、東大内や、場合によっては、他大学・他研究機関に、広く参加を公募する。研究費は利用者の手弁当とする。成果発表の際には、演習林教員を必ず 1 名共著者に加えることを条件とする。

＜現状＞

演習林ではこれまで多彩な教育プログラムを実施してきた。例えば、大学教育では学部・大学院の講義；体験ゼミ等；大学実習の受け入れ・指導；初等・中等教育では森林教室等；社会教育では公開講座等、ボランティア等と協力したプログラムである。しかしながら、演習林全体としての戦略は特に策定しておらず、各プログラムの間、特に地方演間での統一性や関連性はほとんどなく、各プログラムの内容についても教育効果の観点での検討が十分でないものもあるのが現状である。

＜方針＞

＊野外教育の機能充実を図る

- ・ 野外教育プログラムの企画・開発を行う
- ・ 充実した野外教育を提供する（フィールドの整備、スタッフの教育・充実）
- ・ プログラムとイベントについて情報発信を行う

＊大学教育を充実する

- ・ 教養課程も含めた効果的かつ魅力的な講義を実施する

＜進め方＞

(1) 手順

＊野外教育

1. 現行野外教育プログラムの情報収集・評価によって現状を整理する。
2. 内外からのノウハウを収集し、プログラムの開発、改善、標準化を図ることで、教育効果の向上と資源の効率化を実現する。
プログラムの開発、実施にあたっては外部（学生、各種機関、ボランティア等の組織）との協力も考慮する。
3. スタッフの能力向上のための内部教育や研修、資格取得を進め、当該スタッフの活用を図る。
4. 野外教育プログラムメニューの整備、情報発信を行い、外部からの利用の拡大を目指すとともに、プログラムを外部組織に提供する。

＊大学教育

1. 現行実施講義についての情報収集・評価を行う。
2. 教養課程も含めた効果（教育効果、演習林の魅力発信）の高い講義の構成を検討し、実施する。併行して教員の教育能力向上を図る。

(2) 体制

委員会／グループ／チーム（仮称：教育推進 G）を立ち上げる。常任 4～5 名（内技術職員 2 名）＋各演の担当者（非常任）

<現状>

＊外部と連携した管理・運営

地域、市民との交流、互いの啓発という意義もあり、森林管理業務、社会教育で手薄になったところは、ボランティア（サポーター、NPO 等を含む）との協力関係で補っている地方演もある。休日など職員がまったく加わらないでボランティアだけで対応している例も見受けられる。しかし、外部との連携についてはまだまだ不十分であり、拡大・強化の余地はあると思われる。

＊管理業務効率化

制度上の制約と休日利用への対応態勢の違いから各地方演独自に対応している。また、ボランティアと協力して休日利用や休日のイベントに対応している地方演もある。

組織、運営、意識は各地方演の独立性が高く、各演の特徴を活かし全演でまとまった戦略がとれていない。

<方針>

＊外部と連携した管理・運営手法の可能性について検討する

各種手法について情報収集・整理するとともに、成立条件等について分析し、各手法の可能性について検討する。

＊管理業務効率化について検討する－勤務シフトの仕組み、業務の見直し、組織の再編等現状の情報収集・整理→効率の高い業務、組織について検討。

<進め方>

(1) 手順

＊外部との連携

1. 外部への管理，野外教育プログラムの委託の現状を把握し整理する。
2. 種々の外部組織との連携策について今後の可能性を検討する。
プランは演習林が立てるタイプ～全て任せるタイプまで含まれる。
資金の確保（補助金，寄附金）
ボランティア・NPO 等、森林組合、との協力、委託
3. 現行の関係組織について再検討、改善を図るとともに、新たな連携組織を募る／立ち上げる。

＊管理業務効率化

- ・勤務シフト：事務と連携して利用可能な手法案を作成し、各手法の条件と得失を整理し、各地方演で選択。
- ・業務の見直し 各演の業務内容、進め方を比較検討し、不要な業務の廃止、全演的に重要な業務、各演の特徴を活かした業務への重点化を図る。
- ・組織の見直し 各演の組織を比較検討し、効率の高い身軽な組織の在り方を探る。

＊可能性を検討し演習林首脳に答申

(2) 体制

委員会／グループ／チーム制（仮称：管理運営体制検討 G）とし、事務局を研究部におく。委員長、教員 1 名、技術主任 2 ～ 3 名の 4 ～ 5 名が常任。各地方演に担当者（技術主任等。非常任）を置く。

<方針>

各演では、社会貢献、地域貢献への要求の高まりにあわせる形で急激に利用促進関連の業務を拡大している。新たに「企画調整係」を新設した演習林もあり、ホームページの作成、概要の充実など広報についても強化されている。しかし、従来の業務に加えてこれらの新たな業務を行うことはそれ自体大変なことであり、規模の小さな演習林では負担になっていることも事実である。ホームページの更新や広報活動の程度にかなりの開きがあることがその負担を顕著に表している。

そこで、現在各演で行っている対外的な広報、印刷出版、HP管理などの作業を集中して行う組織を研究部のもとに作ることを提案する。新組織の設置は各演での活動を制限するものではなく、バックアップするための組織とする。現在ある演習林出版局、HPワーキング、科学の森ニュース編集委員会、演習林報告等の編集発行作業は新組織の中に組み入れる。教育関係の広報など学内外へ向けての広報も新組織が一括して担当する。

<進め方>

◎「科学の森教育研究センター広報情報室」の設置

上記の課題および課題 2 を担当する組織（「広報情報室」）を研究部のもとに平成 19 年度より発足させる。課題 6 に関係する業務としてはたとえば以下のようなものが考えられる。

- | | |
|-------------------------------|-------------|
| ・ 広報誌「科学の森ニュース」の編集・発行 | 【現：編集委員会】 |
| ・ 年報作成 | 【現：研究部】 |
| ・ 学生募集用パンフレット「科学の森で学ぼう」の編集・発行 | 【現：研究部】 |
| ・ 書籍の編集・出版・販売 | 【現：出版局】 |
| ・ 演習林報告、演習林の編集発行作業 | 【現：研究部】 |
| ・ 科学の森教育研究センターホームページの管理運営 | 【現：HP管理委員会】 |

◎「広報情報室（仮称）」広報担当部門の構成

新組織は研究部内に設置し、1 名の室長（常勤または併任の教員）のもと「広報担当」と「情報処理担当」の 2 部門から構成する。広報担当は演習林内部のさまざまな情報をさまざまな媒体によって内外に発信していく必要があるので、演習林の内部に通じた常勤の教職員 1 名と実際の作業の中心となる常勤ないし非常勤の職員 1 名の配置が望ましいと考える。

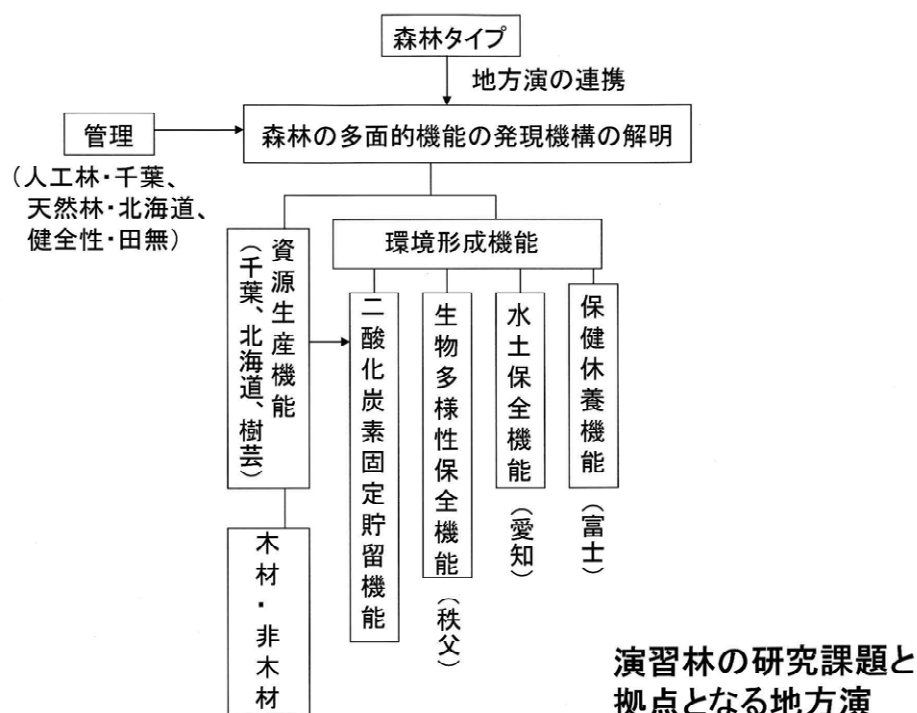
5. 各演習林の特徴と位置づけ

-22-

各演習林のポテンシャル（特徴）を活かした教育・研究の推進を基本とし、研究および教育の課題を特化させて、そのための最適なフィールドとして整備・管理していくことを基本とする。

そして以前より、森林の多面的な機能の解明に対する総合的なアプローチを念頭におくと、各演習林は下図のように位置づけられてきた。そして、各演習林の自然的、歴史的条件（特性）を検討されてきており、基本的にはこれを踏襲し、展開される教育および研究を通して徐々に各演習林の色彩を強めていく。そのためには、そうした教育や研究が実施されるための教育・研究インフラの整備を進めていくことが重要である。

またその際、各教職員の研究分野と、配属される演習林の性格とは必ずしも一致するものではなく、それぞれに適切な演習林において研究課題を展開することが基本である。そのためにも、各演習林が柱とする「主要研究課題」を1，2本設定し、主要研究課題に関してはプロジェクト方式で研究を促進することが重要である。その他の課題はサブ課題として位置づけていく。



各演習林の特徴と位置づけの整理

	各演習林の個性化の方向	教 育 利 用 実習・演習等	社会連携利用
千葉	- 人工林の管理育成を中心に据えた持続的な林業経営 - 森林植生の維持を目的とした野生生物の適正な管理	- 造林学実習 - 森林計測学実習 - 森林経理学(計画学)実習 - 地質調査実習 - 全学体験ゼミナール	- 一般公開(春季・秋季) - 夏の森林教室「森で学ぶ、森から学ぶ」 - 公開講座「野鳥の家をつくろう」 - 演習林を歩こう - 高校生のための森と海のゼミナール
北海道	北方天然林施業、寒冷地人工林施業の研究拠点として、生態学と計画学分野の重点化	- 森林動物学実験 - 森林政策学演習 - フィールド科学総合演習 - 全学体験ゼミナール	- 創作活動(8月～10月:日曜) - 市民公開セミナー「樹海めぐり」 - 大麓山ハイキング登山会
秩父	- 生態学分野のイニシアティブをとり、生物部門に関する基礎データの整備 - 研究成果の一般への啓蒙普及と展示広報の重点化	- 森林植物学実験 - 森林土壌学実験 - 森林土壌学実習 - 野生動物生態学実習 - 森林科学実習 - 全学体験ゼミナール	- 公開講座(平成18年度:5回) (植物の見分け方入門-樹木編、-草本編、森林の獣、森の身体測定、秩父地方の歴史) - サポーター養成講座(平成18年度:10回)
愛知	- 森林域における水循環・物質循環・長期生態系変動研究 - 森林の公共社会的機能と人との関わり	- 測量学実習 - 森林保全学実習 - 全学体験ゼミナール	- 公開講座「水辺の生き物を探そう」 - 大学等地域開放特別事業(2～4回) - 親子で学ぶ森のネイチャー教室(3回程度)
富士	- 森林の空間的/精神的利用分野の先導 - 保健休養、森林景観、森林教育分野の重点化	- 環境設計演習 - 森圏管理学実験	森林教育プログラム(年間2回)
樹芸研	- 木材以外の物質(二次代謝物)の生産・利用 (薬品、香料・香木樹、ストレス耐性・病虫害耐性、クローン栽培技術) - 暖温帯林の環境保全的な管理手法の開発	- 森林実習(9類) - 資源生物学基礎実験 - 全学体験ゼミナール	- 小学生森林体験教室 - ふれあい学級「樹木図鑑づくり教室」 - 南伊豆自然体験教室 - 自然・体験教室森林アドベンチャー - ハーブの会春の散策 *森森(もりもり)自然体験学習
田無	- 森林・樹木の健全性に関する研究 (ストレス生理、微生物生態、遺伝・育種等) - 都市林の機能に関する研究	- 造林学実験 - 森林動物学実験 - 森林植物学実験 - 全学体験ゼミナール	- 子ども樹木博士認定活動(年2回) - 公開講座(年1回) - 一般公開(通年:平日のみ) - 休日公開(年数回)

演習林の概要

1890年に東京農林学校が帝国大学に併合されて農科大学となり、1894年にはその附属施設として日本で初めての大学演習林が房総半島の南東部に位置する清澄に設けられた。これが、今日の東京大学千葉演習林の始まりである。引き続いて、教育研究目的や森林の生態的な特性を考慮しながら、北海道演習林（1899）、秩父演習林（1916）、愛知演習林（1922）、富士演習林（1925）、樹芸研究所（1943）、田無試験地（1929）が設置され、さまざまな森林帯にわたる約32,000haの広大な面積の、世界的にも貴重で多様な森林資源を守り育ててきた。さらに、2000年度には大学院重点化が行われ、従来から関係の深い森林科学専攻ならびに関連分野の研究者との教育・研究協力関係を一段と発展させながら、大学院農学生命科学研究科の他の附属施設（農場、牧場、水産実験所、家畜病院、緑地植物実験所）とともに生圏システム学専攻の協力講座として新たなスタートを切り、大学院教育にも主体的に参画している。現在、東京大学演習林（通称：科学の森教育研究センター）は7つの地方演習林と研究部から構成され、研究部を中心に演習林全体としての共通理念に立脚しつつ、各地方演習林独自の試験研究計画にもとづいて多くの教職員等が共同で管理する森林や多数の試験地によって支えられ教育研究および管理を進めている。

【地方演習林・研究部の概要】

千葉演習林は暖温帯に位置する総面積約2,200haの日本で最初の大学演習林である。スギ、ヒノキ、マツ類などの主要造林木の育成技術と持続的森林施業に関する試験を100年余にわたって実施してきた。また、モミ、ツガや広葉樹からなる貴重な天然林を有し、学内外のさまざまな分野の研究・教育に大きく貢献している。近年では、特に自然史や生態系に関する調査、研究が幅広く行われている。

北海道演習林は亜寒帯に位置する総面積約23,000haの、東京大学では2番目に古い演習林である。択伐施業の実証的・理論的研究によって、林学と北方林業の発展に寄与してきた。各種の試験林が造成される一方、奥地天然林には11,000haの鳥獣保護区が設けられるなど北海道の森林動植物に関する各種の調査・研究に利用されている。特に1958年以降、北海道演習林の天然林全域を対象として、北方林の持つ環境保全機能と木材生産機能との調和を図る一大森林施業実験「林分施業法」が実施されており、その成果は国内外から高い評価を受けている。

秩父演習林は冷温帯に位置し、総面積約5,800haと東京大学では2番目、青森県以南の大学演習林では最大の面積を有する演習林である。険しく多様な山岳地形の中にあり、森林植生は変化に富み、生物相も多様である。大面積にわたる貴重な天然林を対象に森林生態系に関する調査・研究が数多く行われている。また、急傾斜の山岳林における人工林施業法、映像情報による森林情報の収集・蓄積・利用などに関する研究も行われている。

愛知演習林は崩壊の起きやすい花崗岩地域に設けられた総面積1,300haの演習林である。生産性の低い立地における森林水文ならびに森林植生回復に関する研究が主に行われている。70年にわたる量水観測は、わが国における土壤保全、水文研究の科学的、技術的発展に重要な役割を果たしてきた。また今日では、都市近郊林としての保健休養・環境保全機能や、河川の不安定化、洪水の増大などで苦しんでいる熱帯地域への国際協力面でも貢献が期待されている。

富士演習林は富士山麓山中湖畔に位置する総面積約40haの演習林である。立地条件を生かして森林の保健休養機能の解析や景観評価、環境教育に関する研究が行われている。また、演習林の一部には東京大学の学生・教職員の休養施設が設置され活用されている。

樹芸研究所は伊豆半島南端の温暖な地にある総面積約250haの演習林である。特用樹木の利用と育成に関する基礎研究や演習林内に泉源を持つ温泉熱を利用した温室における熱帯・亜熱帯産樹木の育成と展示が行われている。

田無試験地は本学農学部キャンパスに近い西東京市に設けられている総面積約9haの演習林である。大学に近いことや、土地が平坦なことから造林学、森林植物学、森林動物学などの生物系の圃場実習や室内実験に多く利用されている。

農学部（弥生）キャンパスに設置されている研究部は東京大学演習林の教育研究活動の中心であり、演習林全体の試験研究計画の円滑な実行を支援している。さらに、多方面の演習林利用希望者の便宜をはかること、共同研究の企画調整、各演習林の気象等観測結果のデータベース化と観測・研究成果の公表の場としての「演習林報告」および「演習林」の編集・発行、森林科学関連学術雑誌の図書館機能、インターネット等を利用した情報公開促進・広報等、東京大学演習林全体に関わるさまざまな役割を担っている。

■教育活動■

大学院講義等

大学院（農学生命科学研究科）

生圏システム学専攻修士課程

教 員 名			講 義 名		
梶 幹男	鎌田直人	後藤 晋	森林圏生物動態学		
山田利博	鴨田重裕		森林圏遺伝子機能開発学		
石橋整司			森林生態圏管理学特論		
斎藤馨（非常勤）			森林圏情報学		
酒井秀夫			森林圏管理システム学		
山本博一	芝野博文	鈴木 誠	持続的森林圏経営論		
山本博一	芝野博文	鈴木 誠	森林流域管理学		
梶 幹男	鎌田直人	後藤 晋	森林圏生態学演習		
山田利博	鴨田重裕	丹下 健	森林遺伝子科学演習		
山田利博	鴨田重裕		森林生物機能学演習		
酒井秀夫	石橋整司	蔵治光一郎	森林圏情報学演習		
石橋整司	蔵治光一郎		森林圏生態社会学演習		
山本博一	芝野博文	鈴木 誠	森林圏水資源管理学演習		
山本博一	芝野博文	鈴木 誠	森林流域管理学演習		
樋口広芳	宮下 直	藤田 剛	山中征夫	池田裕行	生圏システム学総合演習
鈴木 牧					
山本博一	梶 幹男	鎌田直人	石橋整司	芝野博文	生圏システム学実験・研究
山田利博	鈴木 誠	後藤 晋	尾張敏章	蔵治光一郎	
鴨田重裕					

森林科学専攻修士課程

教 員 名			講 義 名		
石橋整司			森林生態圏管理学特論		
斎藤馨（非常勤）			森林圏情報学		
酒井秀夫			森林圏管理システム学		
山本博一	芝野博文	鈴木 誠	持続的森林圏経営論		
山田利博	鴨田重裕		森林圏遺伝子機能開発学		
山本博一	芝野博文	鈴木 誠	森林流域管理学		
山本博一	梶 幹男	鎌田直人	石橋整司	芝野博文	森林科学特別実験
山田利博	鈴木 誠	後藤 晋	尾張敏章	蔵治光一郎	
鴨田重裕					
山本博一	梶 幹男	鎌田直人	石橋整司	芝野博文	森林科学特別演習
山田利博	鈴木 誠	後藤 晋	尾張敏章	蔵治光一郎	
鴨田重裕					

大学院新領域創成科学研究科 自然環境学専攻修士課程

教 員 名			講 義 名
大澤雅彦	福田健二	池田裕行	生物環境学実習

生圏システム学専攻博士課程

教 員 名					講 義 名
梶 幹男	鎌田直人	後藤 晋			森林圏生態学特別演習
山田利博	鴨田重裕	丹下 健			森林遺伝子科学特別演習
山田利博	鴨田重裕				森林生物機能学特別演習
酒井秀夫	石橋整司	蔵治光一郎			森林圏情報学特別演習
石橋整司	蔵治光一郎				森林圏生態社会学特別演習
山本博一	芝野博文	鈴木 誠			森林圏水資源管理学特別演習
山本博一	芝野博文	鈴木 誠			森林流域管理学特別演習
山本博一	梶 幹男	鎌田直人	石橋整司	芝野博文	生圏システム学特別実験・研究
山田利博	鈴木 誠	後藤 晋	尾張敏章	蔵治光一郎	
鴨田重裕					

森林科学専攻博士課程

教 員 名					講 義 名
梶 幹男	鎌田直人	山田利博	後藤 晋	鴨田重裕	森林生態圏管理学特別演習Ⅰ
井出雄二	石田 健				
酒井秀夫	山本博一	石橋整司	芝野博文	蔵治光一郎	森林生態圏管理学特別演習Ⅱ
鈴木 誠					
梶 幹男	鎌田直人	山田利博	後藤 晋	鴨田重裕	森林生態圏管理学特別実験Ⅰ
井出雄二	石田 健				
酒井秀夫	山本博一	石橋整司	芝野博文	蔵治光一郎	森林生態圏管理学特別実験Ⅱ
鈴木 誠					
斎藤馨	梶幹男	大澤雅彦	福田健二		森林生態社会学特別演習
斎藤馨	梶幹男	大澤雅彦	福田健二		森林生態社会学特別実験

学部講義等

教 員 名			講 義 名	学部・課程(専修) 等
山本博一 石橋整司 鈴木 誠 蔵治光一郎	梶 幹男 芝野博文 後藤 晋 鴨田重裕	鎌田直人 山田利博 尾張敏章	森林科学概論	農学部：4 生物環境・生物生産 (課程)
梶 幹男 山田利博	山本博一 鎌田直人	芝野博文	森林生態圏管理学	農学部：4 生物環境・生物生産 (課程)・応用生命科学課程(森林 生物科学専修)
宝月岱造 藤原章雄	松下範久 坂上大翼	梶 幹男	森林植物学実験	農学部:3 森林生物・森林環境・森 林資源(専修)
富樫一巳 宮本義憲	久保田耕平 前原 忠	加賀谷 隆	森林動物学実験	農学部:3 森林生物・森林環境・森 林資源(専修)
丹下 健 山中征夫	益守眞也 池田裕行	大澤裕樹 坂上大翼	造林学実験	農学部:3 森林生物・森林環境・森 林資源(専修)
鈴木 雅一 堀田紀文	芝野博文	蔵治光一郎	森林保全学実習	農学部:4 森林生物・森林環境・森 林資源(専修)
白石則彦	廣嶋卓也	藤原章雄	森林経理学実習	農学部：4 森林生物・森林環境・ 森林資源(専修)
永田 信 安村直樹	古井戸宏通 尾張敏章	宮本義憲	森林政策学演習	農学部:3 森林生物・森林環境・森 林資源(専修)
横川昇二 山本清龍	小野良平	伊藤弘	環境設計演習	農学部:4 森林環境(専修)
鈴木 雅一 堀田紀文	芝野博文	蔵治光一郎	測量学実習	農学部:3 森林環境・森林資源(専 修)
龍原 哲	廣嶋卓也	藤原章雄	森林計測学実習	農学部：3 森林資源(専修)
仁多見俊夫	藤原章雄		森林土木学実習	農学部：4 森林資源(専修)
梶 幹男			樹木学	農学部：3 応用生命科学課程(森 林生物科学専修)
梶 幹男 前原 忠	鴨田 重裕 浅野友子	高上馬希重	森林実習	農学部：3 国際開発農学(専修)
石橋整司			総合科目D (人間・一般) 「冬の森林学」	教養学部
石橋整司	山本清龍		全学体験ゼミナ ール「年輪を読む」	教養学部
山本博一 池田裕行	鈴木 誠 鈴木 牧	山中征夫 山田利博	全学体験ゼミナ ール「森に学ぶ(1) 森林で考える環境 問題と森林の持続 的利用―千葉演習 林」	教養学部

教 員 名			講 義 名	学部・課程(専修) 等
酒井秀夫	尾張敏章		全学体験ゼミナール「森に学ぶ（２） 北方針広混交林と天然林施業を学ぶ」	教養学部
梶 幹男	藤原章雄		全学体験ゼミナール「森に学ぶ（３） 秩父山地の森林を巡る」	教養学部
石橋整司 高上馬希重	前原 忠	山中征夫	全学体験ゼミナール「森に学ぶ（４） 危険生物の知識」	教養学部
芝野博文			全学体験ゼミナール「森に学ぶ（５） 森林生態研究の現場からの発見」	教養学部
石橋整司 藤原章雄	山本清龍	坂上大翼	全学体験ゼミナール「森に学ぶ（６） 森林の保健休養機能」	教養学部
鴨田重裕			全学体験ゼミナール「森に学ぶ（７） 伊豆半島の森林植生の多様性を探る」	教養学部
山本博一 池田裕行	鈴木 誠 鈴木 牧	山中征夫 山田利博	全学体験ゼミナール「樹木を解体する ―千葉演習林」	教養学部
梶 幹男 宮本義憲	後藤 晋	尾張敏章	全学体験ゼミナール「北方針広混交林 と天然林施業を学ぶ」	教養学部
山田利博 山本清龍	前原 忠	坂上大翼	都市の緑に学ぶ	教養学部
斎藤 馨	藤原章雄		デジタルビデオ森林映像製作―夏学期新緑編―	教養学部

他大学の非常勤講師

教員名	講義名	対象学部	学 科 等	学 年	大 学 名
石橋整司	環境論	電気通信学部	総合文化講座	1	電気通信大学
石橋整司	エコロジーA	造形学部	デザイン学科	2、3、 4	東京造形大学
前原 忠	環境		保育科	1	白梅学園短期 大学
山中征夫 池田裕行 鈴木 牧	野生動物学実習	獣医学部	獣医保健看護学科	2	日本獣医生命 科学大学
山中征夫	哺乳類行動調査	環境保全専門 課程	野生生物調査学科	1	東京環境工科 専門学校

招待講演・講師の派遣等

教員名	講 演 名	主催	開催場所	日程
山本博一	森林計画研修	森林技術総合研修所	森林技術総合研修所	5/11
山本博一	白山文化シンポジウム～ 歴史と自然が地域を豊かにする～	郡上市	郡上市総合文化センター	8/25
山本博一	文化遺産を未来につなぐ 森づくり2007	文化遺産を未来に繋ぐ 森づくりの為に有識者会議	弥生講堂	1/19
梶幹男	「照葉樹林の生態的動態 …グローバルな視点からの 森林の効用」	千葉県高等学校教育 研究会理科部会生物 分科会研究協議会	かずさアカデミア パーク内DNA研究 所大会議室	10/19
梶幹男	カエデ学ことはじめ	東京大学教養学部・ 駒場友の会共催	駒場コミュニケー ションプラザ	11/10
尾張敏章	海外での森林認証の現状 について	北海道にふさわしい 森林認証研究会	北海道水産林務部	7/6
山本博一・山中 征夫・池田裕 行・鈴木誠	S P P 自然体験活動講座	千葉県総合教育セン ター	千葉演習林	8/1～8/2
山本博一・鈴木 誠・山中征夫・ 池田裕行・鈴木 牧	高校生のための森と海の ゼミナール 「自然の中で考える環境 問題と生物多様性」	高校生のための森と 海のゼミナール実行 委員会	千葉演習林	8/7～8/9
山中征夫	S P P 自然観察会	木更津高校	千葉演習林	11/24
山田利博・山中 征夫	「緑の教室」	鴨川市立天津小学校	天津小学校	2/18
山中征夫	SPP連携プログラム	千葉県立木更津高 校	千葉演習林	11/24
梶 幹男	千高教研理科部会生物分 科会研究協議会	千葉県高等学校教 育研究会理科部会	千葉県	10/19
蔵治光一郎	地球環境と調査	三重中学校	愛知演習林	8/21
山本清龍	総合的な学習の時間 「森林の変化と働き」	山中湖村立山中小 学校	山中湖村立山中小 学校	6/15、6/22
山本清龍	総合的な学習の時間 「ダムと森林」	山中湖村立山中小 学校	山中湖村立山中小 学校	11/14

森林生態圏管理学大講座ゼミ

第1回(平成18年4月28日(金)13:00~17:00/農学部1号館2階林学会議室)

- 逢沢峰昭(大学院研究生).....「北東アジアにおけるエゾマツ変種群*Picea jezoensis*のオルガネラDNAの地理的変異と分布」
(Phylogeography of cold temperate spruce, *Picea jezoensis*, inferred from geographic patterns of genetic variation at mitochondrial and chloroplast DNA in Northeast Asia during the Quaternary)
柳内ルース(客員助教授).....「Overview of Research Interest」
鎌田直人(演習林研究部).....「ブナの被食防衛と誘導防御反応について」
下村彰男(演習林研究部).....「森林風致計画学について」
石橋整司(秩父演習林).....ハンテンボク(ユリノキ)人工林の成長解析」

第2回(平成18年5月26日(金)13:00~17:00/農学部1号館2階林学会議室)

- 中馬美咲(研究生).....「栃木県那須塩原市大沼周辺における森林群落構造と土壌状態との関係」
中村麻祐子(修士1年).....卒業論文「常緑広葉樹と落葉広葉樹の落葉分解」
堀 真人(大学院研究生).....「鎌倉市の里山の景観における自然環境モニタリング」
山本博一(千葉演習林・演習林研究部).....「時間情報を含んだ森林管理システム」

第3回(平成18年6月23日(金)13:00~17:00/農学部1号館2階林学会議室)

- 石塚 航(森林4年).....卒論計画「天然更新におけるイヌブナ実生の消長に関する研究」
中村和彦(森林4年).....卒論計画「森林の長期観測映像の解析と林分調査データとの比較」
浅野友子(演習林研究部).....「山地源頭部における斜面に沿った樹木の分布について」
鈴木 牧(生圏システム).....「ニホンジカのいる森林の管理：施業で生物多様性が守れるか？」
芝野博文(愛知演習林).....「日本の砂防工事の礎となった瀬戸市のホフマン工事とアメリゴ・ホフマン」

第4回(平成18年7月21日(金)13:00~17:00/農学部1号館2階林学会議室)

- 山中征夫(千葉演習林).....「房総半島におけるヤマビルの大量発生要因の解明」
浅井英一郎(リサーチフェロー).....「外生菌根菌の接種がクロマツのマツ材線虫病抵抗性に与える影響」
坂上大翼(田無試験地).....「田無試験地で数種の広葉樹に発生したならたけもどき病被害と病原菌のジェネット識別」
山田利博(田無試験地).....「ヒメコマツかさぶたがんしゅ病調査その後」

第5回(平成18年9月22日(金)13:00~17:00/農学部1号館2階林学会議室)

- トリフコビッチ・スタンコ(森林博士2年).....「Forest regeneration survey – an integrated approach」
陳 鍾善(生圏博士3年).....「吉林省の森林管理に関する研究
ー戦後の日本における森林管理の展開との比較研究ー」
前原 忠(田無試験地).....「天敵生物としてのオサムシの利用可能性を探る」
梶 幹男(北海道演習林).....「西カリマンタン低地熱帯多雨林の生態的特徴」

第6回(平成18年10月27日(金)13:00~17:00/農学部1号館7番講義室)

- 藤原章雄(秩父演習林).....「サイバーフォレスト研究 映像と音による森林の記録とそのデジタル伝送およびGIS、GPSを活用したデータ共有方法の検討」
澤島 薫(生圏修士1年).....「流域スケールを考慮した洪水流出プロセスの解明」
山本清龍(富士演習林).....「自然公園における利用者の環境配慮意識に関する研究」
安村直樹(演習林研究部).....「首都圏の大工・工務店における木材の選定基準
ー地域材への需要ー」
山本祥子(新領域生物圏情報学修士2年).....「自然体験型環境学習システムに関する研究
ー秩父演習林サポーター養成講座を事例としてー」

第7回(平成18年11月24日(金)13:00~17:00/農学部1号館2階林学会議室)

毛塚由佳理(森林修士2年).....「根の高温による熱帯樹木の通水抵抗の増加」
劉 盛(特別研究員).....「吉林省の落葉松人工林現状及び千葉演習林の二段林」
高上馬希重(樹芸研究所).....「カンゾウによるトリテルペノイド生合成に関する研究
Study of triterpenoid synthesis of licorice (*Glycyrrhiza uralensis*)」
尾張敏章(北海道演習林).....「持続可能な森林経営と情報管理」

第8回(平成18年12月22日(金)13:00~17:00/農学部1号館2階林学会議室)

春田泰次(愛知演習林).....「愛知演習林における林外雨の成分推移」
石塚 航(森林4年).....卒業論文「秩父天然林におけるイヌブナ実生の消長に関する研究」
中村和彦(森林4年).....卒業論文「森林の長期観測映像から均質な撮影条件下での記録映像を
抽出する手法の開発」
村松昭宜(生圏修士2年).....修士論文「広葉樹再生林における下層の光環境と、
下層木の成長との関係」
後藤 晋(北海道演習林).....「倒木上で繰り広げられる散布と定着の物語
— ”逃げる”トドマツ、浮上する新仮説—」

第9回(平成19年1月19日(金) 13:00~17:00/農学部1号館7番講義室)

王 清春(森林博士1年).....「中国の自然保護区における状況紹介と博士論文の構想」
佐竹(秋廣) 敬恵(農学特定研究員).....「住民参加・パートナーシップによる
森林管理・利用システムにおける「協議システム」の分類と特徴」
矢永清美(森林修士1年).....「夜間のミスト処理が乾燥土壌に生育するスギ苗の
ガス交換に与える影響」
澤畠 薫(生圏修士1年).....「流域スケールを考慮した洪水流出プロセスの解明」
中村麻祐子(森林修士1年).....「暖温帯下部二次林における林床の光環境とアオキの生育」

第10回(平成19年2月16(金) 13:00~17:00/農学部1号館7番講義室)

千嶋 武(田無試験地).....「緑被率の異なる都内3地点における気温の経年変化」
鶴見康幸(千葉演習林).....「ヒノキ高樹齢林におけるヘリコプター集材の試み」
栗田直明(秩父演習林).....「ライトセンサスによるシカ発見数の月別変化」
辻 和明(樹芸研究所).....「青野研究林におけるアオキを指標としたニホンジカの分布調査」
丹羽悠二(北海道演習林).....「北海道演習林における野生動物管理の現状」
石田 健(生圏システム).....「2006年ツキノワグマの動向、ミズナラやブナの結実と関連して」

第11回(平成19年3月16日(金) 13:00~17:00/農学部1号館7番講義室)

トリフコビッチ・スタンコ(森林博士2年).....「Variable Size Circular Plot Sampling
—clustered spatial patterns—」
松崎 潤(森林博士3年).....「樹幹にも光屈性による姿勢制御がはたらいっている
—どこで光を感じ、どのようなしくみで屈曲するか—」
池田 裕行(千葉演習林).....「ヒメコマツ更新地の林分構造と林床の光環境」
鈴木 誠(千葉演習林).....「千葉演習林のスギ・ヒノキ高齢人工林と私」(最終講義)

注) 発表者名のあとの括弧内は発表時の所属。「生圏」は生圏システム学専攻、「森林」は
森林科学専攻所属の学生であることを示す。

演習林研究部ゼミ

回	月日	発表者氏名	
第1回	4月21日	鎌田 直人	藤原 章雄
第2回	5月12日	トリフコビッチ・スタンコ 中村 麻祐子	王 清春
第3回	5月19日	村松 昭宣	澤畠 薫
第4回	6月2日	石塚 航	中村 和彦
第5回	6月9日	佐竹(秋廣) 敬恵	陳 鍾善
第6回	6月16日	逢沢 峰昭	堀 真人
第7回	6月30日	梶 幹男	浅野 友子
第8回	7月7日	柳内 ルース	
第9回	7月14日	陳 鍾善	村松 昭宣
第10回	9月29日	石塚 航	中村 和彦
第11回	10月6日	トリフコビッチ・スタンコ	王 清春
第12回	10月13日	澤畠 薫	中村 麻祐子
第13回	10月20日	堀 真人	村松 昭宣
第14回	11月10日	石塚 航	中村 和彦
第15回	11月17日	陳 鍾善	村松 昭宣
第16回	12月1日	澤畠 薫	中村 麻祐子
第17回	12月8日	石塚 航	中村 和彦
第18回	12月15日	浅井 英一郎	トリフコビッチ・スタンコ
第19回	1月12日	村松 昭宣	陳 鍾善
第20回	2月2日	トリフコビッチ・スタンコ	王 清春
第21回	2月9日	石塚 航	中村 和彦
第22回	2月23日	澤畠 薫	中村 麻祐子
第23回	3月2日	トリフコビッチ・スタンコ	王 清春
第24回	3月9日	佐藤 樹里	中馬 美咲

実習等

演習林名	学 校 名	科 目 名	学 部	学 科 等	学年	学生数	実施月	日数
千葉	東京大学	造林学実験	農学部	森林系 3 専修	3年	19	5月	5
千葉	東京大学	森林植物学実験野外実習	農学部	森林系 3 専修	3-4年	18	5月	3
千葉	東京大学	2006年度森林経理/計画学・野外実習	農学部	森林系 3 専修	4年	9	5月	4
千葉	東京大学	全学体験ゼミナール 森に学ぶ(4) 危険生物の知識	教養学部		1-2年	24	5月	1
千葉	日本獣医生命科学大学	野生生物学実習－1－	獣医学部	獣医保健看護学科	2年	47	5月	3
千葉	日本獣医生命科学大学	野生生物学実習－2－	獣医学部	獣医保健看護学科	2年	46	5月	3
千葉	東京農業大学	造林学実習	地域環境科学部	森林総合科学科	3年	30	6月	1
千葉	千葉県立君津青葉高等学校	総合学科環境系列校外学習		総合学科森林科学	2年	13	6月	2
千葉	立正大学	セミナー及びフィールドワーク F	地球環境科学部	地理学科	3年	12	6月	3
千葉	静岡大学	地質調査法実習Ⅱ	理学部	生物地球環境科学科	院生	12	7月	5
千葉	東京大学	持続的森林圏経営集中講義			大学院生	9	7月	2
千葉	京都大学	地質調査法野外実習	理学研究科	地質学鉱物学教室	3年	9	8月	5
千葉	東京大学	集中講義 「森林で考える環境問題と森林の持続的利用」	農学部	附属演習林	1-2年	2	9月	4
千葉	東京大学	フィールド科学総合演習	生圏システム学専攻	生物多様性科学研究室	院生	19	10月	4
千葉	東京大学	生物環境学実習（植生調査実習及び菌類の観察）	新領域創成科学研究科	自然環境学専攻	院生	22	10月	3
千葉	東京大学	農村デザインスタジオ実習	新領域創成科学研究科	農業環境基盤工学研究室	3年	3	12月	1
千葉	東京大学	2006年度森林計測学実習	農学部	森林経理学研究室	3年	3	12月	4
千葉	東京学芸大学	地質学実習	教育系	環境科学分野	2-4年	10	3月	3
北海道	北海道大学	大学院実習 (景域保全学実習)	農学研究院		院生	17	5月	4
北海道	東京大学	森林動物学実験・森林政策学実習	農学部 3 類	森林科学専攻	院生、3年	27	7月	8
北海道	大阪女子大学	「環境生物科学実験Ⅰ」の野外実習	理学部	環境理学科	3年	8	8月	5
北海道	九州大学	実地見学（1 単位）	農学部 3 類			18	9月	1
北海道	東北芸術工科大学	歴史遺産調査演習	芸術学部	歴史遺産学科	院生、学生	5	9月	3
北海道	北海道教育大学	野外実習	教育学部		修士、1～4年	37	10月	2
秩父	東京大学	森林土壌学実験	農学部	森林系 3 専修	3年	7	4月	4
秩父	東京大学	自然環境野外総合実習	新領域創成科学研究科	自然環境学専攻	修士	42	4月	1

演習林名	学 校 名	科 目 名	学 部	学 科 等	学年	学生数	実施月	日数
秩父	東京大学	森林土木学実習	農学部	森林系 3 専修	4年	3	5月	4
秩父	東京大学	進化多様性生物学演習 I	理学系研究科	生物科学専攻	修士	20	5月	2
秩父	武蔵大学	日本東アジア比較文化入門演習	人文学部	日本・東アジア比較文化学科	1 年	15	5月	2
秩父	東京大学	全学自由研究ゼミナール デジタルビデオ森林映像制作	教養学部		1、2年	5	6月	3
秩父	東京大学	全学体験ゼミナール 森に学ぶ（4） 危険生物の知識	教養学部		1、2年	25	6月	1
秩父	東邦大学	野外実習	理学部	生物学科	2年	18	6月	4
秩父	東京大学	森林植物学実験 野外実習	農学部	森林系 3 専修	3年	20	7月	4
秩父	埼玉県立秩父農工科学高等学校	樹木採集実習		森林科学科	1年	39	7月	2
秩父	東京大学	生物環境学実習	新領域創成科学研究科	自然環境学専攻	修士	3	7月	2
秩父	立教大学	博物館学芸員課程 野外実習	学校・社会教育講座	学芸員課程	4年	16	8月	4
秩父	東京大学	フィールド科学総合演習 （森圏管理学）	農学生命科学研究科	生圏システム学専攻	修士	13		4
秩父	首都大学東京	動物系統学野外実習	教養学部	理工学系	3年	15	8月	4
秩父	埼玉大学	野外実習	理学部			20	9月	1
秩父	東京大学	全学体験ゼミナール「秩父山地の森林を巡る」	教養学部		1、2年	8	9月	4
秩父	東京大学	生物環境学実習	新領域創成科学研究科	自然環境学専攻	修士	9	9月	2
秩父	東京大学	森林科学実習	農学生命科学研究科	生物材料科学専攻	修士	14	10月	3
秩父	東京大学	森圏管理学実験	農学生命科学研究科	生圏システム学専攻	修士	7	10月	1
秩父	東京大学	自然環境デザイン実習	新領域創成科学研究科		修士	4	10月	2
秩父	東京大学	自然環境デザイン実習	新領域創成科学研究科		修士	4	10月	2
秩父	東京大学	全学自由研究ゼミナール 「デジタルビデオ森林映像製作」	教養学部		1、2年	6	11月	3
秩父	東京大学	自然環境デザイン実習	新領域創成科学研究科		修士	9	11月	2
秩父	東京大学	全学体験ゼミナール 「冬の森林学」	教養学部		1、2年	52	12月	1
秩父	東京大学	全学体験ゼミナール 「冬の森林学」	教養学部		1、2年	25	12月	2
愛知	名古屋大学	資源生物環境学実験実習 II 測樹学実習	大学院			16	5月	1
愛知	東京大学	森林保全学実習	森林科学砂防研究室			7	6月	3
愛知	名古屋大学	資源生物環境学実験実習 II	大学院			16	6月	1

演習林名	学 校 名	科 目 名	学 部	学 科 等	学年	学生数	実施月	日数
愛知	東京大学	測量学実習	森林科学砂防研究室			7	8月	5
愛知	東京大学	全学体験ゼミナール	教養学部			2	9月	4
愛知	名古屋大学	環境科学研究科集中講義のための野外見学	人間科学総合館			9	10月	1
富士	東京大学	森圏管理学実習	農学生命科学研究科	生圏システム	3、4年	6	5月	1
富士	東京大学	環境設計演習	農学生命科学研究科	森林科学専攻	修士、4年	5	7月	2
富士	東京大学	全学体験ゼミナール	農学生命科学研究科	演習林	1、2年	25	7月	1
富士	東京大学	全学体験ゼミナール	農学生命科学研究科	演習林	1、2年	12	9月	4
富士	東京大学	社会基盤学に関するフィールド演習	工学研究科	社会基盤工学専攻	3年	67	9月	5
富士	東京大学	全学体験ゼミナール	農学生命科学研究科	演習林	1,2年	6	12月	2
樹芸	東京大学	資源生物学基礎実験（植生調査）	農学部	緑地環境学専修	3年	7	7月	3
樹芸	東京大学	森林実習	農学部	国際開発農学専修	3年	17	8月	4
樹芸	東京大学	全学体験ゼミ	教養学部		1、2年	4	9月	4
樹芸	東京大学	全学体験ゼミ「伊豆に学ぶ」	教養学部		1、2年	31	2月	4
田無	東京大学	造林学実験	農学部	森林系3専修	3年	20	4月	1
田無	東京大学	造林学実験	農学部	森林系3専修	3年	22	6月	1
田無	東京大学	造林学実験	農学部	森林系3専修	3年	20	7月	1
田無	東京大学	造林学実験	農学部	森林系3専修	3年	20	9月	1
田無	東京大学	森林植物学実験	農学部	森林系3専修	3年	18	5月	1
田無	東京大学	森林動物学実験	農学部	森林系3専修	3年	23	6月	2
田無	東京大学	農場実習（昆虫採集）	農学部	農学系3専修	3年	40	5月	1
田無	東京大学	生物多様性科学実習	農学部	フィールド科学専修	3年	8	10月	1
田無	白梅学園短期大学	森林実習		保育科	1年	21	5月	1
田無	白梅学園短期大学	森林実習		保育科	1年	21	5月	1
田無	白梅学園短期大学	森林実習		保育科	1年	19	6月	1
田無	東京大学	全学体験ゼミナール	教養学部	全科類	1～2年	6	12月	1
田無	東京大学	全学体験ゼミナール	教養学部	全科類	1～2年	6	12月	1
田無	東京大学	全学体験ゼミナール	教養学部	全科類	1～2年	6	12月	1

■研究活動■

地方演習林研究活動報告

千葉演習林

人工林の管理を中心に据えた持続的な林業経営

我が国のみならず、国際的な森林問題を解決するため、持続的な森林経営に関する情報を提供し続けることを千葉演習林における試験研究の基本理念とし、800ha を超えるスギ・ヒノキを中心とした人工林を持続的に経営することが最も重要な課題である。このことを実行するために、人工林を対象とした森林科学教育を高い水準で維持できる森林の整備をおこなった。植付、枝打ち、間伐などの一連の保育を体験できる人工林を一定面積以上発生させた。遺伝的に均質な試料を確保するために、人工植栽に必要な苗畑、採種園を維持した。非皆伐施業の研究を進めるため、林内照度を調整しながら複層林の造成を行った。ヘリコプター集材による高齢級人工林の小面積皆伐を実行し、天然更新と植え込みによる林種転換実験を開始した。一定面積の主伐と再造林を実施し、人工林経営のためのデータを蓄積した。

総合対照流域法による森林—環境系の応答解析

森林が環境に及ぼす影響について、対照流域法を用いて総合的に解析することを目的として、2 林班 C1 小班に袋山沢試験地を設定した。試験地は、ひとつの集水域(C 流域、2. 03ha)からなり、北側の A 小流域(0. 80ha)、南側の B 小流域(1. 09ha)および残流域に 3 分される。植生は、スギ、ヒノキ壮齡人工林である。A、B、C の 3 流域にそれぞれ量水堰堤が設けられており、流出水量・水質、堆砂量、浮遊砂濃度などを観測している。各流域の中では、降雨が樹冠に触れてから溪流へ流出するまでの経路に沿って、樹冠通過雨、樹幹流下雨の水量と水質、地表面流の発生場の分布、不飽和土壌水の深度分布と水質、地下水位の変動と地下水水質、地温、土壌中 CO₂ 濃度などの観測を行った。

平成 10 年度に B 小流域の森林を皆伐した。伐採以降、皆伐の影響を重要課題として解析している。これまでに A、B 小流域で観測された流出量を比較したところ、年流出量では A 流域の方が多いにもかかわらず基底流出の通減時の流出量は、B 流域の方が多いという結果が得られた。

スギ・ヒノキ人工林における長伐期、複層林施業に関する間伐方法の研究

千葉演習林のスギ、ヒノキ人工林の面積は約 800ha あり、そのうち 60 年生以上の伐期に達した高齢林が約 60% を占める。今後これらの高齢林の施業方法として、ニホンジカの食害等を考慮し皆伐面積を極力控え教育・研究に必要な面積、年 1~2ha とし、その他の人工林は長伐期林に移行する。したがって、ますます高齢の人工林が増加する。

現在、この高齢人工林を健全に維持するために間伐方法の検討を行っている。平成 9 年度から次の 4 種の間伐方法を実施し健全な高齢林の造成を図っている。

1) 環境保全型間伐法

本間伐法は、過密高齢林分を比較的低い間伐率により個体間競争を緩和し、林床植生が繁茂する健全な林分の造成を目的とする。

2) 長伐期施業型間伐法

本間伐法は、長伐期施業を想定し、間伐により最大限の利益を得ると同時に将来の大径良質材の生産を目的とする。

3) 複層林施業型間伐法

本間伐法は、複層林施業を念頭においたもので、長伐期施業型間伐よりさらに強度な間伐を行い、林床に植栽した下木の成育に必要な林内照度を維持する事を目的とする。

4) 帯状間伐法

本間伐法は、主策線に対し魚骨状に 20m の幅で伐採区、残存区を繰り返し間伐法の長所、短所を明らかにする。

ニホンジカによる造林木被害の対策

千葉演習林でのニホンジカによるスギ、ヒノキの食害被害は、局所的には 1981 年頃からであったが、特に目立つようになったのは 1986 年秋からである。その後、被害を記録するとともに電気柵、ネット物理柵、ヘキサチューブなどによる防護や大苗の植栽によって被害対策を行ってきた。しかし、ネット物理柵と大苗の植栽の組み合わせでは、期待された効果がみられたものの、それ以外では、十分な効果が得られたものは限られている。

そこで、2001 年 8 月から新素材のネットを開発している東工コーセン株式会社との共同研究を 27 林班の二段林(平坦地、スギを下層に植栽)で開始した。新素材は、「ダイニーマ」という超高分子ポリエチレンの強度の高い繊維と生分解プラスチックの「ラクトロン」繊維である。この他に新素材ではないが、柵内をニホンジカが見えにくくするために網目を細かくした「ラティース」網も使用した。

3 調査区(ダイニーマ柵、ラティース柵、ラクトロンネット)と対照区での 2003 年 3 月の効果測定は、植栽時での枯死と人為的な被害を除くとシカによる被害率は、ダイニーマ柵 0%、ラティース柵 0%、ラクトロンネット 2%、対照区 91%であった。

1 年半経過時点では、ダイニーマ柵、ラティース柵、ラクトロンネットの効果は十分認められたが、予期しない被害発生に対処するため、さらに調査を継続する必要がある。なお、イノシシによる柵破壊の影響、傾斜地での柵の管理法などについても検討を要する。

マツ材線虫病抵抗性マツの育種に関する研究

わが国において、マツ材線虫病によりマツ林が激害を受けている。千葉演習林では、マツ材線虫病に対する抵抗性の高いマツによる採種園を造成するための研究を進めている。具体的には、過去に選抜された抵抗性マツに対して、最近の病原性が強いといわれるマツノザイセンチュウに対する抵抗性の再評価、マツ材線虫病激害地に生き残った個体から新たな抵抗性個体を選抜するためのマツノザイセンチュウ接種試験、抵抗性の高い個体間の人工交雑による積極的な強抵抗性マツの創造等である。

なお、クロマツを中心に、マツ材線虫病抵抗性候補個体に対する抵抗性評価に関し、現在、他研究機関と共同研究を実施中である。

ヒメコマツの保全に関する研究

寒冷期の遺存種とされる房総丘陵のヒメコマツは、近年急速に枯損が進み、現在、天然成木は千葉演習林内に 23 本(房総丘陵全体で約 80 本)しか確認されていない。天然に生育している個体は、お互いに離れているため花粉の流動性が少なく、他殖の稔性の高い種子生産が望めず、そのため更新が難しい状況にある。このままでは近いうちに絶滅の危険性が高いので房総のヒメコマツの保全について研究を進めている。なお、千葉県レッドデータブックにおいてヒメコマツは最重要保護生物「A」にランクされ保護の必要性が認識されている。

研究の結果、天然個体、天然由来の庭木、植栽木等を使った人工交配を行うことにより、種子の稔性向上と、極端に減少した集団の遺伝的多様性の維持が可能になったことが明らかになった。現在生存している天然個体は 100 年以上前の集団の遺伝的形質を示すものであり、DNA 分析の結果、約 80 本しか残っていない房総丘陵のヒメコマツは、集団としての遺伝的多様性はまだまだ劣化していないことが明らかとなった。そこで、現在点在している天然個体を接ぎ木により増殖して、房総以外へ一時的疎開を含めた現地外保全方法の検討、現在の遺伝子を生かした採種園を造成するための研究を進めている。また、天然個体の枯死原因の一つにマツ材線虫病が考えられているが、その確認のため接ぎ木苗を用いたマツノザイセンチュウ接種試験やマツノマダラカミキリ放虫試験にも取り組んでいる。幼、稚樹に大きな被害をもたらすヒメコマツかさぶたがんしゅ病について病原菌を明らかにし、防除に関する研究を進めている。

ヤマビルの生態と防除

房総半島南東部では1985年頃からヤマビルの大量発生が認められ、農林業などの野外作業における吸血被害が増大している。緊急な防除対策として殺虫剤等による化学的防除法が試みられているが、落ち葉の下などに隠れているヤマビルには効果がほとんどなく、逆に生態系への悪影響が懸念されるなど、実用化には至っていない。そこで、ヤマビルの密度低下や分布域の局限化など、防除方法を考える上で重要な個体群変動要因、生活史、生息環境要因などの調査・実験等を始めた。また、ニホンジカによるスギ・ヒノキ植栽苗の被害防止及びヤマビルの個体数増加防止のため、ニホンジカの有害駆除を行った。

これまでの調査・実験等から、ヤマビルにとってニホンジカは好適な寄生主であり、かつ運搬者であること。ヤマビルの増加にニホンジカの分布域拡大や個体数増加が密接に関係していること。ふ化から産卵までの最短期間は5ヶ月であること。非常に繁殖力が強い動物であること。最長寿命は5年であること。ヤマビルの生息場所である落葉の下での温度は林内気温と比較して変動幅が少なく比較的安定していること。林冠がうっぺいしている林床は湿度が非常に高く安定していること。天敵が不在なことを明らかにした。また、実用的な人的吸血被害防止策などを提案した。今後これらの知見を基礎に、さらに発展させ、安全で効果的な防除方法の確立に向け努力していきたい。

広葉樹二次林（旧薪炭林）の更新動態とシカの影響

暖地性二次林旧薪炭で更新のための伐採を実施し、伐採後の伐採跡地と未伐採隣接林分における生物相の変化を経年追跡する。伐採地の半分をシカ排除柵で囲い、シカによる更新阻害や生物相への影響を定量する。

今年度は実験区の設定（小坪沢、平塚、檜尾）、毎木調査、気象環境の観測、鳥類相の観察など、広葉樹二次林伐採前及びシカ柵設置前の現状を把握するための調査を行った。今後、土壌動物相、土砂流失量、埋土種子調査等を行った後伐採を行い、更新に伴う諸影響をシカとの関係で継続的に調査する計画である。

北海道演習林

北方天然林の持続的森林経営の実験

北海道演習林の施業は1907年の第1期施業案に始まる。第8期経営案（1958-1967）からは「林分施業法」が実行され、きめ細やかな天然林施業が行われるようになった。2006年に第12期試験研究計画（2006-2015）を策定し、同計画に基づく施業実験が行われている。その特徴は、森林生態系を保全し生物多様性を維持しながら、各林分の個性に応じて健全で活力ある森林の育成を行い、木材生産機能と環境保全機能とを両立させる森林施業を目標とするところにある。

林分施業法では森林の取り扱いを、現在生育している樹木と天然更新状況を勘案して、天然林を択伐林分・補植林分・皆伐林分に区分して適切な施業を行う、としている。第12期計画では、約2万haの施業実験林を、地利級と林分成長率の観点から第1作業級と第2作業級に分け、それぞれ15年、20年回帰で施業を行う。過半の面積を占める択伐林分における択伐率は、回帰年ごとに森林蓄積量が現状復帰するという成長見合いの原則によるが、12期では11期の施業実績を参照して、第1作業級では択伐率10～16%、第2作業級では10～17%とした。天然林施業においては林相の改良を導くように伐採木を選ぶため低質材の伐採が不可欠となり、集材経費を低く押さえる必要がある。このために総延長933km、林道密度41.0m/haの林道（車道）が設置され、毎年適切なメンテナンスを行っている。

トドマツ等の人工林は、北演産の種子を用いて育苗し、植林後は下刈り、つるきり除伐、間伐を適期に行い、主伐期を設けず将来は針広混交の天然林に誘導することとした。山火事跡の再生林でウダイカンバやミズナラなどが優占する林分では優良広葉樹大径木を育成するための間伐を行う。これらは適正密度になるように伐採率を決めている。

天然林内のウダイカンバ、ハリギリなどで顕著な衰退現象を示す大径木を収穫し銘木市に出品することは従前通りおこなった。また、「樽材の持続的生産システムの開発」の委託研究を受けて、第1、第2作業級にわたる約8、500haの天然林において2、6万本のミズナラ大径木(胸高直径40cm以上)の個体情報を収集した。これを元に林分施業法との整合するようにミズナラ大径木の持続的な収穫計画を立て、さらにミズナラの更新補助、枝打ち、密生区域の間伐等の実行計画とをあわせて、12期計画ではミズナラ作業級を設定し、実行を開始した。

2006年度には立木資材量にして23、000m³を収穫し9、600万円の収入を得た。このうち2、700m³を直営生産で行った。

天然林の長期観測大面積プロットにおける林分動態の解析

天然林では樹木の生育分布が均一でなく、わずかな立地条件の差の影響を受けやすい。その動態を把握するためには、十分な個体数と現存量のある箇所で大面積プロットによる継続調査が必要となる。また、樹木の寿命は非常に長く、環境変化に対する反応速度が遅いため長期的な継続調査によって個体の成長、枯死、更新の状況を把握することが不可欠である。これらについての良質な情報は面積プロットにおける長期観測でしか得られない。本演では前山保存林に1992～1993年に36ha(50m×50m、145プロット)、岩魚沢保存林に1994年に19ha(50m×50m、75プロット)の大面積プロットを設置し、個体ごとの成長、進界・枯死木の記録測定を5年ないし10年ごとに行うことによって森林動態の長期モニタリングを実施している。1997-1998年に前山保存林全プロット、2002-2003年に前山保存林5年測定区40プロット、1999年に岩魚沢保存林全プロット、2004年に岩魚沢保存林5年測定区27プロットの測定を行った。

風害跡地における森林再生経過の解明

1981年、北海道を襲った台風15号は北演の森林にかつてない大被害をもたらした。被害面積約8、700ha(内、激害地3、100ha)、被害材積約81万m³に達した。このため、多くの施業実験地や試験地が壊滅すると共に、広大な無立木地も生じた。

これらの風害地に対し、風害直後からその森林復旧対策として、植林と地がきを施した。また、これらの復旧対策と関連して、風害地内に各種の試験地を設定し、植生の遷移、立地と天然更新状況、森林の再生過程における森林土壌動物相の変化、菌類の動向、さらには水収支の変化等を課題とする研究を行ってきた。その結果、これまでに風害跡地は、その環境により森林の回復パターンに大きな違いが見られること、また、地がきにより天然下種更新を期待できることなどが明らかとなった。

アイヌ民族文化の伝承と振興への寄与

1999年の北海道演習林100周年記念式典において、当時の林良博学部長・研究科長は「北海道演習林の創立前にはアイヌの人たちが住んでいたことを忘れてはならない。今後はアイヌ民族との良い関係を作っていく。」と発言された。この提起を受けて、北海道演習林ではアイヌ民族文化の伝承と振興に寄与するために、北海道ウタリ協会支部やアイヌ民族が運営する博物館などに対して、造船のためのハリギリやカツラの超大径木、繊維をとるためのオヒョウやシナノキなどを持続的に提供している。

特に、幕藩体制による鎖国政策で造船が禁止された外洋帆船イタオマチブ(板綴り船)を、現代のアイヌ民族自身の手によって二百数十年ぶりに復元するに際して、主要資材を演習林が提供したことの意義は大きい。

2006年にはオヒョウとシナノキの生立木に、伝統的な樹皮剥による採取を行い、その後の経過観察を行っている。

エゾシカによる森林・農地被害

近年、エゾシカ個体数の増加に伴い、農作物や樹木への被害が大きな社会問題となっている。天然林試験地において、エゾシカによる被害の実態を把握する樹皮食と角とぎについての被害木調査を行っている。また、2006年には農地被害抑制を目的として麓郷地区の農地に81km(そのうち、15kmは北演と隣接する)におよぶ防鹿柵が設置された。防鹿柵の設置に際しては、地元地権者より要望があり維持管理に必要と考えられた危険木の伐採を実施した。今後は、防鹿柵の効果やエゾシカをはじめとした野生動物への影響について調査していく必要がある。

遺伝子資源の保全管理と利用に関する研究

北海道演習林では1952年に林木育種の研究が開始され、成長が速く耐病性や耐鼠性に秀でた樹種に関する研究および育成が行われてきた。現在では、諸外国から収集・育苗した北方系樹種を展示するとともに、カラマツ属やカバノキ属などの各樹種の成長特性、適応性、種分化などの調査を行っている。また、北海道産の約40種の樹木について、開葉・開花・紅葉などのフェノロジー特性を長期的に観測し、各樹種の種特性や産地特性の解明、種苗造林技術への応用などを行っている。DNAマーカーを利用した北方系樹木の繁殖生態に関する研究では、ヤチダモ、オニグルミ、カツラ、トドマツ、エゾマツ、ハルニレ、オヒョウの遺伝子流動に関する研究を進めており、長距離散布を定量化するための新たなモデルを構築した。カツラでは沢沿いに3kmにわたる長大なプロットを設定し、花粉と種子の長距離散布が想像以上に頻繁に起こっていることを示した。また、北演という景観スケールでウダイカンバ、トドマツ、アカエゾマツに関する集団遺伝学的な解析を行った結果、いずれも集団ごとの遺伝的な違いは小さいものの、それぞれの樹種に特有の現象が抽出できた。ウダイカンバでは、再生林の更新過程で数少ない残存木からの種子の供給がなされたことが集団の遺伝的特徴に反映されていることが示された。トドマツでは、択伐施業によって稀な対立遺伝子の頻度が増加すること、また標高が高い地域では多様性が低下することが示された。アカエゾマツでは、逆に標高が高いほど遺伝的な多様性が高いこと、湿地帯では多様性が低いことなどが明らかにされた。また、トドマツの標高別試験地の測定を行った結果、種子産地と植栽地の標高差が小さいときに、生存率×樹高平均で示される適応度が高くなることが示され、関連する学会でポスター発表を行った。

アスベスト鉱山跡地の緑化

37・84林班に残るアスベスト鉱山跡の緑化に取り組んでいる。一部に回復してきている植生の構造を調査し、土壌のpHや電気伝導度分析を行っている。いくつかの候補種を選定した。アカエゾマツの植栽とシラカンバ、ウダイカンバ、イヌエンジュなどの播種を行い小規模ではあるが試験地を設定した。今後、候補種ごとに根圏の観察と根圏の化学的指標とによって、それぞれの環境適応能力を判断していく。

トドマツ稚幼樹の分布と立地環境の関係

天然林択伐施業において更新の確保は主要な技術的課題である。この課題の検討を目的に、択伐施業下の林分(31、32、33、69林班)を対象として、北海道の針広混交林の主要樹種であるトドマツ更新木の分布と立地環境との関係について解析を行った。

GISデータベースの構築

北海道演習林は過去50年間の施業実験を通じ、長期的かつ大面積にわたる森林情報を記録・蓄積している。そうしたデータを総合的に管理・活用するため、GIS(地理情報システム)を用いたデータベース化を進めている。

植生調査

旭川西高校(現：旭川市北方野草園)の堀江健二博士の協力を得て、植生調査を行っている。2006 年末現在、維管束植物 940 分類群を確認し、採取した標本の標本化作業を行っている。

水系総合調査

北海道演習林には大小多くの空知川水系が存在する。水系総合調査は生態系を地質や水質などの環境条件とともに流域規模で把握し、相互に関与する要素を総合的にとらえながら源流域の総合的理解を図ろうとするものである。学内外の各分野の専門家が会し、2006 年度には、大沢、本沢で水温、水質、水量など流域の基礎的事項が測定されると共に、植物相、水生動物相についても調査を行った。

石灰岩地帯生態系総合調査および地質調査

北海道演習林内の石灰岩地帯の森林植生にはいくつかの特徴が見られる。例えば、石灰岩礫または露頭が散在する箇所ではエゾマツが地表更新し、林床にはササ類が無くシタ類が優占している箇所があり、せいぜい標高 500m までしか分布しないはずのカツラが標高 700m において大径木に育っている、などである。北海道演習林の施業では基岩地質については、これまでほとんど考察対象とされて来なかったが、林分樹種構成および更新、成長に関して新たな観点から調査研究し、施業に活かす必要が生じている。

2006 年には、ドロマイト鉱山が拡張されるため、森林と表土が消滅する区域の森林植生調査を行い、同区域の森林土壌の記録と水質の分析に備えて資料の採取を行った。

西達布神社山(109 林班)においては、高度差 50m 延長 100m 以上にわたって径 1~2m 程度の石灰岩露頭が、空知層群(橋本亘、5 万分の 1 地質図幅説明書、山部、1953 年)に多数確認された。この箇所は、今までの地質関係の文献や図面には記載されていない。石灰岩には、103~105 林班の日高累層群中に産する石灰岩と同じく貝化石は認められなかった。

また、鉱山跡の緑化に参考となる知見を得るために、アメリカ東部五大湖周辺の石灰岩・ドロマイト地帯と中国東北部の石灰岩地帯の植生視察を行った。

遺跡調査

2004 年の水系調査で仙人峡の最上流部の水中から偶然に縄文石器(黒曜石スクレーパー)が発見されたことや以前から黒曜石のヤジリや破片が北演内で採取されたこと、また北演と隣接する農地で遺跡発掘調査されていたことなどからして、北演内に遺跡の存在が予想されていた。2005-2006 年に富良野市教育委員会によって、地形や湧水の存在を手がかりに林内で遺跡の試掘調査が行われ、8 カ所の縄文遺跡が確認され、北海道教育委員会に報告された。

主な出土品は、黒曜石の破片、縄文早期~晩期の土器片、北海道式石冠、スリ石、被熱した石片などである。そのほとんどがテフラ Ta-a(樽前山から 1739 年噴出した火山灰)の直下の森林褐色土層で確認され、表土が攪乱されていない貴重な遺跡である。しかし、現段階では本格的な調査の計画は未定である。

なお 2005 年には、かつて演習林の林内植民地であった東麓郷の農地において、北海道内での最も古い遺跡の一つである旧石器時代(14, 000 年前)の遺跡発掘調査が、東京大学文学部によって実施された。

秩父演習林

トウバク沢水量観測試験

トウバク沢土捨て場の流出特性への影響についてモニタリングしている。調査方法はトウバク沢土捨て場最下部にある量水堰堤に量水計と雨量計を設置して行っている。

人工林固定測定地

人工林固定測定地はスギ、ヒノキ、サワラ、カラマツ人工林の成長量の測定や、間伐効果の検証を目的に 1956 年～1960 年に設置された。現在、矢竹沢地区、入山地区、大血川地区、栃本各所に 27 箇所の測定地があり、本学森林経理学研究室の協力を得て 5 年毎に測定調査を行っている。2006 年度は栃本地区のスギ、ヒノキの 9 箇所の調査を行った。

二次林測定試験地

二次林測定試験地は、1982 年より 5 年間隔で測定しているが、調査要因の関係から 1997 年に見直しを行い、全 15 プロットの内 7 プロットを調査間隔を 10 年とした。

原生林測定

1970 年より演習林各所の原生林内に設定し、現在 13 箇所の測定地を 10 年間隔で測定している。調査結果から原生林の成長量と森林動態について基礎的なデータを収集している。2006 年度は奥地の 2 箇所の調査を行った。

大面積長期生態系プロット

太平洋側の山地帯天然性林における森林動態の解明、自然攪乱によるギャップ形成とその修復過程の解明、森林生態系保全のための基礎資料を得ること、森林における各種の研究および共同研究の確保、各発達段階における十分な個体情報の収集および各樹種もしくは樹種群と地形条件との関連の解明などを目的として、27 林班と 28 林班（標高 1,132～1,314m）のブナ、イヌブナ、ツガが優占する天然林内に 6.875ha の大面積長期生態系プロットを 1994 年に設定した。1994-1995 年、1998-2000 年、2003-2005 年に毎木調査を行ってきた。これらの調査資料に基づいて、これまでに樹種構成・林分構造、林分動態、空間分布特性などについて解析が行われ報告されている。

ケヤキ人工林の間伐試験

1999 年に三段階の間伐を実施してケヤキ人工林間伐試験地に仕立て直した。これらの試験地を今後 10 年間隔で成長量を測定する。また間伐する際、強度の間伐であったため残立木の幹から萌芽枝が多く出てきている。そこでそれら萌芽枝の枝打ちを 2002 年 3 月に実施した。以上の試験を行い、その経過を記録することにより、ケヤキ造林技術を確立することを目標とする。

広葉樹二次林整理伐試験

1970 年に 4 林班は 11 小班広葉樹二次林で行った整理伐試験地について適時追跡調査を行っている。

森林性昆虫の発生予察

生物指標を利用して、道路周辺の樹木の健全度を総合的にモニターすることを目的とする。衰弱木や枯枝、枯死木、伐材の中に生育し、衰弱木などが増加するとその個体数が増加する穿孔虫類、特にキクイムシ類の発生状況を把握するために、秩父演習林内の滝川流域（国道 140 号沿い）と入川流域（入川林道沿い）にそれぞれ 6ヶ所ずつ誘引トラップを設置し、1989 年以来、捕獲個体数のカウントを行ってきた。捕獲は 2005 年度で終了し、今後は種別個体数のカウント作業を実行する予定。

人工林伐採跡地における天然下種更新の実用化

3 林班い 4 小班人工林伐採跡地において木本の更新調査や埋土種子の発芽試験を行った結果、早期の天然更新による森林造成は不可能と判断した。そこで 2005 年度にヒノキ、カラマツを植栽した後（い 30 小班に改め）、シカ防護ネット柵で囲い、森林の回復を図ることにし、その回復過程を調査するため試験地を設定して植生調査を継続して行っている。

秩父山地亜高山帯域における風倒跡地林分の再生過程

17 林班内標高 1,950m 付近の伊勢湾台風による被害跡地の再生過程を明らかにするため風害跡地と隣接する無被害林分に調査地を設置し、7～8 年間隔で毎木調査を行っている。

ヒノキ天然性林のモニタリング

雁坂トンネル秩父坑口の直上に生育する天然ヒノキ林を主体とする林分は①標高 1,000m 付近に位置し現存する天然林としては比較的低標高に分布する数少ない林分であること、②国道 140 号線沿いの景観保全上重要な位置にあること、③トンネルの出入口付近は排気ガス等の影響を受けやすい位置にあることから、この林分を安定的に維持するために長期的なモニタリングが継続されている。

ブナ・イヌブナの豊凶現象に関する基礎的研究

これまでの調査でブナ・イヌブナの豊作年は 2～5 年間隔であることが分かったが、なぜブナ・イヌブナに豊凶現象があるのかについて明らかにする。調査方法はリタートラップによるリター生産量と堅果落下量の測定、それら堅果の健全率や虫害率（食害昆虫の同定）などの内容確認、デンドロメータによる直径成長量の測定、観察鉄塔を使った樹冠部のフェノロジー観察である。これらを行うことにより豊作年における同化物質の配分や、虫害と豊凶との関係を明かにし、ブナ・イヌブナにとって、なぜ豊凶現象が必要であるかを解明する。2006 年度はリタートラップとデンドロメータの調査を行った。

シオジ・サワグルミの更新過程

秩父山地帯溪畔林の主要樹種であるシオジとサワグルミの更新特性とその過程について明らかにする。調査方法はリタートラップによるリター生産量と翼果落下量の測定、それら翼果の健全率や虫害率（食害昆虫の同定）などの内容確認、デンドロメータによる直径成長量の測定、実生の消長観察である。2006 年度はシオジについてリタートラップ調査を行った。

ウダイカンバ優占二次林調査

1990 年に設定したワサビ沢試験地（林齢 60 年）、2000 年に設定した小赤沢試験地（林齢 12 年）、2001 年に設定したバケモノ沢試験地（林齢約 120 年）を定期的に測定することにより、秩父山地におけるウダイカンバ優占林分の林分構造と成立過程を明らかにする。

ミズナラ等のフェノロジー観察

全演習地環境モニタリングの一環として 1996 年度よりミズナラ、2004 年度にケヤキ、ブナ、イヌブナを追加して開芽期、黄葉期、落葉期を大血川地区 3 個体、栃本地区 6 個体の計 9 個体について観察している。調査方法は 4～6 月と 9～12 月に週 1～2 回目視による判定と写真撮影を行っている。

ニホンジカ等の生息状況調査

秩父演習林ではニホンジカ等による森林への被害が増加していることから適正な密度管理の基礎資料とするため、2005 年度から区画法とライトセンサスによるシカ等の生息状況調査を始めた。2006 年度の区画法は、入川、滝川、大血川の 3 箇所で 10 月に行った。ライトセンサスは、入川（入川林道）、滝川（国道 140 号線）、大血川（東谷林道）の 3 路線について毎月 1 回、日没後に調査を行った。

愛知演習林

森林水文に関する試験研究

試験流域の量水観測成果は、気象要素と共に観測以来 70 年の資料が蓄積され、きわめて貴重な学術的価値を有している。現在のところ、量水観測は降雨・流出系の観測体制であり、その種の研究が中心となっている。今後は、この貴重な森林量水試験の蓄積を継続発展させ、降雨遮断・蒸発散・斜面流出等の水文素過程別の研究と合わせて、水源涵養機能のメカニズムを解明する事を目標としている。量水観測は流域の森林成長と同時並行的に継続観測されることが学術的に貴重である。しかし、過去に遡って森林の成長過程を数量的に追跡する方法論が確立されていないことで、森林状態と雨水流出との関連付けが未だ十分に行われておらず、今後の研究テーマの一つである。2003 年 11 月より科学技術振興事業団の戦略的創造研究推進事業（CREST）プロジェクト「森林荒廃が洪水・河川環境に及ぼす影響の解明とモデル化」が採択され、対象フィールドの一つとして犬山研究林内のヒノキ人工林、天然生林が選ばれ、出水時の水量と水質の測定により、ヒノキ林の荒廃に伴う水量や水質の悪化の定量的評価に関する研究が開始された。蒸発散の直接測定が可能となり、これと組み合わせて森林微気象、樹液流、降水遮断の研究が赤津でも進展しつつあり、物質循環と水循環の関係の観測・解析と同様に森林生態学と水文学を結びつけた研究が計画されている。2000 年度には、量水観測システムが導入された。主要な試験流域である白坂・穴の宮・東山で水晶式水位計が高精度で長期間安定なシステムとして作動しており、白坂小流域では、流量観測のための 6 箇所の水位観測と 4 箇所の地下水位観測が更新された。いずれも 5 分間隔で水位を記録するシステムであり、主要 3 流域の総合気象観測装置導入と合わせて、大量のデータを総合した流域間比較研究が進展するものと期待される。白坂流域の降水流出の形成過程を分析するために、88.6ha の流域内部に 1ha 程度の小流域を設定し、その流出観測を開始した。このような小流域はすでに北谷・南谷に 50 年の観測の蓄積がある。これも合わせて小流域のハイドログラフがどのように異なるのか、それが微地形によって表現されるのかについての検討をおこなっている。同時に雨量観測点も 5 ヶ所新たに設置して分布型流出モデル構築へ向けた観測を開始した。

痩せ地における森林造成に関する試験研究

森林の環境保全機能（水源涵養、洪水防止、保健休養等）を維持しつつ木材生産をおこなう森林施業法を確立することも、愛知演習林における試験研究の重要な柱である。天然生林については、1968 年からモザイク状皆伐更新法試験（沢を中心に左右交互に 0.1ha を上限に伐採、植栽）を実施している。これは、一斉皆伐に比較して、土壌の保全、あるいは動植物への影響の軽減、台風等気象災害の防止等、有効と考えられる。人工林においては、間伐法を変えたスギ、ヒノキの総収穫量の比較試験、植栽密度を変えたヒノキ林の生産量の比較試験、恒続的収穫と森林の公益的機能の発揮を両立させる複層林造成試験、成長が劣る林地における肥培効果の比較試験などをおこなっている。第四期試験研究計画の策定に向けて様々な林分での蓄積を測定しどのような特性が現れている

かの分析に向けた調査が進展した。

都市近郊林に関する試験研究

愛知演習林は立地条件から、東海都市圏を取り巻くグリーンベルトと地帯にあるので、森林の多元的機能の解明を目的とする研究実験林としての位置づけを明確にし、都市近郊林・環境林に関する自然科学、社会科学を複合する総合的研究が始まろうとしている。計画段階の項目が多いが、具体的には、都市部と森林との相互作用を水・大気・土壌を媒介として測る自然科学的研究、都市住民あるいは都市部・農村部の産業活動に及ぼす森林環境の機能評価に関する社会科学的研究、森林生態系を保持しながら都市公園の機能を有する森林域の造成実験およびそれに関する各種の試験研究が挙げられる。犬山市民が期待する森林利用の形を探り、具体的な対応を検討する準備段階を迎えた。

環境教育と演習林の利用に関する研究

公開講座、地域開放特別事業、親子森林教室、小学校における社会化教育あるいは総合的な学習等で愛知演習林が利用されるケースが多くなってきている。これらの自然環境をベースとした教育に関してどのようなテーマがどのような学年に適しているのか、その効果がどのように評価されうるのかを探りつつ、授業や野外活動の幅を広げてみたいと考えている。地域にあって研究機関としての存在意義を自然環境教育という形で実現し、質の高い教育内容を求めていくためのその効果を追跡するというプロセスが重要になっていくものと考えられる。多くの自然環境教育は最近開始されたばかりであるが、このプロセスの研究として、犬山研究林を利用した犬山市立今井小学校の探鳥会は、25年以上の実績を有しており、その効果を探るアンケート調査が実施された。探鳥会によってもたらされた効果として児童の自然を見る目が養われており、人格形成に及ぼした影響が少なからずあったであろうとの予見を与えるものであった。良質な自然が演習林に既に存在しており、教育者としての人的資質を高めることができれば社会からの要請に多面的にこたえることができるのではないかと考えられる。これまで同様技術職員が山づくりの専門家として位置づけられると同時に、自然教育の専門家としてその潜在能力を発揮できる道を探ることにもつながっていく研究である。

富士演習林

環境教育および森林教育のプログラム開発、自然解説に関する研究

地球環境問題だけでなく、地域の自然環境に対する関心の高まりの中で、富士演習林が山中湖村の学校教育や社会教育の場面において果たすべき役割は大きくなってきている。また、山中湖村は観光地あるいはリゾートとして多くの来訪者を受け入れており、来訪者に地域理解を促すための有効な手段としてエコツアーガイドの活用が検討されている。富士演習林が目指す環境教育および森林教育のプログラム開発は、こうした地域の事情に合致するものであり、来訪者だけでなく地域住民に対して効果的なプログラムを提供することが重要な課題である。平成18(2006)年度においても、日本キャンプ協会等と協働でイベントを実施し森林教育プログラムを提供した。また、地域の小学校のカリキュラムの一環として体験に重点を置いた実践的なプログラムを展開した。

森林のアメニティに関する研究

森林が人に与える快適性を解明するには、人の生理と心理の両面からの検討が必要である。平成18(2006)年度は山梨県環境科学研究所の共同研究として、(1)森林を利用して行う活動が、人にもたらす生理的、心理的効果を、タイプの異なる森林(針葉樹林、落葉樹林など)をフィールドにして明らかにすること、(2)森林から受ける生理的、心理的効果が、利用する人の気質や行動パターンによって異なるかどうかを把握すること、の二点を目的として調査を行った。平成18(2006)年度は最終年度にあたり、結果をまとめ公表する予定である。

森林のレクリエーション機能に関する研究

現在、世界的に森林の持続的な維持が課題となっているが、森林レクリエーション利用においても健全な森林を維持しつつ快適なレクリエーション機能を提供し続けるということが求められている。本演習林は、日本を代表する自然レクリエーション地域である富士伊豆国立公園富士団地の特別地域に位置し、利用拠点である旭日丘集団施設地区に隣接している。また、重要な自然資源である山中湖に面すると同時に、主要な利用動線である国道138号線が内部を横断している。このように自然環境面の優れた立地特性を持ち、森林レクリエーションに関する調査、研究を実証的に行いというのが本演習林の大きな特徴といつてよい。この優良な立地特性を活かし研究を進展させるためには、レクリエーションの場として利用する人間へのアプローチが必要であり、その行動を通じた森林環境のあり方の追求が求められる。また、利用者の行動を特定する要因として空間構成やシーズンごとの特性などが考えられ、シーズンごとの利用に関する定期的な調査を行うことで、各要因の関係を明らかにし空間計画へ繋げる。

森林景観研究

これまで富士演習林では、景観への影響が大きいと考えられる皆伐等の施業は行わずに風致林として慎重に取り扱いが為されてきた。また、日本人の原風景と言われる富士山、更に風光明媚な山中湖畔に立地するという特性を活かしつつ1980年代より継続して行ってきた定点における景観観測など景観研究への資料が蓄積されており景観研究の一層の進展が望まれる。本演習林では、これまでの風致施業を踏まえながら「隠す」、「見せる」施業について再検討し、景観の類型化を通して研究サイトの多様性を向上させるとともに利用者から得られる森林景観の評価データを基に風致施業により生じる評価の差異を抽出し実際の施業へと活かす実践的研究を推進する。平成18(2006)年度においても、森林景観SD評価実験など森林を利用する人の心理的評価に関する資料を蓄積した。今後の森林管理、施業に活用していきたい。

長期生態系プロット

試験地は、標高1,050mの3林班3小班。1920年代後半の植栽されたカラマツ人工林から天然生の落葉広葉樹林に遷移しつつある植生において遷移の過程を追跡し、東京大学の各演習林に設置されている長期生態系プロット等と比較して、森林動態の一般法則を発見することを目的にしている。

気象観測

II林班の標高1,000m地点において、昭和27(1952)年1月から毎日午前9時の気温・雲量・気圧・湿度・地下20cmと1.0mの地温、最高・最低気温、積雪・霜などを記録してきた。また同時に、近年は自動的な気象観測システムを導入している。富士山の東麓にあって変化の激しい山地気象で、冬は富士山からの寒風を受け、近隣の地区よりも低温・多雪であるなど、特殊な山地気象の様相を呈している。

樹芸研究所

フタバガキ科樹木の組織培養による増殖法に関する研究

フタバガキ科樹木は、木材利用上きわめて価値が高い重要樹種であるが、既に多くの地域で伐採され、その蓄積は激減している。このような状況から、フタバガキ科樹木を中心とした森林の再生が、熱帯地域における重要な課題となっている。フタバガキ科樹木は、開花・結実までに数十年という非常に長い時間を要し、隔年結果が著しく、安定的な苗の生産に苦慮している状態であり、現在、挿し木増殖を行っていて一定の成果を上げているが腋芽からの成長では枝性を示す個体が多い。しかし成長点培養をすることで枝性に有効であることが示されたため、組織培養を用い種苗を短期間に急速に増殖するための検討を行った。フタバガキ科樹木におけるこの利用は、熱帯林再生に大きな貢献が期待できる。さらに安定的な培養系の確立を目指している。

遺伝子資源の保存及びデータベース化

研究等の多様なニーズに応えるため、現在温室内において、350種あまりの熱帯・亜熱帯特用樹木の保存・増殖・管理している。その中には医薬品、香料、染料、食用、嗜好品等として現在も主要な成分として多くの場で使われているものもある。しかし、現在では輸入を規制される植物も多く日本国内での栽培もままならない植物も少なくない。そこでより安定的でかつ大量に研究用に供給出来る増殖技術の開発及び栽培法の確立が不可欠であると考え、様々な増殖・栽培法に取り組んでいる。栽培用土の選定、肥料の種類と量等種毎の最適な条件を検討する。また、上記の管理法を含めた熱帯・亜熱帯特用樹木のデータベース化を確立する。すでに現在もデータの蓄積が進んでおり個体毎のデータベース化を目指す。

薬用植物カンゾウのトリテルペノイド代謝制御研究

漢方薬原料ならびに天然甘味料であるマメ科カンゾウ *Glycyrrhiza* 属植物は世界中で利用されている。しかしながら生産国での砂漠化などにより資源枯渇および品質の低下が問題となっている。そこで薬用成分トリテルペノイド代謝制御研究のため *in vitro* ストロンの誘導による培養システムを開発した。また分子遺伝学的な育種技術の開発のため外来遺伝子導入技術の確立を行った。土壌細菌 *Agrobacterium rhizogenes* を介した形質転換毛状根内においてマーカー遺伝子であるクラゲ緑色蛍光タンパク (GFP) 遺伝子の発現に成功した。

ナス科植物でのビタミンD3 生合成研究

人間の体内におけるカルシウム恒常性においてビタミン D3 およびその関連化合物は非常に重要な役割を担っている。これら化合物を特異的に含有する南米原産のナス科植物 *Solanum* 属、*Nicotiana* 属植物が近年発見されている。植物を利用したビタミンD3 およびその関連化合物の医薬品原料生産のための分子育種を試みた。その結果組織培養による再分化系の確立に成功した。今後動物由来 P450 遺伝子の導入を試みる。

香料樹木の成長制御分子育種

東南アジアに自生するジャクダンやジンコウなどの樹木はその材に特有の芳香を持つことから香木として珍重されるが、成長が遅いことなどから資源枯渇が深刻化している。そこで植物成長ホルモンの生合成を活性化させた植物体の獲得を目的とする。ゲノム情報が豊富な研究モデル植物であるシロイヌナズナの植物成長ホルモン生合成酵素遺伝子の導入を目的とし、本年度は植物材料の調整を行った。

クワ科植物の DNA 多型研究

クワ科植物のゲノム多様性の解明を目的とする。特異的化合物である cannabinoid 化合物合成酵素遺伝子の配列情報からケモタイプ間でのグループ分けができることを明らかにした。さらに AFLP マーカー、マイクロサテライトマーカーの応用を試みた。

暖帯常緑広葉樹林の持続的維持に関する繁殖生態学的研究

暖帯の常緑広葉樹林において、現在の主林木がどのような更新過程を経て新しく森林として再生するか、特に種子散布から稚樹の初期成長過程を中心に解明して、森林生態系を持続的に維持保全する上での計画の基礎として役立てたい。本研究は科研費の補助金を得て、暖帯常緑広葉樹林としてシイ類（スダジイ、コジイおよびその中間的形質を示すものを含む）が優占する二次林、クスノキ人工林を対象にして、林分の構造、種子生産、種子の動態、林床稚樹の動態、種子の発芽・稚樹の成長条件等について現地調査や実験を行っている。

シイ類、クスノキの種子飛散数の調査

シイ類を優占種とする約70年生二次林および、約90年生クスノキ人工林において、大きさの異なる個体の樹冠下で経年的に種子の飛散数とその形質について調査を続け、豊凶の周期性を調査している。また、2001年から房総半島でもほぼ同一の調査を開始し、伊豆半島と房総半島における地域差を明らかにするための研究を進めている。

暖帯広葉樹二次林における林床稚樹群の動態

伊豆半島のシイが優占する広葉樹二次林において、林床稚樹群の動態について3年間にわたり追跡調査を行った。その結果、シイ類を中心に種子の豊凶に連動しながら林床稚樹群は増減を繰り返し、上層木の状態や林床の光条件により、樹種構成や密度が異なることが明らかとなった。しかし、多くの実生は数年でほとんど枯死することから、林床に形成される地樹群は種子が継続的に散布されることにより維持されていると考えられる。今後、様々な環境のギャップを設定して稚樹の定着の関係について調査する必要がある。

ヤマガラとシジュウカラの繁殖生態調査

鳥類は森林の構造や水平的配置に応じて選択的に生息していると言われている。青野研究林では1972～75年にヤマガラ・シジュウカラについて巣箱設置による詳細な研究が行われた。その調査から30年が経過した。その間の森林構造の変化が鳥類相へどのような影響を及ぼしたのか大変興味深い。そこで、30年前と同じ調査区に巣箱を設置して、巣箱を利用する種や利用率の違いなど、森林の時間経過による鳥類相への影響について検証を行っている。

大面積長期生態系プロット調査

森林の長期的な動態を明らかにするため、当所では1998年から、1haの長期生態系プロット2箇所を設定し定期的に調査を行っている。50年生二次林及び45～46年生二次林内に調査地を設定し、木本種の群落構造と種の多様性を調査した。調査地の内部を25m×25mの小区に区切り胸高直径4cm以上の個体について胸高直径を測定し、立木位置を記録した。今後継続して調査を行い、暖温帯林の代表的な林相である常緑広葉樹二次林の森林群集の動態を解明する。

森林水文に関する研究

樹芸研究所研究林域内の量水観測は降雨量と流出量との関係を基本に3流域（広葉樹天然林、針葉樹人工林、広葉樹人工林）で観測を行っている。東京農工大学との共同研究のより、それぞれ3流域の植生の違いによる流出量の違いなどのデータの分析を行った。今後とも引き続きデータを蓄積して、植生の違いによる水源涵養機能の差異を明らかにしたい。

ニホンジカの生育密度の変化とその植生に及ぼす影響に関する研究

近年、全国的にニホンジカの増加による被害が報じられており、東大演習林でもその調査、対策が行われている。樹芸研究所でも10年ほど前から徐々にその増加の傾向が観察されてきたが、今回、その生育密度の変化とその植生に与える影響を明らかにするため生息密度調査を行った。調査はまず予備試験的に、ニホンジカが特に好んで食すアオキの被害状況をルートセンサスにより調査し、その結果を元に千葉演、秩父演とほぼ同様の方式で区画法による生息数調査を実施した。また、糞粒法による調査も実施した。アオキによる調査では、林道付近にはまだニホンジカの分布は少ないものの、境界など尾根にはすでにほぼ全域に分布し、アオキの生育に影響を与え出している状況である様子が明らかとなった。区画法調査では、3区画について調査を行い、その結果クスノキ人工林区（45.58ha）にてニホンジカ8頭が目視にて確認された。他の区画では目視されなかった。また糞粒法調査では、1林班区が45個、クスノキ人工林区が255個、6林班区が113個となり、区画法とあわせてクスノキ人工林にニホンジカが多く分布しているという結果が明らかとなった。今後も毎年同様の調査を継続し、また植生の変化も調査することで、ニホンジカ個体数の変動とその影響を明らかにしていく。

田無試験地

都市域におけるマツ材線虫病の発生実態と防除効果

田無試験地における材線虫病被害木の発生本数を被害発生当初の 1988 年から経年記録するとともに、2001 年から一部のマツ林において誘引捕獲によるマツノマダラカミキリ成虫の発生量調査を継続実施している。また、被害木を毎年網室に搬入し、マツノマダラカミキリ成虫の羽化脱出数とその消長を調査している。1999～2000 年に再度の激害に転じた後、徹底的な伐倒駆除の実施によって、近年では微害で推移しているものの、マツノマダラカミキリ成虫は依然として多数捕獲されている。今後これまでに誘引および脱出捕獲したマツノマダラカミキリの DNA 解析を行い、マツノマダラカミキリ個体群の遺伝的動態を明らかにすることを計画している。

田無試験地内のマツノザイセンチュウ個体群の DNA 解析を実施し、2 ヶ年にわたって供試した全ての枯死木中のほぼ全ての個体が単一のホモな遺伝子型であり、外部からの遺伝子流入が無く被害が隔離されていると考えられることを明らかにし、Phytopathology 誌（第 97 巻 3 号、2007）に発表した。

ナラタケモドキの生態と病原性

広範な樹木種に根腐れ被害を引き起こすナラタケモドキの生態と感染様式、宿主範囲や病原性などについて明らかにし、効果的な防除法などの管理手法を確立するため、2000 年以降様々な試験を実施している。2006 年度には全域において子実体発生調査を行うとともに、菌株の対峙培養によるジェネットの識別を行い、2000～2003 年に行った同様の調査との比較からジェネット分布の推移について明らかにした。

都市林生態系長期観測

暖温帯落葉広葉樹二次林の長期動態調査を目的として、1999 年 2 月に I 林班 4 小班に面積 0.42ha のプロットを設置し、第 1 回目の調査を行った。2005 年 1 月に第 2 回目の調査を実施し、断面積合計が増加し、後継樹の進界が進んでいること、林分構造に大きな変化がみられないこと、等を明らかにした。

一方、都市において樹林が微気象に与える影響を観測する目的で、生態系長期観測プロット内に気温センサーを設置するほか、第一苗畑気象観測露場において気温・湿度・降水量・地温（地下 10・20・30cm）の観測を継続実施している。2006 年 12 月 26 日には季節はずれの大雨で 142.0mm の日降水量を記録した。

都市部における気温上昇と樹林による緩和効果について検証するため、田無試験地内外の気温および緑被率の経年変化を調査し、平成 18 年度技術職員等試験研究・研修会議において発表した。

ヒノキ採種園の種子生産性

ヒノキ優良種苗の安定的供給を目標として、2004 年に秩父地方産天然生ヒノキ実生家系のクローン苗を用いたクローン採種園を造成した。現在育成途上であるが、2005 年より着果量・種子量等の連年調査を開始している。

演習林技術職員等試験研究・研修会議

日程

[平成18年10月30日(月)]

14:30 麓郷セミナーハウス集合・受付

15:00 同所出発

現地研修：シカ柵敷設地と被害地の見学

17:00 帰着

18:00 夕食

19:00 森林資料館見学

場所

東京大学大学院農学生命科学研究科附属科学の森教育研究センター北海道演習林

参加者

研 究 部 : 下村彰男, 山本博一, 鎌田直人, 佐々木和男, 相川美絵子

千葉演習林 : 鶴見康幸, 村川功雄, 鈴木祐紀, 算用子麻未

北海道演習林 : 梶 幹男, 後藤 晋, 尾張敏章, 米田久和, 岡田教和, 犬飼 浩, 井口和信,
岡村行治, 廣川俊英, 木村徳志, 大川あゆ子, 松井理生, 岡平卓巳, 大石 諭,
平田雅和, 磯崎靖雄, 及川 希, 坂口敏雄, 千徳勝洋, 宅間隆二, 大屋一美,
小川 瞳, 安藤佳子, 内芝和江, 佐藤裕子, 中坪優子, 福土憲司, 高橋範和,
小池征寛, 丹羽悠二, 犬飼慎也, 笠原久臣, 清水目元一, 高橋功一,
遠國正樹, 中川雄治, ディロン, 他

秩父演習林 : 栗田直明, 高野充広, 吉田弓子

愛知演習林 : 後藤太成, 荒木田きよみ

富士演習林 : 千島 茂

樹芸研究所 : 辻 和明

田無試験地 : 千嶋 武

[平成18年10月31日(火)]

試験研究研修会議(於: 山部講義室)

9:00 下村彰男林長挨拶

梶幹男北海道演習林長挨拶

9:15 試験研究発表(○: 発表者)

(司会: 井口和信)

《自由テーマの部》

「緑被率の異なる都内3地点における気温の経年変化」

○千嶋 武・岩本則長(田無試験地)

「2001年度以降における愛知演習林量水観測の

全面自動化にともなう観測体制の省力化と問題点」

○荒木田きよみ・高德佳絵・澤田晴雄(愛知演習林)

「複層林造成試験地 ―19年間の生育状況―」

○後藤太成・渡部 賢・井上 淳(愛知演習林)

10:25 休憩(10分)

「ヒノキ高樹齢林におけるヘリコプター集材の試み」

○鶴見康幸・山中千恵子・永島初義・里見重成・藤平晃司(千葉演習林)

「北海道演習林と千葉演習林における林道開設時のコスト削減への取り組みについて」

○大石 諭(北海道演習林)

「富士演習林と運動会の関係の歴史と今後のあり方について」

○千島 茂(富士演習林)

12:00 昼食

12:50 記念写真

13:00 《共通テーマの部》『野生動物の管理』

「ライトセンサスによるシカ発見数の月別変化」

○栗田直明・五十嵐勇治・大村和也・西山教雄・吉田弓子・芝野伸策（秩父演習林）

「青野研究林におけるアオキを指標としたニホンジカの分布」

○辻 和明・渡邊良広・村瀬一隆・辻 良子（樹芸研究所）

「千葉演習林におけるニホンジカ等有害獣の駆除について」

○村川功雄・永島初義・鈴木祐紀・米道 学（千葉演習林）

14:10 休憩（15 分）

「秩父演習林での今までの獣害と対策」

○高野充広・大畑茂・五十嵐勇治・大村和也・

齋藤俊浩・西山教雄・芝野伸策（秩父演習林）

「北海道演習林における野生動物管理の現状」

○丹羽悠二・松井理生・井口和信（北海道演習林）

15:15 休憩（15 分）

15:30 研修（講義）鎌田直人助教授

「野生生物管理と森林保護」

16:30 講評 山本博一研究部長

17:00 意見交換会

17:30 試験研究発表会終了

[平成 18 年 11 月 1 日（水）]

9:00 麓郷セミナーハウス出発

現地研修：前山保存林，直営生産跡地の見学

11:30 解散

教職員の論文等

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年
鴨田重裕・井上広喜・寺田珠実	リグノスチルベンジオキシゲナーゼアイソザイム遺伝子群の解析	東大演報	115	65-72	2006
鴨田重裕・笠原久臣・高橋康夫・木村徳志・廣川俊英・桧山亮・折橋 健・小島康夫・寺沢 実	カフェテリア試験を用いた不織布のエゾシカ樹皮食害防除効果の評価	東大演報	115	73-80	2006
井上広喜・兼行民治郎・寺田珠実・鴨田重裕	イチョウ細胞培養系におけるステロールと細胞増殖	東大演報	116	253-265	2006
大村和也	荒川源流域における標高の異なる2地点における渓流水温の季節変化	演習林(東大)	45	29-69	2006
澤田晴雄・大村和也・芝野伸策・藤原章雄・梶 幹男	秩父演習林大面積長期生態系プロットにおける毎木調査資料(1994-2005年)	演習林(東大)	45	71-218	2006
浅野友子・渡辺良広・辻 和明・遠藤いず貴	樹芸研究所青野研究林における簡易貫入試験を用いた土壌層位の把握	演習林(東大)	45	219-233	2006
浅野友子・井口和信・磯部良太・大川あゆ子・加賀谷隆・梶浦雅子・鴨田重裕・木村徳志・酒井秀夫・芝野博文・橘治国・寺垣純・堀江健二・宮本義憲	北海道演習林総合水系調査の報告(Ⅰ)－西達布川源流部と仙人峡－	演習林(東大)	45	235-270	2006
泉桂子・鈴木誠	千葉演習林沿革史資料(5) -千葉演習林第1次経営計画「千葉縣下演習林経営方針」 - (付属簿表及び図面)	演習林(東大)	46	1-56	2007
根岸賢一郎・丹下健・鈴木誠・山本博一	千葉演習林沿革史資料(6) -松野先生記念碑と林学教育事始めの人々 -	演習林(東大)	46	57-121	2007
浅野友子・犬塚将嗣・大川あゆ子・加賀谷隆・梶浦雅子・木村徳志・齋藤奈緒美・酒井秀夫・芝野博文・橘治国・西田継・堀江健二・宮本義憲・脇聡一郎	山地森林流域における溪流環境及び生態系総合調査-北海道演習林水系総合調査の報告(Ⅱ)	演習林(東大)	46	123-158	2007
山中征夫	東京大学千葉演習林におけるニホンジカの生育数調査(1986年、1991-2006年の調査結果報告)	演習林(東大)	46	351-369	2007
千嶋武・岩本則長	緑被率の異なる都内3地点における気温の経年変化	平成18年度技術職員等研究・研修会議報告		1-5	2006
荒木田きよみ・高德佳絵・澤田晴雄	「2001年度以降における愛知演習林水量観測の全面自動化にともなう観測体制の省力化と問題点」	平成18年度技術職員等研究・研修会議報告		6-12	2006
後藤太成・渡部賢・井上淳	複層林造成試験地 ―19年間の生育状況―	平成18年度技術職員等研究・研修会議報告		13-20	2006

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年
鶴見康幸・山中千恵子・永島初義・里見重成・藤平晃司	ヒノキ高樹齢林におけるヘリコプター集材の試み	平成18年度技術職員等試験研究・研修会報告		21-26	2006
大石諭	北海道演習林と千葉演習林における林道開設時のコスト削減への取り組みについて	平成18年度技術職員等試験研究・研修会報告		27-31	2006
千島茂	富士演習林と運動会の関係の歴史と今後のあり方について	平成18年度技術職員等試験研究・研修会報告		32-35	2006
栗田直明・五十嵐勇治・大村和也・西山教雄・吉田弓子・芝野伸策	ライトセンサスによるシカ発見数の月別変化	平成18年度技術職員等試験研究・研修会議報告		36-39	2006
辻和明・渡邊良広・村瀬一隆・辻良子	青野研究林におけるアオキを指標としたニホンジカの分布	平成18年度技術職員等研究・研修会議報告		40-43	2006
村川功雄・永島初義・鈴木祐紀・米道学	千葉演習林におけるニホンジカ等有害獣の駆除について	平成18年度技術職員等試験研究・研修会報告		44-56	2006
高野充広・大畑茂・五十嵐勇治・大村和也・齋藤俊浩・西山教雄・芝野伸策	秩父演習林での今までの獣害と対策	平成18年度技術職員等試験研究・研修会議報告		57-68	2006
丹羽悠二・松井理生・井口和信	北海道演習林における野生動物管理の現状	平成18年度技術職員等試験研究・研修会報告		69-75	2006
広嶋卓也・山本清龍・田中延亮・柴崎茂光・堀田紀文・坂上大翼	富士山を題材とした森林教育プログラムの開発-実践と効果把握 初等・中等学校における森林教育実践上に課題と対応策-	日林誌	88 (3)	160-168	2006
広嶋卓也・伊藤奈々恵・山本博一・米道学・高德佳絵	パイプモデル理論と相対幹曲線を用いた広葉樹全木材積表の調製-東京大学千葉演習林を事例として-	日林誌	88 (4)	254-263	2006
赤石大輔・鎌田直人・中村浩二	コナラ・アベマキ二次林におけるカシノナガキクイムシの初期加害状況	日林誌	88 (4)	274-278	2006
小島康夫・安井洋介・折橋健・寺沢実・鴨田重裕・笠原久臣・高橋康夫	エゾシカの樹皮嗜好性と小径樹幹の内樹皮成分との関係	日林誌	88 (5)	337-341	2006
山田利博	マツノザイセンチュウに感染したマツ類にみられる生化学的反応	日林誌	88 (5)	370-382	2006
高上馬希重・關光・吉田茂男・村中俊	大麻の「ドラッグタイプ」と「ファイバータイプ」におけるTHCA生合成酵素遺伝子の多型検出	DNA多型	14	123-129	2006
蔵治光一郎	「地域森林の自治」をめざして 豊田市森づくり条例・豊田市100年の森づくり構想の取り組みから	GR 現代林業	490	16-25	2007
澤田晴雄・大村和也・大畑茂	シャクガ類による食葉害がケヤキ各器官の生産量に与える影響	TREE DOCTOR	14	42-44	2007
蔵治光一郎	長期データ蓄積型研究の危機 80年におよぶ森林環境研究を例に	科学	77 (5)	497	2007

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年
梶幹男	南伊豆町岩樟園のクスノキ林	木の建築	14		2006
梶幹男	東京大学北海道演習林のウダイカンバ林	木の建築	15		2006
梶幹男	屋久島の山岳林	木の建築	16		2006
山田利博	樹木の中を診る－材変色腐朽防止と正確な危険度診断のために－	グリーンエージ	2007 (1)	30-33	2007
安村直樹	金山杉がもたらす住宅の地域特性	森林科学	47	48-50	2006
山本清龍	日本森林学会におけるアンケート調査の結果報告	森林科学	48	31-34	2006
蔵治光一郎・村上茂樹・恩田裕一・浅野友子・芝野博文・姫野雅義・稲垣久義・寺井久慈・藤田佳久・高野雅夫・保屋野初子・中津川誠・丹羽健司・服部重昭	緑のダム研究の最前線と市民・行政・研究者の協働－第2回愛知演習林シンポジウム－報告	森林科学	48	41-50	2006
陳 鍾善・石橋整司・郭 忠玲	中国・吉林省の林業経営における税制および費用負担制度について－日本との比較検討から－	森林計画学会誌	40 (2)	151-162	2006
井口和信	3年周期で大発生するシナノキハムグリハバチ	森林保護	302	13-16	2006
Hiroshi Tanabe・Yoshiko Abe・Takashi Nakano and Takeshi Tange	Carbon and nitrogen changes in A0 horizons in a Pinus densiflora forest established on a Mt. Fuji lava flow	森林立地	48 (1)	1-8	2006
五名美江・蔵治光一郎	水源林取得・管理のための水源基金の設置について	水利科学	289	61-88	2006
芝野伸策	春のエゾシカの性比と雌が持つ仔の数－越冬後の性比と仔持ち比の14か年の推移－	ひがし大雪博物館研究報告	28	5-8	2006
山本博一	「木の文化」を支える森林	文化庁月報	455	14-15	2006
中川昌彦・廣川俊英・島強・小笠原繁男・倉橋昭夫	エゾマツの開芽日は種子産地の標高によってちがうのか？	北海道の林木育種	49 (2)	9-12	2006
安村直樹	オーストリアの人工林造成	木材情報	190	6-9	2007
山本清龍・本郷哲朗	青木ヶ原樹海における利用者の環境配慮意識とガイドの必要性に関する研究	ランドスケープ研究	69 (5)	641-644	2006
原泰之・小野良平・伊藤弘・下村彰男	戦前期における風致地区制度の位置付けに関する歴史的考察	ランドスケープ研究	69 (5)	813-816	2006
山本泰裕・伊藤弘・小野良平・下村彰男	GPSを用いた新宿御苑における利用者の行動パターンに関する研究	ランドスケープ研究			2006
安村直樹	首都圏の大工・工務店における木材の選定基準－地域材への需要－	林業経済学会2006年秋季大会			2006
内山憲太郎・後藤晋	第15回バイテク林木育種研究会記録	林木の育種	220	56-57	2006
山本清龍・本郷哲郎	青木ヶ原樹海の利用者が持つ自然公園イメージと環境配慮意識の関係性に関する研究	環境情報科学論文集	20	153-158	2006
五名美江・蔵治光一郎	「漁民の森」活動の実態と評価	月刊「水」5月号		14-19	2006

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年
山本博一	森林はどこまで公共財か	国民と森林	95	4-6	2006
南雲秀次郎・山本博一	森林作業法－東京大学北海道演習林の経営実験－	森林計画学会誌 (モノグラフ)		1-54	2006
蔵治光一郎・大野智彦・五名美江	複数の基準と指標を用いた一級水系流域委員会の実態評価	水資源・環境研究	19	7-16	2006
溝口隼平・蔵治光一郎	国内におけるダム撤去データベースの作成	水資源・環境研究	19	43-48	2007
蔵治光一郎・市栄智明	北ボルネオにおける一般気象の季節変動	水文・水資源学会誌	19 (2)	95-107	2006
五名美江・蔵治光一郎	マレーシア・サラワク州における降雨季節変動の空間分布	水文・水資源学会誌	19 (2)	128-138	2006
蔵治光一郎・溝口隼平	発電ダム建設に伴う大井川の流況の変遷	水文・水資源学会誌	20 (4)	303-311	2007
才木道雄	千葉県清澄山系におけるサンコウチョウの営巣環境	日本鳥学会誌	55	18-23	2006
蔵治光一郎	森林の保水力について	不知火海・球磨川流域圏学会誌	1	71-82	2007
尾張敏章	北海道木材産業の活性化ビジョン(1)－過去10年間に おける木材産業の動向－	北方林業	58 (10)	221-224	2006
尾張敏章	北海道木材産業の活性化ビジョン(2)－ビジョン が描く木材産業のあるべき姿－	北方林業	58 (11)	8-12	2006
尾張敏章	北欧における木材認証の現状と課題－認証材アン ケート調査結果を中心に－	木材情報	184	22-23	2006
蔵治光一郎	いま日本の森の何が問題か 過剰な期待と進まない 現実の間で何ができるのか	由良川フォーラム (第2回)～川と森 の今を考える～			2006
蔵治光一郎	森林の保水力とは何か 緑のダムを科学的に理解 するための基礎知識	理戦	87	142-163	2007
Kanamori H, Yasunari T and Kuraji K	Seasonal and Intraseasonal Moduration of Diurnal Cycle of Rainfall over Sarawak, Borneo Island	Abstract of the Symposium on Asia Monsoon Winter MONEX:A Quarter Century and Beyond Abstracts, WMO International Panel for East Asian Monsoon/TMRP Malaysian Meteorological Department		176	2006

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年
Gomyo Mie, Kuraji Koichiro	Spatial and seasonal variation in rainfall over Sarawak, Malaysia	Abstract of the Symposium on Asia Monsoon Winter MONEX:A Quarter Century and Beyond Abstracts, WMO International Panel for East Asian Monsoon/TMRP Malaysian Meteorological Department		169-174	2006
Aizawa M & Kaji M	Taxonomic review of <i>Picea alcoquiana</i> var. <i>reflexa</i> (Pinaceae) based on cone morphology	Acta phytotaxonomica et Geobotanica	57	165-172	2006
Sakai S, Harrison RD, Momose K, Kuraji K, Nagamasu H, Yasunari T, Chong L and Nakashizuka T	Irregular droughts trigger mass flowering in aseasonal tropical forests in Asia	American Journal of Botany	93 (8)	1134-1139	2006
Asano, Y., Compton, J., Church, R.	Hydrologic flowpaths influence inorganic and organic nutrient leaching in a forest soil	Biogeochemistry	81	191-204	2006
Krishna Bahadur Karki Hirofumi Shibano	Soil loss in a forested watershed underlain by deeply weathered granite: comparison of observation to predictions of a GIS-based USLE	Buletine of the Tokyo University Forests	115	1-36	2006
Kojoma, M.・Seki, H.・Yoshida, S. and Muranaka, T	DNA polymorphisms in the tetrahydrocannabinolic acid (THCA) synthase gene in "drug-type" and "fiber-type" <i>Cannabis sativa</i> L.	Forensic Science International		132-140	2006
Kentaro Uchiyama,Susumu Goto, Yoshiaki Tsuda,Yasuo Takahashi,Yuji Ide	Genetic diversity and genetic structure of adult and buried seed populations of <i>Betula maximowicziana</i> in mixed and post-fire stands	Forest Ecology and Management	237	119-126	2006
Lars Lundqvist, Dillon Chrimes, Björn Elfving, Tommy Mörling and Erik Valinger	Stand development after different thinnings in two uneven-aged <i>Picea abies</i> forests in Sweden	Forest ecology and management	238	141-146	2007
Toshiaki Owari, Heikki Juslin, Arto Rummukainen, Tetsuhiko Yoshimura	Strategies,functions and benefits of forest certification in wood products marketing:perspectives of Finnish suppliers.	Forest Policy and Economics	9 (4)	380-391	2006
Florian Kraxner, Eric Hansen, Toshiaki Owari	Public procurement policies driving certification: certified forest products markets 2005-2006	Forest Products Annual Market Review 2005-2006	21	97-109	2006

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年
Toshiaki Owari, Yoshihide Sawanobori, Heikki Juslin	Marketing Strategies, Functions, and Benefits of Forest Certification in Finland and Sweden: A Comparative Study	FOREST PRODUCTS SOCIETY 60TH INTERNATIONAL CONVENTION		38	2006
山本博一	日本における森林資源管理の問題点	FORMATH KOBE 2007 INTERNATIONAL on Forest Resource Management and Mathematical Modeling			2007
Sato T, Isagi Y, Sakio H, Osumu K, Goto S	Effect of gene flow on spatial genetic structure in the riparian canopy tree <i>Cercidiphyllum japonicum</i> revealed by microsatellite analysis.	Heredity	96	79-84	2006
Kume T, Kuraji K, Yoshifuji N, Morooka T, Sawano S, Chong L, Suzuki M	Estimation of canopy drying time after rainfall using sap flow measurements in an emergent tree in a lowland mixed-dipterocarp forest in Sarawak, Malaysia	Hydrological processes	20	565-578	2006
Yamada T	Influence of water stress and wetness of open wound on lesion expansion in the xylem of <i>Cryptomeria japonica</i> seedlings inoculated with a canker fungus <i>Guignardia cryptomeriae</i>	IMC8 Abstracts Book		179	2006
Yamada T & Ikeda H	Occurrence of scab canker caused by <i>Scolecotigmina</i> sp. on five-needle pines in Japan	IMC8 Abstracts Book		179	2006
Ohsawa, T., Tsuda, Y., Saito, Y., Sawada, H., Ide, Y.	Altitudinal genetic diversity and differentiation of <i>Quercus crispula</i> in the Chichibu Mountains, central Japan.	International Journal of Plant Sciences	168 (3)	333-340	2007
Ayuko Ohkawa & Toshio Hattori	Rhyacophilid caddisflies (Trichoptera) from Furano, Hokkaido, northern Japan, with descriptions of two new species.	12th International Symposium on Trichoptera			2006
Miyamoto Yoshinori ・ Nakagawa Yuji	Establishment of Oak Working-Group on The Tokyo University Forest in Hokkaido	IUFRO OAK 2006 ABSTRACT-ADVANCES IN PRINCIPLES AND PRACTICES OF OAK SILVICULTURE AND GENETICS		9	2006
鎌田直人	The 4th International Symposium of Gall Forming Insects and Symposium of the IUFRO Working Party 7.03.02 Gall-Forming Insects, 「BIODIVERSITY OF GALLING ARTHROPODS」開催 報告	IUFRO-J NEWS	89	7	2006
鎌田直人	IUFRO科学部会会合(Scientific Committee Meeting)報告	IUFRO-J NEWS	89	4-6	2006

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年
Yasuhiro Utsumi, Shinya Koga, Naoaki Tashiro, Atsushi Yamamoto, Yukie Saito, Takanori Arima, Hirokazu Yamamoto, Masahiko Kadomatsu and Nao Sakanoue	The effect of bark decortication for hiwada production on Xylem and phloem fotation in <i>Chamaecyparis obtusa</i>	J. Wood Sci.	52	477-482	2006
Katsushige Shiraki Yoshiki Shinomiya Hirofumi Shibano	Numerical experiments of watershed-scale soil water movement and bedrock infiltration using a physical three-dimensional simulation model	Journal of Forest Research	11	439-447	2006
Uchida, T., McDonnell, J.J., Asano, Y.	Functional intercomparison of hillslopes and small catchments by examining water source, flowpath and mean residence time	Journal of Hydrology	327	627-642	2006
Manfroi, O.J, Kuraji K, Suzuki M, Tanaka N, Kume T, Nakagawa M, Kumagai T and Nakashizuka T	Comparison of canventionally observed interception evaporation in a 100-m2 subplot with that estimated in a 4-ha area of the same Bornean lowland tropical forest	Journal of Hydrology	329	329-349	2006
高上馬希重・他	Conservation studies of <i>Swertia noguchiana</i> Hatusima (Gentianaceae).	Journal of Plant Research	119	61	2006
Krishna Bahadur Karki Hirofumi Shibano	Sediment yield and transportation capacity in a forested watershed underlain by weathered granite	Journal of the Japan Society of Erosion Control Engineering	59 (5)	35-42	2007
Goto S, Shimatani K, Yoshimaru H, Takahashi Y.	Fat-tailed gene flow in the dioecious canopy tree species, <i>Fraxinus mandshurica</i> var. <i>japonica</i> revealed by microsatellites.	Molecular Ecology	15	2985- 2996	2006
MIHO KAWAI, ETSUKO SHODA-KAGAYA, TADASHI MAEHARA, ZHIHUA ZHOU, CHUNLAN LIAN, RYUTARO IWATA, AKIOMI YAMANE AND TAIZO HOGETSU	Genetic structure of Pine Sawyer <i>Monochamus alternatus</i> (Coleoptera: Cerambycidae) Populations in Northeast Asia: Consequences of the Spread of Pine Wilt Disease	Molecular Ecology and Evolution	35 (2)	569-579	2006
Naoto Kamata	Analysis of Spreading Patterns of Japanese Oak Wilt and the Development of Control Tactics.	Past, Present and Future Environments of Pan-Japan Sea Region (Hayakawa, K. ed. Maruzen Co. Ltd., Tokyo)		547-563	2006
Zhou, Z., Sakaue, D., Wu, B. and Hogetsu, T.	Genetic structure of populations of the pinewood nematode <i>Bursaphelenchus xylophilus</i> , the pathogen of pine wilt disease, between and within pine forests	Phytopathology	97 (3)	304-310	2007

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年
高上馬希重・他	Development of an <i>in vitro</i> stolon system of licorice (<i>Glycyrrhiza uralensis</i>).	Proceeding of The 11th International Association for Plant Tissue Culture and Biotechnology Congress		139	2006
Kuraji Koichiro and Ichie Tomoaki	Seasonal change of general meteorological factors in the North Borneo, East Malaysia	Proceedings of International Symposium on Forest Ecology, Hydrometeorology and Forest Ecosystem Rehabilitation in Sarawak		114-119	2006
Kume Tomonori, Odair J. Manfroï, Kuraji Koichiro, Arata Hidenori, Horiuchi Toshinobu and Suzuki Masakazu	Assessing the seasonal and inter-annual variability of evapotranspiration based on the big-leaf model in a lowland tropical rainforest, Sarawak, Malaysia	Proceedings of International Symposium on Forest Ecology, Hydrometeorology and Forest Ecosystem Rehabilitation in Sarawak		127-132	2006
Kamoi Tamaki, Tanaka Kenzo, Kuraji Koichiro and Momose Kuniyasu	Abortion of reproductive organs to adjust reproductive costs to the daily fluctuating production of a tropical pioneer. <i>Melastoma malabathricum</i> (Melastomataceae)	Proceedings of International Symposium on Forest Ecology, Hydrometeorology and Forest Ecosystem Rehabilitation in Sarawak		146-151	2006
Gomyo Mie, Kuraji Koichiro	Spatial and seasonal variation in rainfall over Sarawak, Malaysia	Proceedings of International Symposium on Forest Ecology, Hydrometeorology and Forest Ecosystem Rehabilitation in Sarawak		216-221	2006
Horikawa Mayumi, Kanamori Hiroaki, Kurita Naoyuki, Yasunari Tetsuzo and Kuraji Koichiro	Water stable isotope ($\delta^{18}O$ and δD) variations in rainfall and water vapor over tropical rainforest region of Sarawak, Malaysia	Proceedings of International Symposium on Forest Ecology, Hydrometeorology and Forest Ecosystem Rehabilitation in Sarawak		222-226	2006

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年
Wakahara Taeko, Shiraki Katsushige, Sato Yoshinobu, Kuraji Koichiro and Kumagai Tomo'omi	Distribution of soil depth and soil water content at Lambir hills catchment	Proceedings of International Symposium on Forest Ecology, Hydrometeorology and Forest Ecosystem Rehabilitation in Sarawak		231-234	2006
Shinsaku Shibano, Yuji Igarashi, Kazuya Oomura, Michihiro Takano, Naoaki Kurita, Norio Nishiyama, Akio Fujiwara	Tree bark damage caused by Black Bears <i>Ursus</i> <i>thibetanus</i> on artificial stands in Chichibu district	Proceedings of the 17th International Conference on Bear Research and Management		157	2006
Ohsawa,T.,Tsuda,Y., Saito,Y.,Sawada,H. and Ide,Y.	Genetic diversity and gene flow of <i>Quercus</i> <i>crispula</i> in a semi-fragmented forest together with neighboring forest.	Silvae Genetica	55 (4- 5)	160-169	2006

学会発表等

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年
土屋純一・大久保達弘・船津丸弘樹・鎌田直人	栃木県高原山におけるイヌブナ堅果食性昆虫の産卵開始時期	日林学術講	117	100644	2006
孫 貞阿・小松雅史・坂上大翼・松下範久・寶月岱造	抵抗性の異なる宿主の樹体内におけるマツノザイセンチュウの分布	日林学術講	117	A24	2006
坂上大翼・前原 忠	5年間にわたるマツノマダラカミキリ成虫の誘引捕獲消長	日林学術講	117	B05	2006
バイラムザデ ヴィルマ・船田良・澤田晴雄・久保隆文	産地の異なるブナの木部形成における環境応答特性	日林学術講	117	E06	2006
中村 麻祐子・戸田浩人・生原 喜久雄	暖温帯における常緑広葉樹と落葉広葉樹の落葉分解	日林学術講	117	E10	2006
池田裕行・尾崎煙雄・藤平量郎・遠藤良太・藤林範子	房総半島産ヒメコマツの球果形態と種子生産	日林学術講	117	E17	2006
田邊裕美・中野隆志・相澤州平・丹下健	外生菌根菌と共生するアカマツによるリター内窒素利用の可能性	日林学術講	117	F17	2006
小田智基・澤野真治・浅野友子・鈴木雅一	新第三紀層流域における降雨流出プロセスのモデル化 ―袋山沢流域を対象に伐採に伴うCl ⁻ 濃度変化を用いた検討―	日林学術講	117	G11	2006
秋廣敬恵	都市近郊地域2事例にみる住民参加・パートナーシップによる森林管理・利用システム形成の課題	日林学術講	117	K13	2006
洲崎燈子・蔵治光一郎・丹羽健司	森の健康診断	日林学術講	117	K15	2006
山本清龍	エコツーリズムを活用した森林教育の展開可能性について	日林学術講	117	K27	2006
内山 憲太郎・津田吉晃・高橋 康夫・後藤 晋・井出 雄二	林分構造の異なるウダイカンバ集団における花粉プールの多様性と構造	日林学術講	117	M04	2006
後藤 晋	プロット外からのジーンフローといかに向き合うか？	日林学術講	117	M11	2006
逢沢峰昭・吉丸博志・斎藤秀之・勝木俊雄・河原孝行・北村系子・石 福臣・梶幹男	北東アジアにおけるエゾマツ変種群のミトコンドリアDNA の地理的変異と分布変遷	日林学術講	117	M16	2006
村松 昭宜・石橋 整司・西上 愛	広葉樹再生林構成樹種の成長経過解析 栃木県唐沢山の再生林における被圧下の成長特性	日林学術講	117	PA15	2006
石橋整司・藤原章雄・五十嵐勇治・芝野伸策・栗田直明・西山教雄	ユリノキ（ハンテンボク）人工林の成長解析	日林学術講	117	PA16	2006
陳 鍾善	中国、吉林省の森林管理における担い手問題	日林学術講	117	PA18	2006

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年
Stanko Trifkovic・ Qing Chun Wang・ Akinori Muramatsu・ Juli Sato・Hirokazu Yamamoto・Tetsuro Sakai・Nao Sakanoue ・ Haruhiko Mimura	Spatial characteristics of Chamaecyparis optusa stand managed applying regeneration cutting in Kiso area of Japan	日林学術講	117	PA19	2006
宮川萌・玉井裕・ 宮本敏澄・矢島崇・ 木村徳志・鴨田重裕	アスベスト採掘跡地における植生と菌根形成	日林学術講	117	PA27	2006
五名美江・蔵治光一 郎	水源林の取得・管理のための水源基金について	日林学術講	117	PC07	2006
津田吉晃・澤田晴 雄・齋藤俊浩・五十 嵐勇治・井出雄二	急峻な山岳におけるウダイカンバ地域集団の遺伝 構造	日林学術講	117	PC29	2006
澤田晴雄・塚越剛 史・梶 幹男	房総丘陵に隔離分布するイヌブナの堅果落下特性	日林学術講	117	PC35	2006
大澤隆文・津田吉 晃・齋藤陽子・澤田 晴雄・井出 雄二	山岳傾斜地におけるミズナラの種子散布および遺 伝的パッチ構造ー特に傾斜が及ぼす影響につい ての考察ー	日林学術講	117	PC41	2006
真板英一・鈴木雅一	東京大学千葉演習林袋山沢流域における伐採前後 の流出量変化 (4) 月流出量の変化	日林学術講	117	PD07	2006
島津重仁・堀田紀 文・加治屋祐介・鈴 木雅一	スギ・ヒノキ林における斜面部位による蒸散開始 時刻の違い-隣接した幼齢林と壮齢林における比 較-	日林学術講	117	PD15	2006
久米朋宣・O dair Jose Manfroi・田中 延亮・蔵治光一郎・ 吉藤奈津子・鈴木雅 一	樹液流測定を用いた熱帯林の林分構造パラメー ターの推定手法の開発	日林学術講	117	PD16	2006
菊地陽太・大久保達 弘・梶幹男・澤田晴 雄	大規模な人為攪乱を受けた秩父山地イヌブナ再生 林の林分構造	日林学術講	117	PD34	2006
山田利博・池田裕行	ヒメコマツかさぶたがんしゅ病の発生生態-分生 子の飛散と患部の形成拡大-	日林学術講	117	PG01	2006
Zuhair S・Fukuda K & Yamada T	The effects of season on the longitudinal expansion of wood discoloration column after mechanical injury	日林学術講	117	PG08	2006
浅野 友子・渡邊 良 広・辻 和明・遠藤 いず貴	伊豆半島南部の山地斜面における二次林の成立に 地中の水分分布が及ぼす影響ー斜面における土 壌、地下水位、土壌水分の観測結果ー	日林学術講	117	PG35	2006
五味高志・宮田秀 介・上野全保・小杉 賢一朗・Roy C. Sidle・浅野友子・恩 田裕一・福島武彦	成分分離手法による洪水流出に占める表面流寄与 率の推定	日林学術講	117	PG35	2006
山中征夫・山中千恵 子・稲村宏子・山根 明臣	ヤマビルの防除-大量発生要因の解明からのアプ ローチー	日林学術講	117	PH02	2006

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年
大村和也・栗田直明・五十嵐勇治・芝野伸策・西山教雄・藤原章雄	区画法とライトセンサスによる東大秩父演習林のニホンジカ等の生息状況	日林学術講	117	PH03	2006
高橋功一・笠原久臣・清水目元一・中川雄治・遠國正樹・後藤晋	格子状皆伐による天然更新の促進試験(Ⅱ)ー地がき処理による更新促進試験ー	日林北支論	55	26-28	2006
上田明良・井口和信	樽前山山麓2004年18号台風風倒地における2006年度ヤツバキクイムシ類被害状況	日林北支論	55	101-103	2006
松井理生・岡村行治・岡平卓巳・後藤晋	低標高域のエゾマツ造林地でみられたウダイカンバーエゾマツ二段林	日林北支論	55		2006
永井基浩・寺沢実・小島康夫・廣川俊英・鴨田重裕	シラカンバ内樹皮成分がエゾシカの嗜好性に与える影響	日林北支論	55		2006
古家直行・平田泰雅・鈴木誠・山本博一	高解像度衛星パンクロマティック画像上での単木樹冠濃淡情報	日林関東支論	57	49-50	2006
澤田晴雄・大村和也・神塚武一・五十嵐勇治・齋藤俊浩・高野充広・大畑茂・藤原章雄	75年生スギおよびヒノキ人工林の密度試験地における最近5年間の成長経過	日林関東支論	57	83-85	2006
鈴木誠・米道学・塚越剛史・軽込勉	東京大学千葉演習林における天然ヒノキの生育状況	日林関東支論	57	87-88	2006
池田裕行・遠藤良太・尾崎煙雄・藤平量郎・丹藤修	房総半島産ヒメコマツ種子の水選時間別発芽と内部形態の軟X線調査	日林関東支論	57	159-161	2006
山中征夫・山中千恵子・前原忠・松井久美・稲村宏子	陸生吸血種ヤマビル为天敵	日林関東支論	57	211-213	2006
澤田晴雄・荒木田きよみ・荒木田善隆・高德佳絵・渡部賢・井上淳・後藤太成	東京大学愛知演習林スギ間伐試験地における最近20年間の成長経過	中部森林研究	55	23-26	2006
村瀬一隆・渡邊良広・辻和明・辻良子・鴨田重裕・荒木田善隆	南伊豆地方におけるシジュウカラ科の巣箱利用	中部森林研究	55	47-48	2006
荒木田善隆	児童期における自然体験学習は何をもたらすかー愛知県犬山市の小学校のアンケート結果からー	中部森林研究	55	231-234	2006
鎌田直人・後藤秀章・小村良太郎・久保 守・御影雅幸・村本健一郎	沿海州・韓国で最近起こったナラ枯れと 今後のナラ枯れ研究の展望について	中部森林研究	55	235-238	2006
蔵治光一郎	市民参加で放置林の実態調査	「国民参加の森林づくり」シンポジウム 放置林を考える		11	2006

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年
芝野伸策・五十嵐勇治・高野充広・大村和也・栗田直明・西山教雄・藤原章雄	秩父地方のツキノワグマによる造林木の樹皮剥ぎ被害	2006国際クマ会議			2006
金森大成・蔵治光一郎・安成哲三	ボルネオ島西部における季節内変動に伴う降水日変化特性	2006年気象学会秋季大会		P155	2006
佐藤晋介・久保田拓志・蔵治光一郎・松本淳	東南アジアにおける地上雨量計と衛星推定降雨量の比較（序報）	2006年気象学会秋季大会		P349	2006
Stanko Trifkovic	Spatial Patterns and Success of Forest Regeneration	森林計画学会 夏季シンポジウム			2006
王 清春	Study on plant diversity and conservation in Yunnengshan forest region	森林計画学会 夏季シンポジウム			2006
山田利博・永石憲道・山下得男・小山常夫・神庭正則・大島 渡	中性子ラジオグラフィでみた傷害後の樹木の水分と防御組織の変化	樹木医学会講演要旨集	11	69	2006
矢口行雄・Henry BP・Store AJ・山田利博・市川薫・原祐二	ハナミズキの街路樹に発生した葉枯性病害	樹木医学会講演要旨集	11	81	2006
井口和信・福原賢二	北海道富良野市における危険木診断の事例	樹木医学会講演要旨集	11		2006
蔵治光一郎	矢作川森の健康診断から見えたもの	森林・木材・環境アカデミー講演会「日本林業再生の道PartIIー現場の取り組みー」要旨集		19-23	2006
蔵治光一郎	一級河川における基本高水の変遷と既往最大洪水との関係	水文・水資源学会2006年度研究発表会要旨集		84-85	2006
五名美江・蔵治光一郎	マレーシア・サラワク州の降雨年々変動にエルニーニョの及ぼす影響の季節別評価	水文・水資源学会2006年度研究発表会要旨集		180-181	2006
久米朋宣・オダイール ジョセ マンフロイ・蔵治光一郎・田中延亮・鈴木雅一	マレーシア・ボルネオ島の熱帯雨林における樹液流計測を利用した遮断蒸発量の推定	水文・水資源学会2006年度研究発表会要旨集		190-191	2006
山本哲裕・浅野友子・鈴木雅一	スギ幼齢木の成長と土壌水分・地下水位の分布の関係	水文・水資源学会2006年度研究発表会要旨集		224-225	2006
小田智基・浅野友子・山本哲裕・鈴木雅一	森林伐採に伴う溪流水のNO ₃ ⁻ 濃度増加の影響が長期に及ぶ原因の考察ー降雨流出モデルを用いた検討ー	水文・水資源学会2006年度研究発表会要旨集		226-227	2006

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年
浅野友子・五味高志・水垣滋・宮田秀介・小杉賢一郎・張朝・恩田裕一・福島武彦	森林斜面に発生する地表面流の水質特性	水文・水資源学会2006年度研究発表会要旨集		230-231	2006
会沢栄志・寺田珠実・鮫島正浩・鴨田重裕	イチョウの雌雄早期判別法について	第 24 回日本植物細胞分子生物学会大会・シンポジウム		153	2006
蔵治光一郎	森林の保水力について	第19回日本の森と自然を守る全国集会熊本集会「緑のダムー森林の保水力」			2006
山本清龍	富士五湖におけるリゾートイメージの差異に関する研究	第21回日本観光研究学会全国大会学術論文集	21	253-256	2006
山田利博・池田裕行	東京大学千葉演習林におけるヒメコマツかさぶたがんしゅ病の発生生態	日本菌学会50周年記念大会講要		114	2006
鎌田直人	ブナの食葉性昆虫ブナアオシャチホコの密度変動	日本生態学会誌	56	106-119	2006
田中健太・北本尚子・島谷健一郎・後藤晋	植物の花粉散布研究における遺伝マーカーの役割	日本生態学会誌	56	134-144	2006
高田まゆら・鈴木牧・落合啓二・浅田正彦・宮下直	房総半島における大型哺乳類による農業被害とランドスケープ構造の関係性	日本生態学会大会	54		2007
藤田剛・鈴木牧・山道正人・落合啓二・浅田正彦・宮下直	房総半島におけるシカ個体群の空間動態と駆除戦略	日本生態学会大会	54		2007
安藤大介・鈴木牧・落合啓二・浅田正彦・宮下直	房総半島におけるシカ妊娠率の空間変異とその要因	日本生態学会大会	54		2007
山道真人・藤田剛・鈴木牧・落合啓二・浅田正彦・北門利英・宮下直	房総半島におけるシカの分散速度の calibration による推定	日本生態学会大会	54		2007
鈴木牧・宮下直・蒲谷肇・浅田正彦・落合啓二・丹下健	房総半島におけるシカ密度依存的な下層植生相の変化	日本生態学会大会	54		2007
小川安紀子・藤原章雄	ILTERにおける情報マネジメント標準化の取り組みとJaLTERの情報マネジメントのあるべき方向性	日本生態学会大会	54	T02-3	2007
今井香代子・光永徹・大橋英雄・伊藤進一郎・山田利博	ナラ枯れ原因菌Raffaelea quercivora侵入に応答するミズナラの抽出成分に関する研究	日本木材学会大会研究発表要旨集	56	71	2006
永井基浩・小島康夫・寺沢実・鴨田重裕・廣川俊英	エゾシカに対する樹皮嗜好性試験7～シラカンバ内樹皮成分がエゾシカの嗜好性に与える影響～	日本木材学会大会研究発表要旨集	56	PT036	2006
国民森林会議編 山本博一	森林の再生に向けて	日本林業調査会		250pp	2006

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年
笠島 哲・鎌田直人	農業水利施設法面等における農作物害虫の発生と植生管理について	農業環境工学関連7学会合同大会講演要旨集			2006
大川あゆ子	底質の異なる河川における倒木上の水生生物群集について.	北海道水生昆虫研究会			2006
Tanaka N, Kuraji K,	Effects of fog on water budget in Hill Evergreen Forest in Northern Thailand	3rd APHW Conference, Bangkok, Thailand		275	2006
Gomyo M and Kuraji K	Spatial distribution and seasonal variation in rainfall over Sarawak, Malaysia	3rd APHW Conference, Bangkok, Thailand		602	2006
Kume T, Manfroi OJ, Kuraji K, Arata H, Horiuchi T, Suzuki M.	Inter-annual variability of evapotranspiration in a lowland tropical rainforest, Sarawak, Malaysia	3rd APHW Conference, Bangkok, Thailand		610	2006
Gomyo Mie and Kuraji Koichiro	Spatial and seasonal variation in rainfall over Sarawak.	Symposium on Asian Winter MONEX: A Quarter Century and Beyond (WMONEX 25+)		169-174	2006
Akio Fujiwara, Mikio Kaji	Universiry Forest in Chichibu	The 6th Conference of East Asia-Pacific Regional Network of International Long-Term Ecological Research (ILTER)		P22	2006

著書

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年
蔵治光一郎・五名美江	全国の流域委員会の設置状況と評価	Blue Revolution Publication	4	1-8	2006
蔵治光一郎	矢作川	Blue Revolution Publication	4	62-71	2006
蔵治光一郎編	緑のダム研究の最前線と市民・行政・研究者の協働	Blue Revoluton Publication	5	1-130	2006
芝野博文	緑のダムの機能としての森林の土砂流出抑制機能	Blue Revolution Publication	5	45-53	2006
山本清龍・小野良平 (分担執筆)	秩父山地の歴史（山岳信仰と風景の成立）	おもしろ研究ちちぶの森		10-34	2006
梶幹男(分担執筆)	秩父山地の自然（地形、気候、自然）	おもしろ研究ちちぶの森		36-45	2006
安村直樹 (分担執筆)	秩父山地の社会（かわりゆく農山村）	おもしろ研究ちちぶの森		132-157	2006
山田利博・渡辺直明	樹木の危険度診断と外科的対策	最新・樹木医の手引き 改訂3版		474-523	2006
蔵治光一郎・洲崎燈子・丹羽健司	森の健康診断 ―100円グッズで始める市民と研究者の愉快的森林調査	森の健康診断 ―100円グッズで始める市民と研究者の愉快的森林調査		1-208	2006
蔵治光一郎	日本の森が泣いている	森の健康診断 ―100円グッズで始める市民と研究者の愉快的森林調査		8-20	2006
洲崎燈子・蔵治光一郎	「森の健康診断」の多様な意義	森の健康診断 ―100円グッズで始める市民と研究者の愉快的森林調査		21-31	2006
蔵治光一郎・洲崎燈子	「矢作川森林の健康診断」の概要	森の健康診断 ―100円グッズで始める市民と研究者の愉快的森林調査		52-67	2006
蔵治光一郎	流域圏の思想と「森の健康診断」	森の健康診断 ―100円グッズで始める市民と研究者の愉快的森林調査		121-132	2006
蔵治光一郎	水文	森林フィールドサイエンス		80-84	2006
芝野博文 (分担執筆)	森林水文	森林フィールドサイエンス 全国大学演習林協議会[編]		108-110	2006
蔵治光一郎	社会は森林水文学に何を求めているかー森水社会学の構築に向けてー	森林水文学編集委員会編『森林水文学』森北出版		309-327	2007

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年
蔵治光一郎	森林認証・地域材認証と森林管理・木材利用～愛知演習林ワークショップの記録～	森林認証・地域材認証と森林管理・木材利用～愛知演習林ワークショップの記録～		1-110	2006
山本博一 全国大学演習林協議会編	森林フィールドサイエンス	朝倉書店		25-27	2006
春田泰次 (分担執筆)	日本ペドロロジー学会編：「土壌を愛し、土壌を守る」 博友社				2007
Kuraji Koichiro, Kowit Punyatrang, Issara Sirisaiyard, Chatchai Tantasirin, Tanaka Nobuaki	Scale dependency of hydrological characteristics in the Upper Ping River Basin, Northern Thailand	Forest Environments in the Mekong River Basin		67-74	2007

外部資金によって行われた研究

科学研究費

氏 名	研究種目	研 究 課 題	研究代表者	代 表 者 所 属
山本博一	基盤研究（A）	木造建造物文化財の為の木材及び植物性資材確保に関する研究	山本博一	東京大学演習林研究部
山田利博	基盤研究（A）	劇症型樹木萎凋病の発病メカニズムに関する分子生物学的研究	二井一禎	京都大学農学研究科
蔵治光一郎	基盤研究（A）	森林生態系における水・物質動態の流域特性の広域比較研究	丹下健	東京大学大学院農学生命科学研究科 森林科学専攻
蔵治光一郎	基盤研究（A）	地球規模観測研究のローカル情報へのダウンスケーリングに関する研究	竹内邦良	山梨大学
山田利博	基盤研究（B）	樹木の生体防御システムに基づいた樹木治療技術の確立に関する研究	山田利博	東京大学千葉演習林
山田利博	基盤研究（B）	ナラ類萎凋病における樹種間の枯死機構と抵抗性機構の比較研究	伊藤進一郎	三重大学生物資源学研究科
鎌田直人	基盤研究（B）	隔離ブナ集団の繁殖能力低下をめぐる開花量とシイナと散布前虫害との関係の解明	鎌田直人	東京大学演習林研究部
鎌田直人	基盤研究（B）	地域間DNA多型解析によるナラ枯れの媒介者カシノナガキクイムシの外来種仮説の検証	鎌田直人	東京大学演習林研究部
山本清龍	基盤研究（B）	森林を題材とした新しい環境教育の創造とプログラムの開発・実践・評価	井倉洋二	鹿児島大学
尾張 敏章	若手研究（B）	林産物マーケティングの理論と実証に基づく計画手法の体系化	尾張 敏章	北海道演習林
高上馬希重	若手研究（B）	大麻（アサ）の医薬化合物高生産を目的とした分子育種	高上馬希重	東京大学樹芸研究所
米道 学	奨励研究	マツノザイセンチュウ系統別のマツ材線虫病罹病比較	米道 学	千葉演習林
小川 瞳	奨励研究	登録農薬の適用病害に登場しないエゾマツ暗色雪腐れ病防除への取り組み	小川 瞳	北海道演習林
高橋 功一	奨励研究	一斉林を生物多様な森に甦らせるーブルドーザを用いた地はぎ処理による天然更新促進ー	高橋 功一	北海道演習林
木村 徳志	奨励研究	アスベスト鉱山跡地に侵入した植生パッチの構造解析と植生パッチ造成の試み	木村 徳志	北海道演習林
大村和也	奨励研究	荒川源流域に生息するイワナの遺伝子解析	大村和也	秩父演習林
高德佳絵	奨励研究	ウルシ科植物が含有するウルシオール量の季節変動および地域特性	高德佳絵	愛知演習林

奨学寄付金

氏 名	寄 付 目 的	寄 付 者
山田利博	放射線を用いた樹木内部の傷害様式の解明と非破壊診断法の高度化	(財) 新技術開発財団
山田利博	研究助成のため	(財) 新技術開発財団
山田利博	松くい虫防除に関する研究	(社) ゴルファーの緑化促進協力会
鴨田重裕	学術研究の奨励・支援	住友林業株式会社筑波研究所
鴨田重裕	学術研究の奨励・支援	NPO法人 伊豆農林水産活性化支援センター
高上馬希重	研究助成	(財) 新技術開発財団
梶 幹男	農学助成金	サントリー株式会社
尾張 敏章	農学助成金	尾張敏章
石橋整司	モニタリング1000サイト	(財) 自然環境研究センター
芝野博文	モニタリング1000サイト	(財) 自然環境研究センター
鎌田直人	クズ・イシミカワの生物的防除に関する研究のため	アメリカ合衆国農務省

受託研究費

氏 名	研 究 課 題 名	委 託 機 関
蔵治光一郎	水のグローバルガバナンス	(独) 日本学術振興会
蔵治光一郎	森林荒廃が洪水・河川環境に及ぼす影響とモデル化	(独) 科学技術振興機構
蔵治光一郎	熱帯林の熱・水環境の計測とモデリング及びモンスーン気候解析	(独) 科学技術振興機構
鎌田直人 (分担)	住民参加による生物保全機能を備えた農業用水路の維持・管理システム開発	埼玉県
山本清龍 (分担)	南伊豆地域における景観的特徴の解明と再評価 (研究代表者：下村彰男)	静岡県

他機関との共同研究

氏 名	研 究 課 題 名	共 同 研 究 機 関
千葉演習林林長	千葉県において選抜したクロマツ等のマツ材線虫病抵抗性評価	千葉県森林研究センター
梶 幹男	石灰岩地帯の針広混合林における生態系基礎調査、石灰岩・ドロマイトに関する地質学的研究及びドロマイト鉱山跡の緑化に関する研究	王子木材緑化(株)北海道支店
山本清龍	富士山青木ヶ原樹海におけるエコツアーに伴う環境保全モニタリングシステム構築に関する研究	山梨県環境科学研究所

■社会連携■

公開講座・セミナー等

講 座 名	演 習 林 名	開催場所	日程
野鳥の家を作ろう（観察会）	千葉演習林	清澄作業所管内	4/7
春の一般公開	千葉演習林	郷台作業所管内	4/21
夏の森林教室	千葉演習林	郷台作業所管内	7/16
高校生のための森と海のゼミナール	千葉演習林	演習林林内・千葉大施設	8/7
夏の森林教室	千葉演習林	郷台作業所管内	8/21
緑の教室	千葉演習林	清澄作業所管内	10/19
秋の一般公開	千葉演習林	郷台作業所管内	11/22
秋の一般公開	千葉演習林	郷台作業所管内	11/24
秋の一般公開	千葉演習林	郷台作業所管内	11/26
秋の一般公開	千葉演習林	郷台作業所管内	12/1
野鳥の家を作ろう（巣箱作成・設置）	千葉演習林	清澄作業所管内	12/8
平成18年度SPP教員研修「生物学講座」	千葉演習林	清澄・郷台管内	8/1
SPP自然観察会	千葉演習林	千葉演習林	11/24
市民公開講座	北海道演習林	北海道演習林	6/3
大麓山ハイキング登山会	北海道演習林	北海道演習林	7/16
子ども自然塾	北海道演習林	北海道演習林	9/29
自由見学日（栃本）	秩父演習林	栃本地区	5/16、7/18、 10/15、10/17
自由見学（大血川）	秩父演習林	大血川地区	4/15、4/18、6/20、 8/15、9/16、9/19、 11/19、11/21
公開講座「植物の見分け方入門-草本編-」	秩父演習林	大血川地区	4/23
公開講座「植物の見分け方入門-木本編-」	秩父演習林	栃本地区	5/21
公開講座「森の獣」	秩父演習林	大血川地区	7/1
公開講座「森の身体測定-森林調査入門-」	秩父演習林	栃本地区	10/7
公開講座「歴史」	秩父演習林	栃本地区	11/4
埼玉県立自然の博物館・秩父演習林共催 奥秩父バス探検ツアー	秩父演習林	秩父演習林樹木園	5/20
埼玉県立大滝げんきプラザ・秩父演習林共催 山菜とトロッコ廃路線	秩父演習林	秩父演習林入川軌道	5/27
埼玉県立大滝げんきプラザ・秩父演習林共催 夏休み親子でつくる一研究	秩父演習林	秩父演習林入川・大滝げんきプラザ	8/17
埼玉県立大滝げんきプラザ・秩父演習林共催 紅葉のトロッコ軌道に秋を訪ねて	秩父演習林	秩父演習林入川軌道	11/18
サポーター養成講座 第1回 秩父演習林の教育研究	秩父演習林	栃本地区	4/9
サポーター養成講座 第2回 秩父演習林秩父地方の歴史	秩父演習林	栃本地区	5/16
サポーター養成講座 第3回 秩父演習林の植物（樹木・草本）	秩父演習林	栃本地区	6/11
サポーター養成講座 第4回 秩父演習林における安全管理	秩父演習林	栃本地区	6/24
サポーター養成講座 第5回 秩父演習林の動物（哺乳類・昆虫）	秩父演習林	栃本地区	7/11
サポーター養成講座 第6回 森林生態系の管理と利用	秩父演習林	大血川地区	8/27
サポーター養成講座 第7回 林業生産と育林技術	秩父演習林	栃本地区	9/12

講 座 名	演 習 林 名	開催場所	日程
サポーター養成講座 第8回 森林の公益的機能	秩父演習林	栃本地区	10/17
サポーター養成講座 第9回 秩父演習林の管理・運営	秩父演習林	大血川地区・栃本地区	11/14
サポーター養成講座 第10回 森林環境教育	秩父演習林	栃本地区	11/18
サポーター養成講座 第11回 秩父演習林における安全管理	秩父演習林	栃本地区	11/28
ワサビ沢展示室特別開室	秩父演習林		10/21、10/22、 10/28、10/29、 11/3、11/4、11/5、 11/11、11/12
埼玉県秩父市立影森中学校 「林間学校自然体験」	秩父演習林	秩父演習林	5/30
共栄学園中学校・高等学校「自然体験学習」	秩父演習林	秩父演習林	8/16、/8/17、/8/18
東京都立墨田川高等学校 生物実習 「森と川を考える」	秩父演習林	秩父演習林	8/16
秩父市立尾田蔭中学校 「総合学習時間の校外学習」	秩父演習林	秩父演習林	9/29
森林認証・地域材認証と森林管理・木材利用 に関するワークショップ	愛知演習林	パルティ瀬戸 赤津研究林	4/20
公開講座「春の息吹を愛知演習林で感じて みませんか ～愛知演習林 春の見学会～」	愛知演習林	赤津研究林	4/23
とよた森林学校主体講座(第3回) 「森林は緑のダム」	愛知演習林	赤津研究林	6/11
犬山市・市民大学講座	愛知演習林	大田市健康福祉 館「さらさく ら」	7/8
公開講座「水辺の生き物を探そう」	愛知演習林	赤津研究林	8/20
公開講座「秋の見学会 ～紅葉の愛知演習 林を訪ねてみませんか～」	愛知演習林	赤津研究林	11/23
公開講座「海岸林を歩こう、植えよう」	愛知演習林	新居試験地	1/27
三重中学校 特別授業「地球環境と調査」	愛知演習林	愛知演習林	8/21
愛知朝鮮 第七初級学校 課外授業	愛知演習林	愛知演習林	10/18
自然体験ミーティング・ワークショップ 「ゆったりのんびり森あそび-湖畔の森ガイ ドウォーク・森を育てる」	富士演習林	富士演習林	10/20
親子森林教室	富士演習林	富士演習林	11/13
総合学習（静大附属浜松中学校）	樹芸研究所	青野研究林	4/9
総合学習（南上小学校）	樹芸研究所	青野研究林	5/1、5/18、5/25
県民の日イベント 「南伊豆発！里山の自然を見つけよう！」	樹芸研究所	青野研究林	8/16
森林教室（稲梓小学校）	樹芸研究所	青野研究林	12/4
青野の森自然ガイド養成講座	樹芸研究所	青野研究林	9/9、9/23、10/21、 11/11、11/23、12/9
休日公開	田無試験地	田無試験地	4/29、5/6、5/28、 6/11、8/27、 11/23、11/26
第8回子ども樹木博士	田無試験地	田無試験地	5/28
第9回子ども樹木博士	田無試験地	田無試験地	10/29
森林教室	田無試験地	田無試験地	8/27
公開講座	田無試験地	田無試験地	11/26

講師の派遣等

氏名	講 演 名	主催	開催場所	日程
井口和信	鳥沼自然教室	富良野市立鳥沼小学校	富良野市	5/11～10/3 (7回)
荒木田善隆	「総合的な学習」 木曾川にすむ鳥	犬山市立北小学校	犬山市立北小学校	6/27
荒木田善隆 高德佳絵	「カルチャー講座」 探鳥会指導	江南市立北部中学校	江南市立北部中学校	6/30
荒木田善隆	「環境教育」 探鳥会指導	犬山市立池野小学校	犬山市立池野小学校	9/5
荒木田善隆 高德佳絵	「総合的な学習」 探鳥会指導	犬山市立今井小学校	犬山市立今井小学校	11/6
荒木田善隆	「環境教育」 探鳥会指導	犬山市立池野小学校	犬山市立池野小学校	11/14
荒木田善隆 高德佳絵	「総合的な学習」 探鳥会指導	犬山市立今井小学校	犬山市立今井小学校	2/3
荒木田善隆 高德佳絵	探鳥会指導	犬山市立城東小学校	犬山市立城東小学校	3/26

学外各種委員会等委員

氏 名	委 員 会 等 名 称	委 員 会 等 所 属 機 関
山田 利博	評議員会／編集委員会	樹木医学会
山田 利博	樹木医研修カリキュラム委員会	(財)日本緑化センター
山田 利博	コーディネーター会議	(財)放射線利用振興協会
山中 征夫	スクールボランティア	鴨川市教育委員会
山中 征夫	鳥獣救護ボランティア	千葉県環境生活部自然保護課
山中 征夫	千葉県特定鳥獣保護管理計画（ニホンジカ）策定検討委員会	千葉県環境生活部自然保護課
村川 功雄	千葉県鳥獣保護員	千葉県環境生活部自然保護課
永島 初義	千葉県鳥獣保護員	千葉県環境生活部自然保護課
鈴木 祐紀	千葉県鳥獣保護員	千葉県環境生活部自然保護課
米道 学	千葉県鳥獣保護員	千葉県環境生活部自然保護課
山本 博一	副会長	森林計画学会
山本 博一	国土審議会北海道開発分科会	国土交通省
山本 博一	超長期ビジョン検討会検討員	環境省
山本 博一	千葉県国土利用計画地方審議会	千葉県
山本 博一	千葉県土石採取対策審議会	千葉県
山本 博一	千葉県森林審議会	千葉県
山本 博一	千葉県試験研究機関評価委員会	千葉県
山本 博一	鴨川市文化財保護審議会	鴨川市
酒井秀夫	社団法人北方林業会理事	北方林業会
酒井秀夫	上川南部流域森林・林業活性化協議会委員	上川南部流域森林・林業活性化協議会
梶 幹男	社団法人北方林業会理事	北方林業会
梶 幹男	上川南部流域森林・林業活性化協議会委員	上川南部流域森林・林業活性化協議会
尾張敏章	アドバイザー	財団法人北海道科学技術総合振興センター
梶 幹男	自然環境保全基礎調査検討会植生分科会検討員	環境省自然環境局生物多様性センター
梶 幹男	北海道林木育種協会顧問	北海道林木育種協会
後藤 晋	北海道林木育種協会評議員	北海道林木育種協会
後藤 晋	北海道林木育種協会編集委員	北海道林木育種協会
井口和信	北海道林木育種協会地方連絡員	北海道林木育種協会
後藤 晋	独立行政法人森林総合研究所重点研究分野評価会議評価委員	独立行政法人森林総合研究所
犬飼 浩	上川南部流域森林・林業活性化協議会監事	上川南部流域森林・林業活性化協議会
石橋整司	特別天然記念物カモシカ保護対策事業通常調査指導委員	埼玉県
石橋整司	飯能・名栗エコツーリズム推進協議会委員	飯能市

氏 名	委 員 会 等 名 称	委 員 会 等 所 属 機 関
石橋整司	埼玉県農林総合研究センター研究等評価委員会委員	埼玉県
尾張敏章	論文集編集委員	日本林学会北海道支部
尾張敏章	第5部会第10グループ副コーディネータ	IUFRO（森林研究機関国際連合）
尾張敏章	森林利用学会	理事
芝野博文	中部森林学会	役職理事
芝野博文	豊田森林学校検討委員会	豊田市
蔵治光一郎	とよた森づくり委員会	豊田市森林課
蔵治光一郎	環境基本計画見直し市民ワーキング	瀬戸市環境課
蔵治光一郎	地球温暖化防止のための多様な森林整備に関する調査事業にかかる検討委員会	林野庁（日本林業技術協会）
蔵治光一郎	綾川上流水源地域・観測マスタープラン策定調査事業に係わる委員会	林野庁九州森林管理局（水利科学研究所）
蔵治光一郎	国際誌編集委員会（副委員長）	水文・水資源学会
蔵治光一郎	国際委員会	水文・水資源学会
蔵治光一郎	評議員	日本森林学会
山本清龍	富士山北麓エコツーリズム推進協議会	環境省・山梨県・富士山北麓市町村
山本清龍	山中湖村エコツーリズム推進協議会委員	山中湖村
山本清龍	山中湖村地域教育力再生プラン実行委員会	山中湖村
坂上大翼	理事会/編集委員会	樹木医学会
坂上大翼	理事会	日本森林学会
鎌田直人	東北森林管理局 朝日山地森林生態系保護地域モニタリング調査者	農林水産省
鎌田直人	石川県兼六園マツ等樹木保全対策指導者	石川県

■国際交流■

交流事業

相手大学および機関名	国名	協定締結の有無	交流期間	目的
東北林業大学帽儿山実験林場	中華人民共和国	有	2005/3/28 (5年間)	森林経営に関する総合的な共同研究・技術交流

国際シンポジウム

参加者氏名	シンポジウム名	主 催	開 催 地	日 程
石橋整司・白石則彦・鈴木誠・龍原哲・露木聡・広嶋卓也・藤原章雄・山本博一・劉盛	森林計画学会夏期セミナー	森林計画学会	千葉演習林	7月25日～27日
蔵治光一郎	Symposium on Asian Winter Monsoon: Winter MONEX: A Quarter Century and Beyond	Malaysia Meteorology Department	Kuala Lumpur	10月16日～18日
芝野伸策	17th International Conference on Bear Research and Management	International Association for Bear Research and Management	長野県軽井沢町	10月2日～6日
尾張敏章	The 7th International Symposium on Forest Resource Management and Mathematical Modeling	FORMATH KOBE 2007	Kobe・Japan	3月17日～18日
蔵治光一郎	3rd International Conference on Asia Pacific Association of Hydrology and Water Resources	Asia Pacific Association of Hydrology and Water Resources (APHW)	Bangkok	4月4日～7日
大川あゆ子	12th International symposium on Trichoptera(第12回国際トビケラシンポジウム)	UNAM (Universidad Nacional Autonoma de Mexico)	メキシコ(メキシコシティ)	6月18日～20日
尾張敏章	Forest Products Society 60th International Convention	Forest Products Society	Newport Beach・CA・USA	6月25日～28日

外国人研究者の来訪

来 訪 目 的	日 程	国 籍	来訪人数
Publishing in Scientific Journals	7月24日～7月25日	アメリカ合衆国	1
演習林視察・森林計画学会夏期セミナー参加	7月24日～7月28日	台湾	5
タイミンタチバナの個体群調査	8月7日～9月29日 2月26日～3月26日	ペルー	1
米国への侵入害虫アオナガタマムシの採集	8月21日～8月25日	アメリカ合衆国	1
高齢林視察	11月28日	韓国	2
北海道針葉樹林視察	10月3日～7日	カナダ	1
北海道針葉樹の成長メカニズムと更新ダイナミクスの北半球における比較研究	5月16日～3月31日	カナダ	1
演習林視察・講演	9月2日～5日	フィンランド	2
博士論文	10月15日～11月30日	ネパール	1

海外渡航

氏名	所属	行き先	用務	出発日	帰国日
鎌田直人	研究部	オーストラリア	I U F R 拡大理事大会・共同研究打ち合わせ	5月2日	5月10日
鎌田直人	研究部	台湾	台湾に生息するカシノナガキクイムシおよびその近縁種の生息調査および採集	1月10日	1月16日
鎌田直人	研究部	シンガポール	現地視察	2月27日	3月4日
安村直樹	研究部	オーストラリア	オーストラリア連邦におけるウッド・マイレージに関する聞き取り調査と資料収集を行うため	12月10日	12月19日
酒井秀夫	北海道演習林	オーストラリア	国際森林研究機関連合理事会出席	5月2日	5月8日
尾張敏章	北海道演習林	アメリカ	第60回米国林産物学会国際会議研究発表及び研究打合せ	6月24日	7月2日
大川あゆ子	北海道演習林	メキシコ	石灰岩地帯における水生昆虫の研究・国際トビケラシンポジウム参加	6月18日	6月24日
宮本義憲	北海道演習林	中国	中国東北部の北方針広混交林と石灰岩地帯における植生調査	8月13日	8月21日
木村徳志	北海道演習林	中国	中国東北部の北方針広混交林と石灰岩地帯における植生調査	8月13日	8月21日
宮本義憲	北海道演習林	アメリカ	IUFROナラ学会出席及び北米針広混交林生態調査	9月23日	10月5日
中川雄治	北海道演習林	アメリカ	IUFROナラ学会出席及び北米針広混交林生態調査	9月23日	10月5日
遠國正樹	北海道演習林	アメリカ	北米針広混交林生態調査	9月28日	10月5日
後藤 晋	北海道演習林	中国	天然林施業と更新動態に関する研究打合せ	10月16日	10月27日
尾張敏章	北海道演習林	ドイツ	欧州企業の社会的責任プログラムにおける森林認証の戦略機能に関する調査及び欧州木材企業に関する資料収集	11月5日	11月10日
尾張敏章	北海道演習林	アメリカ	林産物マーケティングの理論と実証に基づく計画手法の体系化に関する調査	1月10日	1月19日
栗田直明	秩父	ドイツ（フライブルク大学）	東京大学職員海外研修（短期） 「ドイツのシュバルツバルトにおいて森林の多面的機能の持続的発揮のための取り組み等に関する研修」	10月2日	10月10日
蔵治光一郎	愛知	マレーシア	キナバル国立公園内の水文試験地における量水観測のメンテナンス、降雨時の水サンプリング、流域境界測量	5月22日	5月31日

蔵治光一郎	愛知	マレーシア	キナバル国立公園内の溪流測量・自動採水期の撤収、ランビル国立公園内での気象観測機器メンテナンス、クチン、クアラルンプールでのデータ収集他	7月28日	8月9日
蔵治光一郎	愛知	タイ・バンコク	ミャンマーイラワディ川調査・ミャンマー水文セミナー出席・アジア太平洋水文水資源協会第3回国際会議出席	10月8日	10月18日
蔵治光一郎	愛知	タイ	メーチャム流域に設けられた雨量計のデータ回収とメンテナンス	11月11日	11月17日
蔵治光一郎	愛知	マレーシア	キナバル国立公園における水文水質観測メンテナンス・流域境界測量、ランビル国立公園における気象水文水質観測メンテナンス、クチン森林局にて打ち合わせ、クチン灌漑海水局にてデータ取得の交渉	11月20日	11月29日
蔵治光一郎	愛知	マレーシア	キナバル国立公園における水文水質観測メンテナンス・流域境界測量、ランビル国立公園における気象水文水質観測メンテナンス	3月11日	3月17日
高上馬希重	樹芸研究所	中国	第11回国際植物細胞分子生物学会に参加、研究発表	8月12日	8月19日
高上馬希重	樹芸研究所	南アフリカ	第2回アフリカ・イノベーション・科学技術展示会、バイオテクロロジー国際会議Bio2Bis SA2006に参加	9月20日	10月1日

■出版広報活動■

演習林報告

「演習林報告」115号、116号を発行した。

演習林報告第115号 平成18年7月31日発行

クリシュナ バハドゥール カルキ・芝野博文 風化花崗岩上に成立した森林流域からの土壌表層侵食 …………… —GIS に依拠したUSLE式による予測値と観測値の比較—	1-36
金 貞福・松本雄二・邵 順流・秋山拓也・飯山賢治・渡辺達三 マルチングにおける都市緑化樹木落葉の細胞壁化学成分の経時的変化 ……	37-50
金 貞福・松本雄二・邵 順流・秋山拓也・飯山賢治・渡辺達三 マルチング前後のイチヨウ落葉の葉片および葉柄細胞壁の化学構造 ……	51-64
鴨田重裕・井上広喜・寺田珠実 リグノスチルベンジオキシゲナーゼアイソザイム遺伝子群の解析 ……	65-72
鴨田重裕・笠原久臣・高橋康夫・木村徳志・廣川俊英・檜山 亮・折橋 健・ 小島康夫・寺沢 実 カフェテリア試験を用いた不織布のエゾシカ樹皮食害防除効果の評価 ……	73-80
香坂 玲 分権化時代における森林のレクリエーション機能への自治体によ …… る投資負担の現状：バーデン・ヴュルテンベルク州における三つ の市有林の事例から	81-98

演習林報告第116号 平成18年12月25日発行

竹本太郎 熊本県南小国町における学校林の存続要因 ……………	1-22
竹本太郎 昭和戦後期・現代における学校林の再編 ……………	23-99
金 貞福・邵 順流・黄 勝澤・蘭 澤松・飯山賢治 中国西北部（寧夏）毛烏素沙漠における方格沙障に使われたムギ …… ワラによる砂地のクラスト形成	101-112
本田裕子 放鳥直後における住民の視点からのコウノトリ放鳥の意義 …………… —新豊岡市全域のアンケート調査から	113-143
泉 桂子・古井戸宏道 鹿妻穴堰普通水利組合における水源林の形成過程とその経営展開 …… —戦前・戦中期を対象として—	145-191
藤田直子 都市における緑地としての社叢空間の評価に関する研究（1） …… —緑地と社叢空間の関係及び変遷—	193-251

井上広喜・兼行民治郎・寺田珠実・鴨田重裕 イチョウ細胞培養系におけるステロールと細胞増殖	253-265
斎藤 馨・藤原章雄・藤縞亜矢子・矢野安樹子・岡本拓也 東京大学秩父演習林森林映像データを用いた森林環境教育用マル チメディアコンテンツの製作検討	267-281

演習林

「演習林」46号を発行した。

演習林第46号 平成18年1月31日発行

泉 桂子・鈴木 誠 千葉演習林沿革史資料(5)	1-56
—千葉演習林第1次経営計画 「千葉縣下演習林經營方案」(付属簿表及び図面)—	
根岸賢一郎・丹下 健・鈴木 誠・山本博一 千葉演習林沿革史資料(6)	57-121
—松野先生記念碑と林学教育事始めの人々—	
浅野友子・犬塚将嗣・大川あゆ子・加賀谷隆・梶浦雅子・木村徳志・齋藤奈 緒美・酒井秀夫・芝野博文・橘 治国・西田継・堀江健二・宮本義憲・脇 山地森林流域における溪流環境及び生態系総合調査	123-158
北海道演習林水系総合調査の報告(II)	
農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 千葉演習林第12期試験研究計画	159-213
(自平成17年度至平成26年度)	
農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 北海道演習林第12期試験研究計画	215-350
(自平成18年度至平成27年度)	
山中征夫 東京大学千葉演習林におけるニホンジカの生息数調査	351-369
(1986年, 1991-2006年の調査結果報告)	
農学生命科学研究科附属演習林 東京大学演習林気象報告(自2005年1月至2005年12月)	371-394

科学の森ニュース

号 数	発 行 日	表 紙 見 出 し
第34号	平成18年6月9日	冬の森林観察 ～春を待つ樹木たち～
第35号	平成18年9月15日	第12回市民公開セミナー「樹海めぐり」開催
第37号	平成18年12月10日	森林教室 世界に一つの『樹木図鑑』を作ろう
第34号	平成19年3月10日	師走の寒さもなんのその 大盛況！東大演習林影森祭

演習林出版物

タイトル	発行	発行日
科学の森たんけん 5「秩父演習林の植物」	秩父演習林	平成18年4月1日
科学の森たんけん 6「秩父演習林のキノコ類」	秩父演習林	平成18年10月1日
科学の森たんけん 7「森の身体測定」	秩父演習林	平成18年10月1日
東京大学愛知演習林ブックレット① 森林認証・地域材 認証と森林管理・木材利用 ～愛知演習林ワークショップ の記録～	愛知演習林	平成18年10月20日
おもしろ研究 ちちぶの森	秩父演習林	平成18年10月30日
千葉演習林公式ガイドブック たんけん・科学の森＜改 訂版＞	千葉演習林	平成18年11月23日
東京大学愛知演習林リーフレット① 赤津研究林の見ど ころ	愛知演習林	平成18年12月1日

新聞・雑誌・放送等

演 習 林 名	メ デ ィ ア	日 付	内 容
千葉演習林	南房総生活情報紙クリップ	4月8日	春の一般公開案内
千葉演習林	房日新聞	4月12日	鴨川市の巨木「観音桜」を池田助手が鑑定
千葉演習林	房日新聞	4月14日	春の一般公開案内
千葉演習林	広報かもがわ	4月15日	春の一般公開案内
千葉演習林	房日新聞	4月22日	千葉県鳥獣保護員の委嘱（千葉演から4名）
千葉演習林	房日新聞	4月29日	千葉県鳥獣保護員に辞令
千葉演習林	房日新聞	4月30日	「野鳥の家をつくろう」活動報告
千葉演習林	森づくりフォーラム ニュース	5月1日	千葉演習林紹介（相川美絵子執筆）
千葉演習林	房日新聞	5月21日	「高校生のための森と海のゼミナール」案内
千葉演習林	房日新聞	6月2日	「夏の森林教室」参加者募集
千葉演習林	NHK総合	6月15日	ヤマビル関連報道（首都圏ネットワーク）
千葉演習林	朝日新聞 （ちばマリオン）	6月23日	「夏の森林教室」参加者募集
千葉演習林	広報かもがわ	6月25日	「高校生のための森と海のゼミナール」案内
千葉演習林	鴨川市学園のまちづくり 通信	第4号H18.6月	野鳥の家をつくろう(実施報告)
千葉演習林	房日新聞	8月20日	「高校生のための森と海のゼミナール」実施報告
千葉演習林	岐阜新聞	8月27日	郡上市「白山文化シンポジウム-歴史と自然が地域を豊かにする-」開催 山本博一教授が講演
千葉演習林	中日新聞 中濃版	8月27日	郡上市「白山文化シンポジウム-歴史と自然が地域を豊かにする-」開催 山本博一教授が基調講演
千葉演習林	フジテレビ	9月8日	ヤマビル関連報道（スーパーニュース）
千葉演習林	房日新聞	10月14日	秋の一般公開案内
千葉演習林	房日新聞	10月27日	「みどりの教室（天津小学校）」実施報告
千葉演習林	広報かもがわ	11月5日	秋の一般公開案内
千葉演習林	ちば県民だより	11月5日	秋の一般公開案内
千葉演習林	南房総生活情報紙クリップ	11月11日	秋の一般公開案内「近くで遊楽」
千葉演習林	広報かもがわ	11月15日	「野鳥の巣箱をかけよう」案内
千葉演習林	千葉日報	11月16日	秋の一般公開案内
千葉演習林	房日新聞	11月17日	「野鳥の巣箱をかけよう」案内
千葉演習林	千葉日報	11月30日	「野鳥の巣箱をかけよう」案内
千葉演習林	チバテレビ	11月30日	ニュース番組「C-MASTER」猪ノ川紅葉情報

演 習 林 名	メ デ ィ ア	日 付	内 容
千葉演習林	房日新聞	12月7日	展望台（社説）「学術の森と猪ノ川溪谷」
千葉演習林	房日新聞	12月20日	「野鳥の巣箱をかけよう」実施報告記事
千葉演習林	房日新聞	3月17日	春の一般公開案内「新緑の溪谷楽しんで」
北海道演習林	日刊富良野	4月8日	山部文化協会が創立60周年記念事業で北海道演習林の廃材を利用したコカリナ演奏会を開催
北海道演習林	日刊富良野	4月13日	富良野市教育委員会が東大演習林内での遺跡発掘調査の報告書作成
北海道演習林	日刊富良野	4月15日	北海道演習林の廃材を利用して制作したコカリナ演奏会開催
北海道演習林	北海道新聞	6月1日	東大演習林酒井林長が退任 「森に育てられた」
北海道演習林	北海道新聞	6月5日	市民公開セミナー「春の樹海めぐり」開催される
北海道演習林	静岡新聞		森をゆく②北海道東大演習林（1） 緑化へ科学と 人手駆使
北海道演習林	高知新聞	6月14日	森をゆく<3>北海道東大演習林② どろ亀さんの林分施業法
北海道演習林	岐阜新聞	5月23日	森をゆく◆4◆北海道・東大演習林③ 「理想の森」へ木を伐る
北海道演習林		6月10日	森をゆく<5>北海道東大演習林④ 難しいエゾマツの更新
北海道演習林		7月5日	森をゆく<6>北海道東大演習林⑤ 巨大なミズナラさん
北海道演習林		7月12日	森をゆく<7>北海道東大演習林⑥ 厳寒の森に凍裂の音
北海道演習林	読売新聞	12月22日	東大解剖 ― 第2部 赤字でも理想貫く演習林
秩父演習林	市報ちちぶ	4月11日	自由見学日2006春～初夏
秩父演習林	市報ちちぶ	5月11日	公開講座「森林の獣」
秩父演習林	NHK教育テレビ	5月17日	10min.ボックス国語 第3回「トロッコ （芥川龍之介作）」森林軌道の映像提供
秩父演習林	NHK教育テレビ	5月24日	10min.ボックス国語 第3回「トロッコ （芥川龍之介作）」森林軌道の映像提供
秩父演習林	市報ちちぶ	7月11日	自由見学日2006夏～秋
秩父演習林	市報ちちぶ	8月11日	公開講座「森の身体測定」
秩父演習林	広報はんのう	9月2日	自由見学日2006夏～秋
秩父演習林	市報ちちぶ	9月11日	公開講座「秩父演習林の歴史」
秩父演習林	広報はんのう	10月2日	ワサビ沢展示室特別開室
秩父演習林	広報おがの	10月2日	ワサビ沢展示室特別開室
秩父演習林	岳人	10月2日	森林軌道の写真掲載

演 習 林 名	メ デ ィ ア	日 付	内 容
秩父演習林	市報ちちぶ	10月11日	ワサビ沢展示室特別開室
秩父演習林	市報ちちぶ	11月11日	東大演習林影森祭
秩父演習林	広報ながとろ	3月2日	サポーター養成講座2007
秩父演習林	市報ちちぶ	3月11日	サポーター養成講座2007
愛知演習林	木材工業新聞	4月28日	森林認証・地域材認証と森林管理・木材利用のワークショップ 東大愛知演習林が初開催、72名が参加
愛知演習林	日刊木材新聞	5月2日	東大愛知演習林で「森林認証・地域材認証と森林管理・木材利用のワークショップ」を開催、「森林認証」ワークショップ宣言を採択
愛知演習林	熊本日日新聞	5月14日	「森林に洪水軽減効果」 球磨川基本高水で東京大大学院講師 国交省主張に反論
愛知演習林	週刊 ひとよし 419号	5月21日	森林は洪水を緩和する！「球磨川の基本高水に反映を」保水力について東大大学院の蔵治氏
愛知演習林	熊本日日新聞	6月3日	球磨川水系 森林の洪水緩和機能は？ 東京大大学院 蔵治光一郎氏に聞く
愛知演習林	京都新聞（丹後中丹）	8月27日	水環境に配慮を 舞鶴で由良川フォーラム
愛知演習林	毎日新聞（きょうと丹波・丹後）	8月27日	「魚」「森」主題に講演 第2回由良川フォーラム 舞鶴
愛知演習林	徳島新聞	9月3日	河川整備 市民参加のあり方探る 徳島市 有識者らが研究会
愛知演習林	朝日新聞（徳島）	9月3日	吉野川整備計画 国の姿勢を批判 学者らが研究会
愛知演習林	瀬戸 尾張旭 長久手 中日ホームニュース （中日新聞社）	9月8日	水辺の生き物見つけ歓声 瀬戸市 東京大学愛知演習林で親子ら35人
愛知演習林	日刊木材新聞	10月14日	森林認証WSのブックレット出版 東大愛知演習林
愛知演習林	毎日新聞	11月11日	検証 錦川水害 治山と減災 森の治水力 川づくりに森林整備を 人工林の荒廃調査急務
愛知演習林	神戸新聞	11月11日	国際ため池シンポジウム開催 「継承と再生テーマに」 海外専門家も防災や管理討議
愛知演習林	毎日新聞	11月19日	地球温暖化防止フェスタ
愛知演習林	朝日新聞（宮崎）	11月19日	温暖化防止 活動を紹介 今日まで「フェス」 企業など21団体参加

演 習 林 名	メ デ ィ ア	日 付	内 容
愛知演習林	朝日新聞 (熊本)	12月4日	葉・幹の保水力 注目を 森を守る全国集会 ダム反対派に指摘
愛知演習林	朝日新聞	12月6日	「今民参加の森林づくり」シンポジウム
愛知演習林	中日新聞社 とよたホームニュース	12月9日	「森の健康診断」全国会議開催
愛知演習林	朝日新聞 (愛知)	1月14日	「 ” 緑の砂漠 ” 手入れを」 森の健康診断 豊田で全国会議開く
愛知演習林	中日新聞	1月14日	「手法の発展 普及へ鍵」 森の健康診断全国会議
愛知演習林	中日新聞 (湖西)	1月28日	「海岸林守れ 児童ら植樹」 東大と合同公開講座「早く大きく育て」
愛知演習林	静岡新聞	1月28日	「松林復元願い植樹」 新居の児童ら 松枯れの仕組みも学ぶ
愛知演習林	中日新聞 (浜松・遠州版)	1月31日	「松くい虫に負けない」 抵抗性クロマツ植林
愛知演習林	熊本日日新聞	2月27日	” 健康 ” な森 大切さ学ぶ
愛知演習林	中日新聞 (県内版)	3月8日	「立ち枯れ松の防風林 救え」 代替樹種を試験植栽
愛知演習林	静岡新聞 (浜松圏)	3月8日	「半世紀かけて樹林形成観察」 11種600本 適した樹種を特定へ
愛知演習林	中日新聞	3月14日	枯死した松除去 新型集材機実験
愛知演習林	静岡新聞	3月14日	枯死木を効率処理 新型集材機を実演
愛知演習林	環境&健康マガジン FIELD	2007 Number2 P31-32	「キャンパス ウォッチング」 東京大学愛知演習林
富士演習林	山梨日日新聞	1月20日	エコツーリズム、定義や活動報告-南アでシ ンポ (山本清龍講演)
樹芸研究所	産経新聞	11月25日	自然ガイドの卵、初の里山ツアー
樹芸研究所	伊豆新聞	11月25日	自然ガイド22人デビュー
樹芸研究所	伊豆新聞	12月7日	自然ガイドを養成

■利用状況■

演習林を利用して行った論文等

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年
武田圭史	東京大学千葉演習林袋山沢試験地における降雨出水時の渓流水NO3濃度形成について	東京大学卒業論文		1-26	2006
石塚 航	秩父天然林におけるイヌブナ実生の消長に関する研究	東京大学卒業論文		1-106	2006
西島 健	黒色土の難分解性有機物を形成する炭素供給源の検討	東京大学卒業論文		1-35	2007
中村和彦	気象データによって森林長期観測映像の視界状態を判別する手法の開発	東京大学卒業論文		1-59	2006
Anna SUGIYAMA	Evaluation of bioactivity in embryonic axes by vital staining after exposure to liquid nitrogen on temperate recalcitrant seed species, <i>Quercus myrsinaefolia</i> and <i>Q. glauca</i>	Graduation thesis		77	2007
柳洋介	シカが土壤環境に及ぼす影響：広域パターンと野外実験	東京大学修士論文		1-47	2006
寺田佐恵子	シカの採食がアオキの受粉と果実寄生に与える相乗的間接効果	東京大学修士論文		1-39	2006
Takafumi OHSAWA	Study on influences of mountainous topography and environment on genetic structure of oak species	東京大学修士論文		1-148	2006
越前未帆	河口生樹木ハマボウ (<i>Hibiscus hamabo</i>) の生育地の現状と集団維持機構に関する研究	東京大学修士論文		1-171	2006
毛塚由佳理	高温による熱帯樹木の根の通水性の低下	東京大学修士論文		1-75	2006
村松 昭宣	広葉樹再生林の下層における光環境と下層木の成長	東京大学修士論文		1-180	2006
松崎潤	材形成による茎の光屈折	東京大学博士論文		1-68	2007
Yoshiaki TSUDA	Study on genetic structure of <i>Betula maximowicziana</i> in various geographical scales	東京大学博士論文		1-199	2006
Kana Kamimura	Developing a decision-support system for wind risk modelling as a part of forest management in Japan	東京大学博士論文		1-127	2006
西山馨	山地小流域スギ幼齢林内における渓流水流出経路の推定ー東京大学千葉演習林袋山沢における地下水位、地下水水質を用いた検討ー	東京農業大学卒業論文		1-31	2006
三谷直子	森林土壌中CO2濃度の連続観測による土壌呼吸速度の推定	東京農業大学卒業論文		1-39	2006
秦秀和	伐採が山地斜面における森林の土壌水分特性に与える影響	東京農業大学卒業論文		1-29	2006
岡田佳子	花崗岩山地溪流の砂防堰堤間における溪流形成要素の特性について	東京農業大学卒業論文		1-54	2006

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年
柴田章治	東京大学愛知演習林白坂南谷流域における地形が降雨流出応答に及ぼす影響	東京農業大学卒業論文			2006
竹内琢磨	樹木年輪を用いた太陽黒点と気候変動に関する研究	立正大学地球環境科学部・卒業論文			2006
茂内康裕	カエデ属の伸長様式と通水能力	平成18年度東邦大学卒業研究報告書		1-24	2006
片渕康隆	堆積相の面的炭層解析によるタービダイトの堆積過程- 鮮新統安野層An55層準の例 -	福岡大学卒業論文		1-100	2006
伊藤昌明	日本列島における養菌性キクイムシの個体群構造	名古屋大学修士論文		1-104	2006
菊池陽太	天然林伐採後のイヌブナ(<i>Fagus japonica</i> Maxim.)二次林の更新過程とイヌブナの萌芽再生機構	宇都宮大学修士論文		1-70	2007
坂巻のぞみ	亜高山性針葉樹シラビソAbies Veitchiiの冬季の水分収支における成木と稚樹の比較	平成18年度東邦大学修士論文		1-44	2006
堤 真知子	サクラてんぐ巣病菌の宿主内における分布	東京大学卒業論文		1-32	2007
西垣 真由美	愛知演習林新居試験地のマツノザイセンチュウとマツノマダラカミキリの集団遺伝構造	東京大学修士論文		1-47	2007
鶴川 健也	都市の樹林地およびマトリクス空間における鳥類の種多様性とマトリクス空間の属性の関係	東京大学修士論文		1-47	2007
横田 和歌子	斜面方位によって異なるアラカシの分布を規定する環境要因に関する研究	東京大学修士論文		1-63	2006
白石 彩水	ニセアカシア根粒菌の多様性と空間構造	東京大学修士論文		1-79	2007
山本祥子	自然体験型環境学習の補完教材開発に関する研究- 秩父演習林サポーター養成講座を事例として -	東京大学修士論文			2007
Yuko Itoh	Atmospherically-derived Lead and Cadmium Behavior in a Forest Ecosystem	東京大学博士論文		1-109	2006
大和 万里子・松下 範久・寶月 岱造	Raffaella quercivoraはどのように通水障害を引き起こすのか	日林学術講	117	A31	2006
西森 大輔・奈良 一秀・寶月 岱造	アカマツと広葉樹根系が同所的に存在する場所における外生菌根菌群集の研究	日林学術講	117	F33	2006
石塚成宏・阪田匡司	日本の森林土壌に適合するガス拡散係数推定式について- 主として黒色土と褐色森林土を対象として -	森林立地	48	9-15	2006
堤 真知子・高橋 由紀子・松下 範久・寶月 岱造	サクラてんぐ巣病菌の罹病葉内での分布	樹木医学会講演要旨集	11	TP-11	2006
小松 雅史・孫 貞阿・松下 範久・寶月 岱造	クロマツへの接種によるマツノザイセンチュウのF-WGA染色性の変化	樹木医学会講演要旨集	11	TP-18	2006
JUN MATSUZAKI, MASAYA MASUMORI, TAKESHI TANGE	Stem phototropism of Trees: A Possible Significant Factor in Determining Stem Inclination on Forest Slopes	Annals of Botany	98	573-581	2006

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年
YUKI G. BABA, RICHARD J. WALTERS and TADASHI MIYASHITA	Host-dependent differences in prey acquisition between populations of a kleptoparasitic spider <i>Argyrodes kumadai</i> (Araneae: Theridiidae)	Ecological Entomology	32	38-44	2007
小松光、イヘイカング、 久米朋宣、吉藤奈津 子、堀田紀文	Transpiration from a <i>Cryptomeria japonica</i> plantaion, part 1: aerodynamic control of transpiration	HYDROLOGICAL PROCESSES	20	1309-1320	2006
小松光、イヘイカング、 久米朋宣、吉藤奈津 子、堀田紀文	Transpiration from a <i>Cryptomeria japonica</i> plantaion, part 2: responses of canopy conductance to meteorological factorys	HYDROLOGICAL PROCESSES	20	1321-1334	2006
広嶋卓也、伊藤奈々恵	An Estimate of Full Density Curves for Branches on Standing Trees:A Case Study of the Evergreen Broadleaf Tree, <i>Quercus acuta</i> , in the Tokyo University Forest in Chiba, Japan	J For Plann	12	71-79	2006
Yuko Itoh, Satoru Miura, shuichiro Yoshinaga	Atomospheric lead and cadmium deposition within forests in the Kanto district, Japan	Journal of Forest Research	11	137-142	2006
Kazuki Nanko, Norifumi Hotta, Masakazu Suzuki	Evaluating the influence of canopy species and meteorological factors on throughfall drop size distribution	Journal of Hydrology	329	422-431	2006

2006年度 演習林を利用して行った論文数	
千葉	15
北海道	1
秩父	9
愛知	3
富士	2
樹芸	5
田無	16
研究部	1
合計	52

※複数の演習林にまたがった論文がある場合、各演の合計と総計は一致しない

全利用者

演習林名:千葉演習林

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	1	鴨川市有害鳥獣対策協議会	0	0	0	1	1	有害鳥獣駆除	
2	4	5	東大・農・森林理水および砂防工学研究室	1	2	3	0	6	総合対照流域法による水文過程や水質形成、土壌呼吸メカニズムの評価、気象観測	札郷宿泊施設
3	4	1	東大・農・造林学研究室	1	0	1	0	2	巻枯らしの水分生理学的研究および「造林学実験」実習地下見	
4	4	1	内浦山県民の森	0	0	0	6	6	4月22日(土)実施イベント「清澄山新緑ウォーク」下見	
5	4	1	東大・農・生物多様性科学研究室	1	0	2	0	3	シカの採食によるアオキの孤立化が果実生産に与える影響	
6	4	1	東大・農・千葉演習林	4	0	0	24	28	公開講座「野鳥の家をつくろう(観察会)」	
7	4	2	東大・農・生物多様性科学研究室	1	0	0	0	1	2つのスケールにおいてサラグモ類が造網に必要な足場量から受ける影響	清澄宿泊施設
8	4	2	千葉演習林里親	0	0	0	2	2	里親の木の見学	清澄宿泊施設2
9	4	1	東大・農・森林理水および砂防工学研究室	1	0	1	0	2	総合対照流域法による水文過程や水質形成、土壌呼吸メカニズムの評価、気象観測	
10	4	2	NPO法人房総の野生生物調査会	0	0	0	4	4	NPO法人房総の野生生物調査会4月例会	郷台宿泊施設
11	4	1	石塚サン・トラベル株式会社	0	0	0	36	36	自然観察会	
12	4	1	千葉県立君津亀山少年自然の家	0	0	0	40	40	平成18年度主催事業「新緑の亀山観察会」	
13	4	1	石塚サン・トラベル株式会社	0	0	0	28	28	自然観察会	
14	4	1	OK自然観察会	0	0	0	15	15	自然観察会	
15	4	1	東大・農・保全生態学研究室	1	0	1	0	2	水生昆虫の生態学的研究	
16	4	1	東大・農・田無試験地	1	0	0	0	1	ヒメコマツがん腫病の病原および発生生態解明	
17	4	3	千葉演習林ボランティア会Abies	0	0	0	7	7	春の一般公開サポート	
18	4	2	東大・農・生物多様性科学研究室	1	0	0	0	1	2つのスケールにおいてサラグモ類が造網に必要な足場量から受ける影響	清澄宿泊施設
19	4	1	内浦山県民の森	0	0	0	2	2	4月22日(土)実施イベント「清澄山新緑ウォーク」下見	
20	4	1	東大・農・千葉演習林	0	0	0	352	352	春の一般公開	
21	4	1	東大・農・千葉演習林	0	0	0	164	164	春の一般公開	
22	4	1	立正大学 地球環境学部	1	0	0	0	1	流水による岩盤の侵食	
23	4	1	内浦山県民の森	0	0	0	100	100	「清澄山新緑ウォーク」	
24	4	1	千葉県環境生活部大気保全課	0	0	0	1	1	化学物質大気環境調査、ダイオキシン類調査および非汚染地域調査	
25	4	5	東大・農・生物多様性科学研究室	1	0	0	0	1	空間明示モデルによる大型哺乳類の動態予測と生態系管理	清澄宿泊施設2
26	4	4	東大・農・生物多様性科学研究室	0	0	2	0	2	シカ採食が引き起こす土壌侵食プロセスの解明	清澄宿泊施設
27	4	3	東大・農・生物多様性科学研究室	0	1	0	0	1	2種のホストが同所的に生育する環境におけるジャコウアゲハの形質変異パターン	清澄宿泊施設2
28	4	3	東大・農・森圏管理学研究室	1	0	0	0	1	モミの遺伝的多様性維持機構の解明	札郷宿泊施設
29	4	1	全国森林組合連合会	0	0	0	2	2	千葉演習林試験地他視察	
30	4	2	東大・農・生物多様性科学研究室	0	0	1	0	1	シカの採食によるアオキの孤立化が果実生産に与える影響	清澄宿泊施設2
31	4	3	千葉演習林ボランティア会Abies	0	0	0	3	3	林道巡回サポート	
32	5	5	東大・農・造林学研究室	3	19	6	0	28	造林学実験	清澄宿泊施設
33	5	1	千葉県森林インストラクター会	0	0	0	10	10	市津公民館自然観察会下見兼観察会	
34	5	1	東大・農・生物多様性科学研究室	0	0	1	0	1	修士論文のための調査(アオキの花数調査)	
35	5	4	東大・農・生物多様性科学研究室	0	1	0	0	1	2種のホストが同所的に生育する環境におけるジャコウアゲハの形質変異パターン	清澄宿泊施設2
36	5	3	森林総合研究所 森林管理研究領域	0	0	0	1	1	高精細データを用いた林分構造の把握	札郷宿泊施設
37	5	6	東大・農・森林理水および砂防工学研究室	0	7	2	0	9	総合対照流域法による水文過程や水質形成、土壌呼吸メカニズムの評価、気象観測	札郷宿泊施設

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
38	5	3	東大・農・森林植物学研究室	1	18	4	0	23	森林植物学実験野外実習	清澄宿泊施設
39	5	5	東大・農・田無試験地	1	0	0	0	1	天敵としてのオサムシの生態に関する基礎的研究	清澄宿泊施設
40	5	4	東大・農・森林経理学研究室	3	9	1	0	13	2006年度森林経理／計画学実習	札郷宿泊施設
41	5	1	東大・農・田無試験地	1	0	0	0	1	ヒメコマツがん腫病の病原および発生生態解明	
42	5	1	市原市立市津公民館	0	0	0	30	30	身近にある演習林において人間生活に与える森林の重要性を広く認識する	
43	5	3	東大・農・生物多様性科学研究室	0	0	1	0	1	シカ採食が引き起こす土壌侵食プロセスの解明	清澄宿泊施設
44	5	1	東大・農・森園管理学研究室	0	1	0	0	1	ミヤマトベラの繁殖特性に関する研究	
45	5	2	千葉演習林ボランティア会Abies	1	0	0	3	4	5月度定期活動	清澄宿泊施設
46	5	1	東大・教養学部	1	24	0	0	25	全学体験ゼミナール「森に学ぶ(4)危険生物の知識」	
47	5	2	東大・農・森林経理学研究室	1	0	1	0	2	成長試験地(吉田試験地)の定期測定	清澄宿泊施設2
48	5	2	東大・農・演習林研究部	1	0	0	0	1	千葉演習林の視察	清澄宿泊施設
49	5	1	君津市立小糸中学校	0	0	0	108	108	総合学習(調べ学習)およびハイキング	
50	5	2	立正大学地球環境学部	1	0	0	0	1	流水による岩盤の侵食	札郷宿泊施設
51	5	3	日本獣医生命科学大学獣医学部	3	47	0	0	50	野生動物学実習	清澄宿泊施設
52	5	2	東大・農・生物多様性科学研究室	1	0	0	0	1	空間明示モデルによる大型哺乳類の動態予測と生態系管理	札郷宿泊施設
53	5	2	NPO法人房総の野生生物調査会	0	1	0	5	6	NPO法人房総の野生生物調査会5月例会	郷台宿泊施設
54	5	2	東大・農・森林経理学研究室	1	0	0	0	1	生長測定	清澄宿泊施設2
55	5	2	東大・農・生物多様性科学研究室	0	1	0	0	1	宿主の形質変化を通じたジャコウアゲハの生活史の分化	清澄宿泊施設
56	5	3	日本獣医生命科学大学獣医学部	3	46	0	0	49	野生動物学実習	清澄宿泊施設
57	5	1	東大・農・田無試験地	1	0	0	0	1	天敵としてのオサムシの生態に関する基礎的研究	
58	6	5	東大・農・生物多様性科学研究室	1	0	0	0	1	空間明示モデルによる大型哺乳類の動態予測と生態系管理	清澄宿泊施設2
59	6	1	東京農業大学造林学研究室	2	30	0	0	32	千葉演習林内の植物等を見学	
60	6	5	東大・農・森林理水および砂防工学研究室	0	4	3	0	7	総合対照流域法による水文過程や水質形成、土壌呼吸メカニズムの評価、気象観測	札郷宿泊施設
61	6	1	横浜国立大学環境情報学部	1	0	1	0	2	タイムインタチバナとバリバリノキの個体群調査	
62	6	5	NHK千葉放送局放送部	0	0	0	3	3	荒瀬沢天然林の取材	
63	6	2	千葉県立君津青葉高等学校総合学科	0	0	0	15	15	樹木の種類と特徴を学習する	清澄宿泊施設
64	6	5	東大・農・田無試験地	1	0	0	0	1	天敵としてのオサムシの生態に関する基礎的研究	札郷宿泊施設
65	6	2	立正大学地球環境学部	1	0	0	0	1	流水による岩盤の侵食	札郷宿泊施設
66	6	2	東大・農・田無試験地	1	0	0	0	1	ヒメコマツがん腫病の病原および発生生態解明	清澄宿泊施設
67	6	2	東大・農・千葉演習林	42	5	12	7	66	第11回千葉演習林利用者説明会	清澄宿泊施設
68	6	4	東大・農・生物多様性科学研究室	0	0	1	0	1	シカの採食によるアオキの孤立化が複数の生物間相互作用に与える影響	清澄宿泊施設
69	6	2	東大・農・生物多様性科学研究室	0	0	1	0	1	シカ採食が引き起こす土壌侵食プロセスの解明	清澄宿泊施設
70	6	1	東大・農・造林学研究室	1	0	3	0	4	巻枯らしの水分生理に関する現地調査および土壌調査	
71	6	2	千葉演習林ボランティア会Abies	0	0	0	4	4	6月度定期活動	清澄宿泊施設
72	6	2	東大・農・森園管理学研究室	0	1	0	0	1	ミヤマトベラの交配実験	札郷宿泊施設
73	6	2	NPO法人房総の野生生物調査会	0	0	0	3	3	NPO法人房総の野生生物調査会6月例会	郷台宿泊施設
74	6	5	環境省委託鳥類標識調査協力調査員	0	0	0	5	5	サンコウチョウの生態の基礎研究および棲息環境の鳥類の把握、鳥類標識調査	
75	6	4	東大・農・生物多様性科学研究室	1	0	0	0	1	空間明示モデルによる大型哺乳類の動態予測と生態系管理	清澄宿泊施設2
76	6	3	立正大学地球環境学部地理学科	2	12	1	0	15	「セミナーおよびフィールドワークF」(3年必修科目)	清澄宿泊施設
77	6	5	東大・農・森園管理学研究室	0	1	0	0	1	ミヤマトベラの交配実験	札郷宿泊施設
78	6	1	東大・農・田無試験地	1	0	0	0	1	天敵としてのオサムシの生態に関する基礎的研究	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
79	6	2	国立環境研究所	0	0	0	2	2	環境省推進費プロジェクトに関連するフィールド査察	清澄宿泊施設
80	7	11	環境省委託鳥類標識調査協力調査員	0	0	0	5	5	サンコウチョウの生態の基礎研究および棲息環境の鳥類の把握、鳥類標識調査	
81	7	5	静岡大学 理学部地球科学科	2	12	0	0	14	地質調査法実習Ⅱ	清澄宿泊施設
82	7	7	東大・農・森圏管理学研究室	0	1	0	0	1	ミヤマトベラの交配実験	札郷宿泊施設
83	7	5	東大・農・森林理水および砂防工学研究室	0	5	2	0	7	総合対照流域法による水文過程や水質形成、土壌呼吸メカニズムの評価、気象観測	札郷宿泊施設
84	7	1	千葉演習林ボランティア会Abies	1	0	0	6	7	第三回役員会	
85	7	1	東大・農・生物多様性科学研究室	0	0	2	0	2	シカの採食によるアオキの孤立化が複数の生物間相互作用に与える影響	
86	7	5	東大・農・田無試験地	1	0	0	0	1	天敵としてのオサムシの生態に関する基礎的研究	札郷宿泊施設
87	7	6	東大・農・森圏管理学研究室	0	1	0	0	1	ミヤマトベラの交配実験	札郷宿泊施設
88	7	2	千葉演習林ボランティア会Abies	0	0	0	4	4	夏の森林教室サポート下見、サポート	
89	7	1	(有)オーズランド	0	0	0	2	2	教員インタビュー取材	
90	7	1	東大・農・千葉演習林	0	0	0	27	27	夏の森林教室	
91	7	2	東大・農・生物多様性科学研究室	0	0	1	0	1	シカ採食が引き起こす土壌侵食プロセスの解明	清澄宿泊施設
92	7	2	東大・農・生態システム学専攻	0	0	9	0	9	持続的森林圏経営論集中講義	清澄宿泊施設
93	7	2	東大・農・演習林研究部	2	0	7	3	12	Publishing in Scientific Journals (ヤナイ先生授業)および試験地見学	清澄宿泊施設
94	7	3	立正大学地球環境学部	1	0	0	0	1	流水による岩盤の侵食	札郷宿泊施設
95	7	2	National Chung Hsing University Dept. of Forestry	5	0	0	0	5	千葉演習林視察および森林計画学会夏期セミナー参加	清澄宿泊施設
96	7	3	森林計画学会	24	1	13	2	40	夏期セミナー	清澄宿泊施設・2
97	7	2	東大・農・生物多様性科学研究室	0	0	1	0	1	シカの採食によるアオキの孤立化が複数の生物間相互作用に与える影響	清澄宿泊施設
98	7	1	東大・農・造林学研究室	1	0	1	0	2	巻枯らしの水分生理学的研究	
99	7	1	東大・農・田無試験地	1	0	0	0	1	天敵としてのオサムシの生態に関する基礎的研究	
100	7	2	東大・農・田無試験地	1	0	0	4	5	ヒメコマツがん腫病の病原および発生生態解明	清澄宿泊施設
101	7	2	NPO法人房総の野生生物調査会	0	1	0	2	3	NPO法人房総の野生生物調査会7月例会	郷台宿泊施設
102	8	2	東大・農・生物多様性科学研究室	1	0	0	0	1	2つのスケールにおいてサラグモ類が造網に必要な足場量から受ける影響	清澄宿泊施設
103	8	2	千葉県総合教育センター 科学技術教育部	0	0	0	23	23	平成18年度SPP自然体験活動講座	清澄宿泊施設
104	8	4	東大・農・森林理水および砂防工学研究室	0	5	5	0	10	総合対照流域法による水文過程や水質形成、土壌呼吸メカニズムの評価、気象観測	
105	8～9	54	横浜国立大学環境情報学府	0	0	1	0	1	タイムインタチバナの個体群調査	清澄宿泊施設2
106	8	5	東大・農・田無試験地	1	0	0	1	2	天敵としてのオサムシの生態に関する基礎的研究	札郷宿泊施設
107	8	3	東大・農・千葉演習林	3	0	0	19	22	高校生のための森と海のゼミナール	札郷宿泊施設
108	8	3	千葉演習林ボランティア会Abies	0	0	0	2	2	高校生のための森と海のゼミナールサポート	札郷宿泊施設
109	8	2	東大・農・森圏管理学研究室	0	1	0	0	1	ミヤマトベラの交配実験	札郷宿泊施設
110	8	1	東大・農・愛知演習林	1	0	0	0	1	ウルシ科植物が含有するウルシオール量の季節変動および地域特性	
111	8	1	千葉県立中央博物館 地学研究科	0	0	0	1	1	千葉演習林で発見された化石の同定	
112	8	2	東大・農・田無試験地	1	0	0	1	2	ユリノキ調査、ヒメコマツがん腫病の病原および発生生態解明	清澄宿泊施設
113	8	2	東大・農・田無試験地	1	0	0	0	1	天敵としてのオサムシの生態に関する基礎的研究	札郷宿泊施設
114	8	3	福岡大学 理学部地球圏科学科	1	1	0	0	2	安野層における砂岩泥岩互層の調査	
115	8～9	17	福岡大学 理学部地球圏科学科	0	1	0	0	1	安野層における砂岩泥岩互層の調査	札郷宿泊施設
116	8	5	Michigan State University	0	0	1	0	1	米国への侵入昆虫であるアオナガタムシの採集	清澄宿泊施設
117	8	3	森林総合研究所 四国支所	0	0	1	2	3	リモートセンシングによる林分因子の把握のための現地調査	清澄宿泊施設
118	8	1	東大・農・生物多様性科学研究室	1	0	0	0	1	2つのスケールにおいてサラグモ類が造網に必要な足場量から受ける影響	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
119	8	1	千葉演習林ボランティア会Abies	0	0	0	2	2	夏の森林教室サポート	
120	8	1	東大・農・千葉演習林	0	0	0	19	19	夏の森林教室	
121	8	1	東大・農・造林学研究室	1	0	1	0	2	巻枯らしの水分生理に関する現地調査および土壌調査	
122	8	1	東大・新領域 自然環境評価学研究室	0	0	1	0	1	アカガシ葉内生菌の生態調査	
123	8	3	千葉演習林ボランティア会Abies	1	0	0	3	4	8月度活動	清澄宿泊施設
124	8	2	NPO法人房総の野生生物調査会	0	0	0	2	2	NPO法人房総の野生生物調査会8月例会	郷台宿泊施設
125	8	4	立正大学地球環境学部	1	1	0	0	2	流水による岩盤の侵食	札郷宿泊施設
126	8	5	京都大学 地質学鉱物学教室	3	9	3	0	15	課題演習E1/地質調査法野外実習	清澄宿泊施設
127	8	1	東大・農・田無試験地	1	0	0	0	1	天敵としてのオサムシの生態に関する基礎的研究	
128	9	16	福岡大学 理学部地球圏科学科	2	2	0	0	4	安野層タービダイトの追跡	札郷宿泊施設
129	9	1	東大・新領域 自然環境評価学研究室	0	0	1	0	1	アカガシ葉内生菌の生態調査	
130	9	5	東大・農・森林理水および砂防工学研究室	0	5	5	0	10	総合対照流域法による水文過程や水質形成、土壌呼吸メカニズムの評価、気象観測	
131	9	1	木材学会(高分子材料科学研究室)	2	0	0	1	3	木材学会による千葉演習林見学	
132	9	1	東大・農・生物多様性科学研究室	0	0	1	0	1	シカと土壌侵食	
133	9	2	千葉演習林ボランティア会Abies	1	0	0	11	12	9月度活動	郷台宿泊施設
134	9	5	東大・農・田無試験地	1	0	0	1	2	天敵としてのオサムシの生態に関する基礎的研究	札郷宿泊施設
135	9	2	東大・農・生物多様性科学研究室	1	0	0	0	1	2つのスケールにおいてサラグモ類が造網に必要な足場量から受ける影響	清澄宿泊施設
136	9	1	東大・人事部人事課	4	0	0	0	4	遠隔地施設実情調査	
137	9	1	東大・農・生物多様性科学研究室	1	0	0	0	1	2つのスケールにおいてサラグモ類が造網に必要な足場量から受ける影響	
138	9	2	NPO法人房総の野生生物調査会	0	1	0	3	4	NPO法人房総の野生生物調査会9月例会	郷台宿泊施設
139	9	2	東京農業大学(名誉教授)	0	0	0	9	9	東京大学林学昭和43年卒業同期会	
140	9	2	千葉県森林インストラクター会	1	0	0	7	8	千葉県森林インストラクター会企画事業の下見	
141	9	1	東大・農・造林学研究室	1	0	1	0	2	巻枯らしの水分生理に関する現地調査および土壌調査	
142	9	4	東大・教養学部	5	3	0	0	8	全学体験ゼミナール	
143	9	2	東大・農・田無試験地	1	0	0	0	1	天敵としてのオサムシの生態に関する基礎的研究	札郷宿泊施設
144	9	1	鴨川市役所 市民福祉部環境課	0	0	0	1	1	防災施策のための資料清澄地区の雨量データの把握のためのデータ提供	
145	10	4	東大・農・生圏システム学・生物多様性科学	1	0	19	0	20	生圏システム学総合演習	清澄宿泊施設
146	10	2	東大・農・森林経理学研究室	0	0	1	0	1	千葉演習林において各作業に要した労働量の調査	清澄宿泊施設
147	10	1	東大・農・生物多様性科学研究室	1	0	0	0	1	空間明示モデルによる大型哺乳類の動態予測と生態系管理	
148	10	1	東大・農・耕地生圏生態学研究室	0	0	3	0	3	スギ・ヒノキ人工林における鳥類相を規定する要因	
149	10	5	東大・農・田無試験地	1	0	0	0	1	天敵としてのオサムシの生態に関する基礎的研究	札郷宿泊施設
150	10	1	香取郡市森林組合佐原支部	0	0	0	21	21	千葉演習林の森林管理および経営実態視察	
151	10	5	東大・農・森林理水および砂防工学研究室	3	8	5	0	16	総合対照流域法による水文過程や水質形成、土壌呼吸メカニズムの評価、気象観測	
152	10	3	東大・新領域 自然環境学	2	0	22	0	24	生物環境学実習(植生調査実習および菌類の観察)	清澄宿泊施設
153	10	1	森林総合研究所	0	0	0	3	3	ヤブツバキ、スダジイ、カエデ類の採取	
154	10	3	東大・農・生物多様性科学研究室	0	0	1	0	1	シカと土壌侵食	清澄宿泊施設2
155	10	2	千葉演習林ボランティア会Abies	0	0	0	2	2	10月度活動	
156	10	8	東大・農・生物多様性科学研究室	1	0	0	0	1	空間明示モデルによる大型哺乳類の動態予測と生態系管理	清澄宿泊施設2
157	10	1	鋸南町立佐久間小学校	0	0	0	8	8	千葉演習林内地層の観察	
158	10	1	鴨川市立大山小学校	0	0	0	13	13	総合学習「新鴨川市発見(天津・小湊探検)」	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
159	10	1	千葉県森林インストラクター会	1	0	0	3	4	千葉県森林インストラクター会野外特別講座の下見	
160	10	1	鴨川市立天津小学校	0	0	0	76	76	親子ふれあいポケット「緑の教室」	
161	10	2	国立環境研究所	1	0	0	1	2	環境省推進費プロジェクトに関連するフィールド査察	清澄宿泊施設
162	10	2	東京農工大学 植物資源形成学研究室	0	0	3	0	3	スタジイの肥大成長に影響を与える環境要因および肥大成長における光合成産物の利用	清澄宿泊施設
163	10	1	東大・農・田無試験地	1	0	0	0	1	天敵としてのオサムシの生態に関する基礎的研究	
164	10	1	三和コミュニティセンター運営委員会	0	0	0	3	3	植物の生態等を学習する会の下見	
165	10	1	東大・農・森林経理学研究室	0	0	1	0	1	千葉演習林において各作業に要した労働量の調査	
166	10	2	東大・農・森園管理学研究室	0	1	0	0	1	ミヤマトベラの交配実験	札郷宿泊施設
167	10	2	立正大学地球環境学部	1	0	0	0	1	流水による岩盤の侵食	札郷宿泊施設
168	10	1	東大・農・森林経理学研究室	0	0	1	0	1	千葉演習林において各作業に要した労働量の調査	
169	10	1	千葉県農林水産部林務課	0	0	0	3	3	森林資源モニタリング調査現地打合せ	
170	10	2	NPO法人房総の野生生物調査会	0	0	0	4	4	NPO法人房総の野生生物調査会10月例会	郷台宿泊施設
171	10	1	千葉市山岳協会	0	0	0	20	20	市民ハイキング引率のための下見	
172	10	1	東大・農・造林学研究室	1	1	1	0	3	巻枯らしの水分生理学的研究	
173	11	6	東大・農・森林理水および砂防工学研究室	0	5	6	0	11	総合対照流域法による水文過程や水質形成、土壌呼吸メカニズムの評価、気象観測	
174	11	2	東大・農・耕地生態学研究室	1	0	2	0	3	スギ・ヒノキ人工林における鳥類相を規定する要因	清澄宿泊施設
175	11	15	千葉大学 理学部地球科学科	0	0	1	0	1	三浦群層の堆積学的研究	札郷宿泊施設
176	11	1	東大・農・生物多様性科学研究室	1	0	0	0	1	空間明示モデルによる大型哺乳類の動態予測と生態系管理	
177	11	5	東大・農・田無試験地	1	0	0	0	1	天敵としてのオサムシの生態に関する基礎的研究	札郷宿泊施設
178	11	1	千葉県森林インストラクター会	1	0	0	4	5	千葉県森林インストラクター会野外特別講座の下見	
179	11	1	東大・農・千葉演習林	30	0	0	0	30	安全衛生講習(リスクマネジメント講習会)及び学外研修発表会	
180	11	2	千葉演習林ボランティア会Abies	0	0	0	6	6	11月度活動	清澄宿泊施設
181	11	1	千葉県農林水産部林務課	0	0	0	5	5	森林資源モニタリング調査	
182	11	2	清澄寺寺総代	0	0	0	3	3	清澄寺寺領地調査及び写真撮影	
183	11	2	東大・農・生物多様性科学研究室	0	2	0	0	2	宿主の形質変化を通じたジャコウアゲハの休眠に与える影響	清澄宿泊施設
184	11	1	日本テレビ放送網(株)	0	0	0	2	2	山中助手への取材	
185	11	2	NPO法人房総の野生生物調査会	0	1	0	2	3	NPO法人房総の野生生物調査会11月例会	郷台宿泊施設
186	11	1	君津市立坂畑小学校	0	0	0	12	12	総合学習「亀山に住む野鳥を調べよう」	
187	11	1	東大・農・千葉演習林	0	0	0	724	724	秋の一般公開	
188	11	1	東大・農・千葉演習林	0	0	0	2969	2969	秋の一般公開	
189	11	1	東大・農・千葉演習林	0	0	0	2000	2000	秋の一般公開	
190	11	1	東大・農・千葉演習林	0	0	0	2061	2061	秋の一般公開	
191	11	1	東大・農・千葉演習林	0	0	0	2323	2323	秋の一般公開	
192	11	6	千葉演習林ボランティア会Abies	0	0	0	8	8	秋の一般公開サポート	
193	11	1	内浦山県民の森	0	0	0	4	4	11月25日(土)実施イベント「清澄山紅葉ハイキング」下見	
194	11	1	内浦山県民の森	0	0	0	60	60	「清澄山紅葉ハイキング」	
195	11	2	しおじの会(秩父演習林ボランティア組織)	2	0	0	25	27	秩父演習林ボランティア組織の千葉演習林見学	清澄宿泊施設
196	11	1	香川県森林インストラクター	0	0	0	1	1	モウソウチク林の更新形態	
197	11	1	千葉県立木更津高等学校	0	0	0	14	14	木更津高等学校理科講座「自然観察会」	
198	11	1	千葉演習林ボランティア会Abies	0	0	0	6	6	ちばコーポ自然観察会案内の下見	
199	11	5	東大・農・耕地生態学研究室	0	0	1	0	1	スギ・ヒノキ人工林における鳥類相を規定する要因	清澄宿泊施設2
200	11	1	東大・農・造林学研究室	3	0	0	0	3	韓国人研究者の視察案内	
201	11	1	自然観察友の会	0	0	0	3	3	演習林内での見学	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
202	11	1	東大・農・生物多様性科学 研究室	0	0	1	0	1	シカの採食によるアオキの孤立化が複数の 生物間相互作用に与える影響	
203	11	1	森の仲間	0	0	0	10	10	森の仲間千葉演習林見学会	
204	11	2	ちばテレビ放送 報道制 作局	0	0	0	2	2	ニュース番組「ニュースC-Master」のた めの猪ノ川林道の紅葉と黒滝取材	
205	11	1	16会(市原市シルバーカ レッジOB会)	0	0	0	44	44	千葉演習林の見学と会員相互の親睦	
206	11	1	東大・農・造林学研究室	1	0	1	0	2	巻枯らしの水分生理学的研究	
207	12	1	千葉県立君津亀山少年自 然の家	0	0	0	37	37	亀山少年自然の家主催事業「長生村公 民館紅葉ハイキング」	
208	12	1	市原市立南総公民館	0	0	0	40	40	東大演習林の植物生態を学ぶ	
209	12	1	三和コミュニティーセン ター運営委員会	0	0	0	43	43	植物の生態等を学習	
210	12	1	東大・農・保全生態学研究 室	4	0	0	0	4	水生昆虫の生態学的研究	
211	12	1	東大・農・森園管理学研究 室	0	1	0	0	1	ミヤマトベラの繁殖特性に関する研究	
212	12	1	千葉県森林インストラク ター会	0	0	0	97	97	千葉県森林インストラクター会野外特別 講座	
213	12	1	生活協同組合ちばコープ くらしづくりサポート推進室	0	0	0	26	26	ちばコープ自然観察会	
214	12	4	東大・農・耕地生態学 研究室	0	0	1	0	1	スギ・ヒノキ人工林における鳥類相を規 定する要因	清澄宿泊施設2
215	12	1	東大・農・千葉演習林	0	0	0	25	25	公開講座「野鳥の巣箱をかけよう(巣箱 の製作・設置)」	
216	12	1	東京大学ワンダーフォー ゲル部OB会	1	0	0	26	27	ワンゲル部OB会による自然観察会	
217	12	6	東大・農・千葉演習林	3	0	3	2	8	房総半島におけるシカの冬期餌量推定 のための堅果量調査	清澄宿泊施設2
218	12	1	千葉県森林研究センター	0	0	0	3	3	千葉演習林におけるシカ被害の実態と 防除事例について	
219	12	4	東大・農・森林理水および 砂防工学研究室	1	5	5	0	11	総合対照流域法による水文過程や水質 形成、土壌呼吸メカニズムの評価、気象 観測	札郷宿泊施設
220	12	1	東大・農・造林学研究室	1	1	0	0	2	木本植物のアルミニウム集積を伴う強力 なアルミニウム耐性の解析	
221	12	14	東大・農・耕地生態学 研究室	0	0	1	0	1	スギ・ヒノキ人工林における鳥類相を規 定する要因	清澄宿泊施設2
222	12	13	千葉大学 理学部地球科 学科	0	0	1	0	1	三浦層群の堆積学的研究	札郷宿泊施設
223	12	4	東大・農・森林経理学研究 室	3	4	1	0	8	2006年度森林計測学実習	清澄宿泊施設
224	12	1	東大・新領域 農業環境 基盤工学研究室	1	3	0	0	4	農村デザインスタジオ実習「鴨川市及び 千葉演習林見学会」	
225	12	2	東大・農・森林経理学研究 室	0	0	1	0	1	GISを用いた集材方法の選定	清澄宿泊施設
226	12	2	国立環境研究所	1	0	0	1	2	環境省推進費プロジェクトに関連する フィールド査察	清澄宿泊施設
227	12	1	東大・総務部渉外グルー プ	2	0	0	0	2	千葉演習林の見学(基金関係)	
228	12	2	房総のシカ調査会	0	0	0	1	1	ニホンジカの個体数推定のための糞粒 調査	
229	12	1	立正大学地球環境学部	1	0	0	0	1	流水による岩盤の侵食	
230	12	1	樹木医	0	0	0	1	1	清澄大杉及び清澄山系のスギ資料閲覧	
231	1	19	千葉大学 理学部地球科 学科	0	0	1	0	1	三浦層群の堆積学的研究	札郷宿泊施設
232	1	4	東大・農・森林理水および 砂防工学研究室	0	5	4	0	9	総合対照流域法による水文過程や水質 形成、土壌呼吸メカニズムの評価、気象 観測	
233	1	2	東大・農・秩父演習林	2	0	0	0	2	施設等見学	清澄宿泊施設
234	1	5	東大・農・千葉演習林	11	6	1	8	26	ニホンジカ生息数調査	清澄宿泊施設
235	1	12	東大・農・耕地生態学 研究室	0	0	1	0	1	スギ・ヒノキ人工林における鳥類相を規 定する要因	清澄宿泊施設2
236	1	3	東大・農・森林経理学研究 室	0	0	2	0	2	リモートセンシング技術を活用した樹冠 動態モデルの開発	清澄宿泊施設
237	1	1	東大・農・造林学研究室	1	0	1	0	2	巻枯らしの水分生理学的研究	
238	1	1	鴨川市立天津小学校	0	0	0	24	24	総合学習「森林のひみつを探ろう」	
239	1	1	君津市立坂畑小学校	0	0	0	13	13	総合学習「亀山にすむ野鳥を調べよう」	
240	1	4	立正大学地球環境学部	1	0	0	0	1	流水による岩盤の侵食	札郷宿泊施設
241	1	1	千葉演習林ボランティア 会Abies	1	0	0	6	7	役員会(総会準備)	
242	1	2	NPO法人房総の野生生 物調査会	0	1	0	2	3	NPO法人房総の野生生物調査会1月例 会	郷台宿泊施設
243	1	1	東大・保健センター(産業 医)	1	0	0	0	1	産業医による巡視	
244	1	1	東大・地震研究所	1	0	0	0	1	地震観測機器点検	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
245	1	1	東大・農・事務部経理課施設係	3	0	0	0	3	工事竣工検査及び施設の現状視察	
246	2	5	東大・農・耕地生態学研究室	0	0	1	0	1	スギ・ヒノキ人工林における鳥類相を規定する要因	清澄宿泊施設2
247	2	2	立正大学地球環境学部	1	0	0	0	1	流水による岩盤の侵食	札郷宿泊施設
248	2	5	東大・農・森林理水および砂防工学研究室	4	5	4	0	13	総合対照流域法による水文過程や水質形成、土壌呼吸メカニズムの評価、気象観測	
249	2	2	千葉演習林ボランティア会Abies	1	0	0	5	6	2月度活動(歩道標識杭の補修整備)	清澄宿泊施設
250	2	6	千葉大学 理学部地球科学科	0	0	1	0	1	三浦層群の堆積学的研究	札郷宿泊施設
251	2	3	東大・農・千葉演習林	0	0	4	0	4	新成長測定試験地調査	清澄宿泊施設
252	2	1	鴨川市民	0	0	0	1	1	ヤマビルの生態調査	
253	2	1	東大・新領域自然環境学専攻	4	0	0	3	7	バイオーム産学共同研究のための視察	
254	2	1	東大・農・生物多様性科学研究室	1	1	1	0	3	シカ採食が引き起こす土壌侵食	
255	2	15	千葉大学 理学部地球科学科	0	0	1	0	1	三浦層群の堆積学的研究	札郷宿泊施設
256	2	4	東大・教養学部(全学体験ゼミナール)	0	14	0	0	14	全学体験ゼミナール「樹木を解体する」	清澄宿泊施設
257	2	1	南房総市農林水産部農林振興課	0	0	0	6	6	有害鳥獣被害対策のための研修会	
258	2	2	NPO法人房総の野生生物調査会	0	1	0	2	3	NPO法人房総の野生生物調査会2月例会	郷台宿泊施設
259	2	3	東大・農・森林経理学研究室	0	0	2	0	2	リモートセンシング技術を活用した樹冠動態モデルの開発	清澄宿泊施設
260	2	1	横浜国立大学環境情報学府	0	0	1	0	1	タイミンタチバナの個体調査	
261	2	1	東大・農・造林学研究室	1	0	1	0	2	巻枯らしの水分生理学的研究	
262	3	1	千葉演習林ボランティア会Abies	1	0	0	4	5	総会及び演習林を歩こうコース下見	
263	3	1	東京学芸大学地理学研究室	1	12	3	8	24	地形・地質、植生の観察	
264	3	2	君津市農林振興課	0	0	0	79	79	銃器による有害鳥獣駆除のため	
265	3	4	東京環境工科専門学校	1	0	0	5	6	生活痕による哺乳類の行動調査	
266	3	3	東京学芸大学環境科学分野	1	10	3	0	14	地質調査法の実習	札郷宿泊施設
267	3	2	九州大学 造林学研究室	1	0	0	0	1	千葉演習林の視察	
268	3	2	東大・農・千葉演習林	5	0	1	1	7	12期試験地調査希望者下見会	清澄宿泊施設
269	3	1	内浦山県民の森	0	0	0	5	5	「第17回関東ふれあいの道ふれあいウォーク」下見	
270	3	1	内浦山県民の森	0	0	0	40	40	「第17回関東ふれあいの道ふれあいウォーク」	
271	3	2	東大・農・森林経理学研究室	1	0	1	0	2	複層林経営システムに関する研究	清澄宿泊施設
272	3	1	東大・名誉教授	1	0	0	0	1	人工林の見学	
273	3	1	千葉演習林ボランティア会Abies	0	0	0	2	2	ヘリコプター集材の見学・取材	
274	3	3	東大・農・北海道演習林	2	0	0	0	2	千葉演習林管理運営に関する調査	清澄宿泊施設
275	3	1	NPO法人房総の野生生物調査会	0	0	0	1	1	歩道林道杭調査	
276	3	7	千葉大学 理学部地球科学科	0	0	1	0	1	三浦層群の堆積学的研究	札郷宿泊施設
277	3	1	木更津市立文京公民館	0	0	0	30	30	公民館主催事業「第6回自然環境講座」	
278	3	2	千葉演習林ボランティア会Abies	1	0	0	17	18	定期総会及び演習林を歩こうサポート	清澄宿泊施設
279	3	2	東大・農・愛知演習林	1	0	0	0	1	全演協科研千葉演習林袋山沢試験地視察	札郷宿泊施設
280	3	2	横浜国立大学環境情報学府	0	0	3	0	3	土壌動物の多様性調査	札郷宿泊施設
281	3	1	東大・農・保全生態学研究室	2	0	0	0	2	水生昆虫の生態学的研究	
282	3	1	盤洲干潟(小櫃川河口干潟)をまもる会	0	0	0	10	10	小櫃川源流域のモミ・ツガ林及び野鳥観察	
283	3	3	森林総合研究所 森林管理研究領域	0	0	0	2	2	高精細データを用いた林分構造の把握	清澄宿泊施設
284	3	5	東大・農・森林理水および砂防工学研究室	2	5	5	0	12	総合対照流域法による水文過程や水質形成、土壌呼吸メカニズムの評価、気象観測	
285	3	2	立正大学地球環境学部	1	0	0	0	1	流水による岩盤の侵食	札郷宿泊施設
286	3	2	東大・農・演習林研究部	1	0	0	0	1	業務打ち合わせ及び「基盤データ整備」鳥類調査	清澄宿泊施設

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
287	3	1	東大・農・生物多様性科学 研究室	1	0	2	0	3	シカ採食が引き起こす土壌侵食	

利用者数合計 13,068
利用者延べ数合計 15,539
利用件数 287

演習林名:北海道演習林

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	8	東大・農・演習林・樹芸研究所	1	0	0	0	1	暗色雪腐れ病防除試験, エゾマツ, アカエゾマツ抽出成分分析	山部宿泊施設2
2	4	2	一般	0	0	0	1	1	ミズナラ樹の研究調査	山部宿泊施設
3	4~3	346	一般	0	0	0	1	1	林内観察・撮影	
4	4	1	帯広畜産大学 畜産科学科	1	0	0	0	1	アカエゾマツ・エゾマツ・トドマツ苗畑の病害と菌根菌の関係解明 研究のための試料採取	
5	5	1	平取町	0	0	0	10	10	演習林見学	
6	5	11	一般	0	0	0	3	3	演習林見学及び植生調査	
7	5	2	北海道立林業試験場	0	0	0	3	3	グイマツ雑種F1に関する共同研究の打合せと現地検討	
8	5	6	東大・農・演習林・樹芸研究所	1	0	0	0	1	暗色雪腐れ病防除試験, エゾマツ, アカエゾマツ抽出成分分析	山部宿泊施設2
9	5	1	中富良野町立字文小学校	0	0	0	32	32	樹種見本林・苗木生産施設見学及び動植物の生態系等を知る	
10	5	1	北海道立林業試験場	0	0	0	1	1	林内撮影	
11	5	5	東大・アジア生物資源センター	1	0	2	0	3	トドマツとエゾマツの遺伝子流動に関する調査	山部宿泊施設
12	5	1	富良野市立東山保育所	0	0	0	28	28	春の小遠足	
13	5~3	320	日本学術振興会外国人特別研究員	0	0	0	1	1	北海道針葉樹の成長メカニズムと更新ダイナミクスの北半球における比較研究	山部宿泊施設2
14	5	1	富良野市立山部小学校	0	0	0	42	42	春の遠足	
15	5	137	一般	0	0	0	1	1	植生調査	
16	5~9	1	九州大学 農学部	3	0	0	0	3	樹木園苗畑と北海道演習林天然林施業現場の現地検討	
17	5	1	森林施業研究会	0	0	0	1	1	亜寒帯林における持続可能な天然林施業のためのエゾマツ・トドマツの更新戦略	
18	5	1	旭川開発建設部	1	0	0	8	9	演習林視察	
19	5	1	富良野市生涯学習センター	0	0	0	20	20	生涯学習センターボランティア友の会研修	
20	5	4	北海道大学 大学院農学研究科	2	17	1	2	22	大学院実習(景域保全学実習)	北海道演習林セミナーハウス
21	5	1	白老アイヌ民族博物館	0	0	0	2	2	イタオマチグサ基底船候補木の視察	
22	5	1	富良野市生涯学習センター	0	0	0	40	40	山野草学習会	
23	5	12	東大・農・森圏管理学	0	0	1	0	1	ウダイカンバ再生林集団の遺伝構造形成メカニズムの解明	山部宿泊施設2
24	5	2	森林総合研究所北海道支部	0	0	0	2	2	天然林・トドマツ・カラマツ林の見学	山部宿泊施設
25	5	2	附属中等教育学校	1	0	0	0	1	北海道宿泊研修下見および打ち合わせ	山部宿泊施設
26	6	1	北海道大学 農学部	1	0	1	0	2	シラカンバの幹及び小枝の採取	
27	6	1	北海道新聞社	0	0	0	2	2	取材(エゾノジャニンジン等)	
28	6	1	東大・農・演習林・北海道演習林	10	0	0	20	30	公開セミナー	
29	6	1	一般	0	0	0	2	2	林内見学及びスケッチ	
30	6	8	東大・農・演習林・樹芸研究所	1	0	0	0	1	暗色雪腐れ病防除試験, エゾマツ, アカエゾマツ抽出成分分析	山部宿泊施設2
31	6	1	富良野市身体障害者福祉協会	0	0	0	20	20	林内見学	
32	6	1	日本野鳥の会	0	0	0	4	4	鳥類調査	
33	6	1	積水化学工業株式会社	0	0	0	30	30	企業の環境教育及び里子対面	
34	6	1	南富良野町	0	0	0	60	60	林内視察	
35	6	7	東大・農・森圏管理学	0	0	1	0	1	ウダイカンバ再生林集団の遺伝構造形成メカニズムの解明	山部宿泊施設2
36	6	1	所沢市	0	0	0	2	2	鳥類観察	
37	6	1	富良野市生涯学習センター	0	0	0	20	20	北方天然林について見学	
38	6	2	エゾマツ研究会	0	0	0	22	22	演習林の施業と苗畑管理技術についての研究	北海道演習林セミナーハウス
39	6	2	北海道大学 農学部	0	1	0	0	1	エゾマツ研究会参加及び研究打ち合わせ	山部宿泊施設2
40	6	3	東大・農・林政学研究室	1	0	0	0	1	森林政策学演習下見	山部宿泊施設
41	6	10	一般	0	0	0	2	2	林内視察	
42	6	9	富良野市生涯学習センター	0	0	0	3	3	遺跡分布調査	
43	6	1	後志森林管理署	0	0	0	7	7	森林施業の見学	
44	6	1	富良野市生涯学習センター	0	0	0	20	20	博物館講座「第2回森とのつきあい講座」	
45	6	1	富良野市	0	0	0	1	1	官斫材見学と林内見学	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
46	6	1	北海道ボランティア・レンジャー	0	0	0	3	3	ボランティア・レンジャー研修会下見	
47	6	1	富良野市寿光園	0	0	0	10	10	演習林見学	
48	6	1	帯広畜産大学 畜産科学科	1	0	2	0	3	ベニハナイチヤクサ種子分散と発芽成長過程の解明のための研究、及びアカエゾマツ、エゾマツ、トマツの攪乱跡地への定着と菌類の関係解明	
49	6	1	富良野市生涯学習センター	0	0	0	40	40	自然観察会	
50	6	1	NPO新月の木国際協会帯広事務局	0	0	0	15	15	演習林内見学	
51	6	2	森林総合研究所北海道支部	0	0	0	4	4	天然林とトマツ林における蛾類採取	山部宿泊施設
52	6	3	林木育種センター	0	0	0	2	2	ブナ産地試験地での葉面積の測定用及びDNA分析用試料の採取	山部宿泊施設
53	6	2	東大・農・総務課	5	0	0	0	5	作業環境測定	山部宿泊施設
54	6	1	住友林業株式会社	0	0	0	7	7	林分施業法の理解及び実作業について	
55	6	2	北海道ボランティア・レンジャー協議会	0	0	0	22	22	自然観察と資料館での学習をととして、会員の資質の向上を図る	北海道演習林セミナーハウス
56	7	2	聖徳大学	1	0	0	0	1	幼児の自然教育研究会下見	
57	7	1	北海道立北見高等技術専門学院	0	0	0	1	1	森林木材等に関する知識の習得	
58	7	2	一般	0	0	0	1	1	林内見学	
59	7	4	東大・農・森林科学専攻	1	0	0	0	1	昆虫嗜好性根昆虫の侵入定着と遺伝的構造に及ぼす種間交雑と媒介昆虫種数の影響	山部宿泊施設
60	7	2	広島大学 総合科学研究科	1	2	1	0	4	カツラの遺伝的流動に関する現地検討	山部宿泊施設
61	7	1	森林総合研究所北海道支所	0	0	0	2	2	ブナの観察	
62	7	7	東大・農・演習林・樹芸研究所	1	0	0	0	1	暗色雪腐れ病防除試験、エゾマツ、アカエゾマツ抽出成分分析	山部宿泊施設2
63	7	2	安全衛生指導員	0	0	0	1	1	刈払機取扱作業安全衛生教育講習	山部宿泊施設
64	7	3	一般	0	0	0	1	1	オヒョウ・シナの小径木採取	
65	7	3	北海道大学 農学部	0	1	0	0	1	天然林施業に関する研究打合せ	山部宿泊施設2
66	7	1	北海道立北見高等技術専門学院	0	0	0	1	1	森林木材等に関する知識の習得	
67	7	1	東北大学 大学院農学研究科	1	0	4	0	5	演習林見学	
68	7	1	帯広畜産大学 畜産科学科	1	0	1	0	2	アカエゾマツ・エゾマツ・トマツ苗畑の病害と菌根菌の関係解明 研究のための試料採取	
69	7	4	東大・教育・附属中等教育学校	3	0	0	39	42	演習林の見学・林分施業法の実習・林況調査	北海道演習林セミナーハウス
70	7	1	北海道立林業試験場	0	0	0	3	3	人工林から針広混交林への誘導に伴う公益的機能の変化について	
71	7	1	富良野山岳会	0	0	0	20	20	林内見学	
72	7	1	長野県立長野県林業大学	2	18	0	0	20	林分施業法について	
73	7	1	新キャピラー三菱㈱	0	0	0	1	1	森林機械作業跡地見学	
74	7	3	一般	0	0	0	3	3	演習林見学	山部宿泊施設
75	7	1	富良野市生涯学習センター	0	0	0	20	20	博物館講座「第4回森とのつきあい講座」	
76	7	1	大麓山ハイキング登山会	0	0	0	28	28	大麓山ハイキング登山会	
77	7	5	北海道演習林水系総合基礎調査団	7	2	3	2	14	第3次北海道演習林水系総合基礎調査	北海道演習林セミナーハウス
78	7	8	一般	0	0	0	4	4	林内斫伐地の見学	
79	7	2	森林総合研究所北海道支所	0	0	0	1	1	アカエゾマツの遺伝解析に関する現地検討	山部宿泊施設
80	7	2	森林総合研究所北海道支所	0	0	0	3	3	天然林とトマツ林における蛾類採取	山部宿泊施設
81	7	1	富良野市麓郷中学校	0	0	0	3	3	総合的な学習「富良野の樹海」を探る	
82	7	1	富良野市生涯学習センター	0	0	0	1	1	幼児の自然教育研究会下見	
83	7	8	東京大学農学部3類	5	21	6	0	32	森林動物学実験・森林政策学実習	北海道演習林セミナーハウス
84	7	2	一般	0	0	0	11	11	演習林見学	山部宿泊施設
85	7	1	一般	0	0	0	2	2	林内見学	
86	7	1	旭川厚生病院	0	0	0	4	4	林内見学	
87	7	3	北海道大学 農学部	0	0	1	0	1	択伐施業林の天然更新に関する研究打合せ	山部宿泊施設2

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
88	8	3	東大・農・森林科学専攻	1	0	0	0	1	昆虫嗜好性根昆虫の侵入定着と遺伝的構造に及ぼす種間交雑と媒介昆虫種数の影響	山部宿泊施設
89	8	2	北海道大学 農学研究科	0	1	1	0	2	倒木上の実生に付けた標識の撤去	山部宿泊施設2
90	8	2	千葉大学	3	0	0	2	5	演習林見学	山部宿泊施設
91	8	5	北海道大学 農学部	0	2	0	0	2	択抜施業林の天然更新に関する研究打合せ	山部宿泊施設2
92	8	2	聖徳大学 短期大学部	7	0	0	0	7	幼児教育者対象の自然体験・学習などの研修	山部宿泊施設
93	8	4	聖徳大学短期大学部	5	3	0	30	38	幼児教育者対象の自然体験・学習などの研修	北海道演習林セミナーハウス
94	8	2	演習林本部	2	0	0	1	3	演習林視察	山部宿泊施設
95	8	1	北海道富良野高等学校	0	0	0	6	6	演習林の見学及び概要説明(コウモリ調査)	
96	8	1	東京大学出版会	0	0	1	3	4	自然科学書籍企画の調査	
97	8	1	国立日高少年自然の家	0	0	0	3	3	林内見学	
98	8	5	大阪女子大学理学部	1	8	0	0	9	「環境生物科学実験Ⅰ」の野外実習	北海道演習林セミナーハウス
99	8	4	北海道大学 農学部	0	2	0	0	2	択抜施業林の天然更新に関する研究打合せ	山部宿泊施設2
100	8	1	熊本県林業従事者育成基金	0	0	0	7	7	中堅林業従事者に対する講師養成研修	
101	8	2	東大・理事	5	0	0	0	5	遠隔施設実情調査・業務改善調査	山部宿泊施設
102	8	4	北海道大学	0	2	0	0	2	択抜施業林の天然更新に関する研究打合せ	山部宿泊施設2
103	8	1	富良野市麓郷中学校	0	0	0	10	10	総合的な学習 フィールドワーク	
104	8	79	一般	0	0	0	3	3	自然観察	
105	8	3	第10回日本水環境子云フンポイント汚染研究委員会	3	30	9	0	42	研究会及び林内見学	北海道演習林セミナーハウス
106	9	1	北海道富良野高等学校	0	0	0	6	6	演習林の見学及び概要説明(コウモリ調査)	
107	9	1	一般	1	0	0	5	6	林内見学	
108	9	4	フィンランド森林研究所	0	0	0	2	2	演習林視察・講演	山部宿泊施設
109	9	1	九州大学 農学部	2	18	0	0	20	実地見学(1単位)	
110	9	5	北海道大学	0	2	1	0	3	択抜施業林の天然更新に関する研究打合せ	山部宿泊施設2
111	9	4	東大・農・森林科学専攻	1	0	0	0	1	昆虫嗜好性根昆虫の侵入定着と遺伝的構造に及ぼす種間交雑と媒介昆虫種数の影響	山部宿泊施設
112	9	3	慶應義塾大学	1	11	0	0	12	演習林見学	北海道演習林セミナーハウス
113	9	3	東北芸術工科大学	1	3	2	0	6	歴史遺産調査演習	北海道演習林セミナーハウス
114	9	7	東大・農・演習林・樹芸研究所	1	0	0	0	1	暗色雪腐れ病防除試験、エゾマツ、アカエゾマツ抽出成分分析	山部宿泊施設2
115	9	2	Φ森林環境研究所	0	0	0	2	2	カンパ類の系統分化に関する研究	山部宿泊施設
116	9	1	帯広畜産大学 畜産科学科	0	0	1	0	1	アカエゾマツ・エゾマツ・トドマツ苗畑の病害と菌根菌の関係解明 研究のための試料採取	
117	9	2	森林総合研究所北海道支所	0	0	0	2	2	アカエゾマツの遺伝解析に関する現地検討	山部宿泊施設
118	9	5	東大・農・森林科学専攻・演習林	0	1	1	3	5	植物学の野外研修、長期生態系サイトの植生調査	山部宿泊施設2
119	9	1	富良野市東山支所	0	0	0	15	15	きのこ学習	
120	9	1	富良野市ぶどう果樹研究所	0	0	0	5	5	ミズナラの伐採現場見学、写真撮影	
121	9	1	東大・新領域・人間環境学専攻	2	0	0	0	2	サスティナビリティに関する国際サマースクール開催の下見	
122	9	5	一般	0	0	0	1	1	里親樹木見学	
123	9	1	JR北海道	0	0	0	30	30	演習林見学	
124	9	18	広島大学	0	1	0	0	1	カツラの遺伝的流動に関する研究	山部宿泊施設2
125	9	1	富良野市生涯学習センター	0	0	0	22	22	富良野市ことぶき大学自然散策	
126	9	1	北海道富良野高等学校	0	0	0	6	6	演習林の見学及び概要説明(コウモリ調査)	
127	9	1	帯広畜産大学 畜産科学科	1	0	1	0	2	アカエゾマツ・エゾマツ・トドマツ苗畑の病害と菌根菌の関係解明 研究のための試料採取	
128	9	1	富良野市生涯学習センター	0	0	0	30	30	どんぐりの森へ行こう	
129	9	4	東大・農・森林利用額研究室	1	34	0	0	35	全学体験ゼミナール	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
130	9	3	東京大学農学系経理課	3	0	0	0	3	資産管理事務	山部宿泊施設
131	9	3	富良野市生涯学習センター	0	0	0	3	3	遺跡分布調査	
132	9	1	亀の子会	0	0	0	20	20	林分施業法の見学	
133	9	2	富良野市山部公民館	0	0	0	13	13	子ども自然塾	北海道演習林セミナーハウス
134	10	3	東大・農・演習林	2	0	1	0	3	天然林調査	山部宿泊施設
135	10	4	岐阜大学 流域圏科学研究センター	1	0	0	0	1	研究打ち合わせ	山部宿泊施設
136	10	2	演友会	0	0	0	12	12	林内見学	北海道演習林セミナーハウス
137	10	5	Petawawa Research Forest	0	0	0	1	1	北海道針葉樹林視察	山部宿泊施設
138	10	1	大同商事	0	0	0	2	2	エゾシカ等食害防止資材試験設置箇所経過観察	
139	10	1	富良野市生涯学習センター	0	0	0	50	50	富良野地区教育研修会	
140	10	1	富良野市東山保育所	0	0	0	29	29	遠足	
141	10	2	北海道教育大学	5	33	4	1	43	野外実習	北海道演習林セミナーハウス
142	10	1	帯広畜産大学 畜産科学科	0	0	1	0	1	アカエゾマツ・エゾマツ・トドマツ苗畑の病害と菌根菌の関係解明 研究のための試料採取	
143	10	1	一般	0	0	0	3	3	林道法面の稚樹採取	
144	10	4	東大・農・森林科学専攻	1	0	0	0	1	昆虫嗜好性根昆虫の侵入定着と遺伝的構造に及ぼす種間交雑と媒介昆虫種数の影響	山部宿泊施設
145	10	1	旭川開発建設部	0	0	0	15	15	林内見学	
146	10	2	東大・新領域・人間環境学専攻	4	0	0	0	4	林内視察	山部宿泊施設
147	10	1	富良野市経済部	0	0	0	25	25	林内見学	
148	10	1	富良野市ぶどう果樹研究所	0	0	0	1	1	ミズナラの伐採現場見学、写真撮影	
149	10	2	東大・農・森林利用学研究室	1	0	0	7	8	里親樹木見学	
150	10	1	北海道大学 農学部	0	1	0	0	1	択伐施業林の天然更新に関する研究打合せ	
151	10	2	積水化学工業株式会社	0	0	0	20	20	林内見学・里親樹木面会	北海道演習林セミナーハウス
152	10	2	東大・農・経理課	4	0	0	0	4	内部監査	山部宿泊施設
153	10	1	北海道立林業試験場	0	0	0	6	6	「道産建築用材の環境優位性の評価」に係る研究における収穫作業に関する調査	
154	10	2	林業経済研究所	0	0	0	1	1	林内視察	山部宿泊施設2
155	10	5	東大・農・演習林・樹芸研究所	1	0	1	0	2	暗色雪腐れ病防除試験、エゾマツ、アカエゾマツ抽出成分分析	山部宿泊施設2
156	10	1	北海道立林業試験場	0	0	0	1	1	林内見学	
157	10	2	東大・施設部	3	0	0	0	3	特殊建築物等定期調査報告及び建築設備定期検査等	山部宿泊施設
158	10	2	読売新聞社	0	0	0	1	1	演習林研究活動の取材	山部宿泊施設
159	10	1	帯広畜産大学	0	0	1	0	1	アカエゾマツ・エゾマツ・トドマツ苗畑の病害と菌根菌の関係解明 研究のための試料採取	
160	10	2	東大・総務部・情報課	2	0	0	0	2	ネットワーク調査・業務改善調査	山部宿泊施設2
161	10	4	北海道立水産孵化場	0	0	0	2	2	演習林内河川の魚類相調査	山部宿泊施設
162	10	2	東京大学演習林技術職員等試験研究研修会議	18	0	0	0	18	東京大学演習林技術職員等試験研究研修会議	北海道演習林セミナーハウス
163	11	4	東大・農・演習林	7	0	1	0	8	台湾大学演習林職員の見学	山部宿泊施設
164	11	3	東大・農・森林利用学研究室	1	1	2	0	4	神社山路網の総合評価に関する研究	山部宿泊施設
165	11	7	東大・農・森林利用学研究室	1	1	1	0	3	神社山路網の総合評価に関する研究	山部宿泊施設2
166	11	5	東大・農・演習林・樹芸研究所	1	0	0	0	1	暗色雪腐れ病防除試験、エゾマツ、アカエゾマツ抽出成分分析	山部宿泊施設2
167	12	3	宇都宮大学 農学部	1	0	0	0	1	遺伝子解析のためのエゾマツ・アカエゾマツ天然種間雑種及び人工交配雑種個体の採取	山部宿泊施設2
168	2	6	東大・農・演習林・樹芸研究所	1	0	0	0	1	暗色雪腐れ病防除試験、エゾマツ、アカエゾマツ抽出成分分析	山部宿泊施設2
169	2	2	東大・農・演習林	3	0	0	0	3	技術職員採用試験	山部宿泊施設
170	2	2	東北大学 大学院農学研究科	0	0	1	0	1	アカエゾマツの遺伝子流動に関する研究打合せ	山部宿泊施設2
171	2	2	北海道大学 農学部	0	1	0	0	1	択伐施業林の天然更新に関する研究打合せ	山部宿泊施設2

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
172	2	6	北海道大学 農学部	0	1	0	0	1	択抜施業林の天然更新に関する研究打合せ	山部宿泊施設2
173	2	12	広島大学 総合科学部	0	1	0	0	1	カツラの遺伝子流動に関する研究	山部宿泊施設2
174	2	3	東大・農・演習林・秩父演習林	1	0	0	0	1	演習林見学	
175	3	10	東大・農・森園管理学	0	0	1	0	1	ウダイカンバ林の遺伝構造形成プロセスに関する研究 (成果報告)	山部宿泊施設2
176	3	5	東大・農・演習林・樹芸研究所	1	0	0	0	1	暗色雪腐れ病防除試験, エゾマツ, アカエゾマツ抽出成分分析	山部宿泊施設2
177	3	4	北海道大学 農学部	0	1	0	0	1	択抜施業林の天然更新に関する研究打合せ	山部宿泊施設2
178	3	2	北海道大学 低温科学研究所	1	0	1	0	2	トガリネズミの同定と標本作製	山部宿泊施設
179	3	2	北海道後志森づくりセンター	0	0	0	1	1	針広混交天然林の見学	山部宿泊施設
180	3	2	東大・農・演習林	2	0	0	0	2	北海道演習林視察・意見交換会	山部宿泊施設
181	3	1	ボーイスカウト富良野第一師団	0	0	0	13	13	林内研修	
182	3	1	麓郷ラングラウフ	0	0	0	400	400	麓郷ラングラウフ	
183	4~3		森林資料館見学者	0	0	0	236	236		
184	4~3		樹木園見学者	0	0	0	75	75		

利用者数合計 2,232

利用者延べ数合計 4,452

利用件数 184

演習林名：秩父演習林

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	1	東邦大学理学部生物学科 地理生態学研究室	0	1	1	1	3	ヤマザクラのゲノム解析 (卒論)	
2	4	1	クラブツーリズム株式会社 千葉旅行センター	0	0	0	1	1	交流会ツアーのための下見	
3	4	1	秩父演習林	0	0	0	17	17	サポーター養成講座「教育・研究」	
4	4	1	大学院新領域創成科学研究科・生物圏情報学	0	0	1	0	1	修士研究 (サポーター養成講座同行)	
5	4	2	農学部 森林環境科学専修	0	1	0	0	1	イヌブナ実生の消長に関する研究	川俣自炊宿舎
6	4	4	農学生命科学研究科 森林科学 造林学教室	3	7	2	0	12	森林土壌学実験	川俣学生宿舎
7	4	1	農学生命科学研究科 演習林研究部	1	0	0	0	1	ブナのコール形成性タマバエ類の密度変動に雪が及ぼす影響の解明	
8	4	1	大学院農学生命科学研究科 造林学研究室	1	0	0	0	1	木本植物の高AL耐性の解析	
9	4	1	農学生命科学研究科 森林動物学研究室	1	0	2	1	4	穿孔虫の採集及び打合せ	
10	4	1	埼玉県農林総合研究センター森林研究所	0	0	0	3	3	荒川流域水辺林再生技術の開発	
11	4	1	秩父演習林	0	0	0	2	2	自由見学	
12	4	1	大学院新領域創成科学研究科・生物圏情報学	5	0	42	0	47	自然環境野外総合実習	
13	4	2	農学部 森林環境科学専修	0	1	0	0	1	イヌブナ実生の消長に関する研究	川俣自炊宿舎
14	4	1	秩父演習林	0	0	0	3	3	自由見学	
15	4	2	秩父演習林しおじの会	0	0	0	2	2	炭焼き作業	大血川作業所
16	4	1	埼玉県農林総合研究センター森林研究所	0	0	0	3	3	荒川流域水辺林再生技術の開発	
17	4	1	埼玉県立自然の博物館	0	0	0	2	2	5/20共催事業の下見	
18	4	1	農学生命科学研究科 森林科学専攻	1	0	1	1	3	森林土壌学実習下見	
19	4	1	埼玉県環境科学国際センター	0	0	0	2	2	埼玉県における光化学オキシダントの植物影響把握法の確立	
20	4	2	大学院工学系研究科 地球システム工学専攻	1	3	5	0	9	授業 (領域プロジェクト) の一環	川俣学生宿舎
21	4	1	秩父演習林 しおじの会	0	0	0	13	13	新緑勉強会	
22	4	1	秩父演習林	0	0	0	9	9	公開講座「植物の見分け方入門ー草本編ー」	
23	4	1	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性	
24	4	1	荒川水系溪流保存会	0	0	0	3	3	イワナ稚魚の放流活動	
25	4	1	一般	0	0	0	1	1	影森苗畑の見学	
26	4	1	農学部 森林環境科学専修	0	1	0	0	1	イヌブナ実生の消長に関する研究	
27	4	1	埼玉県農林総合研究センター森林研究所	0	0	0	3	3	荒川流域水辺林再生技術の開発	
28	4	1	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性	
29	4	1	埼玉県秩父農林振興センター林業部	0	0	0	2	2	入川軌道跡の見学	
30	4	1	埼玉県農林総合研究センター森林研究所	0	0	0	3	3	荒川流域水辺林再生技術の開発	
31	5	2	農学部 森林環境科学専修	0	1	0	0	1	イヌブナ実生の消長に関する研究	川俣自炊宿舎
32	5	1	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性他	
33	5	2	農学生命科学研究科生物材料科学	1	0	0	0	1	林産に関するデジタルコンテンツの作成	川俣自炊宿舎
34	5	1	秩父の環境を考える会	0	0	0	1	1	植物調査	
35	5	1	百年の森づくりの会	1	0	0	13	14	埼玉エコサロン	
36	5	4	農学生命科学研究科 森林科学専攻	1	3	1	1	6	森林土壌学実習	川俣学生宿舎
37	5	2	農学部 森林環境科学専修	0	1	0	0	1	イヌブナ実生の消長に関する研究	川俣自炊宿舎
38	5	2	大学院新領域創成科学研究科・生物圏情報学	2	0	0	0	2	ブナ林内の景観と環境情報の定時伝送蓄積によるインターネット環境学習データの作成	栃本宿舎
39	5	1	埼玉県農林総合研究センター森林研究所	0	0	0	3	3	荒川流域水辺林再生技術の開発	
40	5	1	埼玉県立大滝げんきプラザ	0	0	0	5	5	山菜とトロッコ廃路線下見	
41	5	1	東京大学 分子細胞生物学研究所	1	0	1	0	2	地衣類からの放線菌の系統分類に関する研究	
42	5	2	農学部 森林環境科学専修	0	1	0	0	1	イヌブナ実生の消長に関する研究	栃本宿舎 (自炊)

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
43	5	1	農学生命科学研究科 演習林研究部	2	0	0	0	2	ブナの種子発育過程に伴う樹木の養分分配と成長及び昆虫の食害との関係解明	
44	5	3	埼玉県立深谷商業高校	0	0	0	96	96	高校総体登山の部開催のため	幕営
45	5	1	荒川水系溪流保存会	1	0	0	2	3	在来イワナの採捕	
46	5	2	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1	0	1	0	2	ミズナラ結実の遺伝特性他	入川コンテナハウス
47	5	1	秩父演習林	0	0	0	16	16	自由見学	
48	5	6	高知大学大学院理学研究科	0	0	1	0	1	秩父盆地層群の堆積学的、古生物学的研究	栃本宿舎(自炊)・栃本宿舎
49	5	1	秩父演習林	0	0	0	19	19	サポーター養成講座「歴史」	
50	5	1	大学院新領域創成科学研究科・生物圏情報学	0	0	2	0	2	修士研究(サポーター養成講座同行)	
51	5	1	クラブツーリズム株式会社千葉旅行センター	0	0	0	17	17	交流会ツアー	
52	5	2	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	4	0	19	0	23	進化多様性生物学演習 I	川俣学生宿舎
53	5	1	農学部 森林環境科学専修	0	2	0	0	2	イヌブナ実生の消長に関する研究	
54	5	1	埼玉県立自然の博物館	0	1	0	44	45	共催事業 奥秩父自然探検バスツアー	
55	5	1	秩父演習林	0	0	0	8	8	公開講座「植物の見分け方入門ー樹木編ー」	
56	5	2	秩父演習林	0	0	0	4	4	ライトセンサス調査見学	栃本宿舎
57	5	10	高知大学大学院理学研究科	0	0	1	0	1	秩父盆地層群の堆積学的、古生物学的研究	川俣自炊宿舎
58	5	2	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性他	入川コンテナハウス
59	5	1	農学部 森林環境科学専修	0	1	0	0	1	イヌブナ実生の消長に関する研究	
60	5	1	東大農場・演習林の存続を願う会	0	0	0	50	50	秩父演習林見学	
61	5	2	秩父演習林	0	0	0	1	1	年輪研究会	川俣学生宿舎
62	5	3	秩父演習林	8	0	0	2	10	年輪研究会	川俣学生宿舎
63	5	1	秩父演習林	2	0	0	3	5	演習林の森林の見学	
64	5	1	武蔵大学	1	15	0	0	16	日本東アジア比較文化入門演習	
65	5	3	信州大学農学部森林科学科	1	2	0	0	3	ブナの肥大成長季節変動観測	
66	5	2	秩父演習林	8	0	0	3	11	年輪研究会	川俣学生宿舎
67	5	1	秩父演習林	0	0	0	14	14	自由見学	
68	5	1	埼玉県立大滝げんきプラザ	0	0	0	68	68	山菜とトロッコ廃路線	
69	5	1	埼玉県秩父市立影森中学校	0	0	0	89	89	林間学校自然体験	
70	5	2	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性他	入川コンテナハウス
71	5	2	農学部 森林環境科学専修	0	1	0	0	1	イヌブナ実生の消長に関する研究	栃本宿舎(自炊)
72	5	1	埼玉県農林総合研究センター森林研究所	0	0	0	2	2	荒川流域水辺林再生技術の開発	
73	6	1	東京大学田無試験地	1	0	0	0	1	全学体験ゼミナール「危険生物の知識」下見	
74	6	1	東京大学演習林研究部	2	0	0	2	4	演習林見学	
75	6	1	東京大学千葉演習林	2	0	0	0	2	演習林見学	
76	6	1	東京大学愛知演習林	3	0	0	3	6	演習林見学	
77	6	1	大学院新領域創成科学研究科・生物圏情報学	1	0	1	0	2	ブナ林内の景観と環境情報の定時伝送蓄積によるインターネット環境学習データの作成	
78	6	1	東京大学農学部森林環境科学専修	0	1	0	0	1	卒業研究	
79	6	2	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性他	入川コンテナハウス
80	6	2	農学部 森林環境科学専修	0	1	0	0	1	イヌブナ実生の消長に関する研究	川俣自炊宿舎
81	6	2	日本野鳥の会 自然保護室	0	0	0	2	2	モニタリング1000 鳥類調査	川俣学生宿舎
82	6	1	埼玉県農林総合研究センター森林研究所	0	0	0	1	1	荒川流域水辺林再生技術の開発	
83	6	5	東京大学北海道演習林	2	0	0	0	2	秩父演習林とその周辺の植生調査	栃本宿舎
84	6	3	大学院新領域創成科学研究科・生物圏情報学	2	5	4	0	11	全学自由研究ゼミナール デジタルビデオ森林映像制作	
85	6	1	秩父演習林	0	0	0	17	17	サポーター養成講座「植物」	
86	6	1	農学部 森林環境科学専修	0	1	0	0	1	リタートラップ回収に同行	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
87	6	1	埼玉県環境科学国際センター	0	0	0	2	2	埼玉県における光化学オキシダントの植物影響把握法の確立	
88	6	1	農学生命科学研究科 演習林研究部	1	0	0	0	1	ブナの種子発育過程に伴う樹木の養分分配と成長及び昆虫の食害との関係解明	
89	6	2	演友会	0	0	0	6	6	演習林見学	川俣学生宿舎
90	6	1	秩父演習林	1	25	0	0	26	全学体験ゼミナール 森に学ぶ(4) 危険生物の知識	
91	6	2	農学部 森林環境科学専修	0	1	0	0	1	イヌブナ実生の消長に関する研究	栃本宿舎(自炊)
92	6	1	秩父の環境を考える会	0	0	0	1	1	植物調査	
93	6	2	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性他	入川コンテナハウス
94	6	1	秩父演習林しおじの会	0	0	0	1	1	埼玉県秩父市に発生するキノコと気象条件	
95	6	1	秩父演習林	0	0	0	6	6	自由見学	
96	6	2	秩父演習林しおじの会	0	0	0	5	5	炭焼き作業	大血川作業所
97	6	1	埼玉県農林総合研究センター森林研究所	0	0	0	3	3	荒川流域水辺林再生技術の開発	
98	6	1	農学生命科学研究科 森林動物学研究室	0	0	1	0	1	影森苗畑のブナ立木の伐採及び搬送作業	
99	6	1	秩父演習林	0	0	0	12	12	サポーター養成講座「安全管理」	
100	6	1	農学生命科学研究科 演習林研究部	3	0	0	0	3	ブナの種子発育過程に伴う樹木の養分分配と成長及び昆虫の食害との関係解明	
101	6	1	大学院新領域創成科学研究科・生物圏情報学	0	0	1	0	1	修士研究(サポーター養成講座同行)	
102	6	1	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性他	
103	6	1	埼玉県環境科学国際センター	0	0	0	3	3	埼玉県における光化学オキシダントの植物影響把握法の確立	
104	6	1	東京大学附属演習林研究部	1	0	1	0	2	日本の自然保全関連指定地域の管理に関する研究	
105	6	4	東邦大学理学部生物学科	1	16	0	1	18	学部2年生 野外実習	川俣学生宿舎
106	6	1	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性他	
107	6	3	東邦大学理学部生物学科	0	2	1	1	4	学部2年生 野外実習補助(2-4年生)	川俣学生宿舎
108	6	1	農学部 森林環境科学専修	0	1	0	0	1	イヌブナ実生の消長に関する研究	
109	6	2	東京大学愛知演習林	1	0	0	0	1	ブナ豊凶度調査	
110	6	1	東京大学愛知演習林	2	0	2	0	4	シオジの水分生理が冬季の直径収縮現象に与える影響	
111	7	1	秩父演習林	0	0	0	8	8	公開講座「森林の獣」	
112	7	1	新領域創成科学研究科生物圏情報学	0	0	1	0	1	博士研究参考の為の公開講座同行	
113	7	1	農学部 森林環境科学専修	0	1	0	0	1	イヌブナ実生の消長に関する研究	
114	7	3	秩父第一中学校	0	0	0	5	5	中学生社会体験チャレンジ事業「仕事発見DAY」	
115	7	1	農学生命科学研究科 演習林研究部	1	0	0	0	1	ブナの種子発育過程に伴う樹木の養分分配と成長及び昆虫の食害との関係解明	
116	7	6	京都大学農学部森林生物学分野	0	1	0	0	1	アオゲラの種内個体群の遺伝的構造	川俣自炊宿舎・栃本宿舎(自炊)
117	7	2	神戸大学農学部生物環境制御学科	4	1	1	0	6	土壌および植生調査の下見見学	栃本宿舎(自炊)
118	7	1	一般	0	0	0	4	4	演習林見学	
119	7	1	秩父演習林	0	0	0	21	21	サポーター養成講座「動物」	
120	7	8	高知大学大学院理学研究科	0	0	1	0	1	秩父盆地層群の堆積学的、古生物学的研究	川俣自炊宿舎
121	7	1	大学院新領域創成科学研究科・生物圏情報学	0	0	1	0	1	修士研究(サポーター養成講座同行)	
122	7	1	埼玉県農林総合研究センター森林研究所	0	0	0	2	2	荒川流域水辺林再生技術の開発	
123	7	2	農学部 森林環境科学専修	0	1	0	0	1	イヌブナ実生の消長に関する研究	栃本宿舎(自炊)
124	7	1	新領域創成科学研究科生物圏情報学	1	0	1	0	2	ブナ林内の景観と環境情報の定時伝送蓄積によるインターネット環境学習データの作成	
125	7	1	立正大学大学院地球環境科学研究科	0	0	1	0	1	樹木年輪を用いた周辺環境変化の復元	
126	7	1	信州大学農学部森林科学科	1	0	0	0	1	ブナの肥大成長季節変動観測	
127	7	1	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性、長期生態系、スズタケ結実確認	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
128	7	4	農学生命科学研究科森林植物学研究室	4	20	2	0	26	森林植物学実験 野外実習	川俣学生宿舍
129	7	1	農学生命科学研究科造林学研究室	0	0	0	1	1	林床植生の種多様性における菌根菌を介した光合成産物供給の影響評価	
130	7	1	農学生命科学研究科演習林研究部	1	0	0	0	1	ブナの種子発育過程に伴う樹木の養分分配と成長及び昆虫の食害との関係解明	
131	7	1	新領域創成科学研究科生物圏情報学	1	0	0	0	1	ブナ林内の景観と環境情報の定時伝送蓄積によるインターネット環境学習データの作成	
132	7	2	埼玉県立秩父農工科学高等学校	0	0	0	41	41	樹木採集実習	川俣学生宿舍
133	7	1	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性、長期生態系、スズタケ結実確認	
134	7	1	農学部 森林環境科学専修	0	1	0	0	1	イヌブナ実生の消長に関する研究	
135	7	2	新領域創成科学研究科生物圏情報学	0	0	1	0	1	夜間ライトセンサス調査参加	
136	7	1	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性、長期生態系、スズタケ結実確認	
137	7	1	生圏システム学専攻森圏管理学	1	0	1	0	2	フィールド科学総合演習下見	
138	7	1	農学生命科学研究科演習林研究部	1	0	0	0	1	ブナの種子発育過程に伴う樹木の養分分配と成長及び昆虫の食害との関係解明	
139	7	1	新領域創成科学研究科生物圏情報学	0	0	1	0	1	クマハギの予備調査	
140	7	2	愛知演習林	1	0	0	0	1	イヌブナ・ブナ豊凶度調査 試料整理	
141	7	2	新領域創成科学研究科生物圏情報学	1	0	3	0	4	生物環境学実習	栃本宿舍
142	7	1	埼玉県農林総合研究センター森林研究所	0	0	0	2	2	荒川流域水辺林再生技術の開発	
143	7	1	埼玉県環境科学国際センター	0	0	0	3	3	埼玉県における光化学オキシダントの植物影響把握法の確立	
144	8	4	立教大学 学校・社会教育講座学芸員課程	5	16	5	3	29	博物館学芸員課程 野外実習	川俣学生宿舍
145	8	1	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1	0	1	0	2	コナラ林における土壌観察	
146	8	1	森林総合研究所	0	0	0	2	2	ウダイカンバ産地試験用個体の観察	
147	8	1	農学生命科学研究科演習林研究部	1	0	0	0	1	ブナの種子発育過程に伴う樹木の養分分配と成長及び昆虫の食害との関係解明	
148	8	7	東京農工大学共生科学技術研究部	1	0	1	0	2	産地の異なるブナの木部の組織的特性及び葉の形態・生理的特性に関する研究	
149	8	1	新領域創成科学研究科生物圏情報学	0	0	1	0	1	クマハギの予備調査	
150	8	4	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	3	0	13	0	16	フィールド科学総合演習（森圏管理学）	川俣学生宿舍
151	8	1	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性、長期生態系、スズタケ結実確認	
152	8	1	新領域創成科学研究科生物圏情報学	0	0	1	0	1	クマハギの予備調査	
153	8	1	農学部 森林環境科学専修	0	1	0	0	1	イヌブナ実生の消長に関する研究	
154	8	1	生圏システム学専攻	2	0	1	0	3	クスギ節の遺伝低多様性に関する研究	
155	8	1	農学生命科学研究科演習林研究部	1	0	0	0	1	ブナの種子発育過程に伴う樹木の養分分配と成長及び昆虫の食害との関係解明	
156	8	1	埼玉大学教育学部体育医・科学講座	0	22	0	10	32	集中講義 スポーツ実技「森林トレッキング」	
157	8	1	秩父演習林	0	0	0	5	5	自由見学	
158	8	2	愛知演習林	1	0	0	0	1	イヌブナ・ブナ豊凶度調査 試料整理	
159	8	1	埼玉大学教育学部	1	5	2	2	10	秩父山地における半翅類昆虫相の調査	
160	8	3	共栄学園中学校・高等学校	2	0	0	4	6	自然体験学習	川俣自炊宿舍・栃本宿舍（自炊）
161	8	1	東京都立墨田川高等学校	3	0	0	11	14	生物実習「森と川を考える」	
162	8	1	農学生命科学研究科演習林研究部	1	0	0	0	1	ブナの種子発育過程に伴う樹木の養分分配と成長及び昆虫の食害との関係解明	
163	8	1	埼玉県立大滝げんきプラザ	0	0	0	79	79	共催事業 夏休み親子でつくる一研究	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
164	8	1	新領域創成科学研究科 生物圏情報学	0	0	1	0	1	クマハギの予備調査	
165	8	4	首都大学東京教養学部 理工学系	2	15	1	0	18	動物系統学野外実習	川俣学生宿舎
166	8	1	埼玉県農林総合研究セン ター 森林研究所	0	0	0	3	3	荒川流域水辺林再生技術の開発	
167	8	1	農学生命科学研究科生圏 システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性、長期生態系、 スズタケ結実確認	
168	8	3	農学部 森林環境科学専 修	0	2	2	0	4	イヌブナ実生の消長に関する研究他	栃本宿舎 (自炊)
169	8	1	農学生命科学研究科演習 林研究部	1	0	0	0	1	ブナの種子発育過程に伴う樹木の養分 分配と成長及び昆虫の食害との関係解 明	
170	8	1	秩父演習林	0	0	0	17	17	サポーター養成講座「森林生態系の管 理と利用」	
171	8	2	新領域創成科学研究科 生物圏情報学	1	0	2	0	3	生物環境学実習、自然環境学研究	栃本宿舎
172	8	1	新領域創成科学研究科 生物圏情報学	0	0	1	0	1	ライトセンサス調査見学	
173	8	2	農学生命科学研究科生圏 システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性、長期生態系、 スズタケ結実確認	入川コンテナハウ ス
174	8	1	農学生命科学研究科演習 林研究部	1	0	0	0	1	ブナの種子発育過程に伴う樹木の養分 分配と成長及び昆虫の食害との関係解 明	
175	9	7	高知大学大学院理学研究 科	0	0	1	0	1	秩父盆地層群の堆積学的、古生物学的 研究	川俣自炊宿舎
176	9	1	(株) 毎日企画サービス毎 日新聞旅行	0	0	0	1	1	10/6 毎日文化講座下見	
177	9	1	信州大学理学部生物学科	3	20	2	0	25	埼玉大学理学部野外実習	
178	9	1	埼玉県環境科学国際セン ター	0	0	0	2	2	埼玉県における光化学オキシダントの植 物影響把握法の確立	
179	9	1	秩父演習林	0	0	0	17	17	サポーター養成講座「育林」	
180	9	1	農学生命科学研究科生圏 システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性、長期生態系、 スズタケ結実確認	
181	9	2	新領域創成科学研究科 生物圏情報学	1	0	2	0	3	自然環境学研究、科学研究	栃本宿舎
182	9	1	新領域創成科学研究科 生物圏情報学	0	0	1	0	1	クマハギ調査	
183	9	1	大学院新領域創成科学研 究科自然環境学専攻	0	0	1	0	1	修士研究 (サポーター養成講座同行)	
184	9	1	農学生命科学研究科演習 林研究部	1	0	0	0	1	ブナの種子発育過程に伴う樹木の養分 分配と成長及び昆虫の食害との関係解 明	
185	9	1	NPO法人 野外調査研究 所	0	0	0	23	23	「スカリ (背負い編み袋) を編んでみよう」 講習会	
186	9	1	秩父演習林	0	0	0	4	4	自由見学	
187	9	1	農学生命科学研究科生圏 システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性、長期生態系、 スズタケ結実確認	
188	9	1	秩父演習林	0	0	0	2	2	自由見学	
189	9	1	新領域創成科学研究科 生物圏情報学	1	0	0	0	1	ブナ林内の景観と環境情報の定時伝送 蓄積によるインターネット環境学習デー タの作成	
190	9	2	秩父演習林	0	0	0	7	7	炭焼き作業	大血川作業所
191	9	1	埼玉県環境科学国際セン ター	0	0	0	2	2	埼玉県における光化学オキシダントの植 物影響把握法の確立	
192	9	1	農学生命科学研究科生圏 システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性、長期生態系、 スズタケ結実確認	
193	9	3	北海道大学苫小牧研究林	1	0	0	1	2	ブナの食害および土壌動物に関する研 究	栃本宿舎
194	9	1	農学部 森林環境科学専 修	0	1	0	0	1	イヌブナ実生の消長に関する研究	
195	9	2	千葉演習林	3	0	0	0	3	秩父山系におけるニホンジカ被害の実 態調査	川俣学生宿舎
196	9	1	田無試験地	4	0	0	0	4	演習林見学	
197	9	1	大学院新領域創成科学研 究科・生物圏情報学	0	0	1	0	1	クマハギ予備調査	
198	9	4	北海道演習林	1	8	0	0	9	全学体験ゼミナール「秩父山地の森林を 巡る」	川俣学生宿舎
199	9	2	大学院新領域創成科学研 究科・生物圏情報学	0	0	1	0	1	ライトセンサス調査見学	栃本宿舎 (自炊)
200	9	1	愛知演習林	1	0	1	0	2	量水堰新設候補地の視察	
201	9	1	農学生命科学研究科生圏 システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性、長期生態系、 スズタケ結実確認	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
202	9	2	新領域創成科学研究科 生物圏情報学	1	0	9	0	10	生物環境学実習、科学研究	川俣学生宿舍
203	9	1	一般	0	0	0	1	1	取材	
204	9	1	秩父市立尾田蔭中学校	0	0	0	21	21	総合学習時間の校外学習	
205	9	1	立教大学観光学部	3	2	3	11	19	埼玉県大滝地域における森林ツアーの モニターツアー	
206	10	1	東葛の巨木とふれあう会	0	0	0	20	20	演習林見学	
207	10	1	演習林研究部	1	0	0	0	1	ブナの種子発育過程に伴う樹木の養分 分配と成長及び昆虫の食害との関係解 明	
208	10	1	埼玉県農林総合研究セン ター	0	0	0	3	3	荒川流域水辺林再生技術の開発	
209	10	3	農学生命科学研究科生物 材料科学	2	14	2	0	18	森林科学実習	川俣学生宿舍
210	10	1	農学部 森林環境科学専 修	0	1	0	0	1	イヌブナ実生の消長に関する研究	
211	10	1	(株) 毎日企画サービス毎日 新聞旅行	0	0	0	11	11	毎日文化講座(巨樹と名木を訪ねて)	
212	10	1	秩父演習林	0	0	0	7	7	公開講座「森の身体測定」	
213	10	1	生圏システム学専攻森圏 管理学研究室	1	0	7	0	8	森圏管理学実験	
214	10	1	愛知演習林	2	0	1	0	3	シオジの冬季における樹幹部収縮現象 の解明	
215	10	1	秩父の環境を考える会	0	0	0	1	1	植物調査	
216	10	1	農学生命科学研究科森林 利用学研究室	1	0	0	1	2	冷温帯落葉広葉樹林の見学	
217	10	2	農学生命科学研究科生圏 システム学専攻	1	0	0	0	1	鳥類調査	幕営
218	10	2	新領域創成科学研究科	2	0	0	0	2	ブナ林内の景観と環境情報の定時伝送 蓄積によるインターネット環境学習デー タの作成	栃本宿舎
219	10	2	新領域創成科学研究科	1	0	4	0	5	自然環境デザイン実習	川俣学生宿舍
220	10	1	秩父演習林	0	0	0	12	12	自由見学日	
221	10	1	秩父演習林	0	0	0	21	21	自由見学日	
222	10	1	秩父演習林	0	0	0	14	14	サポーター養成講座「公益的機能」	
223	10	1	大学院新領域創成科学研究 科自然環境学専攻	0	0	1	0	1	修士研究(サポーター養成講座同行)	
224	10	2	農学部 森林環境科学専 修	0	1	0	0	1	イヌブナ実生の消長に関する研究	栃本宿舎(自炊)
225	10	1	生圏システム学専攻	0	0	2	0	2	コナラ林の遺伝的多様性調査	
226	10	1	演習林研究部	1	0	0	0	1	ブナの種子発育過程に伴う樹木の養分 分配と成長及び昆虫の食害との関係解 明	
227	10	1	秩父演習林	0	0	0	49	49	ワサビ沢展示室特別開室	
228	10	2	新領域創成科学研究科	1	0	4	0	5	自然環境デザイン実習	栃本宿舎
229	10	1	秩父演習林	0	0	0	61	61	ワサビ沢展示室特別開室	
230	10	1	埼玉県みどり自然課	0	0	0	1	1	動物生態調査法(区画法の研修)	
231	10	1	農学生命科学研究科生圏 システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性、長期生態系、 鳥類調査	
232	10	1	秩父の環境を考える会	0	0	0	1	1	動物生態調査法(区画法の研修)	
233	10	1	埼玉県農林総合研究セン ター	0	0	0	3	3	荒川流域水辺林再生技術の開発	
234	10	2	新領域創成科学研究科 生物圏情報学	0	0	1	0	1	区画法調査へのオブザーバー参加	
235	10	1	農学生命科学研究科生圏 システム学専攻	1	0	1	0	2	ミズナラ結実の遺伝特性、長期生態系、 鳥類調査	
236	10	1	秩父演習林	0	0	0	78	78	ワサビ沢展示室特別開室	
237	10	1	森のボランティア	0	0	0	19	19	演習林見学	
238	10	1	秩父演習林	0	0	0	118	118	ワサビ沢展示室特別開室	
239	10	1	埼玉県みどり自然課	0	0	0	2	2	動物生態調査法(区画法の研修)	
240	10	1	秩父の環境を考える会	0	0	0	1	1	動物生態調査法(区画法の研修)	
241	10	2	新領域創成科学研究科 生物圏情報学	0	0	1	0	1	ライトセンサス調査見学、クマハギ予備調 査	
242	10	1	埼玉県環境科学国際セン ター	0	0	0	2	2	埼玉県における光化学オキシダントの植 物影響把握法の確立	
243	11	1	農学生命科学研究科生圏 システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性、長期生態系、 鳥類調査	
244	11	1	農学生命科学研究科生圏 システム学専攻	1	0	2	0	3	ヒノキ天然林の種子生産に関する研究	
245	11	1	秩父市立秩父第二中学校	0	0	0	153	153	環境学習の一環として森林や樹木につ いて学ぶ	
246	11	3	新領域創成科学研究科	2	6	1	0	9	全学自由研究ゼミナール「デジタルビデ オ森林映像製作」	大血川作業所

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
247	11	1	秩父演習林	0	0	0	164	164	ワサビ沢展示室特別開室	
248	11	1	秩父演習林	0	0	0	164	164	ワサビ沢展示室特別開室	
249	11	1	農学生命科学研究科森林動物学研究室	1	0	0	2	3	穿孔虫の採集	
250	11	1	秩父演習林	0	0	0	7	7	公開講座「秩父演習林の歴史」	
251	11	1	秩父演習林	0	0	0	144	144	ワサビ沢展示室特別開室	
252	11	1	農学部 森林環境科学専修	0	2	0	0	2	イヌブナ実生の消長に関する研究	
253	11	1	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性、長期生態系、鳥類調査、スズタケ調査	
254	11	3	農学生命科学研究科森林科学専攻	1	0	1	0	2	不成績造林地の取扱指針に関する研究	栃本宿舎
255	11	1	秩父演習林	0	0	0	56	56	ワサビ沢展示室特別開室	
256	11	1	秩父演習林	0	0	0	103	103	ワサビ沢展示室特別開室	
257	11	1	埼玉県農林総合研究センター	0	0	0	1	1	荒川流域水辺林再生技術の開発	
258	11	4	農学生命科学研究科森林科学専攻	0	1	2	0	3	固定試験地の成長調査	川俣学生宿舎
259	11	1	演習林研究部	1	0	0	0	1	ブナの種子発育過程に伴う樹木の養分分配と成長及び昆虫の食害との関係解明	
260	11	1	秩父演習林	0	0	0	14	14	サポーター養成講座「施設・管理」	
261	11	1	新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1	0	0	0	1	ブナ林内の景観と環境情報の定時伝送蓄積によるインターネット環境学習データの作成	
262	11	1	新領域創成科学研究科自然環境学専攻	0	0	1	0	1	サポーター養成講座同行取材	
263	11	1	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性、長期生態系、鳥類調査、スズタケ調査	
264	11	1	埼玉県農林総合研究センター	0	0	0	2	2	荒川流域水辺林再生技術の開発	
265	11	1	新領域創成科学研究科自然環境学専攻	0	0	1	0	1	クマハギ予備調査	
266	11	1	秋田県立大学生物環境科学科森林科学講座	1	0	0	0	1	スズタケの一斉開花に関する研究	
267	11	1	秩父演習林	0	0	0	17	17	サポーター養成講座「環境教育」	
268	11	2	新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1	0	9	1	11	自然環境デザイン実習	川俣学生宿舎
269	11	1	埼玉県立大滝げんきプラザ	0	0	0	45	45	共催事業 紅葉のトロック軌道に秋をたずねて	
270	11	1	新領域創成科学研究科自然環境学専攻	0	0	1	0	1	サポーター養成講座同行取材	
271	11	1	秩父演習林	0	0	0	24	24	自由見学日	
272	11	1	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性、長期生態系、鳥類調査、スズタケ調査	
273	11	1	秩父の環境を考える会	0	0	0	2	2	ライトセンサス調査法(研修)	
274	11	1	秩父演習林	0	0	0	17	17	自由見学日	
275	11	1	新領域創成科学研究科自然環境学専攻	0	0	1	0	1	クマハギの予備調査	
276	11	1	新領域創成科学研究科自然環境学専攻	0	0	1	0	1	ライトセンサス調査見学	
277	11	1	愛知演習林	1	0	0	0	1	イヌブナ、ブナ豊凶度調査	
278	11	2	宇都宮大学大学院農学研究科森林科学専攻	3	1	2	1	7	イヌブナ林の群落構造の解明	川俣学生宿舎
279	11	1	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性、長期生態系、鳥類調査、スズタケ調査	
280	11	1	本多静六博士を記念する会	0	0	0	3	3	本多静六通信発行のための取材その他	
281	11	4	農学生命科学研究科森林科学専攻	0	0	3	0	3	不成績造林地の取扱指針に関する研究	栃本宿舎
282	11	1	秩父演習林	0	0	0	3	3	サポーター養成講座「安全管理」	
283	11	1	新領域創成科学研究科自然環境学専攻	0	0	1	0	1	サポーター養成講座同行取材	
284	11	1	農学生命科学研究科造林学研究室	1	0	1	2	4	韓国国立山林科学研究院研究員見学	
285	11	1	農学生命科学研究科	15	0	53	0	68	外国人留学生の日本理解及び農学の知識増進のための見学	
286	12	2	工学系研究科地球システム工学専攻	1	6	5	0	12	授業(応用プロジェクト)の一環として	川俣学生宿舎
287	12	1	JICA研修生	0	0	0	4	4	原生林の植生と広葉樹の養苗の見学	
288	12	1	生圏システム学専攻森園管理学	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性、長期生態系研究、獣毛トラップ片付け	
289	12	1	農学部 森林環境科学専修	0	1	0	0	1	イヌブナ実生の消長に関する研究	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
290	12	1	埼玉県農林総合研究センター	0	0	0	2	2	荒川流域水辺林再生技術の開発	
291	12	1	新領域創成科学研究科	0	0	1	0	1	クマハギ予備調査	
292	12	1	秩父演習林	0	52	0	0	52	全学体験ゼミナール「冬の森林学」	
293	12	1	秩父演習林	0	0	0	127	127	影森祭	
294	12	1	新領域創成科学研究科	0	0	1	0	1	クマハギ予備調査	
295	12	2	秩父演習林	0	25	0	0	25	全学体験ゼミナール「冬の森林学」	川俣学生宿舎
296	12	2	生圏システム学専攻森園管理学	1	0	0	0	1	ミズナラ結実の遺伝特性、長期生態系研究、獣毛トラップ片付け	
297	12	1	新領域創成科学研究科	0	0	1	0	1	クマハギ予備調査、ライトセンサス調査同行	
298	12	1	埼玉県環境科学国際センター	0	0	0	2	2	埼玉県における光化学オキシダントの植物影響把握法の確立、武甲山に生育する絶滅危惧植物ミヤマスカシユリの保全に関する研究	
299	1	1	埼玉県農林総合研究センター	0	0	0	3	3	荒川流域水辺林再生技術の開発	
300	1	1	新領域創成科学研究科	0	0	1	0	1	クマハギ予備調査	
301	1	2	愛知演習林	1	0	0	0	1	業務打合せ	
302	1	1	新領域創成科学研究科	0	0	1	0	1	森林施業記録の可視化に関する研究	
303	1	1	新領域創成科学研究科	0	0	1	0	1	クマハギ予備調査	
304	1	2	新領域創成科学研究科	0	0	1	0	1	ライトセンサス調査見学	川俣学生宿舎
305	2	1	新領域創成科学研究科	2	0	0	0	2	ブナ林内の景観と環境情報の定時伝送蓄積によるインターネット環境学習データの作成	
306	2	1	新領域創成科学研究科	0	0	1	0	1	ザバーン巻き作業見学	
307	2	1	埼玉県環境科学国際センター	0	0	0	2	2	埼玉県における光化学オキシダントの植物影響把握法の確立、武甲山に生育する絶滅危惧植物ミヤマスカシユリの保全に関する研究	
308	2	1	新領域創成科学研究科	0	0	1	0	1	ライトセンサス調査見学	
309	2	3	新領域創成科学研究科	0	0	1	0	1	クマハギ予備調査	栃本宿舎
310	2	1	秩父演習林しおじの会	0	0	0	1	1	忌避ブロックでの実生食害の効果の確認	
311	2	1	愛知演習林	1	0	0	0	1	シオジの冬季における樹幹部収縮現象の解明、ブナ・イヌブナ豊凶	
312	2	1	埼玉県農林総合研究センター	0	0	0	3	3	荒川流域水辺林再生技術の開発	
313	3	3	一般	0	0	0	1	1	雑誌「溪流」取材のため	
314	3	1	新領域創成科学研究科	1	0	1	0	2	クマハギ調査センサーカメラ設置	
315	3	2	新領域創成科学研究科	2	1	4	1	8	自然環境デザイン実習準備	川俣学生宿舎
316	3	2	宇都宮大学農学部森林科学科	0	3	0	0	3	演習林見学	栃本宿舎
317	3	2	千葉演習林	2	0	0	0	2	施設及び宿舎下見	
318	3	1	秩父演習林しおじの会	0	0	0	2	2	演習林見学	
319	3	1	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1	0	0	0	1	キクイムシ地域集団の比較	
320	3	1	農学生命科学研究科森林動物学研究室	1	1	0	1	3	穿孔虫の分化過程と遺伝的多様性解析のためのサンプルの採集	
321	3	1	一般	0	0	0	1	1	三峰モミの増殖について	
322	3	1	新領域創成科学研究科	0	1	0	0	1	ライトセンサス見学	
323	3	1	埼玉県環境科学国際センター	0	0	0	2	2	埼玉県における光化学オキシダントの植物影響把握法の確立、武甲山に生育する絶滅危惧植物ミヤマスカシユリの保全に関する研究	
324	3	1	埼玉県農林総合研究センター	0	0	0	2	2	荒川流域水辺林再生技術の開発	
325	3	2	秩父演習林しおじの会	0	0	0	6	6	炭焼き作業	大血川作業所
326	3	1	新領域創成科学研究科	1	0	1	0	2	クマハギ観察用センサーカメラ、ソーラーカメラ設置	
327	3	2	農学生命科学研究科森林動物学研究室	1	0	0	1	2	穿孔虫の分化過程と遺伝的多様性解析のためのサンプルの採集	

利用者数合計 3,255
利用者延べ数合計 4,330
利用件数 327

演習林名：愛知演習林

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	1	名古屋大学大学院	0	1	2	0	3	風化花崗岩地域における土壌の空間分布の不均質性が流出および土壌水分の時空間変動に及ぼす影響	
2	4	1	一般市民	0	0	0	16	16	杉挿し木 技術指導と実習	
3	4	1	名古屋大学大学院	0	0	2	0	2	博論研究(ワグネルポットの設置)	
4	4	1	犬山市エコアップリーダー 東大演習林グループ	0	0	0	10	10	エコアップ活動	
5	4	1	東京大学愛知演習林	0	0	0	80	80	森林認証・地域材認証と森林管理・木材利用に関するワークショップ	
6	4	1	東京大学愛知演習林	0	0	0	22	22	東大愛知演習林赤津研究林視察	
7	4	1	東京大学愛知演習林	0	0	0	14	14	春の見学日	
8	4	2	東京大学演習林研究部	1	0	1	0	2	パーシャルフリュームの設置	
9	4	1	名古屋大学大学院	0	1	1	0	2	パーシャルフリュームの設置手伝い	
10	4	1	名古屋大学大学院	0	1	1	0	2	パーシャルフリュームの設置手伝い	
11	5	1	名古屋大学大学院	1	1	1	0	3	山腹斜面における土壌物理特性の空間分布と土層構造の関係	
12	5	1	名古屋大学大学院	0	0	1	0	1	山腹斜面における土壌物理特性と土層構造の空間分布	
13	5	1	名古屋大学大学院	0	2	1	0	3	植生回復程度の異なる山地小流域における降雨流出特性および土砂流出特性	
14	5	1	名古屋大学大学院	0	0	1	0	1	植生回復程度の異なる山地小流域における降雨流出特性および土砂流出特性	
15	5	1	名東自然倶楽部 総合的な学習支援	0	0	0	9	9	名古屋市名東区内にある猪高緑地の保全をしていくための取り組みに生かす	
16	5	1	豊田森林組合	0	0	0	5	5	とよた森林学校 主体講座「森林の過去・現在・未来」の打ち合わせと下見	
17	5	1	名古屋大学大学院	0	2	4	0	6	植生回復程度の異なる山地小流域における降雨流出特性および土砂流出特性	
18	5	1	犬山市エコアップリーダー 東大演習林グループ	0	0	0	16	16	エコアップ活動	
19	5	1	名古屋大学大学院	1	16	1	0	18	資源生物環境学実験実習Ⅱにおける測樹学実習実施のため	
20	5	3	名古屋大学大学院	0	2	1	0	3	山腹斜面における土壌物理特性と土層構造の空間分布	
21	5	1	名古屋大学大学院	0	0	2	0	2	博士論文研究	
22	5	1	犬山市環境課	0	0	0	12	12	あいちこどもエコクラブ ふれあい会	
23	5	2	東京農業大学・治山緑化工学研究室	0	3	1	0	4	風化花崗岩山地における流域解析	
24	6	1	犬山市環境課	0	0	0	8	8	犬山市児童館地域活動の下見	
25	6	3	東京大学・森林科学砂防研究室	1	7	0	0	8	森林保全学実習	
26	6	2	名古屋大学大学院	0	0	1	0	1	植生回復程度の異なる山地小流域における降雨流出特性および土砂流出特性	
27	6	1	豊田森林組合	0	0	0	66	66	とよた森林学校 主体講座「森林の過去・現在・未来」の開催	
28	6	5	東京大学・森林科学砂防研究室	0	0	1	0	1	「青の革命と水のガバナンス」研究補助	赤津宿泊施設
29	6	1	特定非営利活動法人 穂の国森づくりの会	0	0	0	13	13	会員の森林に対する知識を深めるため	
30	6	1	名古屋大学大学院	1	16	3	0	20	資源生物環境学実験実習Ⅱ	
31	6	1	名古屋大学大学院	0	0	1	0	1	博士論文研究	
32	6	1	東京大学 農学部	0	0	1	0	1	現地見学	
33	6	1	名古屋大学大学院	0	0	1	0	1	植生回復程度の異なる山地小流域における降雨流出特性および土砂流出特性	
34	6	1	犬山市アメニティー協会	0	0	0	10	10	犬山市児童館地域活動の下見	
35	6	1	犬山市役所 子ども未来課	0	0	0	210	210	犬山市児童館地域活動	
36	6	1	市民(東山植物園ガイド)	0	0	0	6	6	植物相の観察と調査	
37	6	1	名古屋大学大学院	0	0	1	0	1	植生回復程度の異なる山地小流域における降雨流出特性および土砂流出特性	
38	6	2	東京農業大学・治山緑化工学研究室	0	3	0	0	3	風化花崗岩山地における流域解析	赤津宿泊施設
39	6	4	東京大学演習林研究部	0	0	1	0	1	パーシャルフリュームの設置	赤津宿泊施設
40	7	1	名古屋大学大学院	0	0	1	0	1	山腹斜面における土壌物理特性と土層構造の空間分布	
41	7	4	京都大学農学部	0	1	0	0	1	アオケラの種内個体群の遺伝的構造	赤津宿泊施設
42	7	2	名古屋大学大学院	0	0	1	0	1	山腹斜面における土壌物理特性と土層構造の空間分布	
43	7	3	東京大学演習林研究部	0	0	1	0	1	パーシャルフリュームの設置	赤津宿泊施設
44	7	1	東京大学愛知演習林	0	0	0	60	60	愛知演習林・犬山市共催公開講座	
45	7	5	(株)シー・ケー・エス 中部支社	0	0	0	2	2	「瀬戸地区動物環境調査」の鳥類定点調査のため	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
46	7	8	東京大学・森林科学砂防研究室	0	0	1	0	1	第1回分析技術習得、器具・薬品類の引継ぎ	赤津宿泊施設
47	7	1	名古屋大学大学院	0	2	1	0	3	山腹斜面における土壌物理特性と土層構造の空間分布	
48	7	1	犬山市エコアップリリーダー	0	0	0	30	30	エコアッ活動 親子で自然観察	
49	7	2	名古屋大学大学院	0	2	1	0	3	山腹斜面における土壌物理特性と土層構造の空間分布	
50	7	2	名古屋大学大学院	1	0	1	0	2	LiDARによる森林計測	赤津宿泊施設
51	7	8	東京大学演習林研究部	0	0	1	0	1	パーシャルフリュームの設置	赤津宿泊施設
52	7	1	愛知県森林・林業技術センター	22	0	0	0	22	森林指導者研修(森林観察)	
53	7	1	名古屋大学大学院	0	0	3	0	3	利用者研究集会	
54	7	1	犬山市エコアップリリーダー 東大演習林グループ	0	0	0	1	1	利用者研究集会	
55	7	1	名古屋大学大学院	0	0	1	0	1	利用者研究集会	
56	7	1	静岡大学農学部	1	2	1	0	4	利用者研究集会	
57	7	2	名古屋大学大学院	0	1	2	0	3	利用者研究集会	赤津宿泊施設
58	7	4	東京農業大学・治山緑化工学研究室	1	4	0	0	5	卒業論文の研究のため	赤津宿泊施設
59	7	1	瀬戸市 市民生活部環境課 環境保全係	0	0	0	13	13	市内の環境良好箇所等の視察	
60	7	5	静岡大学農学部	1	2	3	0	6	風化花崗岩斜面におけるヒノキ人工林の根系分布と土層構造について	赤津宿泊施設
61	8	3	東京大学 森林科学専攻 造林学研究室	0	0	2	1	3	撥水性土壌の分布調査	赤津宿泊施設
62	8	6	(株)シー・ケー・エス 中部支社	0	0	0	3	3	「瀬戸地区動物環境調査」の鳥類定点調査のため	
63	8	2	東京大学 農学系財務係	3	0	0	0	3	平成18年度 内部監査	赤津宿泊施設
64	8	1	名古屋大学大学院	0	0	2	0	2	博士論文研究	
65	8	1	東京大学愛知演習林	0	0	0	35	35	公開講座「水辺の生き物をさがそう」	
66	8	1	三重中学校	0	0	0	27	27	特別授業 「地球環境と調査」	
67	8	1	奈良大学 地理学研究会	0	5	0	0	5	瀬戸市における植生と土壌および禿山の分布調査	
68	8	1	扶桑町 木曽川野鳥観察会	0	0	0	20	20	野鳥の観察	
69	8	5	東京大学・森林科学砂防研究室	1	7	2	0	10	測量学実習	赤津宿泊施設
70	9	1	名古屋大学大学院	0	0	1	0	1	風化花崗岩流域における土壌の空間分布の不均質性が流出および土壌水分の時空間変動に及ぼす影響	
71	9	1	愛知県環境調査センター	0	0	0	18	18	名古屋環境大学講座:藤前干潟からのいのちのつながりを見る「矢田川・庄内川水の旅」	
72	9	4	東京農業大学・治山緑化工学研究室	0	5	0	0	5	卒業研究のための調査	赤津宿泊施設
73	9	1	(株)シー・ケー・エス 中部支社	0	0	0	2	2	「瀬戸地区動物環境調査」の鳥類定点調査のため	
74	9	4	東京大学演習林研究部	0	0	1	0	1	パーシャルフリュームの設置	赤津宿泊施設
75	9	8	東京大学・森林科学砂防研究室	0	0	1	0	1	水質分析のため	赤津宿泊施設
76	9	4	東京大学教養学部	0	2	0	0	2	本学教養学部・全学体験ゼミナール	赤津宿泊施設
77	9	1	名古屋大学大学院	0	0	1	0	1	博士論文研究	
78	10	4	東京大学演習林研究部	0	0	1	0	1	パーシャルフリュームの動作確認	赤津宿泊施設
79	10	1	名古屋大学大学院	0	0	1	0	1	博士論文研究	
80	10	1	東京農業大学・治山緑化工学研究室	0	1	0	0	1	卒業論文の研究のための調査	
81	10	1	犬山市エコアップリリーダー 東大演習林グループ	0	0	0	8	8	エコアッ活動	
82	10~11	46	元・東京大学演習林研究部	0	0	0	1	1	生圏システム学専攻 博士学位論文執筆および提出	赤津宿泊施設
83	10	1	犬山市シルバー人材センター	0	0	0	25	25	自然観察ウォーキング	
84	10	1	名古屋大学大学院	0	0	1	0	1	修士論文研究 土壌の採集	
85	10	4	東京農業大学・治山緑化工学研究室	0	3	0	0	3	卒業研究のための調査	赤津宿泊施設
86	10	1	愛知朝鮮第七初級学校	0	0	0	21	21	課外授業	
87	10	1	犬山ニュータウン自治会	0	0	0	35	35	犬山ニュータウン自治会 イベント(ハイキング)	
88	10	1	犬山市エコアップリリーダー 東大演習林グループ	0	0	0	12	12	エコアッ活動	
89	10	1	瀬戸市 市民生活部環境課 環境保全係	0	0	0	9	9	市全域を対象とした「貴重野生植物調査」のため	
90	10	1	名古屋大学大学院	0	3	1	0	4	山腹斜面における土壌物理特性と土層構造の空間分布	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
91	10	1	名古屋大学大学院	0	0	1	0	1	博士論文研究	
92	10	1	名古屋大学人間科学総合館	1	0	9	0	10	名古屋大学大学院 環境科学研究科 集中講義のための野外見学	
93	10	5	静岡大学農学部	1	3	2	0	6	風化花崗岩斜面におけるヒノキ人工林の根系分布と土層構造について	赤津宿泊施設
94	10	1	名古屋大学大学院	0	3	1	0	4	山腹斜面における土壌物理特性と土層構造の空間分布	
95	10	4	東京大学演習林研究部	1	0	1	0	2	パーシャルフリュームの動作確認	赤津宿泊施設
96	11	2	東大農学部林学科 昭和30年卒業生クラス会	0	0	0	9	9	演習林の見学	赤津宿泊施設
97	11	1	名古屋大学大学院	0	2	2	0	4	山腹斜面における土壌物理特性と土層構造の空間分布	
98	11	4	東京大学・森林科学砂防研究室	0	0	1	0	1	全演協の水質分析のため	赤津宿泊施設
99	11	1	瀬戸市環境教育推進委員会	0	0	0	5	5	瀬戸市の環境教育推進のため	
100	11	2	名古屋大学大学院	0	0	2	0	2	LiDARによる森林計測	
101	11	3	東京農業大学・治山緑化工学研究室	1	6	0	0	7	卒業論文の研究のための調査	
102	11	1	愛知演習林	1	0	0	2	3	赤津研究林の見学	
103	11	3	犬山市環境部環境課	0	0	0	1	1	犬山里山塾の資料用野生動物写真の撮影機材の設置及びメンテナンス	
104	11	4	田無試験地	2	0	2	0	4	マツ材線虫病の伝播・拡大機構の分子生態学的解析のための試料採取	
105	11	1	生圏システム学専攻 森園管理学研究室	1	0	1	0	2	修士論文「クヌギ節の遺伝的多様性に関する研究	
106	11	1	犬山市環境部環境課	0	0	0	31	31	犬山里山塾開催	
107	11	3	東京大学演習林研究部	0	0	1	0	1	パーシャルフリュームの動作確認	赤津宿泊施設
108	11	2	静岡大学農学部	0	1	2	0	3	風化花崗岩斜面におけるヒノキ人工林の根系分布と土層構造について	赤津宿泊施設
109	11	1	名古屋大学大学院	0	1	1	0	2	植生回復程度の異なる山地小流域における降雨流出特性および土砂流出特性	
110	11	1	東京大学愛知演習林	0	0	0	18	18	秋の見学日	
111	11	1	犬山マウンテンバイクフェスティバル実行委員会	0	0	0	600	600	第2回 犬山マウンテンバイクフェスティバル今井ステージ開催のため	
112	11	1	犬山市環境部環境課	0	0	0	36	36	あいちこどもエコクラブ ふれあい会	
113	11	1	名古屋大学大学院	0	1	3	0	4	LiDARによる森林計測	
114	11	4	東京農業大学・治山緑化工学研究室	0	5	0	0	5	卒業研究のための調査	赤津宿泊施設
115	12	1	犬山市環境部環境課	0	0	0	8	8	エコアップ活動	
116	12	1	近山スクール名古屋	0	0	0	60	60	近山スクール名古屋の見学講座	
117	12	1	ボーイスカウト尾張北地区	0	0	0	15	15	自然観察・自然愛護	
118	12	1	犬山市環境部環境課	0	0	0	6	6	エコアップ活動	
119	12	2	東京農業大学・治山緑化工学研究室	0	1	0	0	1	卒業研究のための調査	赤津宿泊施設
120	12	1	愛知県環境調査センター	0	0	0	33	33	里山保全アドバイザー研修会	
121	12	4	田無試験地	3	0	2	0	5	マツ材線虫病の伝播・拡大機構の分子生態学的解析のための試料採取	
122	12	1	犬山市環境部環境課	0	0	0	31	31	犬山里山塾の開催	
123	12	2	東京農業大学・治山緑化工学研究室	0	1	0	0	1	卒業研究のための解析作業	赤津宿泊施設
124	12	2	東京大学演習林研究部	0	0	1	0	1	パーシャルフリュームの動作確認	赤津宿泊施設
125	12	3	東京大学愛知演習林	9	0	1	1	11	水位データを流量データに換算し、日流出量を計算する技術についての講習会の開催(技術職員向け)	赤津宿泊施設
126	12	2	名古屋大学大学院	0	0	1	0	1	LiDARによる森林計測(犬山25い10)	
127	12	1	東京大学 大学院工学系研究科	1	1	1	0	3	森林が流出に与える影響に関する共同研究	
128	12	1	名古屋大学大学院	0	0	1	0	1	LiDARによる森林計測(犬山25い10)	
129	12	2	東京農業大学・治山緑化工学研究室	0	1	0	0	1	卒業研究のための解析作業	赤津宿泊施設
130	12	6	犬山市エコアプリーダー 東大演習林グループ	0	0	0	2	2	再生した里山における野生動物のかかりについて	
131	1	1	東京大学演習林研究部	0	0	1	0	1	雨量計・パーシャルフリュームの動作確認	
132	1	2	東京農業大学・治山緑化工学研究室	0	1	0	0	1	卒業研究のための解析作業	赤津宿泊施設
133	1	1	名古屋大学大学院	0	0	1	0	1	博士論文研究	
134	1	1	犬山市エコアプリーダー 東大演習林グループ	0	0	0	9	9	エコアップ活動	
135	1	2	東京農業大学・治山緑化工学研究室	0	1	0	0	1	卒業研究のための解析作業	赤津宿泊施設

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
136	1	2	田無試験地	4	0	3	0	7	マツ材線虫病の伝播・拡大機構の分子生態学的解析のための試料採取	
137	1	1	犬山市エコアップリダー 東大演習林グループ	0	0	0	12	12	エコアッ活動	
138	1	1	東京大学愛知演習林	0	0	0	25	25	公開講座「海岸林を歩こう、植えよう」	
139	1	3	東京大学演習林研究部	0	0	1	0	1	雨量計・パーシャルフリュームの動作確認	赤津宿泊施設
140	2	10	東京大学・森林科学砂防 研究室	0	0	1	0	1	全演協の水質分析のため	赤津宿泊施設
141	2	1	犬山市エコアップリダー 東大演習林グループ	0	0	0	6	6	エコアッ活動	
142	2	1	名古屋大学大学院	0	0	1	0	1	博士論文研究	
143	2	1	東京農工大学 森林環境 学講座	1	0	0	0	1	白坂流域内南谷流域	
144	2	1	犬山市エコアップリダー 東大演習林グループ	0	0	0	10	10	エコアッ活動	
145	2	1	大東文化大学 環境創造 学科	2	0	0	2	4	演習林の見学	
146	2	1	ボーイスカウト 犬山第5 団	0	5	0	80	85	犬山研究林内の散策	
147	3	1	東京農業大学	0	1	0	0	1	卒業論文の報告、新4年生への引継ぎ	
148	3	4	東京大学演習林研究部	0	0	1	0	1	雨量計・パーシャルフリュームの動作確認	赤津宿泊施設
149	3	1	名古屋大学大学院	0	0	1	0	1	博士論文研究	
150	3	1	犬山市エコアップリダー 東大演習林グループ	0	0	0	10	10	エコアッ活動	
151	3	1	演習林研究部	15	0	0	27	42	マツ枯死木処理の機械化に関する研究会	
152	3	2	静岡大学農学部	1	3	1	0	5	風化花崗岩斜面におけるトノキ人工林の根系分布と土層構造について	赤津宿泊施設
153	3	1	なごや環境大学市内交通 講座	0	0	0	4	4	演習林の見学	
154	3	5	東京大学・森林科学砂防 研究室	0	0	1	0	1	全演協の水質分析のため	赤津宿泊施設
155	3	4	東京大学演習林研究部	0	0	1	0	1	雨量計・パーシャルフリュームの動作確認	赤津宿泊施設

利用者数合計 2,185

利用者延べ数合計 2,630

利用件数 155

演習林名：富士演習林

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	0	0	1	0	1	ブナとミズナラの開葉時の生理特性に関する研究	
2	4	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	1	0	2	ブナとミズナラの開葉時の生理特性に関する研究	富士演習林自炊宿舎
3	4	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	0	0	1	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
4	4	1	独立行政法人物質・材料 研究機構材料研究所	1	0	0	0	1	山間部および森林地帯での金属材料の腐食動調査	
5	4	1	一般	0	0	0	2	2	見学	
6	4	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	2	1	0	4	シオジ苗引取り及び植付け	
7	4	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	2	1	0	4	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
8	4	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	0	2	1	0	3	ブナ実生の生長の比較(種子蒔き)	
9	4	1	独立行政法人物質・材料 研究機構材料研究所	0	0	0	2	2	ロガー検査	
10	4	1	渋谷区職員互助会	0	0	0	20	20	グラウンド(サッカーの練習)	
11	4	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	0	0	1	0	1	ブナとミズナラの開葉時の生理特性に関する研究	
12	4	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	2	0	3	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
13	4	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	0	0	1	0	1	ブナとミズナラの開葉時の生理特性に関する研究	
14	4	1	独立行政法人物質・材料 研究機構材料研究所	0	0	0	1	1	ロガー検査	
15	4	1	山中湖スポーツ少年団 サッカー部	0	0	0	30	30	サッカーの練習(グラウンド)	
16	5	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	1	0	2	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
17	5	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	0	0	1	0	1	ブナとミズナラの開葉時の生理特性に関する研究	
18	5	1	NPO富士山自然学校	0	0	0	20	20	見学	
19	5	1	東京大学大学院農学生命 科学研究科森林科学専攻 森林植物学研究室	1	0	1	0	2	外生菌根菌種の網羅的分子遺伝解析に関する調査	
20	5	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	1	0	2	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
21	5	1	独立行政法人物質・材料 研究機構材料研究所	0	0	0	1	1	山間部および森林地帯での金属材料の腐食動調査	
22	5	1	東京大学大学院農学生命 科学研究科生態システム 専攻森圏管理学研究室	2	6	0	0	8	森圏管理学実習	
23	5	1	西東京木の子会	0	0	0	20	20	見学	
24	5	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	0	1	2	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
25	5	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	0	0	1	0	1	ブナとミズナラの開葉時の生理特性に関する研究	
26	5	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	0	0	1	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
27	5	1	東京大学大学院農学生命 科学研究科附属科学の森 教育研究センター秩父演 習林	2	0	0	0	2	作業協力	
28	5	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	0	0	1	0	1	ブナとミズナラの開葉時の生理特性に関する研究	
29	5	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	1	0	2	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
30	5	1	山中湖村	0	0	0	12000	12000	山中湖村ロードレース大会	
31	5	2	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	1	1	0	3	ブナとミズナラの開葉時の生理特性に関する研究	
32	5	3	東京大学大学院農学生命 科学研究科附属科学の森 教育研究センター秩父演 習林	1	0	0	0	1	基盤データ整備に伴う植物調査	
33	5	3	東京大学大学院農学生命 科学研究科附属科学の森 教育研究センター愛知演 習林	2	0	0	0	2	基盤データ整備に伴う鳥類調査	
34	6	1	関東ラグビーフットボール 協会	0	0	0	30	30	練習のため	
35	6	1	山中湖スポーツ少年団 サッカー部	0	0	0	33	33	サッカーの練習(グラウンド)	
36	6	1	日本野鳥の会(ふれあい 自然探鳥会)	0	0	0	25	25	バードウォッチング	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
37	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属科学の森教育研究センター秩父演習林	12	0	0	0	12	関東、甲信越地区農学部附属演習林技術職員研修	
38	6	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	1	0	1	0	2	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
39	6	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	1	0	0	0	1	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
40	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室	1	0	1	0	2	外生菌根菌種の網羅的分子遺伝解析に関する調査	
41	6	1	独立行政法人物質・材料研究機構材料研究所	0	0	0	1	1	山間部および森林地帯での金属材料の腐食動調査	
42	6	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	0	0	1	0	1	ブナとミズナラの開葉時の生理特性に関する研究	
43	6	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	1	1	1	0	3	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
44	6	1	山梨県環境科学研究所環境健康部環境生理学研究室	0	0	0	3	3	森林が人に与える快適性に関する研究	
45	6	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	0	0	1	0	1	ブナとミズナラの開葉時の生理特性に関する研究	
46	6	1	一般	0	0	0	3	3	見学	
47	6	1	NPO富士山ネイチャークラブ	0	0	0	55	55	見学	
48	6	1	渋谷区立松涛中学校	0	0	0	57	57	オリエンテーリング	
49	6	1	NPO富士山ネイチャークラブ	0	0	0	3	3	見学	
50	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生態圏システム学専攻森林管理学	0	0	0	0	1	山梨県県有林(宿泊利用)	富士演習林自炊宿舎
51	7	1	青葉学園幼稚園	24	0	0	124	148		
52	7	1	関東学院小学校	0	0	0	84	84	3年生の緑の学校	
53	7	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	0	0	1	0	1	ブナとミズナラの開葉時の生理特性に関する研究	
54	7	1	独立行政法人物質・材料研究機構材料研究所	1	0	0	2	3	山間部および森林地帯での金属材料の腐食動調査	
55	7	1	聖ヨゼフ学園小学校	0	0	0	84	84	1年生の体験学習	
56	7	1	渋谷幼稚園	0	0	0	64	64		
57	7	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	1	0	1	0	2	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
58	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林風致計画学研究室	4	3	2	0	9	環境設計演習	
59	7	1	NPO富士山ネイチャークラブ	0	0	0	55	55	見学	
60	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属科学の森教育研究センター千葉演習林	1	0	0	0	1	全学体験ゼミナール	
61	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属科学の森教育研究センター秩父演習林	1	25	0	0	26	全学体験ゼミナール	
62	7	1	NPO法人ホールアース研究所	0	0	0	3	3	夏のエコツアー実施のための下見	
63	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室	2	1	1	0	4	外生菌根菌種の網羅的分子遺伝解析に関する調査	
64	7	1	日本野鳥の会神奈川支部・東富士支部	0	0	0	2	2	樹木観察及野鳥調査	
65	7	1	目黒星美学園小学校	0	0	0	121	121	林間学校の見学	
66	7	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	0	1	0	0	1	カエデ属の開葉フェノロジーと枝の通道能力	
67	7	1	八幡幼稚園	0	0	0	85	85	夏季保育のため自然観察	
68	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻造林学研究室	0	0	1	0	1	林床植生の種多様性における菌根菌の研究	
69	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生態圏システム学専攻森林管理学	0	0	0	0	1	山梨県県有林(宿泊利用)	富士演習林自炊宿舎
70	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属科学の森教育研究センター研究部	1	0	2	0	3	日本の自然保全関連指定地域の管理に関する研究	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
71	7	1	丸山幼稚園	0	0	0	160	160	夏季保育のため自然観察	
72	7	1	静岡サレジオ小学校	0	0	0	73	73	自然観察	
73	7	1	東京都大田区立雪谷小学校	0	0	0	22	22	自然観察	
74	7	1	ボーイスカウト東京連盟	0	0	0	80	80	青少年育成活動	
75	7	1	ガールスカウト日本連盟東京支部	0	0	0	101	101	樹木観察	
76	7	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	0	0	1	1	2	ブナとミズナラの開葉時の生理特性に関する研究	
77	7	1	NPOアースパウンダー	0	0	0	170	170	環境教育を目的とした自然観察	
78	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属科学の森教育研究センター秩父演習林	1	0	0	0	1	基盤データ整備に伴う植物調査	富士演習林自炊宿舎
79	7	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	1	0	1	0	2	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
80	7	1	カトリック下井草教会	0	0	0	45	45	見学	
81	7	1	カトリック築地教会	0	6	0	44	50	見学	
82	7	1	東京大学運動会場術部	0	54	0	3	57	馬術部合宿のため	
83	8	1	東京大学運動会場術部	0	306	0	17	323	馬術部合宿のため	
84	8	1	カトリック藤ヶ丘教会	0	0	0	43	43	夏季学校のキャンプのプログラム	
85	8	1	あしなが育英会	0	280	0	140	420	山中湖の集い	
86	8	1	国際青少年研修協会	0	0	0	220	220	国際交流キャンプ自然に触れ合い青少年の育成	
87	8	1	カトリック藤枝教会	0	0	0	25	25	見学	
88	8	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	1	0	0	0	1	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
89	8	1	カトリック二俣教会	0	0	0	47	47	野外活動	
90	8	1	山梨県環境科学研究所環境健康部環境生理学研究室	0	0	0	3	3	森林が人に与える快適性に関する研究	
91	8	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	1	0	0	0	1	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
92	8	1	東海大学体育学部競技スポーツ学科女子ハンドボール部	3	26	1	0	30	研修	
93	8	1	NPOアースパウンダー	0	0	0	18	18	野鳥観察	
94	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属科学の森教育研究センター愛知演習林	1	0	0	0	1	ウルシ科植物が含有するウルシオール量の季節変化および地域特性	
95	8	1	東京連盟ボーイスカウト北3団	0	0	0	22	22	樹木観察	
96	8	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	0	0	1	0	1	ブナ、ミズナラ林床におけるブナ実生の成長比較	
97	8	1	杉並区職員会	0	0	0	20	20	見学	
98	8	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	0	1	1	0	2	カエデ属の開葉フェノロジーと枝の通道能力	
99	8	1	山梨県環境科学研究所環境健康部環境生理学研究室	0	0	0	3	3	森林が人に与える快適性に関する研究	
100	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻造林学研究室	0	0	1	0	1	林床植生の種多様性における菌根菌の関する研究	
101	8	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	1	0	0	0	1	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
102	8	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	0	3	1	0	4	ブナ、ミズナラ林床におけるブナ実生の成長比較	
103	8	1	山梨県環境科学研究所環境健康部環境生理学研究室	0	0	0	4	4	森林が人に与える快適性に関する研究	
104	8	1	一般	0	0	0	4	4	樹木観察	
105	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属科学の森教育研究センター秩父演習林	3	0	0	0	3	作業協力	
106	9	1	東海大学文学部史学科日本史専攻	1	7	0	0	8	見学	
107	9	1	山梨県環境科学研究所環境健康部環境生理学研究室	0	0	0	3	3	森林が人に与える快適性に関する研究	
108	9	1	山梨県環境科学研究所環境健康部環境生理学研究室	0	0	0	3	3	森林が人に与える快適性に関する研究	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
109	9	1	独立行政法人物質・材料研究機構材料研究所	0	0	0	1	1	山間部および森林地帯での金属材料の腐食動調査	
110	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属科学の森教育研究センター秩父演習林	4	12	0	0	16	全学体験ゼミナール	
111	9	1	株式会社松栄開発	0	0	0	2	2	林内測量	富士演習林自炊宿舎
112	9	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	1	23	1	0	25	野外実習(1年生)	
113	9	1	株式会社松栄開発	0	0	0	2	2	林内測量	富士演習林自炊宿舎
114	9	1	山梨県環境科学研究所環境健康部環境生理学研究室	0	0	0	5	5	森林が人に与える快適性に関する研究	
115	9	1	神奈川県カワセミの会	0	0	0	8	8	見学	
116	9	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	0	1	0	0	1	カエデ属の開葉フェノロジーと枝の通道能力	
117	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属科学の森教育研究センター秩父演習林	1	0	0	0	1	基盤データ整備に伴う植物調査	
118	9	1	山梨県環境科学研究所環境健康部環境生理学研究室	0	0	0	5	5	森林が人に与える快適性に関する研究	
119	9	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	0	1	0	0	1	カエデ属の開葉フェノロジーと枝の通道能力	
120	9	1	東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻	0	0	0	70	70	社会基盤学に関するフィールド演習	
121	9	1	株式会社松栄開発	0	0	0	2	2	林内測量	富士演習林自炊宿舎
122	9	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	1	0	1	0	2	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
123	10	1	株式会社松栄開発	0	0	0	10	10	林内測量	富士演習林自炊宿舎
124	10	1	山梨県環境科学研究所環境健康部環境生理学研究室	0	0	0	3	3	森林が人に与える快適性に関する研究	
125	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	2	0	2	0	4	外生菌根菌種の網羅的分子遺伝解析に関する調査	
126	10	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	1	0	2	0	3	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
127	10	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	0	1	1	0	2	ブナ、ミズナラ林床におけるブナ実生の成長比較	
128	10	1	独立行政法人物質・材料研究機構材料研究所	1	0	0	0	1	山間部および森林地帯での金属材料の腐食動調査	
129	10	1	山梨県環境科学研究所環境健康部環境生理学研究室	0	0	0	3	3	森林が人に与える快適性に関する研究	
130	10	1	株式会社松栄開発	0	0	0	2	2	林内測量	富士演習林自炊宿舎
131	10	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学研究室自然環境学専攻	2	5	1	0	8	きのこの観察会	
132	10	1	日本野鳥の会神奈川支部	0	0	0	1	1	野鳥観察	
133	10	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	1	0	2	0	3	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
134	10	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	1	0	2	0	3	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
135	10	1	(社)日本キャンプ協会	0	0	0	3	3	自然体験活動青年ミーティング打ち合わせ	
136	10	1	独立行政法人物質・材料研究機構材料研究所	0	0	0	1	1	測定機械の点検	
137	10	1	(社)日本キャンプ協会	0	0	0	11	11	自然体験活動青年ミーティング	
138	10	1	日本野鳥の会神奈川支部	0	0	0	26	26	鳥類と植物の観察	
139	10	1	鎌倉女子学院中学校	0	0	0	188	188	野外活動	
140	10	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	0	0	1	0	1	ブナ、ミズナラ林床におけるブナ実生の成長比較	
141	10	1	聖ヨゼフ学園小学校	0	0	0	86	86	自然観察	
142	11	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	1	0	2	0	3	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
143	11	1	日黒星美学園小学校	0	0	0	120	120	秋の自然教室	
144	11	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	2	0	1	0	3	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
145	11	1	東邦大学理学部生物学科植物生態学研究室	0	0	0	0	1	シラビソの水分収支、光合成特性についての成木と稚樹との比較	
146	11	1	株式会社松栄開発	0	0	0	6	6	林内測量	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
147	11	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	1	0	2	シラビソの水分収支、光合成特性につい ての成木と稚樹との比較	
148	11	1	山中湖村教育委員会	0	0	0	21	21	親子森林教室	
149	11	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	1	0	2	シラビソの水分収支、光合成特性につい ての成木と稚樹との比較	
150	12	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	0	0	1	シラビソの水分収支、光合成特性につい ての成木と稚樹との比較	
151	12	1	東京大学大学院農学生命 科学研究科附属科学の森 教育研究センター秩父演 習林	1	6	0	0	7	全学体験ゼミナール	
152	12	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	1	0	2	シラビソの水分収支、光合成特性につい ての成木と稚樹との比較	
153	12	1	独立行政法人物質・材料 研究機構材料研究所	0	0	0	1	1	山間部および森林地帯での金属材料の 腐食動調査	
154	12	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	1	0	2	シラビソの水分収支、光合成特性につい ての成木と稚樹との比較	
155	12	1	東京大学大学院農学生命 科学研究科附属科学の森 教育研究センター秩父演 習林	9	1	1	0	13	森林圏生態社会学ゼミ	
156	1	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	0	0	1	シラビソの水分収支、光合成特性につい ての成木と稚樹との比較	
157	1	1	独立行政法人物質・材料 研究機構材料研究所	2	0	0	1	3	山間部および森林地帯での金属材料の 腐食動調査	
158	1	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	0	0	1	シラビソの水分収支、光合成特性につい ての成木と稚樹との比較	
159	1	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	0	0	1	0	1	シラビソの水分収支、光合成特性につい ての成木と稚樹との比較	
160	2	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	0	0	1	シラビソの水分収支、光合成特性につい ての成木と稚樹との比較	
161	2	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	0	0	1	シラビソの水分収支、光合成特性につい ての成木と稚樹との比較	
162	2	1	独立行政法人物質・材料 研究機構材料研究所	0	0	0	2	2	山間部および森林地帯での金属材料の 腐食動調査	
163	2	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	1	0	2	シラビソの水分収支、光合成特性につい ての成木と稚樹との比較	
164	3	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	0	0	1	シラビソの水分収支、光合成特性につい ての成木と稚樹との比較	
165	3	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	0	0	1	測定機械の点検	
166	3	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	0	0	1	シラビソの水分収支、光合成特性につい ての成木と稚樹との比較	
167	3	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	3	0	0	6	9	ブナ林とミズナラ林の蒸散量の比較の為 の観測用足場組み立て	
168	3	1	独立行政法人物質・材料 研究機構材料研究所	0	0	0	2	2	山間部および森林地帯での金属材料の 腐食動調査	
169	3	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	0	0	1	シラビソの水分収支、光合成特性につい ての成木と稚樹との比較	
170	3	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	1	0	2	シラビソの水分収支、光合成特性につい ての成木と稚樹との比較	
171	3	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	0	0	1	シラビソの水分収支、光合成特性につい ての成木と稚樹との比較	
172	3	1	東邦大学理学部生物学科 植物生態学研究室	1	0	0	0	1	シラビソの水分収支、光合成特性につい ての成木と稚樹との比較	

利用者数合計 15,767
利用者延べ数合計 15,776
利用件数 172

演習林名：樹芸研究所

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	1	一般見学	0	0	0	2	2	温室見学	
2	4	1	静岡大学教育学部附属浜松中学校	0	0	0	5	5	南伊豆の自然について	
3	4	1	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	地下部の高温化が熱帯樹木に与える影響	
4	4	1	浦和実業学園中学校	0	0	0	70	70	温室見学	
5	4	1	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	地下部の高温化が熱帯樹木に与える影響	
6	4	1	一般見学	0	0	0	2	2	温室見学	
7	5	1	南伊豆町立南上小学校	0	0	0	15	15	南上小学校総合学習 南上の木プロジェクト①	
8	5	2	東大・演習林・愛知演習林	1	0	0	0	1	情報基盤データに係る鳥類調査	
9	5	2	東大・演習林	1	0	0	0	1	実験打合せ	
10	5	2	東大・演習林・研究部	1	0	0	0	1	山地斜面における水文プロセスに関する研究	
11	5	1	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	地下部の高温化が熱帯樹木に与える影響	
12	5	1	南伊豆町立南上小学校	0	0	0	15	15	南上小学校総合学習 南上の木プロジェクト②	
13	5	1	東大・演習林・研究部	1	0	0	0	1	山地斜面における水文プロセスに関する研究	
14	5	1	東大・農・造林学研究室	0	0	2	0	2	地下部の高温化が熱帯樹木に与える影響	
15	5	1	南伊豆町立南上小学校	0	0	0	15	15	南上小学校総合学習 南上の木プロジェクト③	
16	5	1	一般見学	0	0	0	2	2	温室見学	
17	5	3	東大・農・森圏管理学研究室	2	0	2	0	4	ハマボウの遺伝的多様性と繁殖様式についての研究	
18	6	1	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	地下部の高温化が熱帯樹木に与える影響	
19	6	1	東大・農・森圏管理学研究室	0	0	1	0	1	ハマボウの遺伝的多様性と繁殖様式についての研究	
20	6	3	東大・農・森圏管理学研究室	0	0	2	0	2	ハマボウの遺伝的多様性と繁殖様式についての研究	
21	6	1	東大・演習林・研究部	2	0	0	0	2	山地斜面における水文プロセスに関する研究	
22	6	3	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	地下部の高温化が熱帯樹木に与える影響	
23	6	3	東大・農・造林学研究室	1	0	2	0	3	土壌水分量の変化に伴う土壌の撥水性の変動	
24	6	1	東大・農・森圏管理学研究室	0	0	1	0	1	ハマボウの遺伝的多様性と繁殖様式についての研究	
25	6	2	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	フタバガキ科樹木の低温応答に関する研究	
26	6	1	東大・農・森圏管理学研究室	0	0	1	0	1	ハマボウの遺伝的多様性と繁殖様式についての研究	
27	6	2	東大・演習林・研究部	1	0	0	0	1	山地斜面における水文プロセスに関する研究	
28	7	8	東大・農・造林学研究室	2	0	3	0	5	地下部の高温化が熱帯樹木に与える影響	
29	7	3	東大・農・緑地植物実験所	1	7	1	0	9	資源生物学基礎実験（植生調査）	下賀茂寮
30	7	2	東大・農・森圏管理学研究室	0	0	1	0	1	ハマボウの遺伝的多様性と繁殖様式についての研究	
31	7	1	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	地下部の高温化が熱帯樹木に与える影響	
32	7	1	一般見学	0	0	0	2	2	青野研究林見学	
33	7	3	東大・農・造林学研究室	0	0	2	0	2	土壌水分量の変化に伴う土壌の撥水性の変動	
34	8	2	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	地下部の高温化が熱帯樹木に与える影響	
35	8	1	東大・農・森圏管理学研究室	0	0	1	0	1	ハマボウの遺伝的多様性と繁殖様式についての研究	
36	8	2	東大・演習林・研究部	1	0	1	0	2	山地斜面における水文プロセスに関する研究	
37	8	3	東大・農・造林学研究室	2	0	1	0	3	地下部の高温化が熱帯樹木に与える影響	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
38	8	1	東大・農・森圏管理学研究 室	0	0	1	0	1	ハマボウの遺伝的多様性と繁殖様式に ついての研究	
39	8	1	東大・演習林・愛知演習林	1	0	0	0	1	ウルシ科植物が含有するウルシオール 量の季節変動および地域特性	
40	8	1	静岡県賀茂地域支援局	0	0	0	60	60	県民の日イベント「里山の自然を見つ けよう！」	
41	8	1	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	土壌水分量の変化に伴う土壌の撥水性 の変動	
42	8	4	東大・演習林	3	16	0	0	19	国際開発農学専修森林実習	下賀茂寮
43	8	2	静岡県賀茂地域支援局	0	0	0	1	1	自然ガイド養成講座の準備	
44	8	3	東大・農・森圏管理学研究 室	1	0	2	0	3	ハマボウの遺伝的多様性と繁殖様式に ついての研究	
45	8	7	東大・農・造林学研究室	2	0	1	0	3	地下部の高温化が熱帯樹木に与える影 響	
46	8	1	静岡県賀茂地域支援局	0	0	0	4	4	自然ガイド養成講座の準備	
47	9	5	東大・農・造林学研究室	0	0	2	0	2	土壌水分量の変化に伴う土壌の撥水性 の変動	
48	9	1	静岡県賀茂地域支援局	0	0	0	27	27	自然ガイド養成講座①	
49	9	1	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	地下部の高温化が熱帯樹木に与える影 響	
50	9	1	東大・農・森圏管理学研究 室	0	0	1	0	1	ハマボウの遺伝的多様性と繁殖様式に ついての研究	
51	9	8	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	フタバガキ科樹木の低温応答に関する 研究	
52	9	9	東大・農・造林学研究室	2	0	1	0	3	地下部の高温化が熱帯樹木に与える影 響	
53	9	3	東大・農・造林学研究室	0	0	2	0	2	土壌水分量の変化に伴う土壌の撥水性 の変動	
54	9	1	静岡県賀茂地域支援局	0	0	0	25	25	自然ガイド養成講座②	
55	9	4	東大・演習林	0	4	0	0	4	教養学部総合科目全学ゼミ	下賀茂寮
56	9	8	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	フタバガキ科樹木の低温応答に関する 研究	
57	9	1	一般見学	0	0	0	1	1	温室見学	
58	9	5	東大・演習林	0	0	3	0	3	アオキの生育について	
59	10	2	東大・農・森圏管理学研究 室	0	0	1	0	1	ハマボウの遺伝的多様性と繁殖様式に ついての研究	
60	10	1	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	地下部の高温化が熱帯樹木に与える影 響	
61	10	1	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	地下部の高温化が熱帯樹木に与える影 響	
62	10	1	一般見学	0	0	0	2	2	温室見学	
63	10	2	東大・演習林・研究部	1	0	1	0	2	山地斜面における水文プロセスに関する 研究	
64	10	8	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	フタバガキ科樹木の低温応答に関する 研究	
65	10	4	東大・演習林	0	0	2	0	2	アオキの生育について	
66	10	3	東大・農・造林学研究室	0	0	2	0	2	土壌水分量の変化に伴う土壌の撥水性 の変動	
67	10	1	(株)サイエンス	0	0	0	3	3	静岡県業務委託「自然資源モニタリング 調査」	
68	10	1	一般見学	0	0	0	12	12	温室見学	
69	10	1	南伊豆町観光協会	0	0	0	23	23	南伊豆自然ガイド養成講座	
70	10	1	静岡県賀茂地域支援局	0	0	0	25	25	自然ガイド養成講座③	
71	10	5	東大・農・造林学研究室	0	0	4	0	4	地下部の高温化が熱帯樹木に与える影 響	
72	10	8	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	フタバガキ科樹木の低温応答に関する 研究	
73	10	1	東大・農・森圏管理学研究 室	0	0	1	0	1	ハマボウの遺伝的多様性と繁殖様式に ついての研究	
74	10	1	東大・農・水圏生物科学専 攻	0	0	0	12	12	温室・青野研究林見学	
75	10	1	一般見学	0	0	0	3	3	温室見学	
76	10~ 11	8	東大・農・造林学研究室	1	0	1	0	2	地下部の高温化が熱帯樹木に与える影 響	
77	11	2	東大・演習林・研究部	2	0	1	0	3	静岡県戦略課題研究「特徴ある自然環 境を活かした『伊豆地域』の地域振興	
78	11	5	東大・農・造林学研究室	1	0	1	0	2	地下部の高温化が熱帯樹木に与える影 響	
79	11	5	東大・農・造林学研究室	0	0	2	0	2	土壌水分量の変化に伴う土壌の撥水性 の変動	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
80	11	2	東大・農学生命科学研究科	0	0	0	17	17	第1回農学生命科学研究科技術職員総合研修	下賀茂寮
81	11	1	東大・農学生命科学研究科	7	0	0	0	7	第4回農学部技術職員連絡協議会	下賀茂寮
82	11	1	東大・農学生命科学研究科	8	0	0	0	8	第5回農学部技術職員連絡協議会	下賀茂寮
83	11	8	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	フタバガキ科樹木の低温応答に関する研究	
84	11	1	一般見学	0	0	0	2	2	温室見学	
85	11	1	静岡県賀茂地域支援局	0	0	0	25	25	自然ガイド養成講座④	
86	11	2	東大・演習林	0	0	2	0	2	アオキの生育について	
87	11	2	東大・農・森圏管理学研究室	0	0	1	0	1	ハマボウの遺伝的多様性と繁殖様式についての研究	
88	11	3	東大・演習林	11	7	0	4	22	微生物ソフボソウム（温室・棚内見学等）	下賀茂寮
89	11	1	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	地下部の高温化が熱帯樹木に与える影響	
90	11	8	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	フタバガキ科樹木の低温応答に関する研究	
91	11	1	静岡県賀茂地域支援局	0	0	0	25	25	自然ガイド養成講座⑤	
92	11	3	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	土壌水分量の変化に伴う土壌の撥水性の変動	
93	11	3	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	地下部の高温化が熱帯樹木に与える影響	
94	12	4	東大・演習林	1	0	2	0	3	アオキの生育について	
95	12	1	下田市立稲穂小学校	0	0	0	28	28	森林体験教室	
96	12	1	フリーライター	0	0	0	2	2	クスノキ林の見学・撮影	
97	12	8	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	フタバガキ科樹木の低温応答に関する研究	
98	12	2	東大・農・造林学研究室	1	0	1	0	2	地下部の高温化が熱帯樹木に与える影響	
99	12	4	東大・農・造林学研究室	0	0	2	0	2	土壌水分量の変化に伴う土壌の撥水性の変動	
100	12	2	東大・演習林	0	0	1	0	1	アオキの生育について	
101	12	4	東大・演習林	0	0	2	0	2	アオキの生育について	
102	12	4	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	フタバガキ科樹木の低温応答に関する研究	
103	12	1	一般見学	0	0	0	2	2	温室見学	
104	12	4	東大・演習林	0	0	3	0	3	アオキの生育について	
105	12	1	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	地下部の高温化が熱帯樹木に与える影響	
106	1	1	一般見学	0	0	0	2	2	温室見学	
107	1	3	東大・農・造林学研究室	0	0	2	0	2	土壌水分量の変化に伴う土壌の撥水性の変動	
108	1	3	東大・演習林・千葉演習林	4	0	0	0	4	シカ生息数調査	下賀茂寮
109	1	1	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	フタバガキ科樹木の低温応答に関する研究	
110	1	3	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	土壌水分量の変化に伴う土壌の撥水性の変動	
111	2	2	東大・農・生圏システム学専攻	2	0	2	0	4	全学体験ゼミ打合せ	
112	2	1	一般見学	0	0	0	2	2	温室見学	
113	2	3	東大・農・造林学研究室	0	0	3	0	3	土壌水分量の変化に伴う土壌の撥水性の変動	
114	2	2	東大・演習林	0	0	2	0	2	アオキの生育について	
115	2	1	東大・農・造林学研究室	0	0	1	0	1	フタバガキ科樹木の低温応答に関する研究	
116	2	4	東大・演習林	1	31	0	0	32	教養学部総合科目全学ゼミ	下賀茂寮
117	2	1	一般見学	0	0	0	2	2	温室見学	
118	2	3	東大・演習林	0	0	1	0	1	アオキの生育について	
119	2	2	東大・演習林・富士演習林	1	0	0	0	1	社会教育プログラムに関する打合せ	
120	3	1	一般見学	0	0	0	7	7	温室見学	
121	3	2	東大・農・生物材料科学専攻	0	0	0	7	7	青野研究林見学	下賀茂寮
122	3	1	森のボランティア	0	0	0	17	17	温室・青野研究林見学	
123	3	1	静岡県農業試験場南伊豆分場	0	0	0	1	1	気象データの公開	
124	3	2	東大・演習林・樹芸研究所	0	0	4	0	4	樹芸研究所利用者発表会	下賀茂寮

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
125	3	1	東京農業大学・地域環境科学部	1	0	6	0	7	温室・青野研究林見学	
126	3	3	東大・農・造林学研究室	0	0	2	0	2	土壌水分量の変化に伴う土壌の撥水性の変動	
127	3	2	東大・農・砂防工学研究室	1	0	2	0	3	青野研究林堰堤見学	下賀茂寮
128	3	3	東大・演習林・北海道演習林	4	0	0	0	4	業務打合せ、温室・青野研究林見学	下賀茂寮
129	3	2	東大・演習林・研究部	1	0	0	0	1	業務打合せ、基盤データ整備鳥類調査	

利用者数合計 722

利用者延べ数合計 1,323

利用件数 129

演習林名：田無試験地

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	1	東京大学造林学研究室	3	20	0	0	23	造林学実験	
2	4	5	東京大学森林植物学研究室	1	1	1	0	3	サクラてんぐす病に関する研究	
3	4	7	東京大学造林学研究室	0	0	1	0	1	光屈性による木化茎の屈曲機構の解明	
4	4	1	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の枯死課程における宿主細胞の反応	
5	4	1	東京大学森林植物学研究室	0	1	1	0	2	腐食添加がアカマツの外生菌根共生に与える影響	
6	4	3	東京大学森林植物学研究室	1	0	2	0	3	マツ材線虫病に対する宿主の抵抗性機構の解明	
7	4	1	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	マツノザイセンチュウの病原性と宿主の抵抗反応に関する研究	
8	4	4	東京大学造林学研究室	0	0	1	0	1	変温条件による遷移初期種と遷移後期種の発芽誘導の相違の生態学的意義	
9	4	1	東京大学造林学研究室	1	0	0	0	1	モデル樹木のアルミニウム耐性機構の解明	
10	4	2	東京大学アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	0	1	アカマツ外生菌根菌成長の調査	
11	4	1	東京大学生物多様性科学研究室	0	0	1	0	1	ブライアノブロッサムでの宿主利用の変化に伴う形質分化および集団分化機構の解明	
12	4	3	東京大学生物圏機能学研究室	0	0	1	0	1	傷害に伴う材変色の進展に及ぼす時期や樹齢の影響	
13	4	11	東京大学附属演習林研究部	1	0	0	0	1	クズ・イシミカワの生物防除に用いる葉食性昆虫の探索と生物検定	
14	4	1	一般見学者	0	0	0	1	1	林内見学	
15	4		東大農場・演習林の存続を願う会	0	0	0		不明	林内見学	
16	4	1	森のボランティア	0	0	0	50	50	林内見学	
17	4		その他一般見学者	0	0	0	352	352	林内見学	
18	5	2	東京大学森林植物学研究室	1	1	0	0	2	サクラてんぐす病に関する研究	
19	5	6	東京大学造林学研究室	0	0	1	0	1	光屈性による木化茎の屈曲機構の解明	
20	5	2	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の枯死課程における宿主細胞の反応	
21	5	4	東京大学造林学研究室	0	0	1	0	1	変温条件による遷移初期種と遷移後期種の発芽誘導の相違の生態学的意義	
22	5	4	東京都健康安全研究センター	0	0	0	1	1	野ネズミ等の野外調査	
23	5	2	東京大学新領域生物圏機能学研究室	0	0	1	0	1	傷害に伴う材変色の進展に及ぼす時期の影響	
24	5	11	東京大学演習林研究部	2	0	0	0	2	クズ・イシミカワの生物駆除に用いる葉食性昆虫の探索と生物検定	
25	5	3	東京農工大学	0	1	0	0	1	生立木辺材における外傷に対する防御反応と通水阻害の発生過程	
26	5	1	東京大学森林植物学研究室	1	0	1	0	2	クズ・イシミカワの葉食性昆虫の探索と生物検定	
27	5	2	白梅学園短期大学	1	21	0	0	22	関東ローム層上に生育する樹木の状況と林内、林床の小動物の観察	
28	5	1	東京大学応用昆虫学研究室	2	35	3	0	40	農場実習（昆虫採集）	
29	5	1	東京大学森林植物学研究室	2	18	0	0	20	森林植物学実験	
30	5	1	東京大学森林利用学研究室	0	9	0	0	9	五月祭のための苗木掘り取り	
31	5	2	その他一般見学者	0	0	0	63	63	休日公開	
32	5	1	西東京市「子ども樹木博士」を育てる会	0	0	0	39	39	子ども樹木博士	
33	5	1	一般見学者	0	0	0	1	1	植物観察	
34	5		東大農場・演習林の存続を願う会	0	0	0	73	73	林内見学	
35	5	1	谷戸幼稚園	0	0	0	146	146	林内見学	
36	5		NPO法人南沢シュタイナー子ども園	0	0	0	36	36	林内見学	
37	5	1	西東京市立向台幼稚園	0	0	0	45	45	林内見学	
38	5	1	森のボランティア	0	0	0	2	2	林内見学	
39	5		その他一般見学者	0	0	0	389	389	林内見学	
40	6	1	東京大学造林学研究室	3	22	1	0	26	造林学実験	
41	6	1	白梅学園短期大学	1	19	0	0	20	関東ローム層上に生育する樹木の状況と林内、林床の小動物の観察	
42	6	2	東京大学森林動物学研究室	2	23	2	0	27	森林動物学実験	
43	6	1	東京大学造林学研究室	0	0	1	0	1	光屈性による木化茎の屈曲機構の解明	
44	6	1	東京大学造林学研究室	0	0	1	0	1	光屈性による木化茎の屈曲機構の解明	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
45	6	10	東京大学造林学研究室	0	0	1	0	1	光屈性による木化茎の屈曲機構の解明	
46	6	3	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の枯死課程における宿主細胞の反応	
47	6	1	東京大学森林植物学研究室	1	1	0	0	2	腐食添加がアカマツの外生菌根共生に与える影響	
48	6	5	東京大学造林学研究室	1	0	1	0	2	変温条件による遷移初期種と遷移後期種の発芽誘導の相違の生態学的意義	
49	6	1	東京大学造林学研究室	1	0	0	0	1	巻き枯らしの水分生理	
50	6	1	東京都健康安全研究センター	0	0	0	1	1	野ネズミ等の野外調査	
51	6	6	東京大学新領域生物圏機能学研究室	0	0	1	0	1	傷害に伴う材変色の進展に及ぼす時期の影響	
52	6	17	東京大学演習林研究部	2	0	2	0	4	クズ・イシミカワの生物駆除に用いる葉食性昆虫の探索と生物検定	
53	6	3	東京農工大学	0	1	0	0	1	生立木辺材における外傷に対する防御反応と通水阻害の発生過程	
54	6	1	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	ナラ類萎凋枯死における通水阻害機構	
55	6	1	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	シデムシ調査	
56	6	1	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	ニセアカシアと根粒菌の共生関係に関する研究	
57	6	1	東京大学造林学研究室	1	0	0	0	1	モデル樹林のアルミニウム耐性機構の解析ならびに造林学実験	
58	6	2	東京大学森林動物学研究室	1	0	1	0	2	マツノマダラカミキリの生態学的研究	
59	6	1	森のボランティア	0	0	0	8	8	林内見学	
60	6	1	一般見学者	0	0	0	1	1	林内見学	
61	6	1	ホトギスの会	0	0	0	15	15	林内見学	
62	6		東大農場・演習林の存続を願う会	0	0	0	73	73	林内見学	
63	6		その他一般見学者	0	0	0	274	274	林内見学	
64	7	10	東京大学造林学研究室	0	0	1	0	1	光屈性による木化茎の屈曲機構の解明	
65	7	1	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の枯死課程における宿主細胞の反応	
66	7	1	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	マツノザイセンチュウの病原性と宿主の抵抗反応に関する研究	
67	7	3	東京大学新領域生物圏機能学研究室	0	0	1	0	1	傷害に伴う材変色の進展に及ぼす時期の影響	
68	7	25	東京大学演習林研究部	2	0	0	0	2	クズ・イシミカワの生物駆除に用いる葉食性昆虫の探索と生物検定	
69	7	1	東京農工大学	0	1	0	0	1	生立木辺材における外傷に対する防御反応と通水阻害の発生過程	
70	7	1	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	ナラ類萎凋枯死における通水阻害機構	
71	7	1	東京大学森林動物学研究室	0	0	1	0	1	マツノマダラカミキリの生態学的研究	
72	7	1	東京大学造林学研究室	1	0	1	0	2	水滴の葉面付着が樹木の物質生産に与える影響	
73	7	2	東京大学森林植物学研究室	1	0	0	0	1	サクラてんぐす病に関する研究	
74	7	1	東京大学千葉演習林	2	0	0	0	2	苗木の分譲	
75	7	1	森のボランティア	0	0	0	9	9	林内見学	
76	7	1	一般見学者	0	0	0	1	1	林内見学	
77	7	1	ホトギスの会	0	0	0	15	15	林内見学	
78	7		東大農場・演習林の存続を願う会	0	0	0	58	58	林内見学	
79	7		その他一般見学者	0	0	0	110	110	林内見学	
80	8	10	東京大学造林学研究室	0	0	1	0	1	光屈性による木化茎の屈曲機構の解明	
81	8	2	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の枯死課程における宿主細胞の反応	
82	8	1	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	マツノザイセンチュウの病原性と宿主の抵抗反応に関する研究	
83	8	1	東京大学造林学研究室	1	0	0	0	1	巻き枯らしの水分生理	
84	8	1	東京大学新領域生物圏機能学研究室	0	0	1	0	1	傷害に伴う材変色の進展に及ぼす時期の影響	
85	8	26	東京大学演習林研究部	2	0	0	0	2	クズ・イシミカワの生物駆除に用いる葉食性昆虫の探索と生物検定	
86	8	1	東京農工大学	0	1	0	0	1	生立木辺材における外傷に対する防御反応と通水阻害の発生過程	
87	8	5	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	ナラ類萎凋枯死における通水阻害機構	
88	8	1	東京大学森林動物学研究室	0	0	1	0	1	マツノマダラカミキリの生態学的研究	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
89	8	2	東京大学森林動物学研究室	1	0	2	0	3	マツノザイセンチュウの病原性に関する研究	
90	8	3	東京大学造林学研究室	1	0	1	0	2	水滴の葉面付着が樹木の物質生産に与える影響	
91	8	1	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	冬季環境条件が北関東の南北斜面の植生に与える影響	
92	8	1	東京大学愛知演習林	1	0	0	0	1	ウルシ科植物が含有するウルシオール量の季節変動および地域特性	
93	8	2	東京大学森林利水・砂防工学研究室	0	2	0	0	2	室内条件下における林内雨滴粒径分布モデル化	
94	8	1	東京大学高分子材料科学研究室	1	0	0	0	1	包装材料に用いる炭の研究	
95	8	1	東京大学附属演習林	0	0	2	0	2	都市林のアオキの生育について	
96	8	2	東京大学森林植物学研究室	1	1	0	0	2	ナラタケモドキの繁殖生態に関する研究	
97	8	1	森のボランティア	0	0	0	10	10	林内見学	
98	8	1	一般見学者	0	0	0	1	1	林内見学	
99	8	1	谷戸小学校施設開放運営協議会	0	0	0	29	29	林内見学	
100	8		東大農場・演習林の存続を願う会	0	0	0	53	53	林内見学	
101	8		その他一般見学者	0	0	0	198	198	林内見学	
102	9	7	東京大学造林学研究室	0	0	1	0	1	光屈性による木化茎の屈曲機構の解明	
103	9	1	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	マツ材線虫病に対する宿主の抵抗性機構の解明	
104	9	3	東京大学造林学研究室	1	0	0	0	1	巻き枯らしの水分生理	
105	9	1	東京大学造林学研究室	1	0	0	0	1	巻き枯らしの水分生理	
106	9	1	東京大学新領域生物圏機能学研究室	0	0	1	0	1	傷害に伴う材変色の進展に及ぼす時期の影響	
107	9	22	東京大学演習林研究部	1	0	0	0	1	クズ・イシミカワの生物駆除に用いる葉食性昆虫の探索と生物検定	
108	9	13	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	ナラ類萎凋枯死における通水阻害機構	
109	9	18	東京大学造林学研究室	1	0	1	0	2	水滴の葉面付着が樹木の物質生産に与える影響	
110	9	1	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	冬季環境条件が北関東の南北斜面の植生に与える影響	
111	9	1	東京大学森林利水・砂防工学研究室	0	2	0	0	2	室内条件下における林内雨滴粒径分布モデル化	
112	9	2	東京大学附属演習林	0	0	2	0	2	都市林のアオキの生育について	
113	9	1	東京大学森林植物学研究室	2	0	1	0	3	アカマツ広葉樹混交林が同科の樹種に付着する場所における外生菌根菌の群集の構造	
114	9	1	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	ニセアカシアと根粒菌の共生関係に関する研究	
115	9	1	東京大学造林学研究室	0	0	1	0	1	Melaleuca cajuputiにおける沈水適応性の解明	
116	9	1	一般見学者	0	0	0	1	1	林内見学	
117	9	1	ホトギスの会	0	0	0	15	15	林内見学	
118	9		東大農場・演習林の存続を願う会	0	0	0	65	65	林内見学	
119	9		その他一般見学者	0	0	0	288	288	林内見学	
120	10	6	東京大学造林学研究室	0	0	1	0	1	光屈性による木化茎の屈曲機構の解明	
121	10	1	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	マツ材線虫病に対する宿主の抵抗性機構の解明	
122	10	2	東京大学造林学研究室	1	0	0	0	1	巻き枯らしの水分生理	
123	10	3	東京都健康安全研究センター	0	0	0	1	1	野ネズミ等の野外調査	
124	10	7	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	ナラ類萎凋枯死における通水阻害機構	
125	10	1	東京大学森林動物学研究室	0	0	1	0	1	マツノマダラカミキリの生態学的研究	
126	10	12	東京大学造林学研究室	1	0	1	0	2	水滴の葉面付着が樹木の物質生産に与える影響	
127	10	4	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	冬季環境条件が北関東の南北斜面の植生に与える影響	
128	10	6	東京大学造林学研究室	0	0	1	0	1	Melaleuca cajuputiにおける沈水適応性の解明	
129	10	1	東京大学造林学研究室	1	0	1	0	2	ツツジ類のNi過剰耐性評価	
130	10	1	東京大学造林学研究室	1	0	1	0	2	巻き枯らしによる樹体への影響	
131	10	1	東京大学生物多様性科学研究室	2	8	0	0	10	フィールド科学専修 生物多様性実習	
132	10	24	東京大学演習林研究部	1	0	0	0	1	クズ・イシミカワの生物駆除に用いる葉食性昆虫の探索と生物検定	
133	10	1	田無公民館高齢者学級	0	0	0	35	35	林内見学	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
134	10	1	一般見学者	0	0	0	1	1	林内見学	
135	10	1	東久留米市立第五小学校	0	0	0	95	95	林内見学	
136	10	1	一般見学者	0	0	0	2	2	林内見学	
137	10	1	一般見学者	0	0	0	20	20	林内見学	
138	10	1	自由学園初等部	0	0	0	46	46	林内見学	
139	10	1	ホトギスの会	0	0	0	16	16	林内見学	
140	10	1	西東京市立谷戸学童クラブ	0	0	0	44	44	林内見学	
141	10	1	南沢シュタイナー子ども園	0	0	0	64	64	林内見学	
142	10		東大農場・演習林の存続を願う会	0	0	0	77	77	林内見学	
143	10		その他一般見学者	0	0	0	397	397	林内見学	
144	11	1	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	マツ材線虫病に対する宿主の抵抗性機構の解明	
145	11	2	東京都健康安全研究センター	0	0	0	1	1	野ネズミ等の野外調査	
146	11	21	東京大学演習林研究部	1	0	0	0	1	クズ・イシミカワの生物駆除に用いる葉食性昆虫の探索と生物検定	
147	11	8	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	冬季環境条件が北関東の南北斜面の植生に与える影響	
148	11	2	東京大学附属演習林	0	0	2	0	2	都市林のアオキの生育について	
149	11	4	東京大学造林学研究室	0	0	1	0	1	Melaleuca cajuputiにおける沈水適応性の解明	
150	11	1	東京大学造林学研究室	1	1	0	0	2	実験用種子の採集	
151	11	1	東京大学アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	1	2	マルチメディア観察装置を用いた訪問花昆虫の行動解析	
152	11	1	西東京市立すみよし保育園	0	0	0	48	48	林内見学	
153	11	1	西東京市中学校理科教員有志	0	0	0	23	23	林内見学	
154	11	1	一般見学者	0	0	0	1	1	林内見学	
155	11	1	森のボランティア	0	0	0	30	30	林内見学	
156	11	1	ホトギスの会	0	0	0	18	18	林内見学	
157	11	1	柳橋保育園	0	0	0	23	23	林内見学	
158	11		東大農場・演習林の存続を願う会	0	0	0	77	77	林内見学	
159	11		その他一般見学者	0	0	0	420	420	林内見学	
160	12	1	東京大学造林学研究室	1	1	0	0	2	巻き枯らしの水分生理	
161	12	20	東京大学演習林研究部	1	0	0	0	1	クズ・イシミカワの生物駆除に用いる葉食性昆虫の探索と生物検定	
162	12	5	東京大学森林植物学研究室	1	0	1	0	2	冬季環境条件が北関東の南北斜面の植生に与える影響	
163	12	2	東京大学造林学研究室	0	0	1	0	1	Melaleuca cajuputiにおける沈水適応性の解明	
164	12	1	東京大学アジア生物資源環境研究センター	1	0	0	1	2	マルチメディア観察装置を用いた訪問花昆虫の行動解析	
165	12	1	東京大学森林植物学研究室	1	0	1	0	2	ナラタケモドキの繁殖生態に関する研究	
166	12		東大農場・演習林の存続を願う会	0	0	0	69	69	林内見学	
167	12		その他一般見学者	0	0	0	149	149	林内見学	
168	1	1	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の枯死課程における宿主細胞の反応	
169	1	1	東京大学造林学研究室	1	0	0	0	1	巻き枯らしの水分生理	
170	1	22	東京大学演習林研究部	1	0	0	0	1	クズ・イシミカワの生物駆除に用いる葉食性昆虫の探索と生物検定	
171	1	1	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	ナラ類萎凋枯死における通水阻害機構	
172	1	2	東京大学造林学研究室	0	0	1	0	1	Melaleuca cajuputiにおける沈水適応性の解明	
173	1	1	東京大学自然環境評価学研究室	0	0	1	0	1	サクラの根株腐朽菌被害木の腐朽形状調査	
174	1	1	東京大学耕地生態学研究室	0	0	1	0	1	都市部におけるマトリクス空間による鳥類相への影響	
175	1	1	東京大学千葉演習林	1	0	0	0	1	ナラ類萎凋病における樹種間の枯死機構と抵抗性機構の比較研究	
176	1	3	東京大学千葉演習林	1	0	0	0	1	樹木の生体防御システムに基づいた樹木治療技術の確立に関する研究	
177	1		東大農場・演習林の存続を願う会	0	0	0	78	78	林内見学	
178	1	1	一般見学者	0	0	0	1	1	林内見学	
179	1	1	森のボランティア	0	0	0	25	25	林内見学	

No.	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
180	1	1	西東京市役所	0	0	0	60	60	林内見学	
181	1		その他一般見学者	0	0	0	200	200	林内見学	
182	2	3	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の枯死課程における宿主細胞の反応	
183	2	1	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	マツ材線虫病に対する宿主の抵抗性機構の解明	
184	2	1	東京大学造林学研究室	1	0	1	0	2	巻き枯らしの水分生理	
185	2	14	東京大学演習林研究部	1	0	0	0	1	クズ・イシミカワの生物駆除に用いる葉食性昆虫の探索と生物検定	
186	2	2	東京大学森林動物学研究室	1	0	0	0	1	マツノマダラカミキリの生態学的研究	
187	2	1	東京大学造林学研究室	1	0	1	0	2	水滴の葉面付着が樹木の物質生産に与える影響	
188	2	1	東京大学附属演習林	0	0	2	0	2	都市林のアオキの生育について	
189	2	1	東京大学造林学研究室	0	0	1	0	1	Melaleuca cajuputiにおける沈水適応性の解明	
190	2	6	東京大学自然環境評価学研究室	0	0	1	0	1	サクラの根株腐朽菌被害木の腐朽形状調査	
191	2	1	東京大学耕地生態学研究室	0	0	1	0	1	都市部におけるマトリクス空間による鳥類相への影響	
192	2	2	東京大学千葉演習林	1	0	0	0	1	ナラ類萎凋病における樹種間の枯死機構と抵抗性機構の比較研究	
193	2	2	東京大学千葉演習林	1	0	0	0	1	樹木の生体防御システムに基づいた樹木治療技術の確立に関する研究	
194	2		東大農場・演習林の存続を願う会	0	0	0	63	63	林内見学	
195	2	1	一般見学者	0	0	0	1	1	林内見学	
196	2	1	森のボランティア	0	0	0	25	25	林内見学	
197	2		その他一般見学者	0	0	0	265	265	林内見学	
198	3	4	東京大学森林植物学研究室	1	1	0	0	2	サクラてんぐす病に関する研究	
199	3	4	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の枯死課程における宿主細胞の反応	
200	3	3	東京大学森林植物学研究室	0	0	1	0	1	マツ材線虫病に対する宿主の抵抗性機構の解明	
201	3	1	東京大学造林学研究室	1	0	1	0	2	巻き枯らしの水分生理	
202	3	19	東京大学演習林研究部	1	0	0	0	1	クズ・イシミカワの生物駆除に用いる葉食性昆虫の探索と生物検定	
203	3	2	東京大学森林動物学研究室	2	0	3	0	5	マツノマダラカミキリの生態学的研究	
204	3	4	東京大学造林学研究室	1	0	1	0	2	水滴の葉面付着が樹木の物質生産に与える影響	
205	3	3	東京大学森林植物学研究室	1	0	1	0	2	冬季環境条件が北関東の南北斜面の植生に与える影響	
206	3	1	東京大学造林学研究室	0	0	1	0	1	Melaleuca cajuputiにおける沈水適応性の解明	
207	3	1	東京大学耕地生態学研究室	0	0	1	0	1	都市部におけるマトリクス空間による鳥類相への影響	
208	3	13	東京大学自然環境評価学研究室	0	0	1	0	1	サクラの根株腐朽菌被害木の腐朽形状調査	
209	3	1	東京大学森林植物学研究室	1	2	4	0	7	ナラタケ属菌の病原性に関する研究、樹木の成長・通水に関する研究	
210	3		東大農場・演習林の存続を願う会	0	0	0	86	86	林内見学	
211	3	1	ホトギスの会	0	0	0	15	15	林内見学	
212	3	1	西東京市立向台保育園	0	0	0	108	108	林内見学	
213	3	1	長寿会(豊島区内の老人会)	0	0	0	25	25	林内見学	
214	3		その他一般見学者	0	0	0	493	493	林内見学	

利用者数合計 5,912
利用者延べ数合計 6,636
利用件数 214

■研修■

技術職員

研 修 名	開 催 機 関	開催月	参加人数
東京大学職員海外研修（短期）	東京大学	10	1
平成18年度技術職員研修（樹木医学関係）	東京大学	10	8
平成18年度新規採用職員研修Ⅰ	東京大学	4	4
平成18年度新規採用職員研修Ⅱ	東京大学	9	4
第9回関東甲信越地区演習林技術職員研修	東京大学	6	6
G I S シンポジウム	東京大学	2	4
技術職員等試験研究・研修会議	東京大学演習林	10	40
流量講習会	東京大学愛知演習林	12	9
地球観測衛星データ利用セミナー	文部科学省	1	1
第43回北海道地区中堅係員研修	人事院北海道	6	1
第15回九州地区国立大学法人農学部附属演習林等技術職員研修	鹿児島大学	10	7
平成18年度京都大学フィールド科学教育研究センター技術職員研修	京都大学	10	5
第13回東海地区農学部附属演習林技術職員研修	静岡大学	10	5
平成18年度国立大学法人北海道大学北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション技術職員研修	北海道大学	7	4

事務職員

研 修 名	開 催 機 関 等	開催月	参加人数
安全シンポジウム	東京大学	7	1
新たな評価制度～第一次試行～セミナー	東京大学	1	1
平成18年度係員研修（7年経験者）	東京大学	7、9	1
平成18年度係長級研修：初任者・第1回～第2回	東京大学	10	1
平成18年度係長研修（初任者）	東京大学	10、1	1
平成18年度財務会計研修（決算編）	東京大学	5	1
平成18年度財務会計研修（国立大学法人会計基準編）	東京大学	10	2
平成18年度東京大学メンタルヘルス研修会	東京大学	9	1

■各種委員会報告■

運営委員会

演習林規則第5条により設置されている演習林の管理及び運営に関する最高議決機関である。委員は、演習林の教授・助教授のほか、研究科長が推薦する研究科の教授又は助教授（10名以内）と事務部長であり、演習林長が委員長を務める。今年度は、平成19年3月14日に開催された。

演習林会議

演習林長の諮問機関としての役割を持つ。毎月1回、原則として教授会開催日の前日に開催される。メンバーは講師以上の演習林教員である。今年度は都合11回開催された。

演習林編集委員会

「東京大学農学部演習林報告」と「演習林」の編集発行を行い、原則として2ヶ月おきに開催され、今年度はメールによる委員会を含め都合7回開催された。

事務主任会議

地方演事務主任相当職によって地方演における事務処理遂行上の問題点等について報告、意見交換が行われる。原則として演習林長、研究部長、統括技術長も出席する。必要に応じて事務部の関係課長、係長も同席する。年1回、当初予算決定後に開催される。今年度は平成18年7月11日に事務主任・技術主任合同会議として開催された。

技術職員等試験研究・研修会議

技術職員等による研究報告と情報交換、技術研修等を目的に年1回開催される。今年度は、平成18年10月30日から11月1日にかけて北海道演習林で開催された。

技術主任会議

地方演技術職主任によって地方演における森林管理や技術職員組織に関わる諸問題について報告、意見交換が年1回行われる。原則として演習林長、研究部長も出席する。今年度は平成18年7月10、11日の2日間にわたって開催された。

演習林将来計画WG

平成 18 年 3 月に千葉演習林において開催された演習林将来計画検討会での検討の結果、ワーキンググループを作って集中的に議論することが決定された。平成 18 年 4 月 14 日から平成 19 年 7 月 24 日までの間に 14 回、ほぼ 1 ヶ月に 1 回のペースで検討を重ね、演習林の使命、各演習林の特徴と使命、演習林の現状と課題、今後の重点方策などについて添付資料にあるような報告「将来計画 2007」をとりまとめ、演習林を構成するすべての教職員に周知した。

ワーキンググループの構成員と開催日は以下の通りである。

下村彰男（教授・演習林長）

山本博一（教授・研究部長）

石橋整司（教授・秩父演習林長）

山田利博（教授・千葉演習林長）

鎌田直人（准教授・研究部）

安村直樹（助教・研究部）

荒木田善隆（統括技術長）

佐々木和男（前統括技術長）

芝野伸策（秩父演習林技術主任）

鶴見康幸（千葉演習林技術主任）

犬飼浩（北海道演習林技術主任）

将来計画ワーキングの開催日

平成 18 年 4 月 14 日、平成 18 年 5 月 9 日、平成 18 年 5 月 16 日、平成 18 年 6 月 13 日

平成 18 年 7 月 6 日、平成 18 年 10 月 25 日、平成 18 年 12 月 11 日、平成 19 年 1 月 22 日

平成 19 年 2 月 13 日、平成 19 年 3 月 5 日、平成 19 年 4 月 23 日、平成 19 年 5 月 7 日

平成 19 年 6 月 11 日、平成 19 年 7 月 24 日

科学の森ニュース編集委員会

広報誌「科学の森ニュース」の編集に当たっている。電子メールでのやりとりを中心にしながら、発刊に合わせて編集委員会を開催している。2006 年度は 4 回開催された。

ホームページ編集委員会

ホームページ編集を行っている。電子メールでのやりとりを中心にしながら、ホームページの更新に合わせて 20 回の編集委員会が 2006 年度には開催された。

基盤データ整備委員会

研究フィールドとしての演習林の価値をよりいっそう高めることを目的に、さまざまな基礎的なデータの収集と提供を組織的に行うのが基盤データ整備委員会である。気象部門、生物部門、水文部門、固定試験地部門から構成される。

気象観測部門

各地方演習協力の下、演習林における気象観測を継続し行った。2006年度は千葉4ヶ所、北海道2ヶ所、秩父4ヶ所、愛知3ヶ所、富士1ヶ所、樹芸2ヶ所、田無1ヶ所、合計17ヶ所だった。気象担当者会議を毎年1度開催しているが、2006年度は年度が切り替わる直前に開催したため、2006年度中には開催しなかった。

生物部門

演習林基盤データ整備委員会【生物部門】は、(1) 木本植物、(2) 草本植物、(3) 鳥類、(4) 脊椎動物（鳥類を除く）、(5) 昆虫類、の5つの分野についてデータの収集にあたっている。基本的には、これまでの情報の蓄積が多く、また調査を実施しやすい木本植物、草本植物、鳥類の3分野について先行してデータの収集・整備を進め、脊椎動物、昆虫類の2分野については本格的な調査実施に向けての予備情報の収集を進める方針で活動をおこなっている。2006(平成18)年度に行った主な活動とその成果は以下の通りである。

(1) 木本植物分野および草本植物分野

演習林内に生育する維管束植物（自生種・導入植栽種）をリストアップし、さく葉標本を3点以上作成することを目標に資料の収集にあたっている。2006(平成18)年度の活動状況は以下の通りである。

演習林名	調査 日数	調査 人員	標本 種数	標本 点数	その他
千 葉	9	9	29	87	写真撮影(通常業務時、実習時合わせて113種1,407枚)
北海道	6	14	--	100	通常勤務中に40時間程度の踏査、写真撮影
秩 父	5	7	164	266	デジタル写真124種、180枚
愛 知	90	90	656	1,328	希少植物4種は写真のみ
富 士	9	15	340	730	デジタル写真120種、160枚
樹 研	5	5	100	300	通常業務中に20時間程度の標本採取、写真撮影
田 無	10	10	29	93	
全 演	134	150	1,318	2,904	

なお、2005(平成17)年度までの調査結果を加えた維管束植物分類群別の標本数は以下のようになる(平凡社図鑑記載種のみ)。詳細は別添リストに記載した。

	千 葉		北海道		秩 父		愛 知	
	種 数	標本数	種 数	標本数	種 数	標本数	種 数	標本数
シダ	--	--	58	--	109	203	62	124
木本	89	470	141	--	267	497	184	380
草本	13	58	493	--	553	1,012	390	784
合計	102	528	692	--	929	1,712	636	1,288

	富 士		樹 研		田 無	
	種 数	標本数	種 数	標本数	種 数	標本数
シダ	25	87	16	48	--	--
木本	138	244	81	239	12	34
草本	180	529	176	526	17	59
合計	343	860	273	813	29	93

(2) 鳥類分野

演習林内にみられる鳥類についてリストアップを中心に2004(平成16)年度目標に調査を行っている。2006(平成18)年度の活動状況は以下の通りである(調査回数はラインセンサス、定点調査、任意調査の合計)。2007(平成19年度)中にはこれまでの調査結果を目録として公開できるように作業を進めている。

演習林名	調査回数	確認種数	その他
千 葉	27	49	
北海道	18	70	
秩 父	30	41	
愛 知	136	57	
富 士	70	35	
樹 芸	33	38	
田 無			職員による特別な昆虫類調査は実施せず。
全演合計	314	----	

なお、鳥類調査に関連したものとして以下の報告を行った。

・村瀬一隆・渡辺良広・辻和明・辻良子・鴨田重裕・荒木田善隆：南伊豆地方におけるシジュウカラ科の巣箱利用．第55回日本森林学会中部支部大会，2006

(3) 脊椎動物（鳥類を除く）分野

各演習林で過去の目撃記録や資料の洗い出し、新たな目撃情報の収集などを行い演習林内に生息している脊椎動物のリストアップを行っている。

演習林名	取り組み状況
千葉	- 過去の資料よりリストアップしたものから現在まで残っているものと、生息しなくなったものを調査中。 - 日常業務で入林した際に見かけた動物をチェック。 - 野生シカ生息数調査実施(毎年1月に実施)「2007年シカ調査結果」参照
北海道	「生き物目撃ノート」を作成し、各公用車に搭載し情報収集、2006年4月～12月末で434件の情報を収集(哺乳類のほか、鳥類・爬虫類含む)。 - 位置情報を含めGISとして処理を開始。 - 結果の一部(ヒグマ)についての情報は、北海道庁へ報告。 - 取り組みについてを、技術職員研究会議、演習林ゼミで報告。 - 麓郷地区において農業被害軽減を目的としたシカ柵設置による、シカ・ヒグマの個体群動態変化についての追跡調査を開始。 - 富良野高校科学部との共同研究で、演習林内に生息するコウモリ相の調査を開始。
秩父	- 月1回のライトセンサスと11月に区画法調査を実施。 - 頭骨標本のための資料採集、クマ、アナグマ2個体、シカ、カモシカ標本作成中 - 写真撮影
愛知	「目撃情報記録用紙」を作成、職員に協力を呼びかけて情報を収集。
富士	職員による特別な調査は実施せず。
樹芸	- 職員による目撃例を記録。 - 目撃記録をまとめ、動物リストを作成。「樹芸研究所脊椎動物リスト2006」参照
田無	- 職員による特別な脊椎動物調査は実施せず。 2005年に確認されたウサギのフィールドサインが本年も確認されたが目撃情報は無し。 2007年になってからイタチのような生き物を野外で見たとの情報が複数有り。人に飼われていたフェレットの可能性もあるが、詳細は不明

(4) 昆虫類分野

各演習林で過去の目撃記録や資料の洗い出し、新たな目撃情報の収集などを行い演習林内に生息している脊椎動物のリストアップを行っている。また、今後調査を進めるうえで基本となる情報を統一するため各演習林にある昆虫関係の図鑑類リストを作成した。各演の取り組み状況および成果は以下の通りである。

演習林名	取り組み状況
千 葉	・職員による特別な昆虫類調査は実施せず。 ・1988年にまとめられた昆虫リストの打ち込みを済ませた。
北海道	・水系調査のなかで、沢に生息する水生昆虫類の調査を実施した。 ・名古屋大から依頼を受けてキクイムシ類のトラップ調査を行い、その採集リストと標本を受領した。 ・森林動物学実習の採集リストを受領した。
秩 父	・職員による特別な昆虫類調査は実施せず。 ・モニタリング1000調査の資料は入手できる可能性がある。
愛 知	・職員による特別な昆虫類調査は実施せず。 ・モニタリング1000調査の資料は入手できる可能性がある。
樹 芸	・鱗翅目の標本採集を実施。25種の展翅標本作成した。
富 士	・職員による特別な昆虫類調査は実施せず。
田 無	・職員による特別な昆虫類調査は実施せず。

水文観測部門

量水観測は多年にわたり観測を継続して初めて精度への信頼度が得られ、研究トピックの範囲も広くなるという性質がある。例えば、極めて長期に観測すれば植生遷移にともなう水収支の変動や降雨一流出系での応答関係の変化を追跡することが可能となる。また、と発的に派生する、山火事や生物害やマスウエイスティングなどによる流域の生態系の激変などは、研究トピックとして重要なイベントであるといえる。また、東京大学の7つの地方演習林で植生・地質・気候の相違は、水収支や降雨一流出応答関係の比較研究の興味深い対象であり、短期間でも精度の高いデータが得られればこの比較研究はかなりの部分が達成可能である。

さて、広範な水文関連の観測項目のうち、量水観測データを基盤データとして整備することがこの部門の目的とするところである。愛知演習林の量水観測を例にして、観測データについて概要を説明したい。

愛知演習林では、大流域として、3流域、小流域として2流域（さらにその内部流域での水位観測を含む）で構成されており、それぞれにデジタル記録とアナログ記録（バックアップ用）が収集されている。水位は、ベルヌーイ式を基本に変形された土研公式を使用して流量に換算されている。流量は、雨量と同様の単位であるmm/day mm/5minなどにまとめられ整理している。雨量は、気象部門で整理されているCR10Xの雨量を欠測値の補充に充てている。量水観測とセットで概ね流域の出口（即ち量水堰堤近傍）にCR10Xとは別に雨量計が設置されている。基本的なデータは、雨量・水位とも5分間隔データであり、公表は、日単位データである。量水観測の精度維持上の要点は、土砂の不定期な排出作業にある。また、精密機械である水位計の精度劣化などの問題があり、愛知演習林では、最短で1週間毎にポイントゲージで水位のチェックを実施している。千葉・北海道・秩父・樹芸の各地方演習林に試験流域が設定されており、地方演習林単位でデータの整備が行われている。特に、豪雨による引き起こされる土砂の流入の問題で欠測を余儀なくされ、その欠測期間が長期化する問題をいずれのサイトでも抱えているといえる。この問題への対応は各地方演習林への努力に期待せざるを得ず、負担を強いるケースが今後増えていくことになるだろう。

固定試験地部門

各地方演習林には研究教育や森林施業の基礎資料とするため、各種固定試験地があり、それぞれ定期的に調査が行われている。2006年度は基盤データ整備委員会としての活動は行わなかった。

■安全衛生■

下表のように安全・防災のための各種講習会を実施した。その他に各演習林の実情と必要性に応じ安全衛生のための定期的な会議や点検を実施、あるいは日常的な連絡・注意喚起のための態勢を整備している。

安全・防災のための講習会等

研 修 名	開 催 機 関 等	開催月	参加人数
安全シンポジウム	東京大学	7	4
化学物質講習会	東京大学	6	1
第1種衛生管理者受験準備講習会	東京大学	7	1
安全衛生講習会（新規採用者対象）	千葉演習林	5	5
労働安全講習会（安全な集材・枝払い作業）	千葉演習林	11	31
労働安全講習会（リスクアセスメントによる被害木の安全な処理）	千葉演習林	12	24
労働安全講習会（トラクター安全講習会）	千葉演習林	2	16
安全衛生教育実施要領に係る刈払機取扱作業	北海道演習林	7	37
交通安全講習会	北海道演習林	11	42
スノーモビル安全講習	北海道演習林	12	29
油圧ショベル操作安全講習	秩父演習林	4	5
間伐安全講習	秩父演習林	9	11
消火訓練	秩父演習林	11	13
救命救急講習	秩父演習林	11	11
油圧ショベル操作安全講習	秩父演習林	3	12
普通救命講習	愛知演習林	11	21
車両系建設機械（解体用）運転講習	コマツ教習所	5	2
玉掛け技能講習	コマツ教習所	5	3
フォークリフト運転技能講習	住友建機(株)千葉技術研修所	9	1
刈払機安全衛生教育	エス・シー・エム教習所(株) 埼玉教習センター 秩父教習所	6	3
刈払機安全衛生教育	エス・シー・エム教習所(株) 埼玉教習センター 秩父教習所	7	1
玉掛け技能講習	エス・シー・エム教習所(株) 埼玉教習センター 秩父教習所	7	2
移動式クレーン運転技能講習	エス・シー・エム教習所(株) 埼玉教習センター 秩父教習所	11	2
玉掛け技能講習	エス・シー・エム教習所(株) 埼玉教習センター 秩父教習所	11	2
刈払機安全衛生教育	エス・シー・エム教習所(株) 埼玉教習センター 秩父教習所	6	1
伐木等の業務第36条8号	エス・シー・エム教習所(株) 埼玉教習センター 秩父教習所	11	1

災害統計

災害については、重大あるいは休業災害は発生しなかったが、不休災害およびヒヤリハットが多数生じた。傾向としては、災害ではハチ刺されが圧倒的に多く、次に手工具（鉋、鋸、ナイフ等）での切傷、転倒等であった。ヒヤリハットでは、ハチ、マムシ等の生物関係が一番多く、次に滑り・転倒、車・スノーモビル運転、落下物（落枝、倒木、雪）、落石等であった。発生した災害、ヒヤリハットについては前記会議等で分析し、安全衛生の向上に努めている。

	教職員	学生	その他
重大及び休業災害（4日以上）	0件	0件	0件
休業災害（4日未満）	0件	0件	0件
不休災害	30件	1件	4件
災害合計	30件	1件	4件
設備災害	1件		
ヒヤリハットなど	57件	1件	0件

山火事予防活動

演 習 林 名	名	称	開 催 場 所	日 程	参加人数
千葉	冬の特別巡林		清澄作業所館内	2月2日	16
北海道	林野火災予防強調期間中の林内巡視及び 日直		北海道演習林一円	4月21日～5 月31日	42

■人事異動■

日付	異動	新職名	氏名	旧職名
平成18年4月1日	兼務	附属演習林長	下 村 彰 男	
〃	採用	附属演習林研究部助教授	鎌 田 直 人	金沢大学大学院自然科学研究科助教授
〃	勤務換	附属演習林研究部	山 本 博 一	附属演習林千葉演習林
〃	命	附属演習林研究部長	山 本 博 一	
〃	免		永 田 信	附属演習林研究部長
〃	昇任	総務課附属演習林北海道演習林主査（総務担当）・資産管理係長兼務	堀 内 正	経理課財務係長
〃	配置換	総務課附属演習林北海道演習林会計係長	米 田 久 和	総務課附属演習林北海道演習林資産管理係長
〃	昇任	総務課附属演習林秩父演習林事務室係長	大 村 栄	総務課附属演習林秩父演習林事務室主任
〃	昇任	附属演習林愛知演習林技術専門員	渡 部 賢	附属演習林愛知演習林技術専門職員
〃	〃	附属演習林秩父演習林技術専門職員	西 山 教 雄	附属演習林秩父演習林技術職員
〃	〃	附属演習林樹芸研究所技術専門職員	辻 和 明	附属演習林樹芸研究所技術職員
〃	〃	附属演習林北海道演習林技術専門職員	松 井 理 生	附属演習林北海道演習林技術職員
〃	採用	附属演習林千葉演習林技術職員	三 次 充 和	
〃	〃	附属演習林千葉演習林技術職員	算 用 子 麻 未	
〃	〃	附属演習林秩父演習林技術職員	吉 田 弓 子	
〃	〃	附属演習林北海道演習林技術職員	犬 飼 慎 也	
〃	職務復帰	附属演習林樹芸研究所技術職員	辻 良 子	
〃	勤務換	附属演習林愛知演習林技術専門職員	澤 田 晴 雄	附属演習林秩父演習林技術専門職員
〃	〃	附属演習林秩父演習林技術職員	大 畑 茂	
〃	〃	附属演習林田無試験地技術職員	岩 本 則 長	
〃	採用	附属演習林北海道演習林講師	尾 張 敏 章	北海道大学大学院農学院助手
〃	免		酒 井 秀 夫	附属演習林北海道演習林長
〃	命	附属演習林北海道演習林長	梶 幹 男	
〃	免		梶 幹 男	附属演習林秩父演習林長
〃	命	附属演習林秩父演習林長	石 橋 整 司	
平成18年7月1日	昇任	総務課附属演習林北海道演習林庶務係長	岡 田 教 和	総務課附属演習林北海道演習林会計係主任
〃	配置換	総務課附属演習林北海道演習林庶務係主任	天 山 学	総務課附属演習林北海道演習林資産管理係主任

日付	異動	新職名	氏名	旧職名
平成18年7月1日	昇任	総務課附属演習林北海道演習林会計係主任	木 船 聡	研究協力部総合研究博物館グループ
〃	配置換	総務課附属演習林北海道演習林資産管理係主任	横 山 和 宏	総務課附属演習林北海道演習林庶務係主任
〃	配置換	総務課附属演習林秩父演習林事務室	深 谷 仁 子	医学部附属病院医事課外来チーム
平成18年8月16日	採用	附属演習林千葉演習林助手	鈴 木 牧	生圏システム学専攻学術研究支援員
〃	勤務換	附属演習林演習林研究部助手	安 村 直 樹	附属演習林北海道演習林助手
平成18年9月1日	勤務換	附属演習林千葉演習林助教授	山 田 利 博	附属演習林田無試験地助教授
〃	免		山 本 博 一	附属演習林千葉演習林長
〃	命	附属演習林千葉演習林長	山 田 利 博	
〃	免		山 田 利 博	附属演習林田無試験地主任
〃	命	附属演習林田無試験地主任	鎌 田 直 人	
平成18年10月16日	昇任	附属演習林千葉演習林教授	山 田 利 博	附属演習林千葉演習林助教授
平成19年1月16日	昇任	附属演習林秩父演習林教授	石 橋 整 司	附属演習林秩父演習林助教授
平成19年3月1日	勤務換	附属演習林研究部技術専門員	荒 木 田 善 隆	附属演習林愛知演習林技術専門員
平成19年3月9日	辞職		犬 飼 雅 子	附属演習林北海道演習林技術職員
〃	任期満了		大 川 あ ゆ 子	附属演習林北海道演習林技術職員（臨時的採用）
平成19年3月31日	定年		鈴 木 誠	附属演習林千葉演習林講師
〃	定年		春 田 泰 次	附属演習林愛知演習林助手
〃	辞職	学校法人東日本学園北海道医療大学准教授	高 上 馬 希 重	附属演習林樹芸研究所助手
〃	定年	再雇用（附属演習林秩父演習林技術職員）	佐 々 木 和 男	附属演習林研究部技術専門員
〃	定年	再雇用（附属演習林北海道演習林技術職員）	五 十 嵐 秀 雄	附属演習林北海道演習林技術専門職員
〃	任期満了		坂 口 敏 雄	再雇用（附属演習林北海道演習林技術職員）
〃	任期満了		高 橋 範 和	再雇用（附属演習林北海道演習林技術職員）

■予算配分と収入■

予算配分

運 営 費	:	310,838	千円	
特 殊 要 因	:	7,288	千円	借地料・下水道負担金
小 計		318,126	千円	

収入

林産物収入	:	131,289	千円	
損害賠償金	:	11,149	千円	
奨学寄付金	:	1,715	千円	科学の森里親制度による分
小 計		144,153	千円	

演習林林産物収入細分表

区 分	立 木	素 材	そ の 他			合 計
			ヒサカキ	種 子	苗 木	
千葉演習林	638.28 m ³	41.017 m ³	32 束		本	7,750,924 円
	5,955,050 円	1,768,034 円	27,840 円	円	円	
北海道演習林	20,301.04 m ³	2,702.323 m ³	束		19,100 本	121,777,867 円
	41,531,900 円	77,481,897 円	円	46,200 円	2,717,870 円	
秩父演習林	m ³	39.729 m ³	束		本	870,450 円
	円	870,450 円	円	円	円	
愛知演習林	306.90 m ³	m ³	束		本	890,000 円
	890,000 円	円	円	円	円	
合 計	21,246.22 m ³	2,783.069 m ³	32 束		19,100 本	131,289,241 円
	48,376,950 円	80,120,381 円	27,840 円	46,200 円	2,717,870 円	

■組織図■

本部

組織（主任職員）	配置職員（教職員）	配置職員（非常勤職員）
演習林長 教授 下村 彰男 研究部 部長 教授 山本 博一 統括技術長 佐々木 和男 平成19年3月31日まで	助教授 鎌田 直人 助教授 石橋 整司（兼） 客員助教授 ルース柳内 講師 鴨田 重裕（兼） 助手 安村 直樹 平成18年8月16日から 助手 浅野 友子 技術専門員 荒木田善隆 平成18年3月1日から 技術職員 相川 美絵子 事務部附属施設総務係主任 池田 美智子	
農学系事務部 事務部長 佐々木 勉 総務課長 米谷 栄治 経理課長 小林 仁 教務課長 池田 幸男	附属施設担当専門員 葉袋 史彦 平成18年6月30日まで 原島 二美雄 平成18年7月1日から ほか事務部各係	

研究部 研究員・学生等

学年等	氏名
特別研究員	劉 盛
リサーチフェロー	浅井 英一郎
大学院研究生	逢沢 峰昭
農学特定研究員	佐竹（秋廣）敬恵
大学院研究生	堀 真人
博士3年	陳 鍾善
博士2年	トリフコビッチ・スタンコ
博士1年	王 清春
修士2年	村松 昭宜
修士1年	澤畠 薫
修士1年	中村 麻祐子
学部研究生	佐藤 樹里
学部研究生	中馬 美咲
学部4年	石塚 航
学部4年	中村 和彦

千葉演習林

組織 (主任職員)			配置職員 (教職員)	配置職員 (非常勤職員)
林長	教授	山田 利博 平成18年9月1日から		
	教授	山本 博一 平成18年8月31日まで		
林長補佐	講師	鈴木 誠 平成19年3月31日まで		
事務係	主査(事務室係長兼)	根上 昌久	一般係員 石野 裕昭	
	事務室主任	野山 智		
	事務室主任	田山 勝則		
技術主任	技術専門職員	鶴見 康幸		
宿泊管理係	技術専門職員	永島 初義(兼)		糟谷 育代 鈴木 俊江 行方 和子
森林管理係	技術専門職員	鶴見 康幸(兼)	技術職員 三次 充和(兼) 平成18年9月31日まで	
施設係	一般係員	石野 裕昭		
企画調整係	技術専門職員	村川 功雄	技術職員 福岡 哲(兼) 平成18年10月1日から 技術職員 算用子 麻未 平成18年9月31日まで	
生産販売係	技術専門職員	山中 千恵子		
土木係	技術専門職員	鈴木 祐紀(兼)	技術職員 藤平 晃司	
造林係	技術専門職員	大塚 明宏	技術職員 塚越 剛史(兼)	
試験係	講師	鈴木 誠	助 手 山中 征夫 助 手 池田 裕行 助 手 鈴木 牧 平成18年8月16日から 平成19年3月31日まで 技術職員 軽込 勉(兼)	

清澄作業所	技術専門職員	永島 初義	技術職員 塚越 剛史 技術職員 三次 充和 平成18年10月1日から	唐鎌 勇 平成18年5月1日から 富川 勲
札郷作業所	技術専門職員	鈴木 祐紀	技術職員 阿達 康眞 技術職員 福岡 哲 技術職員 算用子 麻未 平成18年10月1日から 平成19年3月31日まで	黒川 よし子 宮原 はな 粕谷 善廣
郷台作業所	技術職員	米道 学	技術職員 里見 重成 技術職員 軽込 勉	鵜田 利夫 平成19年3月31日まで 山田 欣弥 平成19年3月31日まで 山田 泰子 平成18年5月1日から 平成19年3月31日まで 唐鎌 勇 平成18年4月30日まで

北海道演習林

組織（主任職員）	配置職員（教職員）	配置職員（非常勤職員）
林長 教授 梶 幹男		
林長補佐 講師 後藤 晋		
主査（総務担当） 堀内 正		
技術主任 技術専門員 犬飼 浩		
教育研究主任 助手 宮本 義憲		
庶務係 係長 秩父 敏 平成18年6月30日まで 岡田 数和 平成18年7月1日から	主任 大屋 裕子 主任 横山 和宏 平成18年6月30日まで 天山 学 平成18年7月1日から	事務補佐員 穴澤三恵子
会計係 係長 米田 久和	主任 岡田 教和 平成18年6月30日まで 木船 聡 平成18年7月1日から 事務職員 三上 匠 平成18年6月30日まで	
資産管理係 係長 堀内 正（兼）	主任 天山 学 平成18年6月30日まで 横山 和宏 平成18年7月1日から	事務補佐員 伊原 悦子
営繕係	堀内 正（兼）	臨時用務員 荏原 敬子
企画調整係 技術専門職員 井口 和信		
調査資料係主任 技術専門職員 廣川 俊英	技術専門職員 木村 徳志 技術職員 犬飼 雅子 （産休） 技術職員 大川あゆ子 （代替職員）	技能補佐員 稲葉 文吉 技能補佐員 岡本ヒサヨ
種苗造林係主任 技術専門職員 松井 理生	技術職員 岡平 卓巳	
生産販売係主任 技術専門職員 岡村 行治		事務補佐員 吉田 幸子 事務補佐員 藤島ノブ子
土木生産係（土木担当）主任 技術専門職員 五十嵐秀雄（兼） 平成19年3月31日まで	技術専門職員 大石 諭 林業作業員 飯沼 利雄	
土木生産係（生産担当）主任 技術専門職員 平田 雅和	技術専門職員 宅間 隆二 技術職員 磯崎 靖雄 技術職員 及川 希	技能補佐員 千徳 勝洋
森林技術係	技術職員 高橋 範和 平成19年3月31日まで 技術職員 坂口 敏雄 平成19年3月31日まで	

試験係	教授 梶 幹男 講師 後藤 晋 講師 尾張 敏章 平成18年6月1日から 助手 宮本 義憲 助手 安村 直樹 平成18年8月15日まで	
東山作業所主任 技術専門員 道上 昭夫（兼）		
事務係	道上 昭夫（兼）	
山麓作業所主任 技術専門職員 井口 和信（兼）		
調査第一係主任 技術専門職員 福士憲司	技術職員 小池 征寛 技術職員 丹羽 悠二 技術職員 犬飼 慎也	
調査第二係主任 技術専門職員 笠原久臣	技術専門職員 清水目元一 技術職員 中川 雄治 技術職員 高橋 功一 技術職員 遠國 正樹	
山部樹木園主任 技術専門員 道上 昭夫	技術職員 小川 瞳 自動車運転手 大屋 一美	技能補佐員 内芝 和江 技能補佐員 安藤 佳子 技能補佐員 佐藤 裕子 技能補佐員 中坪 優子

セミナーハウス 施設長 梶 幹男	秩父 敏（兼） 平成18年6月30日まで 岡田 教和（兼） 平成18年7月1日から	技能補佐員 山本ハナ子 技能補佐員 飯沼 芳子 臨時用務員 矢吹 喜市 臨時用務員 米澤 京子
------------------	--	--

秩父演習林

組織（主任職員）	配置職員（教職員）	配置職員（非常勤職員）
林長 教授 石橋 整司		
事務係 事務室係長 大村 栄	事務室主任 渡邊 幸司 事務職員 本橋 雅人 事務職員 深谷 仁子	臨時用務員 笠原 美津子
技術主任 技術専門職員 芝野 伸策	技術職員 大畑 茂	
森林施業系主任 技術専門職員 齋藤 俊浩（兼）		
森林計画係主任 技術専門職員 齋藤 俊浩	林業作業員 神塚 武一（兼）	
森林管理係主任 技術専門職員五十嵐 勇治	技術職員 吉田 弓子	
栃本作業所主任 技術専門職員 栗田 直明	技術職員 西山 教雄 林業作業員 神塚 武一	臨時用務員 小河 洋子 臨時用務員 山中 隆平 臨時用務員 山中 ミヤ子
大血川作業所主任 技術専門職員 栗田直明（兼）		
影森苗畑主任 技術職員 高野 充広		
利用促進系主任 技術専門職員 大村和也（兼）		
企画調整係主任 技術職員 才木 道雄		
資料管理係主任 技術専門職員 大村 和也		
教育研究主任 助手 藤原 章雄		
川俣学生寄宿舍		

愛知演習林

組織（主任職員）	配置職員（教職員）	配置職員（非常勤職員）
林長 助教授 芝野 博文		
事務係 事務室係長 加藤 正勝	事務室主任 春田まち子	
教育研究主任 講師 蔵治光一郎	助手 春田 泰次 平成19年3月31日まで	
技術主任 技術専門員 荒木田善隆		
技術係長森林管理系主任 技術専門職員 渡部 賢		
森林計画係主任 技術専門職員 技術専門職員 渡部 賢（兼）	技術専門職員 井上 淳 （兼）	
森林管理係主任 技術専門職員 井上 淳	技術職員 高德 佳絵	
赤津研究林主任 技術専門職員 後藤 太成	技術専門職員 井上 淳 （兼） 技術職員 高德 佳絵 （兼） 技術専門職員 荒木田きよみ （兼）	技能補佐員 熊谷喜美子 技能補佐員 大川 くに子 技能補佐員 胡桃沢 清 技能補佐員 胡桃沢晃子 技能補佐員 原 孝秀 技能補佐員 波多野八重子 技能補佐員 水野 信代
犬山研究林主任 技術専門職員 渡部 賢 （兼）	技術職員 高德 佳絵 （兼）	技能補佐員 梁瀬 憲次 技能補佐員 亀井 弘光
東山・穴の宮試験地主任 技術専門職員 澤田 晴雄	技術職員 高德 佳絵 （兼）	
新居試験地主任 技術専門職員 澤田 晴雄（兼）		技能補佐員 近藤よし江
技術係長利用促進系主任 技術専門員 荒木田善隆（兼）		
企画調整係主任 技術専門職員 澤田 晴雄（兼）		
試験係主任 技術専門職員 荒木田きよみ	技術職員 高德 佳絵 （兼）	

富士演習林

組織（主任職員）	配置職員（教職員）	配置職員（非常勤職員）
林長 教授 石橋 整司（兼）	助手 山本 清龍	
演習林業務	技術職員 千島 茂	臨時用務員 高村 洋子

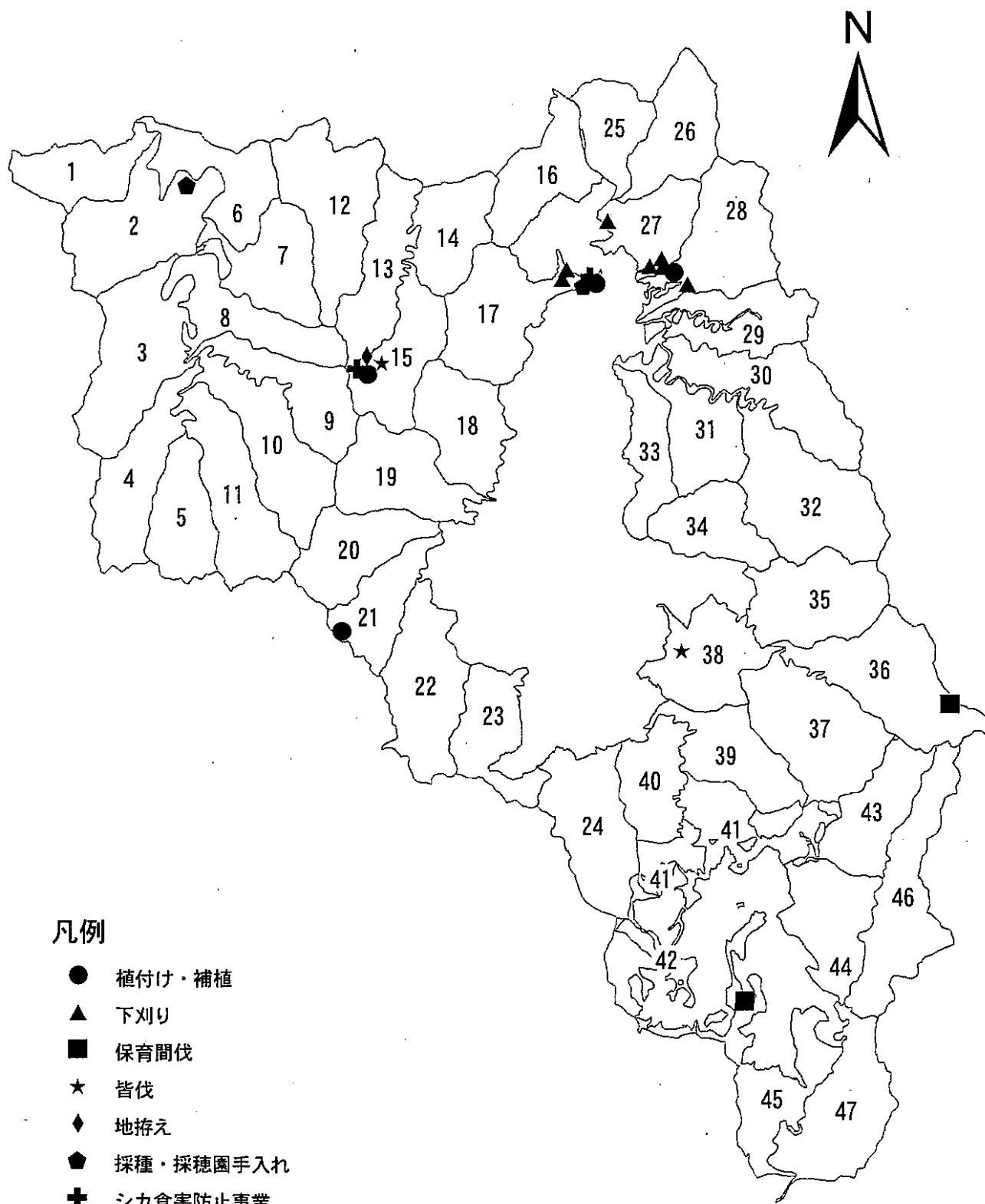
樹芸研究所

組織（主任職員）	配置職員（教職員）	配置職員（非常勤職員）
所長 講師 鴨田 重裕		
事務係 事務室係長 山本 親男		
技術主任 技術専門職員 渡邊 良広		
試験係	助手 高上馬 希重 平成19年3月31日まで 技術専門職員 渡邊 良広 技術専門職員 村瀬 一隆 技術専門職員 辻 和明（兼） 技術職員 辻 良子	技能補佐員 須藤 和子 技能補佐員 土屋 福江
調査係主任 技術専門職員 渡邊 良広 （兼）		
青野作業所主任 技術専門職員 辻 和明		技能補佐員 大島 浩子 技能補佐員 渡邊 泰男 技能補佐員 高橋 誠

田無試験地

組織（主任職員）	配置職員（教職員）	配置職員（非常勤職員）
試験地主任 助教授 山田 利博 平成18年8月31日まで 助教授 鎌田 直人（兼） 平成18年9月1日から		
教育研究主任 助手 前原 忠	助手 坂上 大翼	
技術主任 技術専門職員 千嶋 武	技術職員 岩本 則長	事務補佐員 石浦 恭子 技能補佐員 川田 米子 技能補佐員 前田 克人

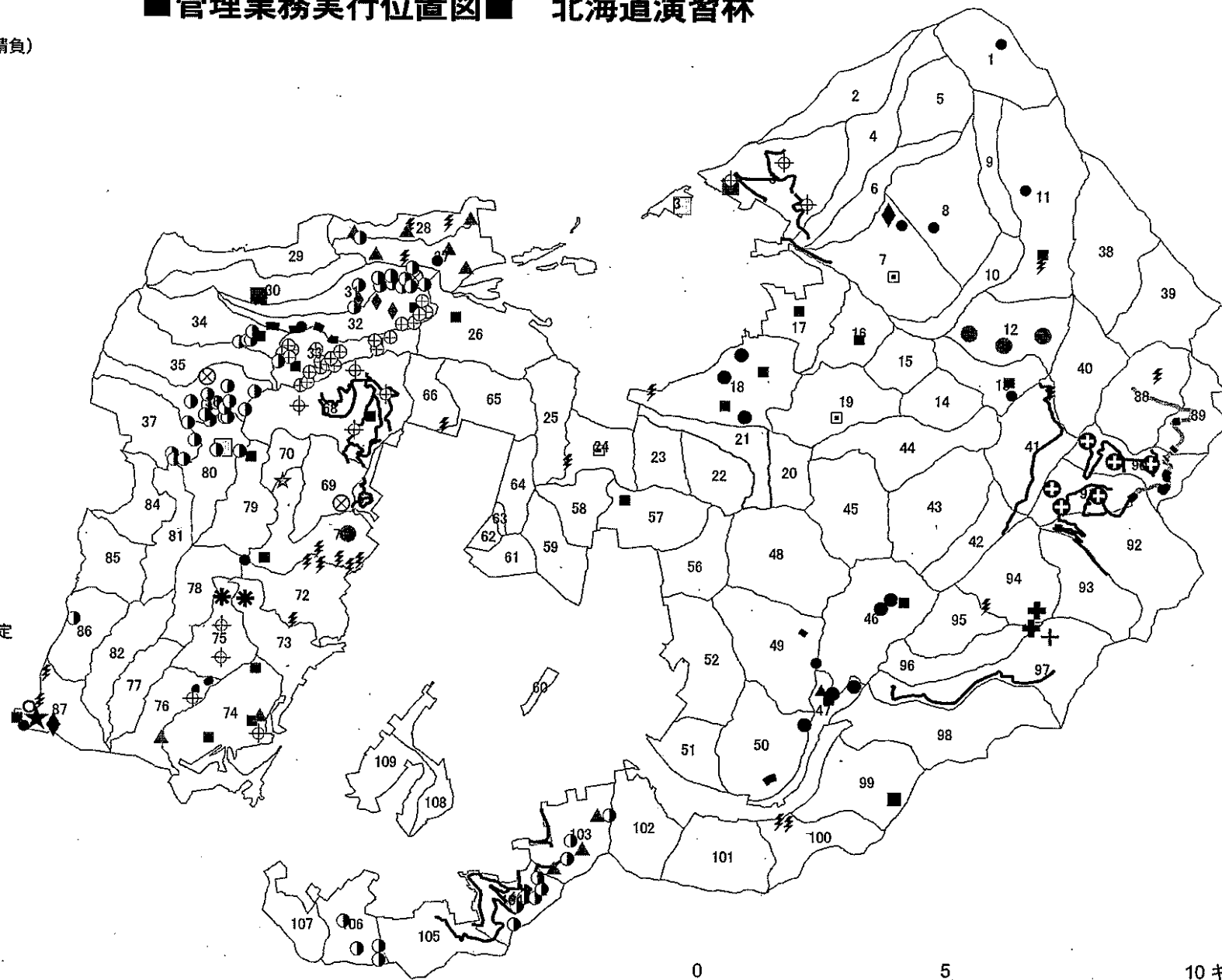
■管理業務実行位置図■ 千葉演習林



0 1 2 キロメートル

■管理業務実行位置図■ 北海道演習林

- 凡例
- 保育
- ☆ 枝打ち（直営）
 - ◆ 蔓切り・除伐（請負）
- 立木伐採（単木）
- 広葉樹
 - ⊕ ミナラ試験木
- 車道砂利敷き均し
- 直営
 - - - 請負
- 樹木園等整備
- クローン試験地
 - 枝打・除伐
- 立木伐採
- 素材
 - ▲ 立木
 - 計画外
- 植え付け・播種
- ✦ 請負
 - ✱ 直営
- 育苗・苗木生産
- ★ 苗木生産
 - ◆ 種子採取
- 虫害等防除
- 野鼠予察
 - 毒餌散布
- 天然林成長量試験地測定
- ⊗ 検定
 - ⚡ 測定
- 請負地拵え
- ✦ 請負地拵え
- 保育 下刈り
- 直営
 - ▲ 請負
 - 直営・請負
- 育種試験地測定
- 育種試験地測定
- 車道修繕
- 車道修繕
- 林況調査
- ⊕ 第1作業級
 - ⊕ 第2作業級



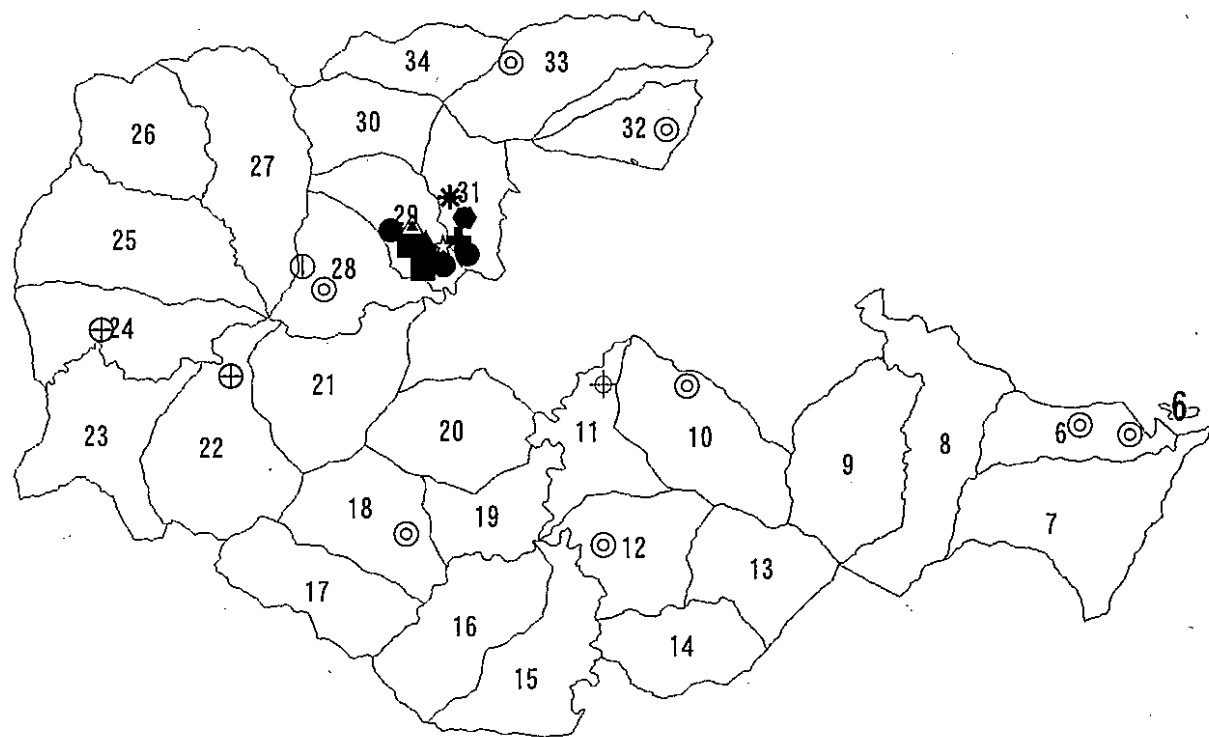
■管理業務実行位置図■ 秩父演習林

凡例

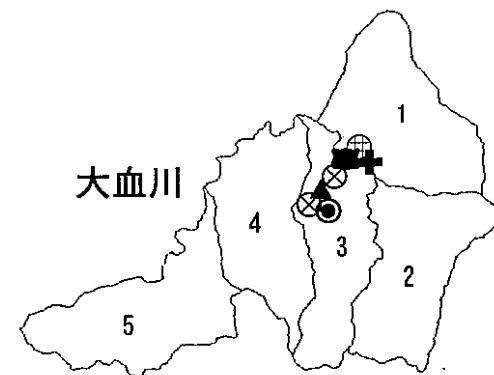
- 植付
- ◎ 補植
- ▲ 下刈
- ✱ 枝打ち
- 除伐
- 間伐
- △ つる切り
- ☆ 伐採
- ★ 素材生産
- ✚ シカ柵設置
- ⊕ シカ柵内調査
- クマ被害防止
- ◎ 人工林標準地調査
- ⊕ 原生林標準地調査
- ⊗ 植生モニタリング
- ⊕ シオジ・サワグルミの更新過程
- ① ブナ・イヌブナの豊凶現象に関する基礎的研究



栃本

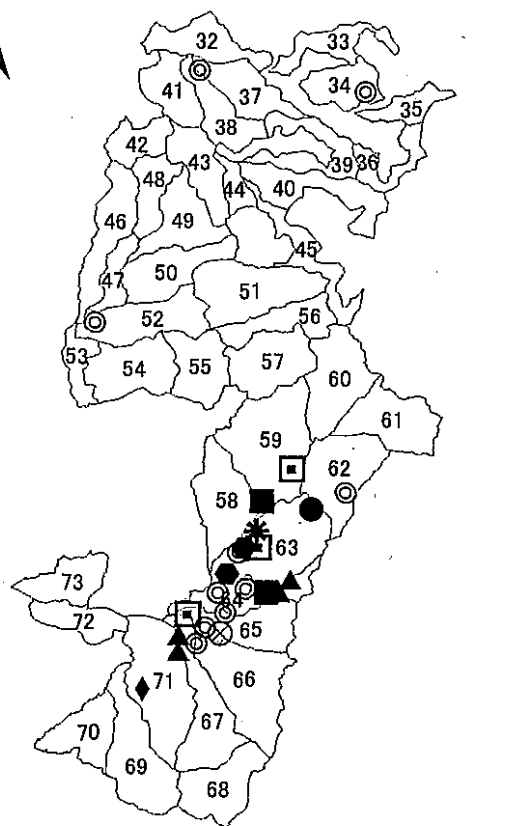


大血川

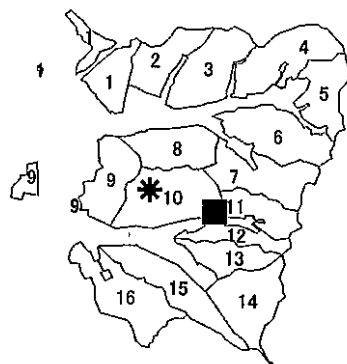


0 2 4
キロメートル

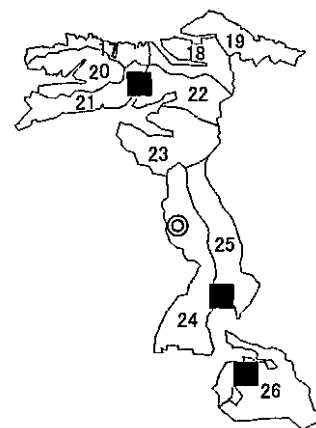
■管理業務実行位置図■ 愛知演習林



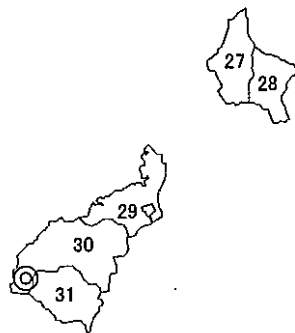
赤津研究林



犬山研究林 (一)



犬山研究林 (二)



穴の宮試験地

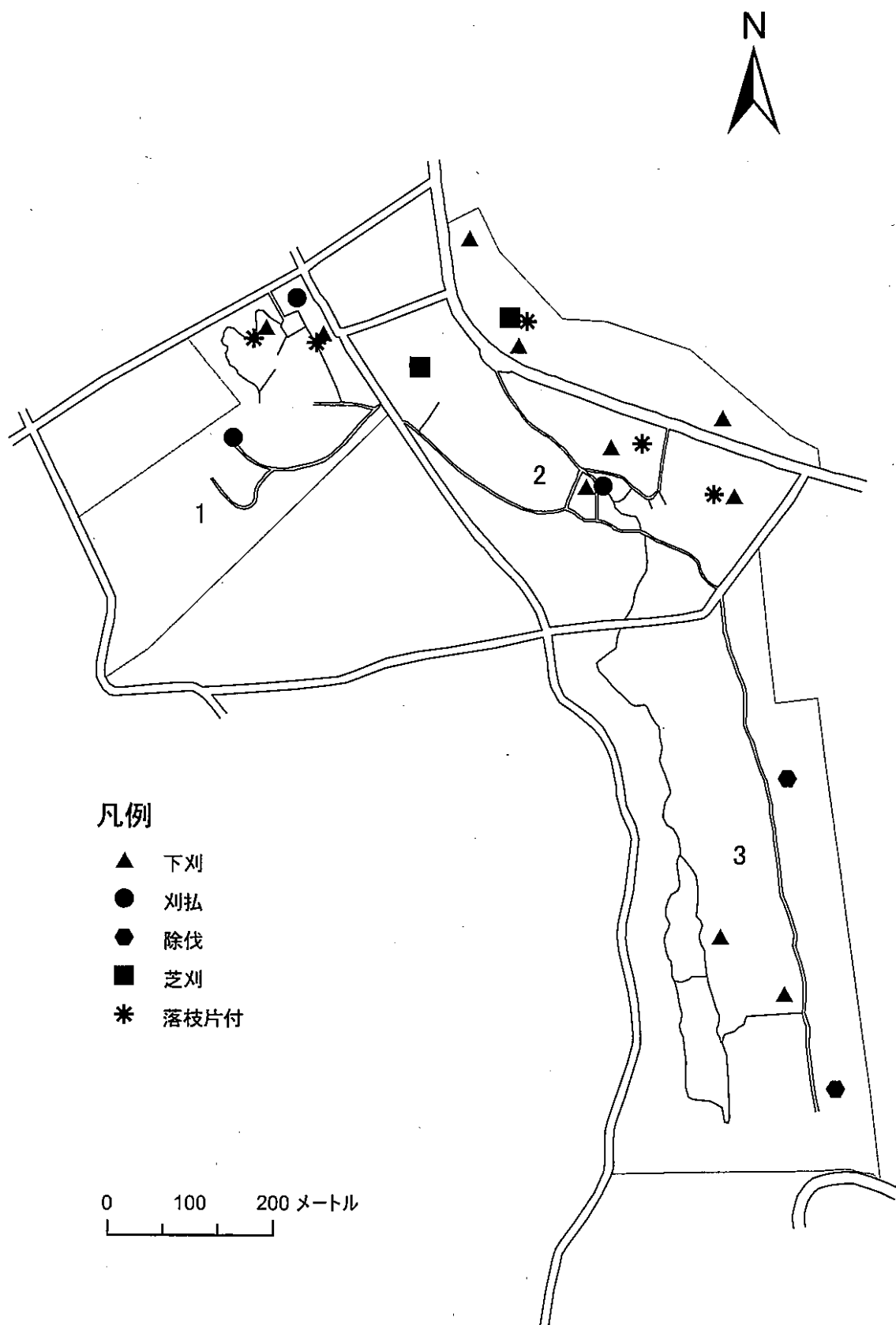
凡例

- 新補植
- ▲ 下刈り
- ＊ 枝打ち
- 除伐
- 間伐
- ◆ 地拵え
- マツノザイセンチュウ駆除
- ⊗ モニタリング1000
- ◎ 試験地調査

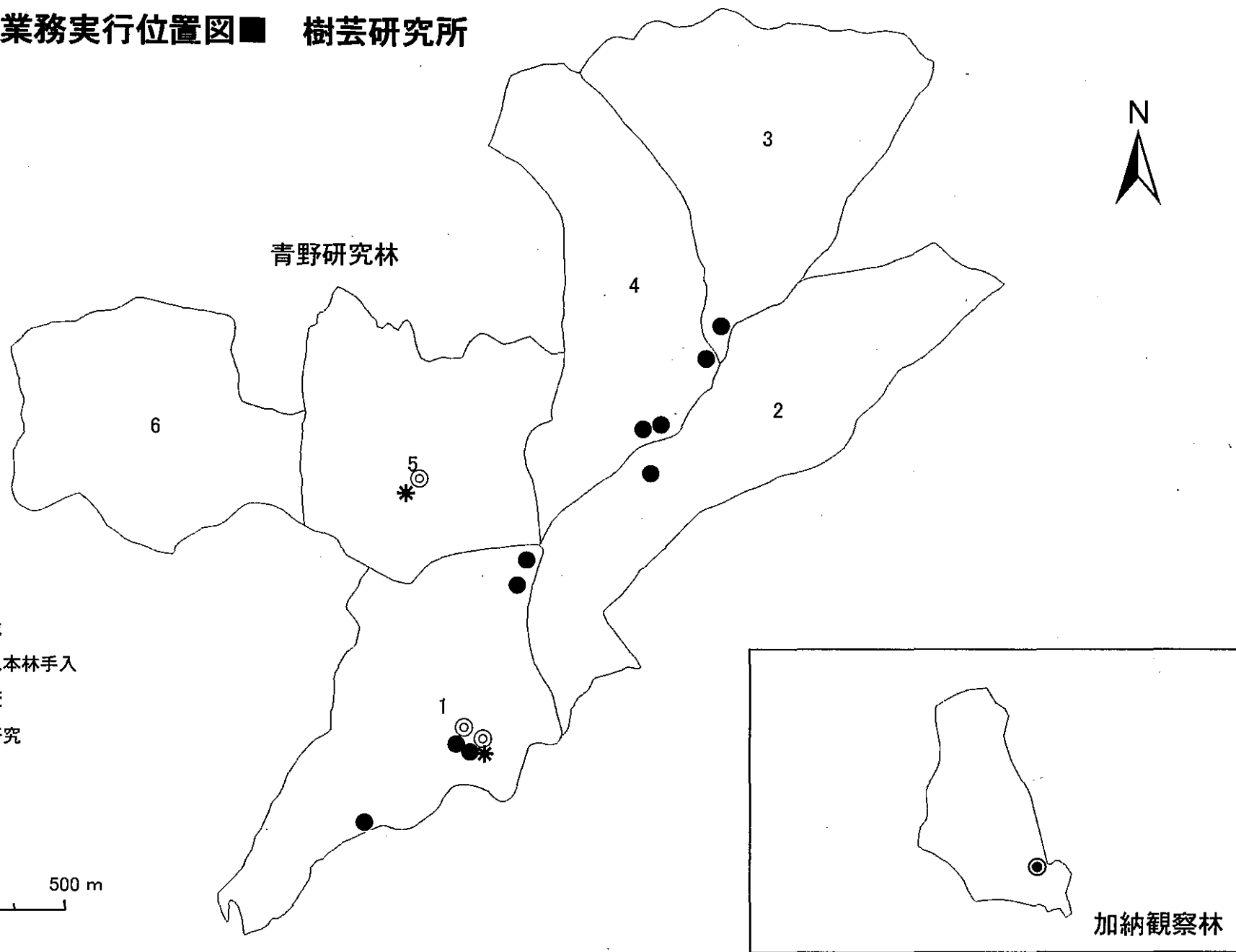


新居試験地

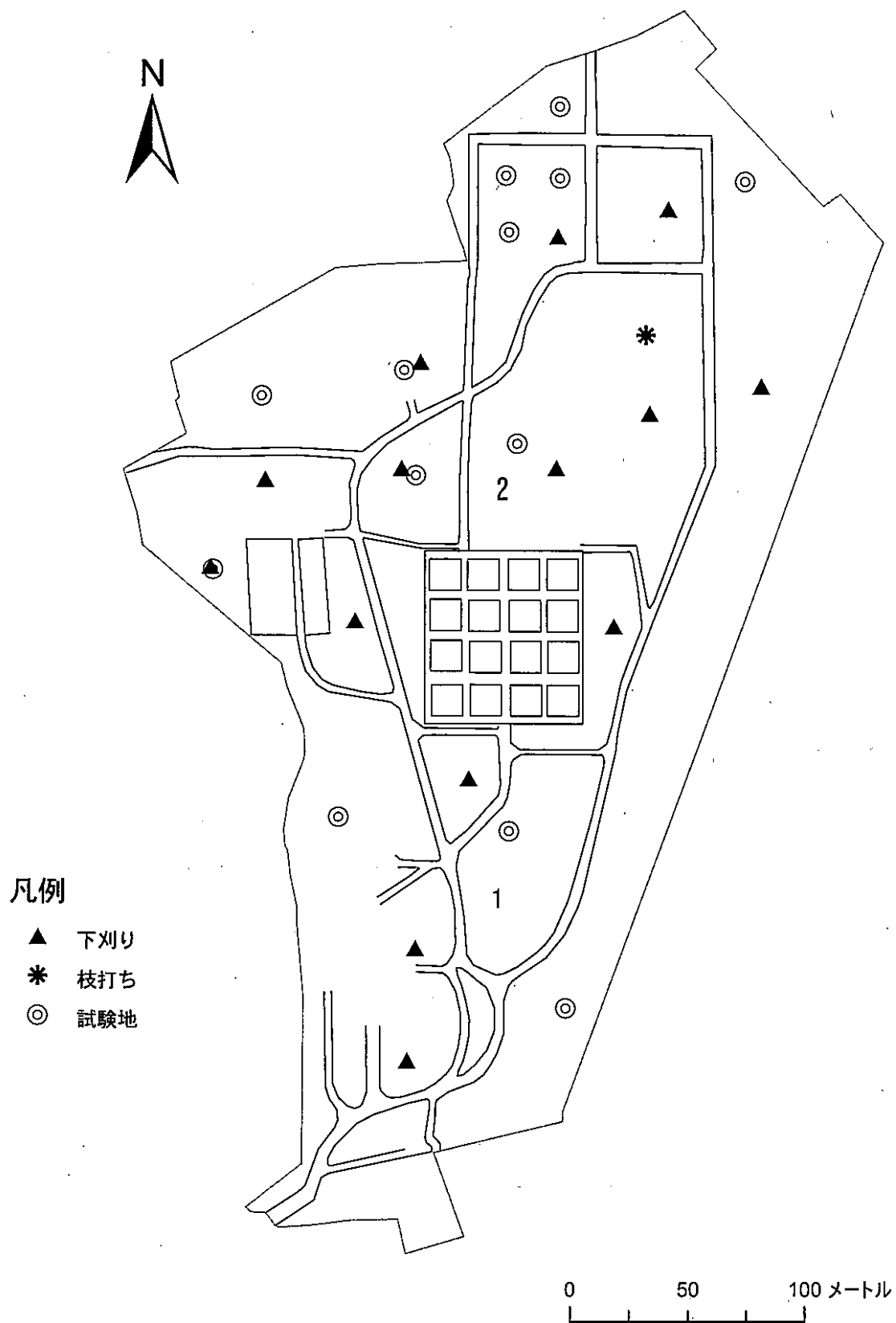
■管理業務実行位置図■ 富士演習林



■管理業務実行位置図■ 樹芸研究所



■管理業務実行位置図■ 田無試験地



管理面積集計表

2007年3月31日現在
ha

合 計			樹 林 地								竹 林	伐 採 跡 地	未 立 木 地	そ の 他
			人 工 林				天 然 林							
			小 計	針 葉 樹 林	混 交 林	広 葉 樹 林	小 計	針 葉 樹 林	混 交 林	広 葉 樹 林				
千 葉	2,170	841	811	21	9	1,261		366	895	1			67	
北海道	22,698	3,328	3,028	86	214	18,424	1,808	12,768	3,848			756	190	
秩 父	5,812	767	749		18	4,984	117	60	4,807				61	
愛 知	1,292	380	374		6	872		872					40	
富 士	38	38	34	1	3									
樹 芸	246	109	50		59	106			106				31	
田 無	9	6	2	3	1								3	
合 計	32,265	5,469	5,048	111	310	25,647	1,925	14,066	9,656	1		756	392	

林相別蓄積集計表

2007年3月31日現在
m³

	計	人工林	天然林
千 葉	509,960	306,107	203,853
北 海 道	4,433,069	496,621	3,936,448
秩 父	870,425	162,109	708,316
愛 知	195,565	58,751	136,814
富 士	3,493	3,493	
樹 芸	59,760	39,424	20,336
田 無	1,817	1,817	
合 計	6,074,089	1,068,322	5,005,767

立木伐採量

		伐採材積（主伐）							利用 間伐材積	主間伐 合計
		計	人工林		天然林					
			小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	広葉樹		
千 葉	立木販売	638	566	561	4	73	73			638
	素材生産資材量	65	65	65					1	67
	その他									
	合 計	704	631			73				704
北海道	立木販売	15,858				15,858	9,660	6,198	5,396	21,254
	素材生産資材量	2,188				2,188	938	1,250		2,188
	その他	486				486		486		486
	合 計	18,532				18,532				23,928
秩 父	立木販売	5				5	2	3		5
	素材生産資材量	56	56	56						56
	その他									
	合 計	61	56			5				61
愛 知	立木販売	234	191	176	15	44	1	42	73	307
	素材生産資材量									
	その他									
	合 計	234	191			44				307
富 士	立木販売									
	素材生産資材量									
	その他									
	合 計									
樹 芸	立木販売									
	素材生産資材量									
	その他									
	合 計									
田 無	立木販売									
	素材生産資材量									
	その他									
	合 計									
合 計	立木販売	16,736	756	737	19	15,979	9,736	6,243	5,469	22,204
	素材生産資材量	2,309	121	121		2,188	938	1,250	1	2,310
	その他	486				486		486		486
	合 計	19,531	877	858	19	18,653	10,674	7,979	5,470	25,001

育林実行量

	造 林		保育 (ha)	備 考
	面積(ha)	植栽本数 (本)		
千 葉	0.520	1,375	17.50	下刈6.23ha シカ食害防止柵作り0.2ha 間伐 (7.64ha) 地拵0.5ha 採種・採穂園手入れ2.93h a
北海道	16.740	16,580	169.43	下刈 (直4.49ha, 請48.39ha) 蔓切除伐 (請 37.67ha) 枝打 (直0.52ha) 根踏 (直5.40ha) 野鼠防除 (直72.96ha)
秩 父	2.430	1,410	24.02	補植1.25ha (350本) 地拵1.18ha 下刈1.61ha 除伐0.31ha 蔓切4.61ha 枝打2.06ha 撫育間伐 (保安林整備事業) 14.25ha
愛 知	0.250	1,253	5.18	下刈1.64ha 除伐0.54ha 枝打0.51ha 間伐 2.186ha 地拵0.3ha
富 士			10.20	下刈2.86ha 芝刈5.7ha 落枝片付・整理1.64ha
樹 芸			0.66	除伐0.28ha 枝打0.38ha
田 無				下刈3.17ha 枝打 (ヒノキ) 0.44ha
合 計	19.940	20,618	226.99	

植栽樹種

	本			
千 葉	スギ	ヒノキ	マツ	ケヤキ
	275	670	330	100
北海道	トドマツ	アカエゾ	エゾマツ	
	6,465	5,475	4,640	
秩 父	スギ	ヒノキ	カラマツ	
	30	1,360	20	
愛 知	ヒノキ (挿木)	ヒノキ (実生)		
	120	1,133		
富 士				
樹 芸				
田 無				

素材生産総括表

m ³								
	素材生産資材量			素材生産量			歩留 (%)	
	計	針葉樹	広葉樹	計	針葉樹	広葉樹	平均	針葉樹 広葉樹
千 葉	66.58	66.58		39.35	39		59	59
北海道	3,445.18	931.19	2,513.99	2,606.82	735	1,872	77	79 74
秩 父	55.75	55.75		39.73	40		71	71
愛 知								
富 士								
樹 芸								
田 無								
合 計	3,567.51	1,053.52	2,513.99	2,685.90	813.93	1,871.96		

土木実行総括表

m					
千 葉	実行内容	自動車道新設	自動車道維持	歩道維持	自動車道拡幅
	実行数量		20,593	15,209	
北海道	実行内容	自動車道新設	車道草刈り	車道補修	砂利運搬
	実行数量		279,700	52,050	8,270
秩 父	実行内容	自動車道新設	車道維持	歩道維持	歩道新設
	実行数量		12,012	9,978	
愛 知	実行内容		車道維持	車道草刈	歩道維持 歩道草刈
	実行数量		4,850	7,000	2,100 1,000
富 士	実行内容	車道修繕			
	実行数量	297			
樹 芸	実行内容				
	実行数量				
田 無	実行内容				
	実行数量				

道路現況

m						
	車道延長				歩道延長	
	林道延長	作業道延長	計	密度(m/ha)	延長	密度(m/ha)
千 葉	31,262		31,262	14.21	126,190	57.36
北海道	484,500	448,890	933,390	41.00	7,800	0.34
秩 父	10,178	1,834	12,012	2.10	216,071	37.10
愛 知	11,840	1,500	13,340	10	12,400	9.60
富 士	2,087		2,087	54.92	2,357	62.03
樹 芸	3,593		3,593	14.6	11,753	47.80
田 無						
合 計	543,460		995,684		376,571	

各演習林所在地および連絡先

研究部

〒113-8657
東京都文京区弥生1-1-1
電話 03-5841-5497
FAX 03-5841-5494

千葉演習林

〒299-5503
千葉県鴨川市天津770
電話 04-7094-0621
FAX 04-7094-2321

清澄作業所

〒299-5505
千葉県鴨川市清澄135
電話 04-7094-0585

札郷作業所

〒292-0537
千葉県君津市黄和田畑字前沢1442-1
電話 0439-39-3122

郷台作業所

〒292-0533
千葉県君津市折木沢字相ノ沢
電話 0439-39-3121

北海道演習林

〒079-1561
北海道富良野市字山部2条通北1
電話 0167-42-2111
FAX 0167-42-2689

セミナーハウス

〒076-0161
北海道富良野市字麓郷市街地1
電話 0167-29-2204

東山作業所

〒076-0202
北海道富良野市字東山9号地

山部樹木園

〒079-7582
北海道富良野市字山部第一苗圃
電話 0167-39-6017

秩父演習林

〒368-0034
埼玉県秩父市日野田町1-1-49
電話 0494-22-0272
FAX 0494-23-9620

栃本作業所

〒369-1901
埼玉県秩父市大滝3450
電話 0494-55-0355

大血川作業所

〒369-1907
埼玉県秩父市大滝5198
電話 0494-54-1220

影森苗畑

〒369-1871
埼玉県秩父市大字下影森764
電話 0494-23-9768

愛知演習林

〒489-0031

愛知県瀬戸市五位塚町11-44
電話 0561-82-2371
FAX 0561-85-2838

赤津作業所・白坂苗畑

〒489-0014
愛知県瀬戸市北白坂町1-1
電話 0561-82-8816

犬山作業所

〒484-0094
愛知県犬山市塔野地字大畔178-2
電話 0568-61-0270

穴の宮試験地

〒489-0008
愛知県瀬戸市曾野町411-1

新居試験地

〒431-0300
静岡県浜名郡新居町ハマンド3606-1

富士演習林

〒401-0501
山梨県南都留郡山中湖村山中341-2
電話 0555-62-0012
FAX 0555-62-4798

樹芸研究所

〒415-0304
静岡県賀茂郡南伊豆町加納457
電話 0558-62-0021
FAX 0558-62-3170

青野作業所

〒415-0327
静岡県賀茂郡南伊豆町青野851
電話 0558-62-0254

田無試験地

〒188-0002
東京都西東京市緑町1-1-8
電話 0424-61-1528
FAX 0424-61-2302